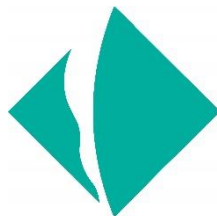


第 1 1 回八千代市市民意識調査

報告書

令和 2 年 3 月



八千代市

はじめに

本市では、まちづくりを進めていく上での総合的な行政運営の指針となる第4次総合計画（基本構想，基本計画，実施計画）を平成23年度からスタートさせ，諸施策を展開，推進してまいりました。

このたび実施いたしました「第11回八千代市市民意識調査」は，来年3月策定予定の第5次総合計画（令和3年度～令和10年度）の中に，市民の皆様のご意見やご要望を反映させていくとともに，日常の行政運営の基礎資料として活用させていただくことを目的に行いました。

本調査は昭和47年から継続的に実施され，今回で第11回目となり，後期基本計画で設定した指標のうち，数量で計れない定性的なものについての満足度調査も併せて行い，市民のみなさまの市政に対する貴重なご意見やご提言を伺うことができました。

本報告書は，調査の回答内容，分析結果を収録したものであります。本市の将来都市像の実現に向けて，貴重な資料として十分活用を図ってまいりたいと思います。

最後に，この調査の実施にあたりまして，ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

令和2年3月

八千代市長 服部友則

【目次】

I	調査実施の概要	3
1	調査目的	3
2	調査の概要	3
3	調査内容（市内在住者調査のみ）	4
4	居住地区分	6
5	回収結果	7
6	報告書の見方	7
7	標本誤差	10
II	調査回答者の属性	13
	【市内在住者調査】	13
1	性別	13
2	年齢	13
3	家族構成	13
4	職業	14
5	住居形態	14
6	居住地	15
	【外来者調査】	16
1	性別	16
2	年齢	16
3	職業	16
4	居住地	17
5	通勤手段	17
III	単純集計結果	21
	【市内在住者 単純集計結果】	21
	【外来者調査 単純集計結果】	41
IV	調査結果の要約	47
	【市内在住者調査】	47
1	八千代市のイメージについて	47
2	定住意向について	47
3	「地域との関わり合い」について	48
4	「行政サービスの在り方」について	48
5	八千代市が力を入れて取り組むべき施策について	49
6	超高齢社会について	49
7	環境問題について	49
8	交通について	50
9	安心で安全なまちづくりについて	50
10	情報の提供について	50

11	多文化共生について.....	51
12	食育について.....	51
13	余暇の過ごし方について.....	52
14	生涯学習や文化活動, スポーツ活動について.....	52
15	八千代市が取り組んでいる施策の重要度と満足度について.....	53
16	後期基本計画における指標について.....	55
	【外来者調査】	59
1	八千代市のイメージについて.....	59
2	八千代市の魅力について.....	59
3	八千代市が力を入れて取り組むべき施策について.....	59
4	市内の施設等の利用について.....	60
V	調査結果の分析ー市内在住者調査ー	63
1	八千代市のイメージについて.....	63
	(1) 市のイメージ	63
2	定住意向について.....	65
	(1) 市への愛着心	65
	(2) 八千代市について	67
	(3) 居住継続意識	69
3	「地域との関わり合い」について.....	75
	(1) 自治会への加入状況	75
	(2) 自治会の必要性	79
4	「行政サービスの在り方」について.....	83
	(1) 行政サービスの在り方	83
	(2) 市民と市役所の関係	86
	(3) 市民参加の条件整備	101
5	八千代市が力を入れて取り組むべき施策について.....	103
	(1) 市が力を入れて取り組むべき施策	103
6	超高齢社会について.....	105
	(1) 高齢者が安心して暮らしていくために大切なこと	105
7	環境問題について.....	107
	(1) 関心のある環境問題	107
	(2) 環境への取組みの期待	109
8	交通について.....	111
	(1) 交通バリアフリーの優先策	111
9	安心で安全なまちづくりについて.....	113
	(1) 安心で安全なまちづくりのために取り組むべきこと	113
10	情報の提供について.....	115
	(1) 市行政情報の入手方法	115
	(2) 情報施策への希望	117

(3) 充実させてほしい情報提供内容	119
11 多文化共生について.....	121
(1) 多文化共生の施策	121
12 食育について.....	123
(1) 食育への関心度	123
13 余暇の過ごし方について.....	127
(1) 余暇時間の過ごし方	127
14 生涯学習や文化活動, スポーツ活動について.....	129
(1) 生涯学習・文化活動, スポーツ活動の有無	129
15 八千代市が取り組んでいる施策の重要度と満足度について.....	143
(1) 施策の重要度・満足度	143
(2) 重要度・満足度の属性別比較	152
(3) 重要度と満足度の関係	156
16 後期基本計画における指標について.....	161
(1) 健康福祉都市をめざして	161
(2) 教育文化都市をめざして	175
(3) 環境共生都市をめざして	181
(4) 安心安全都市をめざして	183
(5) 快適生活都市をめざして	187
(6) 産業活力都市をめざして	199
(7) 計画の推進のために	201
17 地域の課題や将来像について.....	211
(1) 地域の課題	211
(2) 地域の将来像	213
18 自由回答	215
VI 調査結果の分析ー外来者調査ー.....	219
1 八千代市のイメージについて.....	219
(1) 市のイメージ	219
2 八千代市の魅力について.....	221
(1) 市の魅力	221
(2) 魅力的なまちになるための方向性	223
3 八千代市が力を入れて取り組むべき施策について.....	225
(1) 八千代市が力を入れて取り組むべき施策	225
4 市内の施設等の利用について.....	228
(1) 市内施設等の利用の有無	228
5 自由回答	235
(1) 八千代市の良い, 充実していると感じるところ	235
(2) 八千代市の良くない, 足りないと感じるところ	237

I 調査実施の概要

I 調査実施の概要

1 調査目的

八千代市第5次総合計画の策定にあたり、市民の市政やまちづくりに関する意識・意向を広く把握し、計画に反映させるとともに、今後の市政運営や政策立案の基礎資料とすることを目的として実施したものである。

2 調査の概要

- (1) 調査地域 八千代市内全域
- (2) 調査対象 ①八千代市に在住する満18歳以上の男女（以下、市内在住者調査）
②八千代市外から市内に在勤する満18歳以上の男女（以下、外来者調査）
- (3) 配布数と調査方法

①市内在住者調査	配布数	3,500人を住民基本台帳から無作為 ^{※1} に抽出し、3,490人を調査対象とした。
	調査方法	郵送法（郵送配布－郵送回収）
②外来者調査	配布数	500人
	調査方法	郵送法（企業に持参－郵送回収）

※1：市内在住の18歳以上を対象に層化抽出法により抽出した。層化は性別、年齢別、7地域別で行い、市全体に対する割合に比例するように抽出した（10通が宛先不明のため、返還された。）。

- (4) 調査期間 令和元年9月10日（火） ～ 9月27日（金）

3 調査内容（市内在住者調査のみ）

調査項目		新規項目(○)
1	八千代市のイメージについて	
	(1) 市のイメージ	
2	定住意向について	
	(1) 市への愛着心	
	(2) 八千代市について	○
	(3) 居住継続意識	
	(3-1) 居住継続の理由	
	(3-2) 転居希望の理由	
3	「地域との関わり合い」について	
	(1) 自治会への加入状況	
	(1-1) 自治会に加入しない理由	
	(2) 自治会の必要性	
	(2-1) 自治会が必要だと思う理由	
4	「行政サービスの在り方」について	
	(1) 行政サービスの在り方	
	(2) 市民と市役所の関係	
	(3) 市民参加の条件整備	
5	八千代市が力を入れて取り組むべき施策について	
	(1) 市が力を入れて取り組むべき施策	
6	超高齢社会について	
	(1) 高齢者が安心して暮らしていくために、大切なこと	
7	環境問題について	
	(1) 関心のある環境問題	
	(2) 環境への取り組みへの期待	
8	交通について	
	(1) 交通バリアフリーの優先策	
9	安心で安全なまちづくりについて	
	(1) 安心で安全なまちづくりのために取り組むべきこと	
10	情報の提供について	
	(1) 市行政情報の入手方法	
	(2) 情報施策への希望	
	(3) 充実させてほしい情報提供内容	○
11	多文化共生について	
	(1) 多文化共生の施策	
12	食育について	
	(1) 食育への関心度	
	(1-1) 食育に関心がある理由	
13	余暇の過ごし方について	
	(1) 余暇時間の過ごし方	
14	生涯学習や文化活動，スポーツ活動について	
	(1) 生涯学習や文化活動，スポーツ活動の有無	
	(1-1) 学習や文化・スポーツ活動の場所	
	(1-2) 生涯学習・文化活動推進に必要なこと	
	(1-3) スポーツ活動推進に必要なこと	
	(1-4) スポーツ活動の頻度	
	(1-5) 学習や文化・スポーツ活動を行っていない理由	

調査項目		新規項目(○)
15	八千代市が取り組んでいる施策の重要度と満足度について	
	(1) 施策の重要度	
	(2) 施策の満足度	○
16	後期基本計画における指標について	
	(1) 健康状態	
	(2) 健康診断や人間ドックの受診	
	(3) かかりつけ医の有無	
	(4) 地域医療体制の整備状況	
	(5) 子どもの健やかな発育・発達	
	(6) 子育てしやすいまち	
	(7) 高齢者福祉サービスの充実	
	(8) 幼稚園教育内容の充実	
	(9) 生涯学習情報の得やすさ	
	(10) 男女共同参画社会の進展	
	(11) まちのきれいさ	
	(12) 消費生活情報の得やすさ	
	(13) 災害時の避難場所	
	(14) 鉄道の利用しやすさ	
	(15) バスの利用しやすさ	
	(16) 市内・市外間の移動のしやすさ	
	(17) 交通弱者にやさしい交通環境	
	(18) 緑豊かなまち	
	(19) 市街地整備	
	(20) ふるさと親子祭	
	(21) 透明性の高い市政運営	
	(22) 市民の意見の反映	
	(23) 自立した市政運営	
	(24) 国際交流・協力	
	(25) 公共施設の満足度	○
17	地域の課題や将来像	
	(1) 地域の課題	
	(2) 地域の将来像	
18	自由回答	
19	回答者の属性	
	(1) 性別	
	(2) 年齢	
	(3) 家族構成	
	(4) 職業	
	(5) 住居形態	
	(6) 居住地	

4 居住地区分

市民意識の地域別の特性を把握するため、居住地の区分を行っている。調査では以下の14地区に分けて、居住地の回答を求めている。

[居住地区区分と該当町丁目・街区]

	居住地名	該当町丁目・街区
1	大和田地区	大和田・萱田・萱田町
2	ゆりのき台地区	ゆりのき台1丁目～8丁目
3	大和田新田（A）地区	大和田新田下区等，萱田中学校又は大和田中学校の学区の範囲内にある大和田新田地区
4	大和田新田（B）地区	大和田新田上区等，高津中学校，東高津中学校又は睦中学校の学区の範囲内にある大和田新田地区
5	高津・緑が丘地区	高津・高津東1丁目～4丁目・緑が丘1丁目～5丁目 緑が丘西1丁目～8丁目
6	八千代台東南地区	八千代台東1丁目～6丁目・八千代台南1丁目～3丁目
7	八千代台西北地区	八千代台西1丁目～10丁目・八千代台北1丁目～17丁目
8	勝田台地区	勝田台1丁目～7丁目・勝田・勝田台南1丁目～3丁目
9	村上地区	村上・村上南1丁目～5丁目・下市場1丁目～2丁目・上高野・勝田台北1丁目～3丁目
10	阿蘇地区	米本・神野・保品・下高野・堀の内
11	睦地区	桑納・麦丸・桑橋・吉橋・島田・神久保・小池・真木野・佐山・平戸・島田台・尾崎・大学町1丁目～6丁目
12	米本団地地区	米本団地1街区～5街区
13	高津団地地区	高津団地1街区～7街区
14	村上団地地区	村上団地1街区～3街区

5 回収結果

(1) 全体

配布数 (人)	有効回収数 (人)	有効回収率 (%)
3,490	1,072	30.7

(2) 居住地別

居住地名	配布数 (人)			有効回収数 (人)				有効回収率 (%)
	男性	女性	合計	男性	女性	不明	合計	
大和田地区	167	143	310	42	44	-	86	27.7
ゆりのき台地区	106	96	202	34	38	-	72	35.6
大和田新田 (A) 地区	286	318	604	42	65	-	107	32.3
大和田新田 (B) 地区				42	46	-	88	
高津・緑が丘地区	200	233	433	57	80	-	137	31.6
八千代台東南地区	133	149	282	39	41	-	80	28.4
八千代台西北地区	162	169	331	47	48	-	95	28.7
勝田台地区	139	154	293	41	62	-	103	35.2
村上地区	244	232	476	60	90	-	150	31.5
阿蘇地区	51	59	110	7	15	1	23	20.9
睦地区	65	63	128	19	21	-	40	31.3
米本団地地区	43	31	74	13	9	-	22	29.7
高津団地地区	62	61	123	10	19	-	29	23.6
村上団地地区	55	69	124	9	15	-	24	19.4
無回答				2	6	8	16	
合計	1,713	1,777	3,490	464	599	9	1,072	30.7

6 報告書の見方

- (1) 集計は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示している。従って、表示数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、回答者数全体を100%として算出しているため、複数回答の設問は、各選択肢の比率を合計すると100%を超えることになる。
- (3) 基数となるべき実数は(n)として表示している。各選択肢の回答比率は基数を100%として算出したものである。
- (4) 統計数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下の通りにしている。

例	表現
17.0 ~ 19.9 %	約2割
20.0 ~ 20.9 %	2割
21.0 ~ 22.9 %	2割を超える
23.0 ~ 26.9 %	2割台半ば
27.0 ~ 29.9 %	約3割

- (5)本文中で百分率の比較をする際には、ポイント（小数点以下第1位を四捨五入している）と表記している。
- (6)本文中や図表中の選択肢の表記は、場合により語句を短縮・簡略化して表示する場合がある。
- (7)図表中で、比率が小さい選択肢については、数値の表記を省略している場合がある。
- (8)集計は、各設問について、単純集計と、回答者の属性（性別や年齢など）別のクロス集計を行っており、設問ごとに属性を選定の上、報告書上にとりあげて示している。
- (9)クロス集計の図表では、側面に示す属性項目（性別や年齢など）に無回答の人は表示していない。
- (10)居住地域別のクロス集計では、「八千代市地域コミュニティ推進計画」を参考に、以下のような7地域に集約し、分析の軸としている。

居住地名		集約後の居住地名
大和田地区	}	大和田地域
ゆりのき台地区		
大和田新田(A)地区		
大和田新田(B)地区	}	高津・緑が丘地域
高津・緑が丘地区		
高津団地地区		
八千代台東南地区	}	八千代台地域
八千代台西北地区		
勝田台地区		勝田台地域
村上地区	}	村上地域
村上団地地区		
阿蘇地区	}	阿蘇地域
米本団地地区		
睦地区		睦地域



(11) 設問間クロス集計において、分析結果をわかりやすくするため、以下のように集約して分析の軸としている。

i) 市への愛着心別

選択肢名		集約後の選択肢名
愛着がある	→	“愛着がある”
どちらかといえば愛着がある		
どちらかといえば愛着がない	→	“愛着がない”
愛着がない		
わからない	→	わからない

ii) 居住継続意識別

選択肢名		集約後の選択肢名
ずっと住み続けたい	→	“居住継続”
当分の間住み続けたい		
いずれは、市外に住みたい	→	“転居希望”
すぐにでも市外に移りたい		
わからない	→	わからない

7 標本誤差

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数（n）、②回答数の比率（p）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{p(1 - p)}{n}}$$

N = 母集団数(八千代市の18歳以上人口)
 n = 比率算出の基数(回答者数)
 p = 回答の比率(%)

今回の調査結果の標本誤差は下記のようなになる。

回答比率(P) n	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
1,072	±1.83%	±2.44%	±2.80%	±2.99%	±3.05%
1,000	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
800	±2.12%	±2.83%	±3.24%	±3.46%	±3.54%
600	±2.45%	±3.27%	±3.74%	±4.00%	±4.08%
400	±3.00%	±4.00%	±4.58%	±4.90%	±5.00%
200	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
150	±4.90%	±6.53%	±7.48%	±8.00%	±8.16%
100	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%

※ 上表は $\frac{N - n}{N - 1} = 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

注/この表の見方

標本誤差とは・・・今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査においては、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが、上記の表である。見方としては、例えば、「ある設問の回答数が1,072であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.99%以内（57.01～62.99%）である」とみることができる。

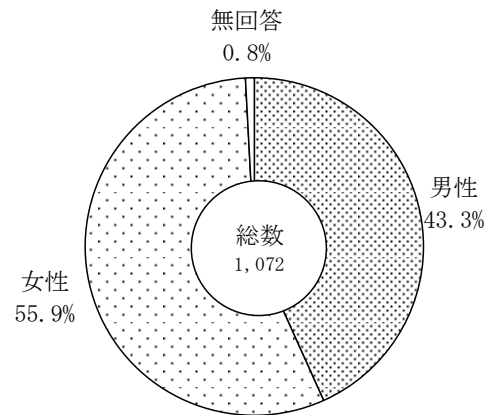
Ⅱ 調査回答者の属性

II 調査回答者の属性

【市内在住者調査】

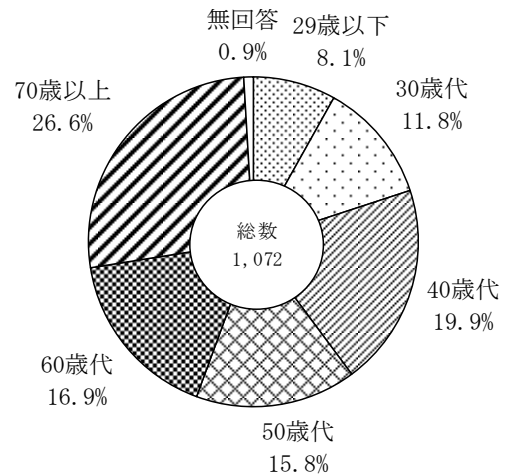
1 性別

項目名	基数	構成比
男性	464	43.3%
女性	599	55.9%
無回答	9	0.8%
全体	1,072	100.0



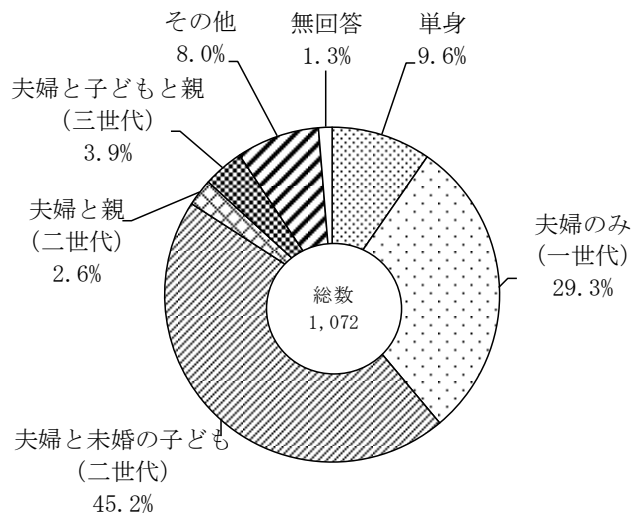
2 年齢

項目名	基数	構成比
29歳以下	87	8.1%
30歳代	127	11.8%
40歳代	213	19.9%
50歳代	169	15.8%
60歳代	181	16.9%
70歳以上	285	26.6%
無回答	10	0.9%
全体	1,072	100.0



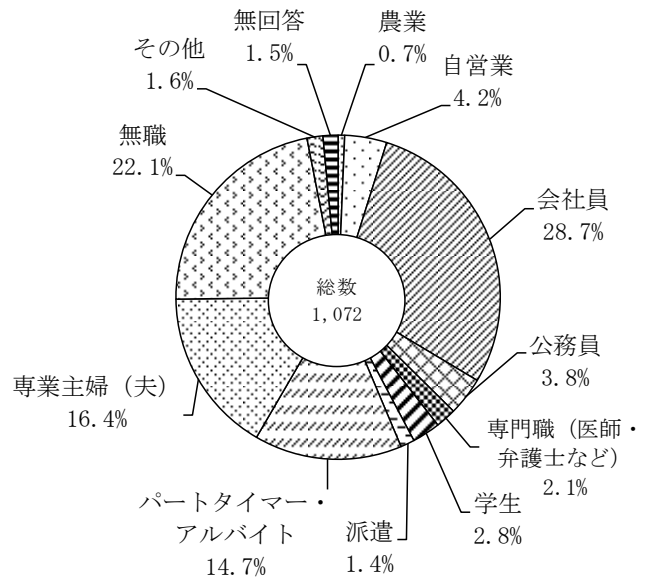
3 家族構成

項目名	基数	構成比
単身	103	9.6%
夫婦のみ(一世代)	314	29.3%
夫婦と未婚の子ども(二世世代)	485	45.2%
夫婦と親(二世世代)	28	2.6%
夫婦と子どもと親(三世世代)	42	3.9%
その他	86	8.0%
無回答	14	1.3%
全体	1,072	100.0



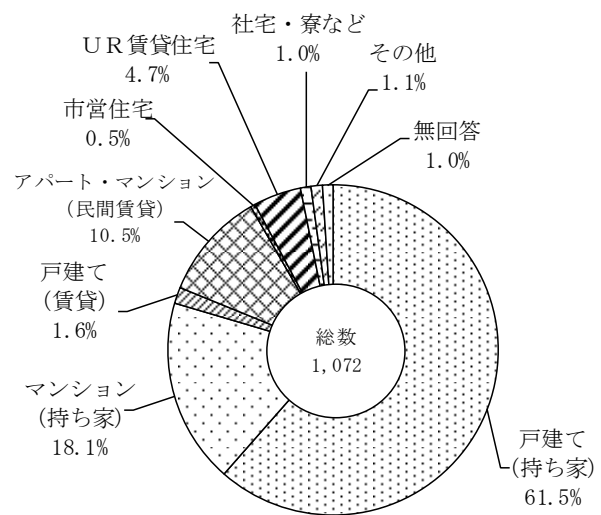
4 職業

項目名	基数	構成比
農業	7	0.7%
自営業	45	4.2%
会社員	308	28.7%
公務員	41	3.8%
専門職(医師・弁護士など)	22	2.1%
学生	30	2.8%
派遣	15	1.4%
パートタイマー・アルバイト	158	14.7%
専業主婦(夫)	176	16.4%
無職	237	22.1%
その他	17	1.6%
無回答	16	1.5%
全体	1,072	100.0



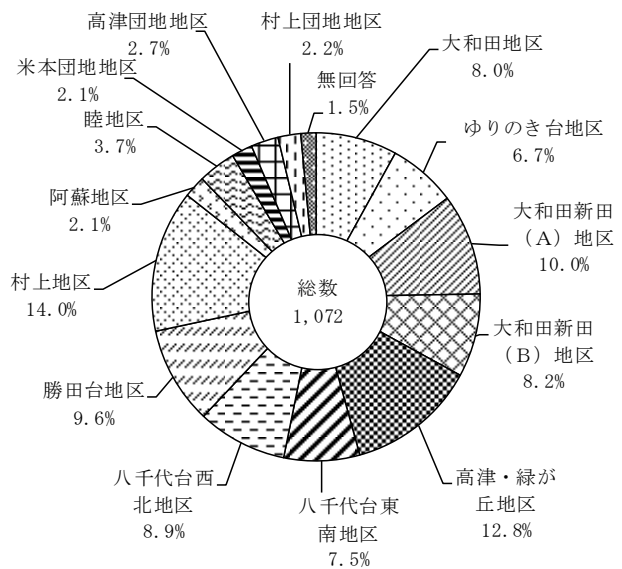
5 住居形態

項目名	基数	構成比
戸建て(持ち家)	659	61.5%
マンション(持ち家)	194	18.1%
戸建て(賃貸)	17	1.6%
アパート・マンション(民間賃貸)	113	10.5%
市営住宅	5	0.5%
UR賃貸住宅	50	4.7%
社宅・寮など	11	1.0%
その他	12	1.1%
無回答	11	1.0%
全体	1,072	100.0



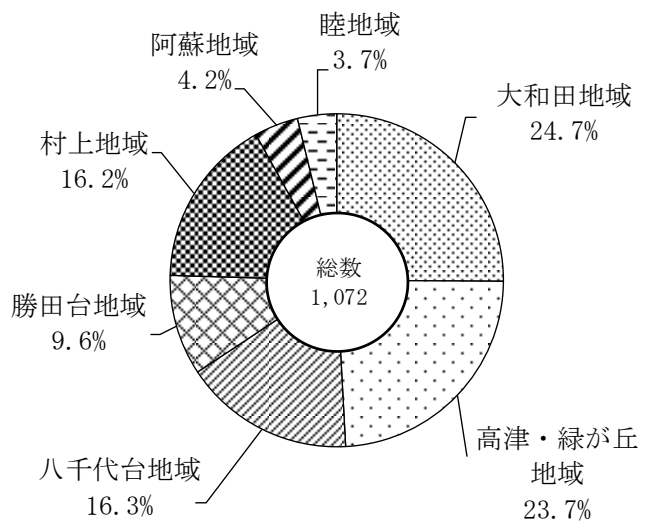
6 居住地

項目名	基数	構成比
大和田地区	86	8.0%
ゆりのき台地区	72	6.7%
大和田新田(A)地区	107	10.0%
大和田新田(B)地区	88	8.2%
高津・緑が丘地区	137	12.8%
八千代台東南地区	80	7.5%
八千代台西北地区	95	8.9%
勝田台地区	103	9.6%
村上地区	150	14.0%
阿蘇地区	23	2.1%
睦地区	40	3.7%
米本団地地区	22	2.1%
高津団地地区	29	2.7%
村上団地地区	24	2.2%
無回答	16	1.5%
全体	1,072	100.0



(集約後の居住地域)

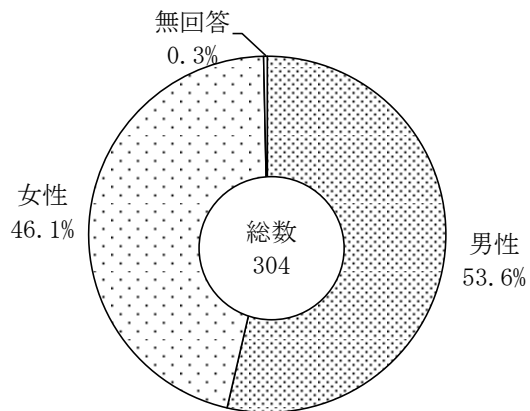
項目名	基数	構成比
大和田地域	265	24.7%
高津・緑が丘地域	254	23.7%
八千代台地域	175	16.3%
勝田台地域	103	9.6%
村上地域	174	16.2%
阿蘇地域	45	4.2%
睦地域	40	3.7%
全体	1,072	100.0



【外来者調査】

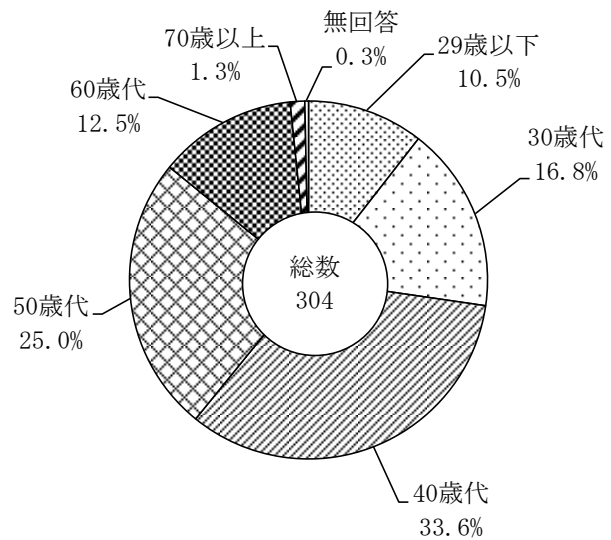
1 性別

項目名	基数	構成比
男性	163	53.6%
女性	140	46.1%
無回答	1	0.3%
全 体	304	100.0



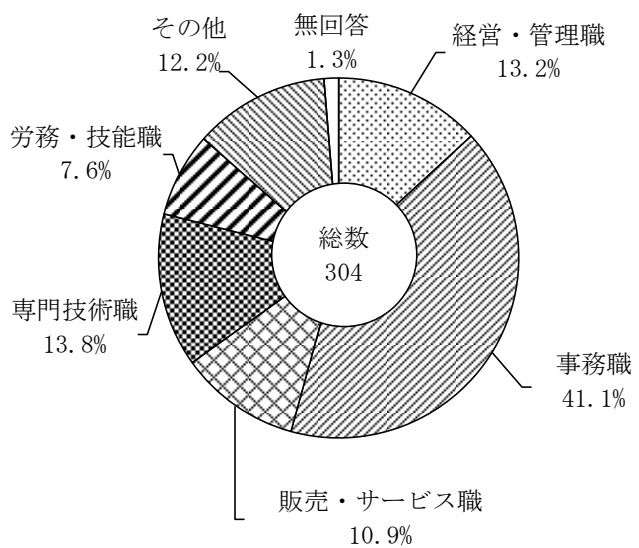
2 年齢

項目名	基数	構成比
29歳以下	32	10.5%
30歳代	51	16.8%
40歳代	102	33.6%
50歳代	76	25.0%
60歳代	38	12.5%
70歳以上	4	1.3%
無回答	1	0.3%
全 体	304	100.0



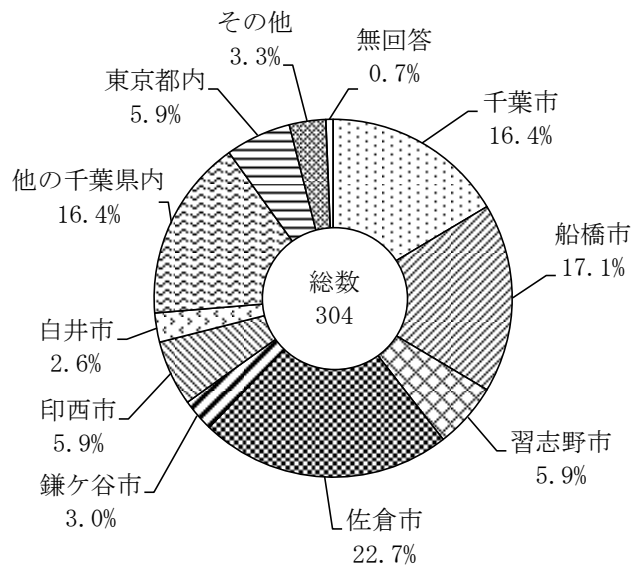
3 職業

項目名	基数	構成比
経営・管理職	40	13.2%
事務職	125	41.1%
販売・サービス職	33	10.9%
専門技術職	42	13.8%
労務・技能職	23	7.6%
その他	37	12.2%
無回答	4	1.3%
全 体	304	100.0



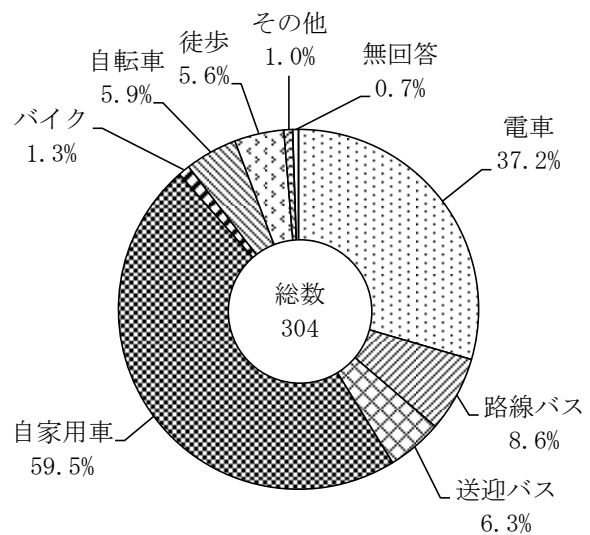
4 居住地

項目名	基数	構成比
千葉市	50	16.4%
船橋市	52	17.1%
習志野市	18	5.9%
佐倉市	69	22.7%
鎌ヶ谷市	9	3.0%
印西市	18	5.9%
白井市	8	2.6%
他の千葉県内	50	16.4%
東京都内	18	5.9%
その他	10	3.3%
無回答	2	0.7%
全 体	304	100.0



5 通勤手段

項目名【複数回答】	基数	構成比
電車	113	37.2%
路線バス	26	8.6%
送迎バス	19	6.3%
自家用車	181	59.5%
バイク	4	1.3%
自転車	18	5.9%
徒歩	17	5.6%
その他	3	1.0%
無回答	2	0.7%
全 体	304	100.0



※全体数は回答者の総数とし、構成比は回答者数に対する回答数の比率としている。

Ⅲ 単純集計結果

Ⅲ 単純集計結果

【市内在住者 単純集計結果】

八千代市のイメージについてお尋ねします

問1 八千代市にどのようなイメージをお持ちですか。(○は1つ)

1	生活に便利な都市	29.5 %	2	安心して暮らせる都市	22.9 %
3	自然が豊かな都市	29.4 %	4	街並みが美しい都市	0.8 %
5	文化的な都市	0.4 %	6	温もりを感じられる都市	2.0 %
7	活気のある都市	0.4 %	8	市民が活躍している都市	0.8 %
9	その他 ()	9.3 %		(無回答)	4.5 %

定住意向についてお尋ねします

問2 八千代市に愛着を持っていますか。(○は1つ)

1	愛着がある	28.5 %	2	どちらかといえば愛着がある	49.2 %
3	どちらかといえば愛着がない	10.0 %	4	愛着がない	3.5 %
5	わからない	8.0 %		(無回答)	0.9 %

問3 八千代市について、どのように思われていますか？(○は3つまで)

1	このまちに誇りを持っている	13.8 %
2	このまちの施策(まちづくり)に満足している	10.3 %
3	このまちを人にも勧めたい	18.6 %
4	特に「これ」ということは思わない	63.4 %
	(無回答)	2.4 %

問4 今後も八千代市に住み続けたいとお考えですか。(○は1つ)

1	ずっと住み続けたい	→ (問4-1へ)	39.3 %
2	当分の間住み続けたい	→ (問4-1へ)	38.0 %
3	いずれは、市外に住みたい	→ (問4-2へ)	12.7 %
4	すぐにでも市外に移りたい	→ (問4-2へ)	1.6 %
5	わからない		6.9 %
	(無回答)		1.6 %

(問4で「1 ずっと住み続けたい」「2 当分の間住み続けたい」とお答えの方にお尋ねします)

問4-1 住み続けたいと思う理由を次の中から選んでください。(〇は3つまで)

1	通勤・通学に便利だから	30.0 %
2	福祉の施設・制度が充実しているから	1.2 %
3	医療の施設・体制が充実しているから	8.6 %
4	公民館，図書館，市民会館などの社会教育・文化施設が充実しているから	6.3 %
5	スポーツ・レクリエーション施設が充実しているから	2.3 %
6	道路，下水道などの都市基盤が整備されているから	4.5 %
7	自然環境が豊かだから	16.2 %
8	長年住み慣れており愛着があるから	36.6 %
9	自分の家・土地があるから	59.7 %
10	教育・文化の程度が高いから	0.4 %
11	買い物など日常生活が便利だから	29.8 %
12	治安が良いから	5.8 %
13	近所との人間関係が良好だから	10.1 %
14	自然災害が比較的少ないから	31.2 %
15	支所，連絡所などの市役所本庁以外でのサービス窓口が充実しているから	2.5 %
16	やりたいことがあるから	1.1 %
17	市内に家族・親族が住んでいるから	13.4 %
18	その他 ()	2.2 %
	(無回答)	2.1 %

(問4で「3 いずれは，市外に住みたい」「4 すぐにでも市外に移りたい」とお答えの方にお尋ねします)

問4-2 転出したいと思う理由は何ですか。(〇は3つまで)

1	通勤・通学に不便だから	41.2 %
2	福祉の施設・制度が十分ではないから	16.3 %
3	医療の施設・体制が十分ではないから	15.0 %
4	公民館，図書館，市民会館などの社会教育・文化施設が十分でないから	11.1 %
5	スポーツ・レクリエーション施設が十分ではないから	7.8 %
6	道路，下水道などの都市基盤の整備が十分ではないから	13.7 %
7	自然が少ないから	3.3 %
8	教育・文化の程度が低いから	13.1 %
9	買い物など日常生活に不便だから	14.4 %
10	治安が悪いから	2.0 %
11	近所との人間関係がうまくいっていないから	2.0 %
12	将来は故郷に帰りたいから	15.0 %
13	自然災害に弱い地域があるから	3.9 %
14	支所，連絡所などの市役所本庁以外でのサービス窓口が十分でないから	7.2 %
15	やりたいことがないから	7.8 %
16	市外に家族・親族が住んでいるから	17.0 %
17	その他 ()	28.8 %
	(無回答)	4.6 %

「地域との関わり合い」についてお尋ねします

問5 自治会に加入していますか。(○は1つ)

1 加入している		71.2 %
2 加入していない	—————▶ (問5-1へ)	22.8 %
3 わからない		5.9 %
(無回答)		0.2 %

(問5で「2 加入していない」とお答えの方にお伺いします)

問5-1 自治会に加入しない理由は何ですか。(○は1つ)

1 自治会の必要性を感じないから	9.0 %
2 当番などを負担に感じるから	13.5 %
3 近所付き合いがわずらわしいから	3.7 %
4 自治会費などの金銭的な負担をしたくないから	1.6 %
5 自治会加入のメリットを感じないから	8.2 %
6 自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから	20.1 %
7 地域に関心がないから	4.5 %
8 自分が住んでいるところに自治会がないから	21.3 %
9 その他 ()	12.7 %
(無回答)	5.3 %

問6 自治会はあった方がよいと思いますか。(○は1つ)

1 あった方がよい	—————▶ (問6-1へ)	36.0 %
2 どちらかといえばあった方がよい	—————	31.7 %
3 どちらかといえば必要ない		11.2 %
4 必要ない		4.6 %
5 わからない		10.3 %
(無回答)		6.3 %

(問6で「1 あった方がよい」「2 どちらかといえばあった方がよい」とお答えの方にお尋ねします)

問6-1 なぜ自治会はあった方がよいと思いますか。(○は1つ)

1 地域の親睦・交流に必要だから	30.6 %
2 防犯・防災活動など生命や財産を守るために必要だから	33.6 %
3 環境美化など生活環境の維持・向上のために必要だから	19.4 %
4 地域や市役所などからの文書の回覧ができるから	8.3 %
5 住民が団結して市に陳情や要望を出すことができるから	4.8 %
6 その他 ()	0.6 %
(無回答)	2.8 %

「行政サービスの在り方」についてお尋ねします

問7 八千代市が行政サービスを実施するのに、どのような形式がよいと思いますか。(○は1つ)

1	できるだけ市が直接行うべきである	17.3 %
2	市民の協力（ボランティアなど）を得られる分野は、市と市民が連携して行うべきである	31.9 %
3	民間活力を活用できる分野は、P F I（公共サービス等に民間企業の資金やノウハウを導入し、実施する）等、積極的に活用すべきである	38.9 %
4	その他（ ）	0.7 %
5	わからない (無回答)	10.0 % 1.3 %

問8 次のような仕事について、市民か市役所のどちらが中心になって行うべきだと思いますか。(○は1つずつ)

(※「市民」には「市民」個人だけではなく、自治会などのコミュニティ組織を含みます。)

	市民中心	市民中心 どちらかという と	市役所中心 どちらかという と	市役所中心	無回答
(数値の単位は%)					
(1) 家の前の道路の掃除	43.5	40.4	9.1	4.3	2.7
(2) 家の近くの公園の草取りなど	5.9	25.4	44.0	21.8	2.9
(3) 登下校時の子どもの見守り	30.7	56.8	6.8	2.4	3.3
(4) 近所の一人暮らしの高齢者の話し相手	8.4	37.9	38.0	11.9	3.8
(5) ごみ減量化やリサイクルの推進	7.2	14.8	38.4	36.7	2.9
(6) 緑化活動の推進	2.2	9.3	45.9	39.6	3.0
(7) 地域のイベントの運営	7.9	41.5	32.3	15.4	2.9

問9 今後市では、課題を市民と一体となって、解決していきたいと考えています。そのための条件づくりとして何が重要だと思いますか。(〇は2つまで)

1	市役所が行っている施策や事業内容のPR	21.4 %
2	情報公開(制度)の充実	20.9 %
3	市民の立場から見て、市の抱えている課題を市民が理解しやすい仕組みをつくる	48.7 %
4	市内を細かく分けて、それぞれの地域ごとに課題を担当する市役所の職員を任命するなどのきめ細かい対応	20.1 %
5	市長と直接対話できる機会の増	6.3 %
6	市民活動を活発化させるための場所、情報、資金の提供	20.0 %
7	市の政策形成過程への市民参画(審議会委員の公募、パブリックコメント※、市民参加型のフォーラムやワークショップ※の開催など)の充実	18.0 %
8	インターネットを利用した市と市民の間の双方向型情報サービスの展開	14.6 %
9	その他()	1.4 %
10	わからない(無回答)	4.9 % 2.1 %

※パブリックコメント：公的な機関が条例あるいは計画などを制定しようとするときに、広く公(パブリック)に意見・情報・改善案(コメント)などを求める手続き

※ワークショップ：参加者が対等な立場で自由に発言し合う形式のグループ討議。新たな意見や課題の発掘の為にを行う場合や課題解決策を絞り込んだり、合意形成の一環で行う場合などがある。

八千代市が力を入れて取り組むべき施策についてお尋ねします

問10 今後、八千代市が力を入れて取り組むべき施策は何だと思いますか(〇は3つまで)

1	高齢者	49.2 %	2	環境問題	11.6 %
3	障害者(児)	7.6 %	4	道路・下水道等	18.8 %
5	子育て支援	35.3 %	6	学校教育	14.4 %
7	市民の健康	11.7 %	8	観光振興	3.7 %
9	産業(商業・工業・農業)	12.0 %	10	生涯学習・文化・スポーツ	9.4 %
11	移住・定住の促進	6.0 %	12	男女共同参画	1.0 %
13	公共交通	24.1 %	14	住環境	7.8 %
15	防災・防犯	27.1 %	16	生活困窮者※	10.1 %
17	公共施設の更新(老朽化対応・耐震化)	14.2 %	18	市民のまちづくりへの参加	5.1 %
19	その他()	2.4 %	20	わからない(無回答)	0.9 % 0.8 %

※生活困窮者：離職や病気、社会的孤立(ひきこもり)などにより、経済的に困窮している者あるいはおそれのある者への支援や子どもの貧困対策等

超高齢社会についてお尋ねします

問11 高齢者が安心して暮らしていくには、今後どのようなことが大切だと思いますか。

(○は3つまで)

1	介護が必要になったときのための介護保険サービスや福祉サービスの充実	62.1 %
2	病気にかかったときのための医療体制の充実	25.1 %
3	医療保険や介護保険の制度の充実	24.0 %
4	病気にかからないよう、保健指導や健康診断などの充実	16.1 %
5	老人ホームなど高齢者福祉施設の充実	28.6 %
6	高齢者でも暮らしやすい住まいの充実	24.1 %
7	老後の生活を支える安心で歩きやすい道路や公共施設の整備	22.0 %
8	文化・スポーツ活動、老人クラブへの参加など生きがいをもつこと	17.5 %
9	働く場の確保	18.8 %
10	声掛けや安否確認など、地域で高齢者を見守る体制づくり	24.4 %
11	高齢者の財産管理制度の充実	4.0 %
12	自治会や社会福祉協議会の支会など、コミュニティ・福祉活動の充実	8.5 %
13	その他 ()	1.9 %
14	わからない (無回答)	0.8 % 0.7 %

環境問題についてお尋ねします

問12 関心を持っている環境問題は何ですか。(○はいくつでも)

1	大気汚染	30.2 %
2	印旛沼や新川などの水質汚濁	31.5 %
3	ダイオキシン類、環境ホルモンなどの化学物質による環境汚染	17.9 %
4	騒音・振動	19.3 %
5	悪臭	9.5 %
6	地下水汚染	13.9 %
7	土壌汚染(放射性物質によるものを除く)	6.2 %
8	地盤沈下	7.4 %
9	ごみの減量・リサイクル	44.6 %
10	廃棄物の不法投棄	30.7 %
11	身近な自然環境の減少	22.5 %
12	エネルギーの有効利用・省エネルギー	21.0 %
13	地球温暖化やオゾン層の破壊、酸性雨などの地球環境問題	36.7 %
14	生物多様性の保全	5.8 %
15	谷津・里山の保全	11.7 %
16	放射性物質による汚染や放射性廃棄物の保管・最終処分	19.7 %
17	野生鳥獣などによる被害	11.6 %
18	特定外来生物	16.4 %
19	気候変動	39.1 %
20	その他 ()	2.4 %
21	特にな (無回答)	2.3 % 0.8 %

問13 環境に対する取組みとして何を期待しますか。(○は3つまで)

1	環境保全計画等長期ビジョンの策定	15.4 %
2	規制法令の整備・強化	12.7 %
3	環境監視体制の整備・充実	16.9 %
4	自然環境保全対策の整備・充実	19.0 %
5	ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実	35.5 %
6	ごみの分別やリサイクルの推進	17.7 %
7	環境情報の提供（環境問題に関する測定結果の公表等，放射性物質によるものを除く）	5.7 %
8	生物多様性の保全	4.6 %
9	谷津・里山の保全	8.4 %
10	特定外来生物への対応	9.4 %
11	環境教育・学習の充実	8.8 %
12	座談会，シンポジウム等イベントの開催	1.5 %
13	NPO等，環境活動団体への連携	3.9 %
14	新たな環境問題に対応できる組織づくり	8.1 %
15	地球温暖化対策の推進	26.9 %
16	気候変動への適応策	23.7 %
17	エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及支援など	12.9 %
18	空間放射線量の測定・公表や放射性廃棄物の安全な保管	6.4 %
19	その他（ ）	1.4 %
20	わからない (無回答)	3.7 % 3.2 %

交通についてお尋ねします

問14 交通バリアフリー化※で優先的に取り組む対策は何だと思えますか。

(○は3つまで)

1	鉄道駅へのエレベーターの設置	31.8 %
2	鉄道駅へのエスカレーターの設置	21.0 %
3	ノンステップ（低床）バスの導入	22.7 %
4	車いす対応型タクシーの導入	17.4 %
5	視覚障害者誘導用ブロックの整備	9.5 %
6	歩道の改良（段差や勾配の解消・拡幅など）	65.4 %
7	歩道が未整備の道路の解消（歩道の設置）	57.3 %
8	音響信号機など障害者や高齢者などに対応した信号機の設置	19.1 %
9	その他（ ）	4.1 %
10	わからない (無回答)	1.9 % 1.3 %

※バリアフリー：障害者や高齢者等が社会生活をしやすいように物理的・社会的・心理的な障壁（バリア）を取り除くこと

安心で安全なまちづくりについてお尋ねします

問 15 安心で安全なまちづくりを進める上で取り組むべきことは何だと思えますか。

(〇は3つまで)

1	災害時におけるライフラインの確保	72.9 %
2	防災倉庫等災害関連施設の整備 (備蓄含む)	19.7 %
3	消防・救急体制の整備	18.3 %
4	防災訓練の実施	3.8 %
5	市民の防災意識の高揚 (家具の転倒防止や家庭での備蓄)	7.7 %
6	防災無線や防災情報メール等の情報伝達手段の整備	17.4 %
7	自主防災組織など共助の担い手となる組織の結成・育成	7.2 %
8	建築物の耐震化の促進	12.1 %
9	犯罪情報の提供	12.8 %
10	地域防犯活動の推進	8.2 %
11	防犯施設の整備 (防犯灯, 防犯カメラ等)	34.4 %
12	通学路の安全確保	17.7 %
13	ゴミ屋敷・空き家対策の強化	20.8 %
14	市民の防犯意識の高揚	4.6 %
15	救命講習の実施	2.5 %
16	水害対策 (河川の改修, 下水道の整備)	12.6 %
17	その他 ()	2.3 %
18	わからない (無回答)	0.6 % 1.4 %

情報の提供についてお尋ねします

問 16 市の事業やイベントなどの情報をどのような手段で入手していますか。(〇は3つまで)

1	広報やちよ	76.1 %	2	市役所や公共施設の掲示板	17.9 %
3	友人・知人などからの口コミ	22.0 %	4	市が発行するリーフレット等	7.7 %
5	市のホームページ	17.4 %	6	市のイベント情報メール	7.9 %
7	市のツイッター (やっちツイ ッターを含む)	3.3 %	8	ココシルやちよ・PIAZZA A等のアプリ※	1.0 %
9	市長との対話や市の会議等	0.1 %	10	自治会の回覧板	39.8 %
11	その他 ()	4.8 %		(無回答)	1.8 %

※ココシルやちよ：八千代市の観光スポットやイベント・グルメ等の情報が掲載されたアプリ

※PIAZZA：行政サービスや地域イベントなどの情報を発信する SNS アプリ

問 17 今後、市に取り組んでほしい情報の提供に関する施策は何ですか。（〇は3つまで）

1 広報やちよの配布の充実	48.8 %	2 冊子やパンフレット等のデータの充実	20.1 %
3 公共施設の電子掲示板の充実	12.4 %	4 インターネット（ホームページ）やツイッターによる情報の充実	39.1 %
5 携帯電話への情報提供の充実（情報メールの配信等）	30.8 %	6 オープンデータの充実※	16.9 %
7 その他（ ）	2.2 %	8 特にない（無回答）	7.8 % 3.0 %

※オープンデータ：インターネットなどを通じて、一定のルールの元、誰でも自由に入手し利用・再配布できるデータの総称

問 18 今後、市に充実させてほしい情報提供の内容は何ですか。（〇は3つまで）

1 市の魅力	14.9 %	2 多言語による情報提供	5.8 %
3 消費生活情報	21.4 %	4 自治会	5.2 %
5 市の財政状況	20.7 %	6 防災・防犯	39.6 %
7 介護サービス	29.4 %	8 福祉サービス	25.7 %
9 観光情報	8.0 %	10 子育て	20.4 %
11 環境状況の情報	11.4 %	12 生涯学習など市民の学び	15.1 %
13 イベント情報	21.5 %	14 その他（ ）	1.4 %
15 特にない	2.9 %	（無回答）	1.7 %

多文化共生についてお尋ねします

問19 八千代市は、アメリカ合衆国テキサス州タイラー市と国際姉妹都市提携、タイ王国バンコク都と友好都市提携をしています。また、市内に住む外国人は増加しており、3月末現在、5,400人を超えています。このことを踏まえて、今後、市としてどのような施策を行っていくべきだと思いますか。（〇は3つまで）

1 外国人のための相談窓口の設置	49.5 %
2 外国人向けの表示、案内などの整備	30.8 %
3 外国語による生活情報の提供	26.4 %
4 外国人及び外国人児童・生徒への日本語学習機会の提供	30.0 %
5 国際理解を深めるための講座や講演会の開催	9.5 %
6 国際姉妹都市交流など市民レベルでの交流の推進	11.1 %
7 外国人との交流機会の提供	19.8 %
8 留学生・研修生などの派遣・受入の推進	9.5 %
9 市職員への外国人の積極的採用	9.9 %
10 市民への外国語学習機会の充実	14.0 %
11 国際協力事業の推進	4.7 %
12 その他（ ）	3.4 %
13 特にする必要はない（無回答）	5.4 % 3.3 %

食育についてお尋ねします

問 20 食育※に関心がありますか。(○は1つ)

1	関心がある	→ (問 20-1へ)	40.0 %
2	どちらかといえば関心がある		35.8 %
3	どちらかといえば関心がない		11.2 %
4	関心がない		6.6 %
5	わからない		4.0 %
	(無回答)		2.3 %

※食育：心身の健康の増進と豊かな人間形成のために、食に関する知識や食を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。その中には、規則正しい食生活や栄養バランスのとれた食事などを実践したり、食を通じたコミュニケーションやマナー、あいさつなどの食に関する基礎を身に付けたり、自然の恵みへの感謝や伝統的な食文化などへの理解を深めたりすることが含まれる。

(問 20 で「1 関心がある」「2 どちらかといえば関心がある」とお答えの方にお尋ねします)

問 20-1 食育に関心がある理由は何ですか。(○は3つまで)

1	子どもの心身の健全な発育のために必要だから	60.9 %
2	食生活の乱れ(栄養バランスの崩れ, 不規則な食事, 朝食の欠食等)が問題になっているから	51.4 %
3	肥満ややせすぎが問題になっているから	11.6 %
4	生活習慣病の有病者の増加が問題になっているから	33.6 %
5	作物の残留農薬など, 食品の安全確保が重要だから	11.9 %
6	食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが重要だから	10.0 %
7	食料を海外からの輸入に依存しすぎることが問題だから	10.9 %
8	消費者と生産者の間の交流や信頼が大切だと思うから	7.3 %
9	有機農業などの自然環境と調和した食料生産が重要だから	7.7 %
10	大量の食べ残しなどの食品廃棄物が問題だから	31.5 %
11	自然の恩恵や食に対する感謝の念が薄れているから	19.8 %
12	家族がいるのに1人で食べる個食が増えているのは問題だから	8.0 %
13	その他()	1.0 %
	(無回答)	0.7 %

余暇の過ごし方についてお尋ねします

問 21 余暇時間の過ごし方として、よく行っていることは、何ですか。(〇はいくつでも)

1	散歩	30.2 %
2	家族とのだんらん	43.0 %
3	友人や知人と過ごす	28.7 %
4	釣り, 将棋, ガーデニングなど	9.0 %
5	読書	24.3 %
6	音楽, 映画, 絵画, 演劇などの観(鑑)賞	29.8 %
7	自宅でテレビなどを見て1人でのんびり過ごす	42.6 %
8	パチンコ, 競馬などの娯楽	4.8 %
9	野球, テニス, ゴルフなどのスポーツ	17.9 %
10	ボランティア活動	6.1 %
11	インターネットやパソコン	29.0 %
12	仕事や勉強に役立つ習いごと	6.1 %
13	教養を高めるための学習やサークル活動	7.9 %
14	ハイキング, ドライブなどの行楽や旅行	22.0 %
15	買い物	47.6 %
16	家族の文化・スポーツ活動の支援(送迎など)	6.4 %
17	副業をする	3.0 %
18	その他()	5.8 %
	(無回答)	0.7 %

生涯学習や文化活動, スポーツ活動についてお尋ねします

問22 仕事や学業以外で趣味や教養, 自己の能力を高めるための学習時間(スポーツ活動を含む)をとっていますか。(〇は1つずつ)

(1) 生涯学習・文化活動	1	とっている	2	とっていない	(無回答)
		30.6%		66.5%	2.9%
(2) スポーツ活動	1	とっている	2	とっていない	(無回答)
		34.3%		63.7%	2.0%

(問22で(1)か(2)のどちらか1つでも「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問22-1 学習や文化, スポーツ活動をするために使っている場所はどのようなところですか。
(〇はいくつでも)

1	公民館や図書館など公共の社会教育施設	34.3 %	2	市民体育館や野球場など公共のスポーツ施設	22.7 %
3	学校開放の体育館やグラウンド	7.0 %	4	公園や遊歩道など	24.0 %
5	民間のカルチャーセンター	11.2 %	6	民間のスポーツクラブ	24.6 %
7	自宅	33.0 %	8	その他()	9.9 %
				(無回答)	0.8 %

(問 22 の (1) で「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問 22-2 生涯学習・文化活動の推進のために必要なことはどのようなことだと思いますか。

(○は3つまで)

1	講座など無料での学習機会を増やす	39.0 %
2	自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する	38.4 %
3	講師バンクの整備・公開 (有料の講師を含む)	11.3 %
4	学習会・講座などの開催情報の提供 (民間主催でも市の後援事業等は網羅)	36.3 %
5	市の施設のバリアフリー化 (エレベーターの設置等)	7.3 %
6	老朽化した市の施設の改修・建て替え (施設の複合化も含む。バリアフリー化は除く)	12.8 %
7	老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・充実 (バリアフリー化は除く)	10.7 %
8	無料駐車場を増やす	32.9 %
9	有料駐車場の増設・充実	2.4 %
10	施設利用予約・支払・継続更新の手続きの簡略化	20.4 %
11	民間のサービス利用に対する補助	12.5 %
12	その他 ()	3.7 %
	(無回答)	4.0 %

(問 22 の (2) で「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問 22-3 スポーツ活動の推進のために必要なことはどのようなことだと思いますか。

(○は3つまで)

1	講習など無料での学習機会を増やす	27.4 %
2	自己負担があってもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する	27.4 %
3	講師バンクの整備・公開 (有料の講師を含む)	5.7 %
4	学習会・講習などの開催情報の提供 (民間主催でも市の後援事業等は網羅)	16.6 %
5	市の施設のバリアフリー化 (エレベーターの設置等)	6.8 %
6	老朽化した市の施設の改修・建て替え (施設の複合化も含む。バリアフリー化は除く)	14.9 %
7	老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・充実 (バリアフリー化は除く)	15.2 %
8	無料駐車場を増やす	29.6 %
9	有料駐車場の増設・充実	4.1 %
10	施設利用予約・支払・継続更新の手続きの簡略化	17.7 %
11	民間のサービス利用に対する補助	18.2 %
12	無料施設の一部 (学校開放体育館等) での一部自己負担の導入 (有料の体育館を使っている方との公平性の確保, 電気代の財源の一部として)	8.7 %
13	その他 ()	6.3 %
	(無回答)	6.5 %

(問 22 で (2) で「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問 22-4 1 週間のうち、30分以上のスポーツ活動を何回ぐらい行っていますか。(○は1つ)

1	1 回	35.6 %	2	2 回	27.4 %
3	3 回以上	28.5 %	4	その他 ()	3.5 %
				(無回答)	4.9 %

(問22で(1)か(2)のどちらか1つでも「2 とっていない」とお答えの方にお尋ねします)

問22-5 学習や文化, スポーツ活動を行っていない理由は何ですか。 (〇はいくつでも)

1	仕事や家事, 学業が忙しくて時間がない	39.7 %
2	家族や職場など周囲の理解が得られない	1.2 %
3	子どもや親などを世話してくれる人がいない	7.5 %
4	適当な指導者がいない	4.5 %
5	身近なところに施設や教室などが無い	17.0 %
6	自分の希望に合う内容の講座や教室などが無い	15.8 %
7	自分の参加できる日時に開催される講座や教室などが無い	16.3 %
8	一緒に学習や活動する仲間がいない	8.8 %
9	必要な情報がなかなか入手できない	14.3 %
10	費用がかかる	24.4 %
11	きっかけがつかめない	25.1 %
12	生涯学習 (スポーツ活動を含む) に興味がない (好きではない)	9.4 %
13	その他 ()	6.2 %
	(無回答)	16.3 %

八千代市が取り組んでいる施策の重要度と満足度についてお尋ねします

問23 下の表に示した各項目について、あなたの生活にとってどのくらい重要だと思いますか。また、どのくらい満足していますか。あてはまるものを1つずつ選び、重要度、満足度のそれぞれの番号に○印をつけてください。

(%)

	重要度					
	重要である	やや重要である	普通	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
《健康福祉都市づくり》						
(1) 病気の早期発見・予防体制の整備	61.8	19.1	14.5	1.2	0.7	2.7
(2) 地域の医療体制の充実	67.1	14.9	13.0	0.8	0.4	3.8
(3) 救急医療体制の充実	69.5	13.8	11.8	0.4	0.3	4.3
(4) 子育てを支援するサービス体制の充実	46.3	20.9	21.3	3.1	2.7	5.8
(5) ひとり親家庭を支援するサービス体制の充実	36.0	25.6	24.7	4.1	4.1	5.5
(6) 高齢者福祉サービスの充実	45.8	27.6	18.4	2.1	2.0	4.1
(7) 障害者の自立を支援するサービス体制の充実	39.3	27.0	21.8	3.1	3.5	5.4

満足度					
満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答
5.7	19.3	58.5	8.4	3.8	4.3
6.3	20.1	50.0	12.9	6.0	4.9
7.4	20.8	51.5	9.5	5.0	5.8
2.0	10.3	61.0	13.0	5.5	8.3
1.1	5.6	71.2	10.7	2.5	8.9
1.6	6.7	66.7	12.6	4.9	7.5
1.1	5.0	69.4	11.0	4.6	8.9

《教育文化都市づくり》						
(8) 小中学校の施設・設備の充実	46.2	21.2	21.6	2.5	2.1	6.4
(9) 図書館、公民館、博物館、文化伝承館などの社会教育施設の充実	31.1	30.4	30.1	2.3	1.3	4.8
(10) スポーツ、レクリエーション施設の充実	23.8	29.2	36.7	4.3	0.9	5.1
(11) コミュニティづくりのための施設の充実	17.6	25.7	44.8	4.7	1.8	5.4
(12) 性別に捉われず、心豊かに暮らすこと	31.3	23.4	34.7	3.3	2.2	5.1
(13) 地域の文化活動が活発で、文化に接する機会の充実	18.8	24.4	45.2	4.5	1.8	5.3

2.5	8.7	53.5	14.2	12.1	9.0
5.1	15.6	50.9	14.6	6.9	6.8
2.4	10.2	58.2	15.8	6.3	7.2
2.1	6.0	66.7	13.3	3.7	8.1
2.3	6.1	71.5	9.1	3.1	7.8
2.2	4.9	70.5	11.7	3.2	7.5

《環境共生都市づくり》						
(14) 大気汚染・水質汚濁・騒音・振動などのない快適な生活環境	59.0	22.9	13.3	0.7	0.2	3.9
(15) 緑や水辺などの自然環境の保全	47.1	31.6	16.0	0.7	0.4	4.2
(16) いろいろな人達が協力して環境に配慮したまちづくりの実施	32.8	33.0	27.1	2.0	0.7	4.4
(17) リサイクルを含めたごみ処理体制の充実	45.6	32.6	16.0	1.0	0.3	4.5
(18) 市民・事業者・市の連携のもと、地域ぐるみの清掃活動などの実施	27.3	31.8	32.3	2.8	0.7	5.0

3.3	12.1	60.8	13.1	4.8	6.0
2.6	17.2	59.0	11.9	3.3	6.1
1.5	9.2	69.4	10.7	2.8	6.3
2.7	15.3	62.4	10.3	3.0	6.3
1.9	9.6	69.5	9.0	3.0	7.1

	重要度						満足度					
	重要である	やや重要である	普通	重要ではない	あまり重要ではない	無回答	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答
《安心安全都市づくり》												
(19) 災害に強い安全なまちづくり	78.5	12.9	4.7	0.2	0.2	3.6	2.4	13.1	61.3	12.6	4.8	5.9
(20) 火災等から市民の生命や財産を守るための消防体制の充実	68.3	17.7	9.2	0.2	0.3	4.3	3.1	13.6	66.8	7.8	2.1	6.6
(21) 市民、警察、防犯関係団体等による地域防犯体制の整備	65.2	21.3	9.3	0.1	0.2	3.9	2.1	12.1	64.0	12.7	3.5	5.6
(22) 犯罪が少なく安心して暮らせるまち	75.2	14.7	6.0	0.1	0.3	3.7	3.0	16.2	59.8	11.8	3.5	5.6
(23) 安全に通行するための交通安全施設の充実	63.0	21.5	10.4	0.5	0.4	4.4	2.1	9.6	54.0	19.2	9.3	5.8
(24) 消費者の保護対策の充実	39.1	28.4	25.1	1.8	0.7	5.0	0.9	5.9	77.6	6.3	2.5	6.7

《快適生活都市づくり》												
(25) 鉄道・バス路線などの公共交通網の整備	60.8	23.1	10.8	0.7	0.2	4.4	3.8	14.5	39.7	21.6	14.5	5.9
(26) 渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備	47.8	27.5	16.6	1.6	0.8	5.7	1.4	5.7	46.9	22.2	16.3	7.5
(27) 既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの設置等の道路整備	45.9	31.4	16.4	0.9	0.4	4.9	1.5	4.9	52.1	23.8	11.1	6.6
(28) 公共下水道の整備	48.7	25.9	20.0	0.7	0.5	4.3	5.5	13.6	65.7	5.9	3.2	6.2
(29) 安全でおいしい水道水の安定的な供給	65.6	20.3	9.5	0.4	0.2	4.0	10.5	20.0	54.2	7.2	2.3	5.8
(30) 市の計画的な土地利用の誘導により、無秩序な開発が防がれる	39.8	29.8	22.7	1.2	0.4	6.2	1.5	6.7	66.4	12.5	5.3	7.6
(31) 街路樹の整備などによる緑あるまちの形成	34.4	33.6	25.2	1.6	0.6	4.7	2.5	14.9	62.0	10.4	3.5	6.6
(32) 地域特性に応じた良好な都市景観の形成	30.2	30.3	31.3	1.7	0.6	6.0	1.9	9.9	67.4	10.7	2.6	7.6
(33) 利便性、安全性、快適性に富んだ良好な市街地の形成	41.0	31.1	20.8	1.2	0.2	5.7	2.1	9.3	60.9	16.3	4.1	7.3
(34) 障害者や高齢者などが公共施設、交通機関、歩行空間で不自由を感じないで利用できる	50.4	29.2	14.3	1.1	0.3	4.8	1.6	5.7	53.2	24.7	7.8	7.0
(35) 公園や緑地などの整備	37.9	31.9	23.4	1.4	0.6	4.9	3.3	12.3	57.3	15.6	4.6	7.0
(36) 移住・定住の促進	24.3	22.9	40.0	5.5	1.8	5.5	2.1	4.8	73.7	8.9	2.8	7.7

	重要度					
	重要である	やや重要である	普通	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
《産業活力都市づくり》						
(37) 生産性の高い都市型農業の振興	25.4	30.8	32.5	4.3	1.2	5.9
(38) 市民農園や農業体験講座など、農家と市民が交流できる場の整備	15.4	27.2	41.2	8.2	2.1	5.8
(39) 新鮮な市内産農産物の安定的な供給	34.0	32.6	25.5	1.7	0.7	5.6
(40) 地域に買い物に行きたいと思う商店・商店街がある	42.1	27.9	22.3	2.5	0.6	4.7
(41) 市内には製造業の事業所数が多く工業の活力がある	18.5	24.3	43.3	5.8	1.3	6.9
(42) 就業希望者に対する職業相談などの支援業務の充実	28.2	26.4	34.4	3.4	0.9	6.7
(43) ふるさと親子祭による、市民相互の親睦と観光客の誘引など地域の活性化	24.6	24.6	37.8	5.8	1.9	5.3
(44) 市のイメージ・認知向上の活動	25.3	26.8	36.8	4.0	1.5	5.6

満足度					
満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答
1.1	8.7	73.5	7.8	1.4	7.5
1.4	8.4	72.7	8.4	1.7	7.5
3.9	16.7	61.8	8.9	1.7	7.0
5.1	16.2	45.7	19.0	8.2	5.7
2.0	8.1	72.0	8.1	2.1	7.7
1.2	3.5	70.9	12.8	3.7	7.8
3.8	12.1	66.6	8.9	1.8	6.8
1.9	5.0	68.2	13.7	4.5	6.7

後期基本計画における指標についてお尋ねします

問24 下の表に示した各項目について、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○印をつけてください。

(%)

《健康福祉都市をめざして》				
(1) 自分は健康だと感じていますか。	1 感じる	22.3	2 どちらかというと感じる	50.2
	3 どちらかというと感じない	17.4	4 感じない	8.6
			(無回答)	1.5
(2) 定期的に健康診断・健康診査や人間ドックを受けていますか。	1 定期的に受けている	62.7	2 不定期だが受けている	22.0
	3 受けていない	14.3	(無回答)	1.0
(3) かかりつけ医を決めていますか。	1 決めている	63.6	2 決めていない	35.2
			(無回答)	1.2
(4) 地域医療体制が整っていると感じますか。	1 感じる	10.4	2 どちらかというと感じる	42.0
	3 どちらかというと感じない	21.8	4 感じない	11.7
	5 わからない	13.0	(無回答)	1.1
(5) 子どもが心身ともに健やかに発育・発達していると感じますか。	1 感じる	19.2	2 どちらかというと感じる	43.3
	3 どちらかというと感じない	9.9	4 感じない	3.5
	5 わからない	21.5	(無回答)	2.7
(6) 子育てしやすいまちと感じていますか。	1 感じる	8.9	2 どちらかというと感じる	41.0
	3 どちらかというと感じない	16.7	4 感じない	7.0
	5 わからない	23.6	(無回答)	2.8
(7) 高齢者福祉サービスが充実していると感じますか。	1 感じる	3.1	2 どちらかというと感じる	22.4
	3 どちらかというと感じない	25.1	4 感じない	9.7
	5 わからない	38.5	(無回答)	1.2

《教育文化都市をめざして》						
(8) 幼稚園の教育が充実していると感じますか。	1	感じる	8.0	2	どちらかというと感じる	28.0
	3	どちらかというと感じない	9.6	4	感じない	5.1
	5	わからない	46.5		(無回答)	2.7
(9) 生涯学習情報が得られやすいと感じますか。	1	感じる	2.5	2	どちらかというと感じる	17.5
	3	どちらかというと感じない	28.5	4	感じない	16.0
	5	わからない	33.3		(無回答)	2.1
(10) 男女共同参画社会が進んでいると感じますか。	1	感じる	1.8	2	どちらかというと感じる	10.4
	3	どちらかというと感じない	22.8	4	感じない	17.5
	5	わからない	45.3		(無回答)	2.1

《環境共生都市をめざして》						
(11) まちにごみがなくきれいだと感じますか。	1	感じる	10.4	2	どちらかというと感じる	50.1
	3	どちらかというと感じない	22.6	4	感じない	12.9
	5	わからない	2.8		(無回答)	1.2

《安心安全都市をめざして》						
(12) 消費生活情報の提供が適切に行われていると感じますか。	1	感じる	2.7	2	どちらかというと感じる	20.5
	3	どちらかというと感じない	28.9	4	感じない	14.6
	5	わからない	31.8		(無回答)	1.4
(13) 災害時の避難場所を知っていますか。	1	知っている	81.4	2	知らない	16.9
					(無回答)	1.7

《快適生活都市をめざして》				
(14) 鉄道が利用しやすいと感じますか。	1 感じる	30.9	2 どちらかというと感じる	35.1
	3 どちらかというと感じない	14.4	4 感じない	16.5
	5 わからない	1.8	(無回答)	1.4
(15) 市内のバスが利用しやすいと感じますか。	1 感じる	10.8	2 どちらかというと感じる	23.5
	3 どちらかというと感じない	25.4	4 感じない	26.0
	5 わからない	13.2	(無回答)	1.1
(16) 市内・市外間の移動がしやすいと感じますか。	1 感じる	12.3	2 どちらかというと感じる	32.8
	3 どちらかというと感じない	24.3	4 感じない	23.6
	5 わからない	5.5	(無回答)	1.4
(17) 交通弱者にやさしい交通環境と感じますか。	1 感じる	3.2	2 どちらかというと感じる	17.4
	3 どちらかというと感じない	28.3	4 感じない	33.4
	5 わからない	16.0	(無回答)	1.8
(18) 緑豊かなまちと感じますか。	1 感じる	22.7	2 どちらかというと感じる	57.0
	3 どちらかというと感じない	11.0	4 感じない	4.8
	5 わからない	3.2	(無回答)	1.4
(19) 市街地整備の誘導が適切に図られていると感じますか。	1 感じる	3.9	2 どちらかというと感じる	23.9
	3 どちらかというと感じない	24.3	4 感じない	16.4
	5 わからない	30.0	(無回答)	1.4

《産業活力都市をめざして》				
(20) ふるさと親子祭が、市民相互の親睦と地域の活性化に役立っていると感じますか。	1 感じる	17.8	2 どちらかというと感じる	35.4
	3 どちらかというと感じない	10.8	4 感じない	10.1
	5 わからない	23.7	(無回答)	2.2

《計画の推進のために》				
(21)透明性の高い市政運営が なされていると感じますか。	1 感じる	1.6	2 どちらかというと感じる	11.9
	3 どちらかというと感じない	25.8	4 感じない	20.6
	5 わからない	38.4	(無回答)	1.6
(22)市民の意見が市政に反映さ れていると感じますか。	1 感じる	1.5	2 どちらかというと感じる	9.6
	3 どちらかというと感じない	25.6	4 感じない	25.5
	5 わからない	36.0	(無回答)	1.9
(23)自立した市政運営が行われ ていると感じますか。	1 感じる	2.3	2 どちらかというと感じる	12.6
	3 どちらかというと感じない	19.5	4 感じない	16.1
	5 わからない	47.5	(無回答)	2.0
(24)国際交流・協力に関する活 動を行ってみたい、参加して みたいと思いますか。	1 思う	7.8	2 どちらかというと思う	23.3
	3 どちらかというと思わない	21.1	4 思わない	29.8
	5 わからない	16.1	(無回答)	1.9
(25)公共施設のサービス、設備 や管理・運営を満足と感じて いますか。	1 思う	3.4	2 どちらかというと思う	30.8
	3 どちらかというと思わない	28.2	4 思わない	16.1
	5 わからない	20.1	(無回答)	1.4

【外来者調査 単純集計結果】

八千代市のイメージについてお尋ねします

問1 八千代市にどのようなイメージをお持ちですか。(〇は1つ)

1	生活に便利な都市	28.0 %	2	安心して暮らせる都市	8.2 %
3	自然が豊かな都市	37.8 %	4	街並みが美しい都市	2.6 %
5	文化的な都市	1.3 %	6	温もりを感じられる都市	0.3 %
7	活気のある都市	3.3 %	8	市民が活躍している都市	0.7 %
9	その他 ()	12.5 %		(無回答)	5.3 %

八千代市の魅力についてお尋ねします

問2 八千代市は住んでみたくなる魅力的なまちだと思いますか。(〇は1つ)

1	そう思う	15.1 %	2	そう思わない	28.6 %
3	どちらともいえない	55.6 %	4	(無回答)	0.7 %

問3 八千代市が住んでみたくなる魅力的なまちになるために、どのような方向へ発展したらよいと思いますか。(〇は3つ)

1	商工業などを中心としたまち	21.1 %
2	近代的農業と住宅が調和したまち	8.2 %
3	居住環境の整備されたまち	35.2 %
4	医療や福祉の充実したまち	47.4 %
5	自然環境を生かしたレクリエーションが楽しめるまち	13.2 %
6	芸術・文化活動の活発なまち	9.9 %
7	スポーツの盛んな活気のあるまち	7.6 %
8	水と緑に親しめるまち	17.8 %
9	災害に強いまち	37.5 %
10	国際感覚豊かなまち	1.6 %
11	教育環境の充実したまち	10.9 %
12	子育てと仕事が両立できる環境があるまち	35.5 %
13	市民もまちづくりに参加できるまち	3.3 %
14	その他 ()	5.9 %
	(無回答)	1.6 %

八千代市が力を入れて取り組むべき施策についてお尋ねします

問4 今後、八千代市が力を入れて取り組むべき施策は何だと思えますか。(○は3つまで)

1 高齢者	34.5 %	2 環境問題	8.6 %
3 障害者(児)	7.2 %	4 道路・下水道等	23.7 %
5 子育て支援	36.8 %	6 学校教育	6.3 %
7 市民の健康	7.9 %	8 観光振興	10.2 %
9 産業(商業・工業・農業)	15.8 %	10 生涯学習・文化・スポーツ	8.9 %
11 移住・定住の促進	6.6 %	12 男女共同参画	0.7 %
13 公共交通	32.6 %	14 住環境	13.5 %
15 防災・防犯	20.1 %	16 生活困窮者※	3.3 %
17 公共施設の更新(老朽化対応・耐震化)	5.3 %	18 市民のまちづくりへの参加	2.6 %
19 その他	2.0 %	20 わからない	5.3 %
(無回答)	1.3 %		

※生活困窮者：離職や病気、社会的孤立(ひきこもり)などにより、経済的に困窮している者あるいはおそれのある者への支援や子どもの貧困対策等

市内の施設等の利用についてお尋ねします

問5 帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設はありますか。(○は1つ)

1 ある---(問5-1, 5-2へ)	60.9 %	2 ない---(問5-3へ)	38.8 %
(無回答)	0.3 %		

(問5で「1 ある」とお答えの方にお尋ねします。)

問5-1 立ち寄られる場所はどこなところですか。(○は3つまで)

1 公民館や図書館など公共の社会教育施設	5.4 %
2 市民体育館など公共のスポーツ施設	8.1 %
3 民間のスポーツクラブ	3.2 %
4 民間のカルチャーセンター	2.2 %
5 映画館やボウリング場、パチンコ店など娯楽施設	24.3 %
6 ショッピングセンター	77.3 %
7 飲食店	47.6 %
8 その他()	9.2 %
(無回答)	0.5 %

問5-2 立ち寄る回数ほどのくらいですか。(問5-1のうち、頻度が一番多いものに○を1つ)

1 年に数回程度	18.9 %	2 月に1~2回程度	35.1 %
3 月に3~4回程度	29.7 %	4 週に3~4回程度	9.7 %
5 週に5回以上	2.7 %	(無回答)	3.8 %

問5-3 どういった施設があれば、立ち寄りしたいと思いますか。(ご自由にご記入ください)

八千代市とご自身の住んでいる市区町村についてお尋ねします

問6 八千代市とご自身が住んでいる市区町村を比べてどう思いますか。（ご自由にご記入ください）

八千代市の良い、充実していると感じるところ

八千代市の良くない、足りないと感じるところ

IV 調査結果の要約

IV 調査結果の要約

【市内在住者調査】

1 八千代市のイメージについて

(1) 市のイメージ

市のイメージは、「生活に便利な都市」が最も高く、約3割を占め、次いで、「自然が豊かな都市」で約3割、「安心して暮らせる都市」が2割を超えた。前回調査（平成27年度）と比較すると、大きな差異はみられない。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「生活に便利な都市」は、29歳以下で約4割と最も高く、「自然が豊かな都市」は40歳代で3割半ばと最も高く、「安心して暮らせる都市」は70歳以上が3割を超え最大となっている。

2 定住意向について

(1) 市への愛着心

市への愛着は、「愛着がある」と「どちらかといえば愛着がある」を合わせた、「愛着がある」が約8割である。一方、「どちらかといえば愛着がない」と「愛着がない」を合わせた、「愛着がない」は1割台半ばである。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、「愛着がある」は30歳以上の年齢層において、年齢層が上がるほど高くなり、70歳以上で8割を超え最も高い。ただし、29歳以下は、30歳代よりも高く約8割ある。前回（平成27年度）調査での同じ設問の結果と対比すると、「愛着がある」の割合がわずかながら増加している。

(2) 八千代市について

今回調査で新たに設けられた設問で、最も多いのが「特に「これ」ということは思わない」で、6割台半ばである。性別で見ると、「特に「これ」ということは思わない」の割合は女性の方が高く、「このまちを人にも勧めたい」は男性の方が高い。年齢別で見ると、各年齢層とも、選択肢間の順位は概ね同様であるが、「このまちを人にも勧めたい」の割合は30歳代で2割台半ばと最も高くなっている。

(3) 居住継続意識

居住継続意識は、「ずっと住み続けたい」と「当分の間住み続けたい」を合わせた、「居住継続」が約8割となる。一方、「いずれは、市外に住みたい」と「すぐにでも市外に移りたい」を合わせた、「転出希望」は1割台半ばである。性別で見ると、「居住継続」が男性よりも女性の方がやや低くなっている。年齢別で見ると、「居住継続」は、概ね年齢層が上がるほど高くなる傾向があり、70歳以上で8割台半ばと最も高い。一方、「転出希望」は、29歳以下で約3割と最も高い。

「ずっと住み続けたい」、「当分の間住み続けたい」と答えた方に、居住継続の理由について尋ねた結果、「自分の家・土地があるから」が約6割で最も高く、次いで、「長年住み慣れており愛着があるから」が3割台半ば、「自然災害が比較的少ないから」が3割を超える。

「いずれは、市外に住みたい」、「すぐにでも市外に移りたい」と答えた方に、転出希望の理由について尋ねた結果、「通勤・通学に不便だから」が4割を超え最も高く、次いで、「市外に家族・親族が住んでいるから」が約2割である。

3 「地域との関わり合い」について

(1) 自治会への加入状況

自治会への加入状況は、「加入している」が7割を超える。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。

「加入していない」と答えた方に、自治会に加入していない理由を尋ねた結果、「自分が住んでいるところに自治会がないから」が2割を超えて最も高く、次いで、「自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから」が2割である。

(2) 自治会の必要性

自治会の必要性は、「あった方がよい」と「どちらかといえばあった方がよい」を合わせた、「あった方がよい」が約7割である。一方、「どちらかといえば必要ない」と「必要ない」を合わせた、「必要ない」は1割台半ばである。性別で見ると、「わからない」と無回答の割合で女性の方が多く、「あった方がよい」、「必要ない」については男女で大きな差異はみられない。

「あった方がよい」、「どちらかといえばあった方がよい」と答えた方に理由を尋ねた結果、「防犯・防災活動などに必要だから」が3割台半ばで最も高く、次いで、「地域の親睦・交流に必要だから」が3割、「環境美化など生活環境の維持・向上のために必要だから」が約2割である。

4 「行政サービスの在り方」について

(1) 行政サービスの在り方

行政サービスの在り方は、「民間活力を活用できる分野は、PFI等、積極的に活用すべき」が約4割で最も高く、次いで、「市民の協力を得られる分野は、市と市民が連携して行うべき」が3割を超え、「できるだけ市が直接行うべき」が約2割である。性別で見ると、男性で「民間活力を活用できる分野は、PFI等、積極的に活用すべき」の割合が女性よりやや高く、その分、女性は「わからない」の割合が高くなっている。年齢別では、50歳以上の年齢層において、「民間活力を活用できる分野は、PFI等、積極的に活用すべき」の割合が低下し、逆に「市民の協力を得られる分野は、市と市民が連携して行うべき」の割合が高まる傾向が顕著である。ただし、29歳以下では、「できるだけ市が直接行うべき」の割合が2割台半ばと最も高いという特徴がみられる。

(2) 市民と市役所の関係

予め7つの活動を設定し、それらの活動を行う中心は市民であるべきなのか、市役所であるべきなのかを尋ねた。「市民中心」と「どちらかという市民中心」を合わせた、「市民中心」は「登下校時の子どもの見守り」が約9割、「家の前の道路の掃除」が8割台半ば、「地域のイベントの運営」が約5割である。「どちらかという市役所中心」と「市役所中心」を合わせた、「市役所中心」は「緑化活動の推進」が8割台半ば、「ごみ減量化やリサイクルの推進」が7割台半ば、「家の近くの公園の草取りなど」が6割台半ばである。

(3) 市民参加の条件整備

市民参加の条件整備は、「市の課題を市民が理解しやすい仕組みをつくる」が約5割で最も高く、次いで、「市役所の施策や事業内容のPR」が2割を超えている。性別で見ると、「市の課題

を市民が理解しやすい仕組みをつくる」が最上位であることは男女共通であるが、男性は「市役所の施策や事業内容のPR」、女性は「情報公開（制度）の充実」が2位である点などの相違がある。年齢別では、2位以下の順位が年齢層によって異なり、30歳代では「地域ごとの課題へのきめ細かい対応」、29歳以下では「市民活動活発化への場所、情報、資金の提供」がそれぞれ2位となっている。

5 八千代市が力を入れて取り組むべき施策について

（1）市が力を入れて取り組むべき施策

市が力を入れて取り組むべき施策としては、「高齢者」が約5割で最も高く、次いで「子育て支援」が3割台半ば、「防災・防犯」が約3割である。前回（平成27年度）調査との比較では、今回の結果の1位～3位は前回と同じである。前回の選択肢になかった「公共交通」が4位にあがっていることが今回の特徴である。

性別でみると、男女で大きな差はみられない。年齢別でみると、40歳代以下の年齢層で「子育て支援」が1位となっているのが特徴的である。また、30歳代では「学校教育」が2位であり、50歳代以上の年齢層では「防災・防犯」が2位である点が目立つ。

6 超高齢社会について

（1）高齢者が安心して暮らしていくために大切なこと

高齢者が安心して暮らしていくために大切なことは、「介護が必要になったときのための介護保険や福祉のサービスの充実」が6割を超え最も高く、次いで、「老人ホームなど高齢者福祉施設の充実」が約3割、「医療体制の充実」が2割台半ばである。性別でみると、1位、2位の項目は共通であるが、「医療保険や介護保険の制度の充実」や「地域で高齢者を見守る体制づくり」などの項目で女性の方が男性より高い。年齢別でみると、29歳以下及び60歳代以上では「老人ホームなど高齢者福祉施設の充実」が2位であるのに対し、30歳代、50歳代では「地域で高齢者を見守る体制づくり」が、また40歳代では「働く場の確保」が2位であるなどの相違がある。

7 環境問題について

（1）関心のある環境問題

関心を持っている環境問題は、「ごみの減量・リサイクル」が4割台半ばで最も高く、次いで、「気候変動」が約4割、「温暖化など地球環境問題」が3割台半ばである。性別でみると、男性では「印旛沼や新川などの水質汚濁」が2位、女性では「気候変動」が2位であるなどの相違がある。年齢別でみると、29歳以下や50～60歳代において、「温暖化などの地球環境問題」、30～40歳代や70歳以上において「気候変動」の割合が比較的高い。

（2）環境への取り組みの期待

環境への取り組みへ期待していることは、「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」が3割台半ばで最も高く、次いで、「地球温暖化対策の推進」、「気候変動への適応策」が2割台半ばである。性別でみると、上位2項目は共通であるが、3位以下において、男性は「環境監視体制の整備・充実」や「規制法令の整備・強化」の割合が女性より目立って高く、一方、「気候変動への適応策」などでは女性の割合が高い。年齢別では、概ね共通の傾向であるが、29歳以下では「ごみ

の分別やリサイクルの推進」が2位で、30～40歳代では「気候変動への適応策」が2位になっている。

8 交通について

(1) 交通バリアフリーの優先策

交通バリアフリーの優先策は、「歩道の改良」が6割台半ばで最も高く、次いで、「歩道の設置」が約6割、「鉄道駅へのエレベーターの設置」が3割を超える。性別で見ると、男性は「鉄道駅へのエスカレーターへの設置」、女性は「鉄道駅へのエレベーターの設置」の割合がそれぞれ相対的に高いなどの特徴がある。年齢別で見ると、30歳代で「鉄道駅へのエレベーターの設置」の割合が約5割と目立って高い。

9 安心で安全なまちづくりについて

(1) 安心で安全なまちづくりのために取り組むべきこと

安心で安全なまちづくりのために取り組むべきこととしては、「災害時におけるライフラインの確保」が7割を超え最も高く、「防犯施設の整備」が3割台半ば、「ゴミ屋敷・空き家対策の強化」が2割となっている。性別で見ると、男性で「消防・救急体制の整備」の割合が女性より目立って高い。年齢別で見ると、29歳以下で「防災倉庫等災害関連施設の整備」の割合が2割台半ば、30歳代で「通学路の安全確保」の割合が3割台半ば、50歳代で「防災無線や防災情報メール等の情報伝達手段の整備」が2割台半ばと特に高い。

10 情報の提供について

(1) 市行政情報の入手方法

市行政情報の入手方法は、「広報やちよ」が7割台半ばで最も高く、「自治会の回覧板」が約4割、「友人・知人などからの口コミ」が2割を超え、「市役所や公共施設の掲示板」が約2割の順となっている。前回（平成27年度）調査の選択肢になかった「自治会の回覧板」が今回2位を占めており、回覧板の役割の重要性を示している。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別では、29歳以下や30歳代では「友人・知人などからの口コミ」が2位であることや、「市のホームページ」は40～50歳代で割合が高いことなどの特徴がみられる。

(2) 情報施策への希望

市の情報施策への希望としては、「広報やちよの配布の充実」が約5割で最も高く、「インターネットやツイッターによる情報の充実」が約4割、「携帯電話への情報提供の充実」が3割、「冊子やパンフレット等のデータの充実」が2割で続いている。性別でみると、各選択肢とも男性での割合の方が高く、複数回答において男性が多く項目を選択したことを示している。年齢別でみると、「広報やちよの配布の充実」は特に高齢者で割合が高く、70歳以上では7割台半ばとなっている。一方、「インターネットやツイッターによる情報の充実」は50歳代以下の年齢層で5割前後と特に高い割合を示している。

(3) 充実させてほしい情報提供内容

今後充実させてほしい情報提供内容としては、「防災・防犯」が約4割で最も高く、「介護サービス」が約3割、「福祉サービス」が2割台半ば、「イベント情報」が2割を超える。性別でみると、上位項目は男女で共通であるが、女性では「生涯学習など市民の学び」などの割合が男性よりも高く、男性では「市の財政状況」などの割合が女性より高くなっている。年齢別でみると、29歳以下では「イベント情報」や「市の財政状況」、30歳代では「子育て」、40～60歳代では「防災・防犯」、70歳以上では「介護サービス」や「福祉サービス」の割合が高いなど、世代に応じた特徴がみられる。

11 多文化共生について

(1) 多文化共生の施策

多文化共生の施策としては、「外国人のための相談窓口の設置」が約5割で最も高く、「外国人向けの表示、案内などの整備」が3割、「日本語学習機会の提供」が3割、「外国語による生活情報の提供」が2割台半ばである。性別でみると、男性で「日本語学習機会の提供」が2位であるのに対し、女性では「外国人向けの表示、案内などの整備」が2位となっている。年齢別では、「外国人向けの表示、案内などの整備」の割合が、特に29歳以下と60歳代で高いのが目立つ。

12 食育について

(1) 食育への関心度

食育に対しては、「関心がある」が4割、「どちらかといえば関心がある」が3割台半ばで、合わせた《関心がある》が7割台半ばとなる。一方、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせた《関心がない》は約2割である。性別でみると、女性の方が男性よりも《関心がある》の割合が高く、8割を超えている。

年齢別でみると、特に、30歳代での関心度の高さが目立ち、《関心がある》の割合は8割台半ばとなっている。

「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と答えた方にその理由を尋ねた結果、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」が6割で最も高く、次いで、「食生活の乱れが問題になっているから」が5割を超え、「生活習慣病の有病者の増加が問題になっているから」が3割台半ばである。

13 余暇の過ごし方について

(1) 余暇時間の過ごし方

余暇時間の過ごし方は、「買い物」が約5割で最も高く、「家族とのだんらん」が4割台半ば、「自宅で1人でのんびり過ごす」が4割を超え、「散歩」が3割と続いている。性別でみると、「買い物」が最多なのは女性で、男性は「自宅で1人でのんびり過ごす」が最も高くなっている。年齢別でみると、50歳代で「買い物」が最多、29歳以下は「音楽、映画、絵画、演劇などの観（鑑）賞」が、30歳代及び40歳代は「家族とのだんらん」が、60歳代は「自宅で1人でのんびり過ごす」が、70歳以上は「散歩」がそれぞれ最多となっている。

14 生涯学習や文化活動、スポーツ活動について

(1) 生涯学習・文化活動、スポーツ活動の有無

生涯学習・文化活動の時間を「とっていない」が6割台半ばとなっている。性別でみると、女性の方が「とっている」割合がやや高い。年齢別でみると、「とっている割合」は40歳代で最も低く2割で、50～60歳代では3割台半ば、70歳以上では約4割となっている。

スポーツ活動の時間を「とっていない」が6割台半ばとなっている。性別でみると、生涯学習・文化活動とは逆に、男性の方が「とっている」割合がやや高い。年齢別でみると、30歳代で「とっている」割合が特に低く2割を超えている程度で、40歳代ではこれが約4割に上昇している。

生涯学習・文化活動、スポーツ活動の時間をとっている人の活動の場所は、「公共の社会教育施設」が3割台半ばで最も高く、次いで「自宅」も3割台半ばとなっている。

生涯学習や文化活動の時間を「とっている」人に、その活動推進に必要なことを尋ねた結果、「無料での学習機会を増やす」が約4割で最も高く、次いで「自己負担でもすぐれた講座を多く」も約4割、「学習会・講座などの開催情報の提供」が3割台半ば、「無料駐車場を増やす」が3割を超える順となった。

スポーツ活動の時間を「とっている」人に、その活動推進に必要なことを尋ねた結果、「無料駐車場を増やす」が約3割で最も高く、次いで「無料での学習機会を増やす」、「自己負担でもすぐれた講習を多く」も約3割、「民間のサービス利用に対する補助」が約2割の順となった。

スポーツ活動の時間を「とっている」人の頻度は、1週間のうち「1回」が3割台半ばで最も高く、次いで、「3回以上」、「2回」が約3割となっている。

学習・文化活動またはスポーツ活動の時間を「とっていない」人にその理由を尋ねた結果、「忙しくて時間がない」が約4割で最も高く、「きっかけがつかめない」、「費用がかかる」が2割台半ばとなった。

15 八千代市が取り組んでいる施策の重要度と満足度について

総合計画の6分野にわたる計44項目の施策について、重要度、満足度の評価をそれぞれ5段階の中から選択する設問である。以下により加重平均を算出した結果を「評価点」として示す。

重要度	満足度
重要である = 2点	満足 = 2点
やや重要である = 1点	やや満足 = 1点
普通 = 0点	普通 = 0点
あまり重要でない = -1点	やや不満 = -1点
重要でない = -2点	不満 = -2点

全44項目中の比較で、重要度、満足度の評価点の上位、下位の項目を抽出すると以下のとおりである。重要度の最上位は、防災、防犯、消防、救急医療等といった安心・安全に関する項目が占めた。また、満足度の最上位は「安全でおいしい水道水の安定的な供給」で、最下位は、「渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備」であり、道路・交通関係の項目の満足度が低位で続いている。

重要度			
	順位	施策項目	評価点
上位5項目	1位	(19)災害に強い安全なまちづくり	1.76
	2位	(22)犯罪が少なく安心して暮らせるまち	1.71
	3位	(20)火災等から市民の生命や財産を守るための消防体制の充実	1.60
	4位	(3)救急医療体制の充実	1.59
	5位	(21)市民、警察、防犯関係団体等による地域防犯体制の整備	1.57
:			
下位5項目	40位	(36)移住・定住の促進	0.66
	41位	(13)地域の文化活動が活発で、文化に接する機会の充実	0.57
	42位	(41)市内には製造業の事業所数が多く工業の活力がある	0.57
	43位	(11)コミュニティづくりのための施設の充実	0.56
	44位	(38)市民農園や農業体験講座など、農家と市民が交流できる場の整備	0.48

満足度			
	順位	施策項目	評価点
上位5項目	1位	(29)安全でおいしい水道水の安定的な供給	0.31
	2位	(3)救急医療体制の充実	0.17
	3位	(1)病気の早期発見・予防体制の整備	0.15
	4位	(39)新鮮な市内産農産物の安定的な供給	0.13
	5位	(28)公共下水道の整備	0.13
:			
下位5項目	40位	(8)小中学校の施設・設備の充実	-0.27
	41位	(25)鉄道・バス路線などの公共交通網の整備	-0.30
	42位	(34)障害者や高齢者などが公共施設、交通機関、歩行空間で不自由を感じないで利用できる	-0.34
	43位	(27)既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの設置等の道路整備	-0.41
	44位	(26)渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備	-0.50

(重要度と満足度の関係が顕著な施策項目)

図の左上方向 (重要度は低い、満足度は高い)	図の右上方向 (重要度が高く、満足度も高い)
(18) 市民・事業者・市の連携のもと、地域ぐるみの清掃活動などの実施 (31) 街路樹の整備などによる緑あるまちの形成 (37) 生産性の高い都市型農業の振興 (38) 市民農園や農業体験講座など、農家と市民が交流できる場の整備 (41) 市内には製造業の事業所数が多く工業の活力がある (43) ふるさと親子祭による、市民相互の親睦と観光客の誘引など地域の活性化	(1) 病気の早期発見・予防体制の整備 (2) 地域の医療体制の充実 (3) 救急医療体制の充実 (15) 緑や水辺などの自然環境の保全 (17) リサイクルを含めたごみ処理体制の充実 (20) 火災等から市民の生命や財産を守るための消防体制の充実 (22) 犯罪が少なく安心して暮らせるまち (28) 公共下水道の整備 (29) 安全でおいしい水道水の安定的な供給
図の左下方向 (重要度が低く、満足度も低い)	図の右下方向 (重要度は高いが、満足度は低い)
(5) ひとり親家庭を支援するサービス体制の充実 (7) 障害者の自立を支援するサービス体制の充実 (10) スポーツ、レクリエーション施設の充実 (11) コミュニティづくりのための施設の充実 (13) 地域の文化活動が活発で、文化に接する機会の充実 (42) 就業希望者に対する職業相談などの支援業務の充実 (44) 市のイメージ・認知向上の活動	(6) 高齢者福祉サービスの充実 (23) 安全に通行するための交通安全施設の充実 (25) 鉄道・バス路線などの公共交通網の整備 (26) 渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備 (27) 既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの設置等の道路整備 (34) 障害者や高齢者などが公共施設、交通機関、歩行空間で不自由を感じないで利用できる

重要度は高いが、満足度は低い項目は、高齢者福祉サービス、交通安全施設整備、公共交通網整備、都市計画道路等の整備、道路環境の改善、バリアフリー対策といったところである。

16 後期基本計画における指標について

(1) 健康状態

健康状態は、自分が健康だと「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は7割を超える。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じる」は2割台半ばである。「感じる」は前回（平成27年度）調査より減少している。

(2) 健康診断や人間ドックの受診

健康診断や人間のドックの受診は、「定期的に受けている」と「不定期だが受けている」を合わせた、「受けている」は8割台半ばである。一方、「受けていない」は、1割台半ばである。「受けている」は前回（平成27年度）調査よりわずかに増加している。

(3) かかりつけ医の有無

かかりつけ医の有無は、「決めている」が6割台半ばである。前回（平成27年度）調査と比べ、大きな変動はない。

(4) 地域医療体制の整備状況

地域医療体制の整備状況は、整っていると「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は5割を超える。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じる」は3割台半ばである。前回（平成27年度）調査と比べ、大きな変動はない。

(5) 子どもの健やかな発育・発達

子どもの健やかな発育・発達は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約6割を超える。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じる」は1割台半ばである。「感じる」は、前回（平成27年度）調査よりわずかに増加している。

(6) 子育てしやすいまち

子育てしやすいまちは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約5割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じる」は2割台半ばである。「感じる」は、前回（平成27年度）調査よりわずかに増加している。

(7) 高齢者福祉サービスの充実

高齢者福祉サービスの充実は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は2割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じる」は3割台半ばである。「感じる」は、前回（平成27年度）調査より減少している。

(8) 幼稚園教育の充実

幼稚園教育の充実は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は3割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じる」は1割台半ばである。「感じる」は、前回（平成27年度）調査より増加している。

(9) 生涯学習情報の得やすさ

生涯学習の得やすさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は2割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は4割台半ばである。前回（平成27年度）調査と比べ、大きな変動はない。

(10) 男女共同参画社会の進展

男女共同参画社会の進展は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は1割を超える。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は4割である。前回（平成27年度）調査と比べ、大きな変動はない。

(11) まちのきれいさ

まちのきれいさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は6割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は3割台半ばである。「感じる」は、前回（平成27年度）調査よりわずかに増加している。

(12) 消費生活情報の得やすさ

消費生活情報の得やすさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は2割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は4割台半ばである。前回（平成27年度）調査と比べ、大きな変動はない。

(13) 災害時の避難場所

災害時の避難場所は、「知っている」が8割を超える。「知っている」は前回（平成27年度）調査よりわずかにではあるが増加している。

(14) 鉄道の利用しやすさ

鉄道の利用しやすさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は6割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は3割である。「感じる」は、前回（平成27年度）調査よりわずかに減少している。

(15) バスの利用しやすさ

バスの利用しやすさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は3割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は5割を超える。「感じる」は前回（平成27年度）調査より減少し、「感じない」は増加している。

(16) 市内・市外間の移動のしやすさ

市内・市外間の移動のしやすさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は4割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は約5割である。「感じない」は前回（平成27年度）調査よりわずかに増加している。

(17) 交通弱者にやさしい交通環境

交通弱者にやさしい交通環境は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は2割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は6割を超える。「感じる」は前回（平成27年度）調査よりわずかに増加している。

(18) 緑豊かなまち

緑豊かなまちは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約8割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は1割台半ばである。「感じる」は前回（平成27年度）調査より増加している。

(19) 市街地整備

市街地整備の誘導の適切さについては、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約3割である。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は4割である。「感じる」は前回（平成27年度）調査より増加している。

(20) ふるさと親子祭

ふるさと親子祭は、市民相互の親睦と地域の活性化に役立つと「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は5割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は2割である。「感じる」は前回（平成27年度）調査より大幅に増加し、「感じない」は大幅に減少している。

(21) 透明性の高い市政運営

透明性の高い市政運営は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は、1割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は4割台半ばである。「感じる」は前回（平成27年度）調査より増加し、「感じない」は減少している。

(22) 市民の意見の反映

市民の意見の反映は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は1割を超える。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は5割を超える。「感じる」は前回（平成27年度）調査より増加し、「感じない」は減少している。

(23) 自立した市政運営

自立した市政運営は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は1割台半ばである。一方、「どちらかというと感じない」と「感じない」を合わせた、「感じない」は、3割台半ばである。「感じる」は前回（平成27年度）調査より増加し、「感じない」は減少している。

(24) 国際交流・協力

国際交流・協力に関する活動への参加等については、「思う」と「どちらかというと思う」を合わせた、《思う》は3割を超える。一方、「どちらかというと思わない」と「思わない」を合わせた、《思わない》は5割である。《思う》は前回（平成27年度）調査より増加し、《思わない》は減少している。

(25) 公共施設のサービス、設備や管理・運営

公共施設のサービス、設備や管理・運営の満足度については、「思う」と「どちらかというと思う」を合わせた、《思う》は3割台半ばである。一方、「どちらかというと思わない」と「思わない」を合わせた、《思わない》は4割台半ばである。

【外来者調査】

1 八千代市のイメージについて

(1) 市のイメージ

市のイメージは、「自然が豊かな都市」が約4割で最も高く、「生活に便利な都市」が約3割となっている。市内在住者調査と比較すると、「安心して暮らせる都市」が、2割を超えるのに対して、外来者では約1割と低い。性別で見ると、「安心して暮らせる都市」の割合は男性の方が高く、「生活に便利な都市」や「自然が豊かな都市」の割合は女性の方がわずかに高い。年齢別で見ると、生活に便利な都市」は40～50歳代で特に割合が高く、「自然が豊かな都市」は30歳代で特に割合が高い。

2 八千代市の魅力について

(1) 市の魅力

本市が魅力的なまちだと思うかの問いに、「どちらともいえない」が5割台半ばで最も高く、「そう思わない」が約3割、「そう思う」が1割台半ばとなっている。性別で見ると、「そう思わない」の割合が男性の方が女性の約1.5倍高い3割台半ばとなっている。年齢別で見ると、最も回答者数が多い40歳代で「どちらともいえない」の割合が6割を超えて高いことが特徴である。「そう思う」の割合は50歳代で最も高く、「そう思わない」の割合は30歳代で最も高い。

(2) 魅力的なまちになるための方向性

魅力的なまちになるための方向性としては、「医療や福祉の充実したまち」が約5割で最も高く「災害に強いまち」が約4割、「子育てと仕事両立できる環境があるまち」、「居住環境の整備されたまち」が3割台半ばで続いており、この4つが3割以上の支持を集めている。性別で見ると、「医療や福祉の充実したまち」の割合が女性で5割台半ばと特に高く、また、「災害に強いまち」の割合も男性よりかなり高く4割台半ばである。男性では、「商工業などを中心としたまち」などの割合が女性より高い。年齢別で見ると、29歳以下や30歳代で「子育てと仕事両立できる環境があるまち」の割合が相対的に高く、また、「商工業などを中心としたまち」の割合が29歳以下で特に高いなどの特徴がみられる。

3 八千代市が力を入れて取り組むべき施策について

(1) 市が力を入れて取り組むべき施策

今後、市が力を入れて取り組むべき施策としては、「子育て支援」が3割台半ばで最も高く、「高齢者」、「公共交通」、「道路・下水道等」、「防災・防犯」が続き、この5項目が20%以上である。市内在住者の結果と比較すると、市民では「高齢者」の割合が突出して高いのに対し、外来者ではその割合は「子育て支援」に次ぐ値となっている。また、「公共交通」や「道路・下水道等」などの割合が市内在住者よりも高い。性別で見ると、「子育て支援」のほか「高齢者」や「防災・防犯」などでは女性の方が割合が高く、「産業（商業・工業・農業）」や「住環境」などでは男性の方が割合が高い。年齢別で見ると、「子育て支援」は特に30～40歳代で割合が高く、「高齢者」は年齢が高い層ほど割合が高まっている。また「公共交通」は29歳以下や30歳代、50歳代で特に割合が高い。

4 市内の施設等の利用について

(1) 市内で立ち寄る状況

市外からの通勤者が、帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設が「ある」という割合は6割である。性別では、女性の方が「ある」の割合がかなり高く、約7割を占めている。年齢別では、30歳代から60歳代までの各年齢層で「ある」が6割台である。

帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設が「ある」と答えた人に、その立ち寄り先の施設を尋ねた結果、「ショッピングセンター」が約8割で最も高く、「飲食店」が約5割、さらに「映画館やボウリング場、パチンコ店など娯楽施設」が2割台半ばの順となっている。性別で見ると、男女とも1位、2位の順位は同じであるが、女性では「ショッピングセンター」、男性では「飲食店」の割合が特に高い。年齢別で見ると、「ショッピングセンター」は特に30歳代、「飲食店」は特に40歳代で割合が比較的高くなっている。

市内で帰宅途中や休日に立ち寄る施設がある人の立ち寄りの頻度は、「月に1~2回程度」が3割台半ばで最も高く、「月に3~4回程度」が約3割、「年に数回程度」が約2割、「週に3~4回程度」が約1割となっている。性別で見ると、男性よりも女性の方が「週に3~4回程度」を始めた頻度が多い割合が高い。年齢別で見ると、50歳代までの年齢層で、ほぼ同様の傾向である。

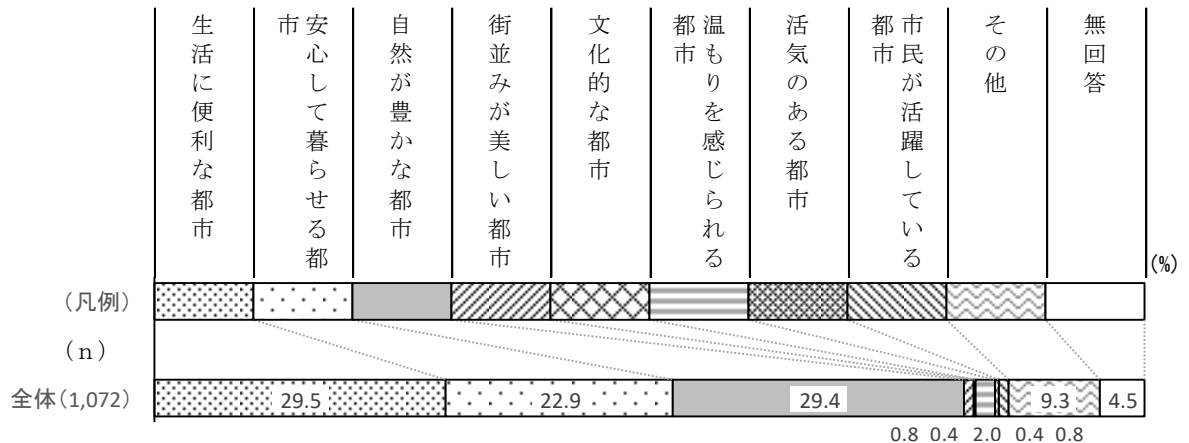
V 調査結果の分析－市内在住者調査－

V 調査結果の分析－市内在住者調査－

1 八千代市のイメージについて

(1) 市のイメージ

問1 八千代市にどのようなイメージをお持ちですか。(〇は1つ)



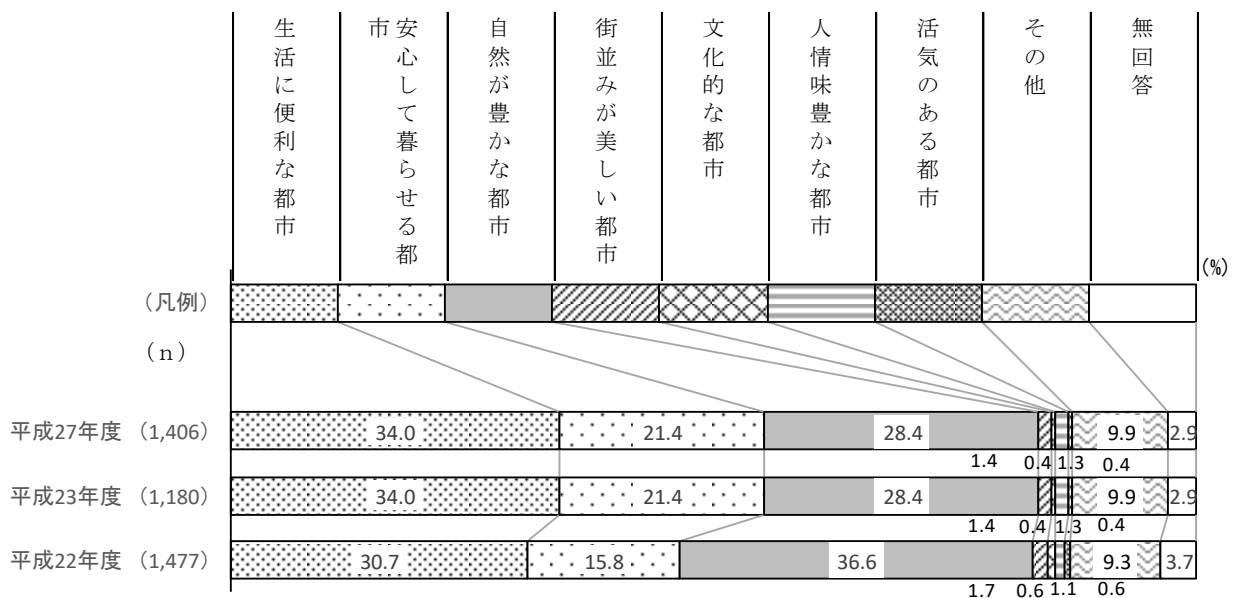
八千代市のイメージは、「生活に便利な都市」が29.5%で最も高く、「自然が豊かな都市」が29.4%、「安心して暮らせる都市」が22.9%の順となっている。他の選択肢の割合は少ないが、「温もりを感じられる都市」が2.0%となっている。

《時系列比較》

過去のアンケート調査でも同様の設問を行っているが、選択肢がわずかに異なるため、参考として以下に示す。

過去3回の調査でも、「生活に便利な都市」、「自然が豊かな都市」、「安心して暮らせる都市」の順位は同様であり、市民が抱く市のイメージは大きくは変わっていないといえる。

<参考：過去の同様の設問の結果>



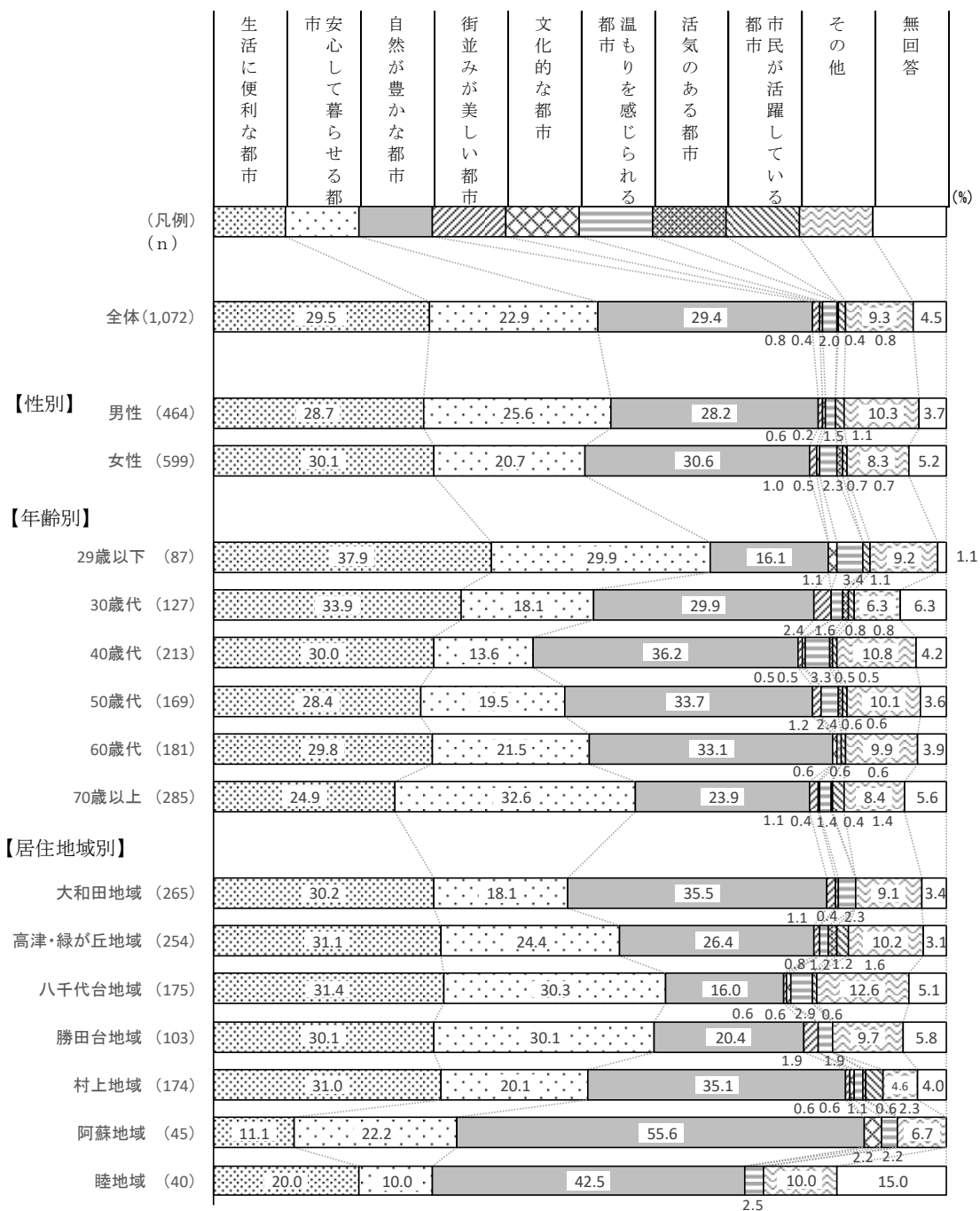
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女による傾向の大きな差異はみられない。

年齢別では、「生活に便利な都市」の割合は年齢層が若いほど高い傾向が強く、29歳以下では37.9%となっている。「自然が豊かな都市」は40歳代で最も割合が高く、36.2%であり、「安心して暮らせる都市」は70歳以上が32.6%で最大となっている。

居住地域別では、八千代台地域、勝田台地域で「安心して暮らせる都市」の割合が3割程度と特に高いこと、阿蘇地域、睦地域で「自然が豊かな都市」の割合が4～5割以上と特に高いことなどの特徴がみられる。

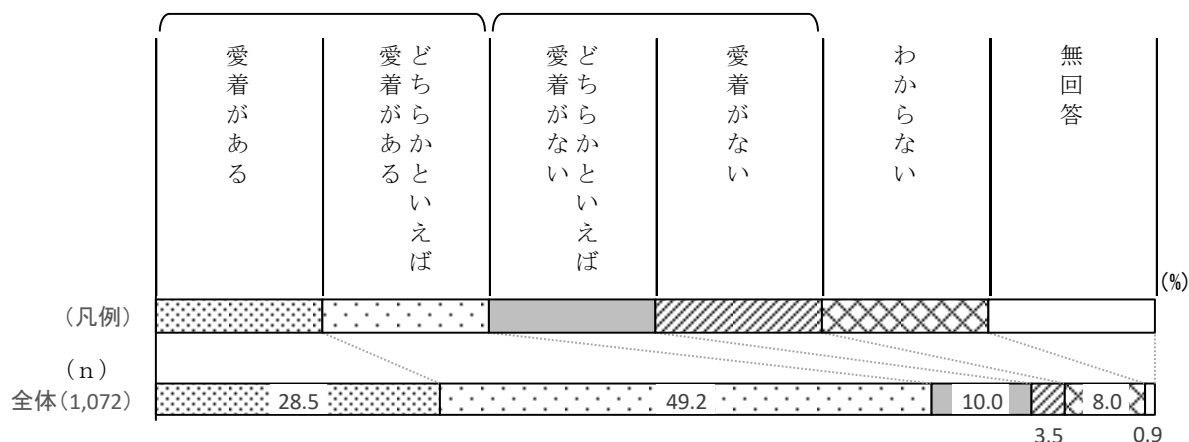
＜性別・年齢別・居住地域別＞



2 定住意向について

(1) 市への愛着心

問2 八千代市に愛着を持っていますか。(○は1つ)

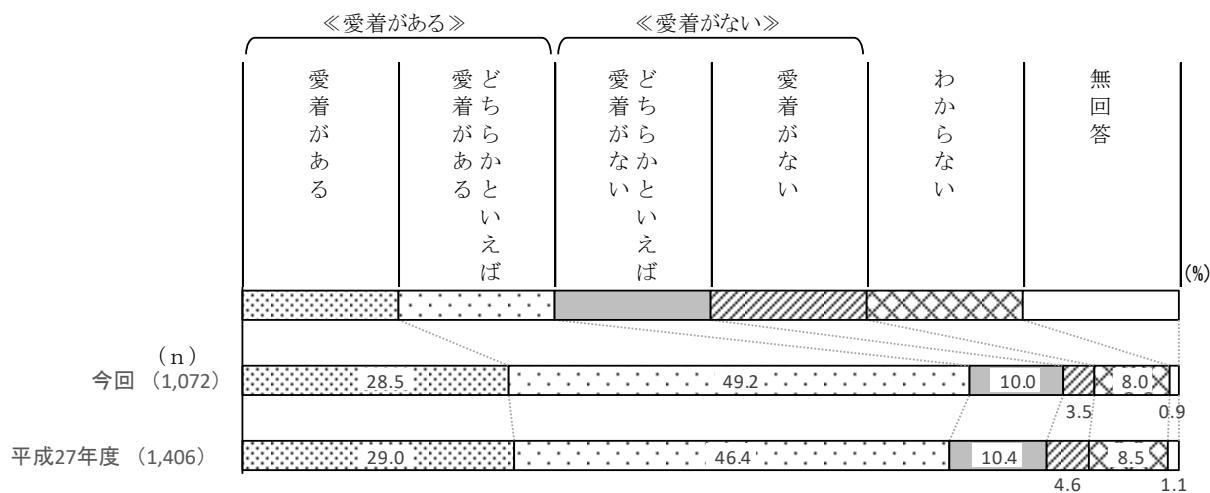


市への愛着心としては、「どちらかといえば愛着がある」が49.2%で最も高く、「愛着がある」が28.5%で、両者を合わせた《愛着がある》は77.7%となる。一方、「どちらかといえば愛着がない」が10.0%、「愛着がない」が3.5%で、合わせた《愛着がない》は13.5%である。「わからない」も8.0%ある。

《時系列比較》

前回（平成27年度）調査での同じ設問の結果と対比すると、《愛着がある》の割合がわずかながら増加している。

<時系列比較>



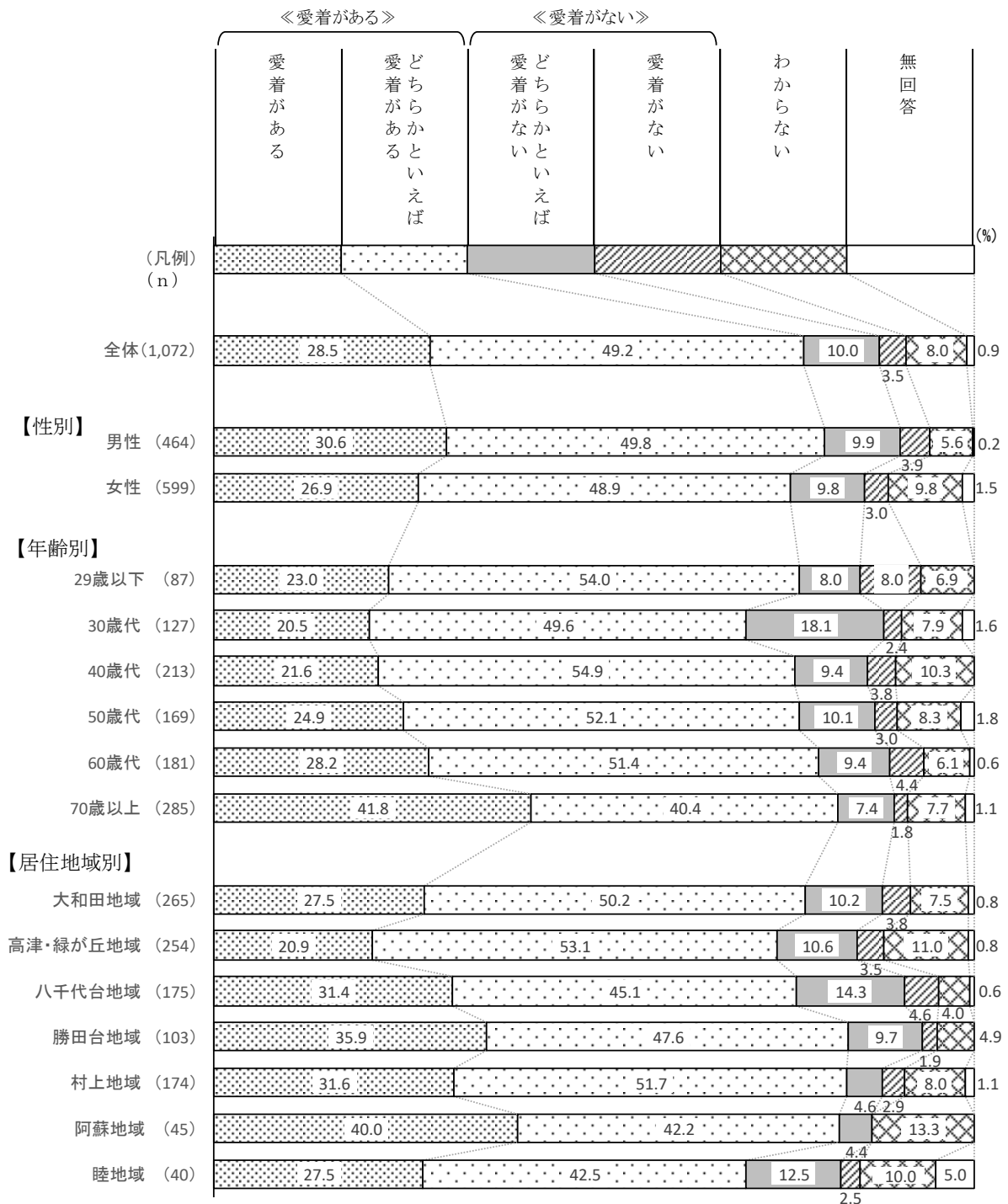
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「わからない」の割合は女性の方が高いが、それを除けば男女ほぼ同様の傾向である。

年齢別では、30歳以上の年齢層において、年齢層が上がるほど《愛着がある》の割合が高くなる。ただし、29歳以下では、その割合が30歳代よりも高く77%あり、40～50歳代と同様の水準である。また、70歳以上では「愛着がある」の割合が4割を超えて最大となっている。

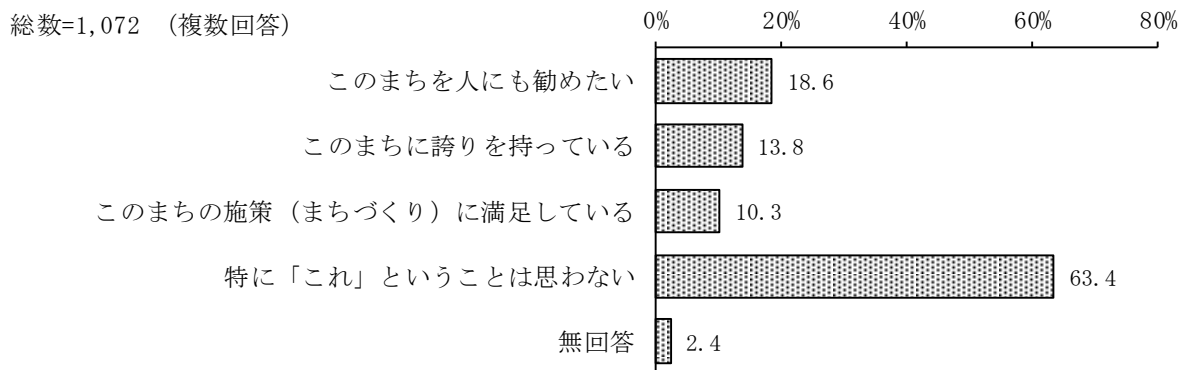
居住地域別では、《愛着がある》の割合は、勝田台地域、村上地域、阿蘇地域という市東部の地域で比較的高くなっている。

＜性別・年齢別・居住地域別＞



(2) 八千代市について

問3 八千代市について、どのように思われていますか？（○は3つまで）



今回調査で新たに設けられた設問で、複数回答で4つの選択肢を用意しているが、最も多いのが「特に「これ」ということは思わない」で、63.4%を占めた。

そのほかでは、「このまちを人にも勧めたい」が18.6%で高くなっている。また、「このまちに誇りを持っている」が13.8%、「このまちの施策に満足している」が10.3%となっている。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、回答割合の順位は男女共通であるが、「特に「これ」ということは思わない」の割合は女性が男性より5ポイント近く高くなっている。一方、「このまちを人にも勧めたい」は男性の方が7ポイント程度高い。

年齢別では、各年齢層とも、選択肢間の順位は概ね同様であるが、その値は微妙に異なり、特に「このまちを人にも勧めたい」の割合は30歳代で25.2%と最も高くなっている。

居住地域別では、阿蘇地域、睦地域を除く5地域では全体の順位と概ね同様であり、特に、村上地域では「このまちを人にも勧めたい」の割合が23.6%と最多となっている。阿蘇地域、睦地域では、2位が「このまちに誇りを持っている」で、特に阿蘇地域ではその割合が20%である。また、睦地域では「特に「これ」ということは思わない」の割合が67.5%で、7地域中最大の割合である。

<性別・年齢別・居住地域別>

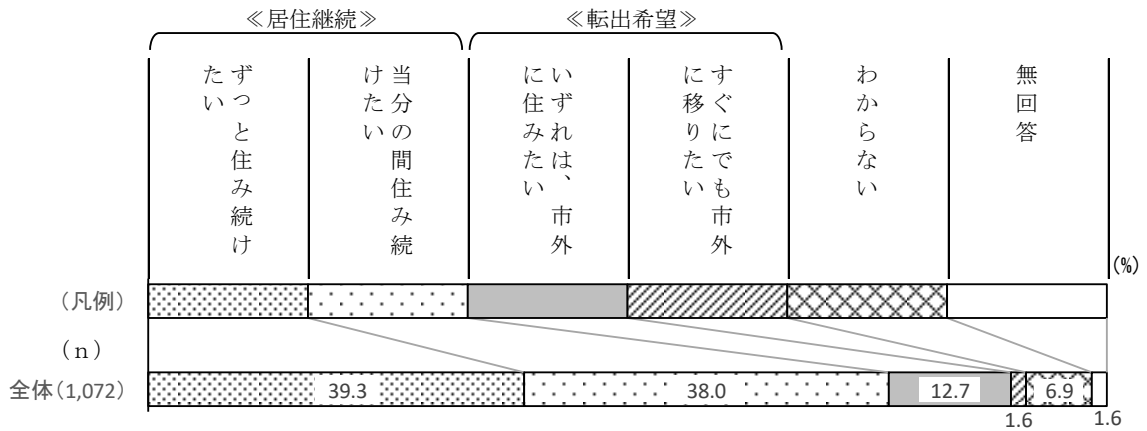
上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		全体	このまちに誇りを 持っている	このまちの施策 (まちづくり)に 満足している	このまちを人にも 勧めたい	特に「これ」とい うことは思わない
全体		1,072 100.0	148 13.8	110 10.3	199 18.6	680 63.4
性別	男性	464 100.0	73 15.7	45 9.7	105 22.6	281 60.6
	女性	599 100.0	74 12.4	65 10.9	94 15.7	391 65.3
年齢	29歳以下	87 100.0	9 10.3	7 8.0	15 17.2	62 71.3
	30歳代	127 100.0	9 7.1	7 5.5	32 25.2	84 66.1
	40歳代	213 100.0	23 10.8	11 5.2	29 13.6	150 70.4
	50歳代	169 100.0	18 10.7	20 11.8	25 14.8	113 66.9
	60歳代	181 100.0	27 14.9	18 9.9	35 19.3	112 61.9
	70歳以上	285 100.0	62 21.8	47 16.5	63 22.1	149 52.3
居住地	大和田地域	265 100.0	40 15.1	21 7.9	41 15.5	177 66.8
	高津・緑が丘地域	254 100.0	26 10.2	25 9.8	51 20.1	166 65.4
	八千代台地域	175 100.0	23 13.1	14 8.0	34 19.4	113 64.6
	勝田台地域	103 100.0	19 18.4	15 14.6	22 21.4	61 59.2
	村上地域	174 100.0	25 14.4	25 14.4	41 23.6	96 55.2
	阿蘇地域	45 100.0	9 20.0	6 13.3	6 13.3	6 55.6
	睦地域	40 100.0	6 15.0	4 10.0	3 7.5	27 67.5

- 各属性の中で最も割合が高い選択肢
 - 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
(属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)
- 注) 「無回答」は表記を省略している。

(3) 居住継続意識

問4 今後も八千代市に住み続けたいとお考えですか。(○は1つ)



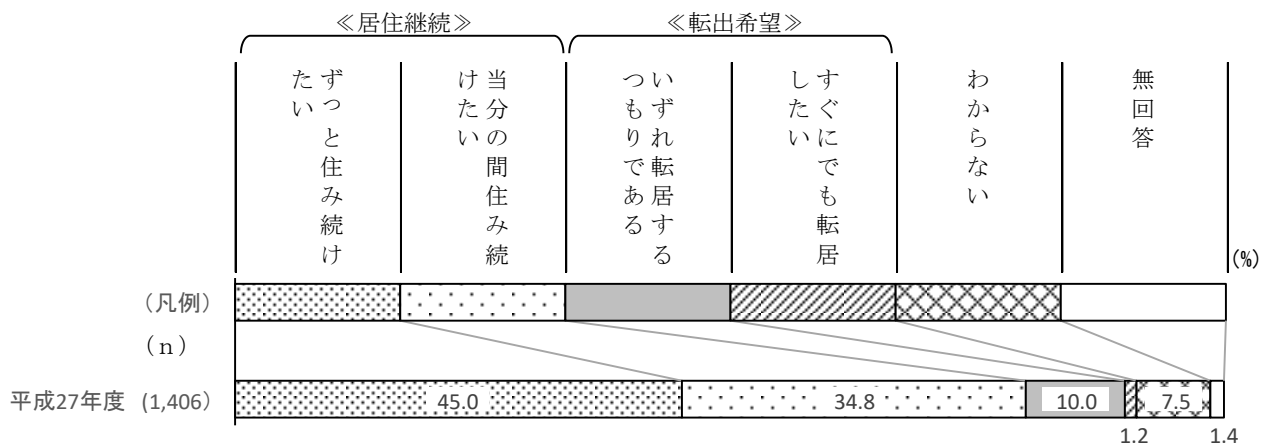
市への居住継続意識としては、「ずっと住み続けたい」が 39.3%で最も高く、「当分の間住み続けたい」が 38.0%で、両者を合わせた《居住継続》は 77.3%となり、4分の3以上が居住継続意識を持っている。一方、「いずれは、市外に住みたい」が 12.7%、「すぐにでも市外に移りたい」が 1.6%で、合わせた《転出希望》は 14.3%となる。「わからない」は 6.9%である。

《時系列比較》

前回(平成27年度)の調査では選択肢の表現が異なるため、参考としてその結果を以下に示す。

前回は、《居住継続》は 79.8%で、今回の結果と比較するとほぼ同様であるが、わずかにその割合が減ったともいえる。

<参考：前回の同様の設問の結果>



《性別・年齢別・居住地域別》

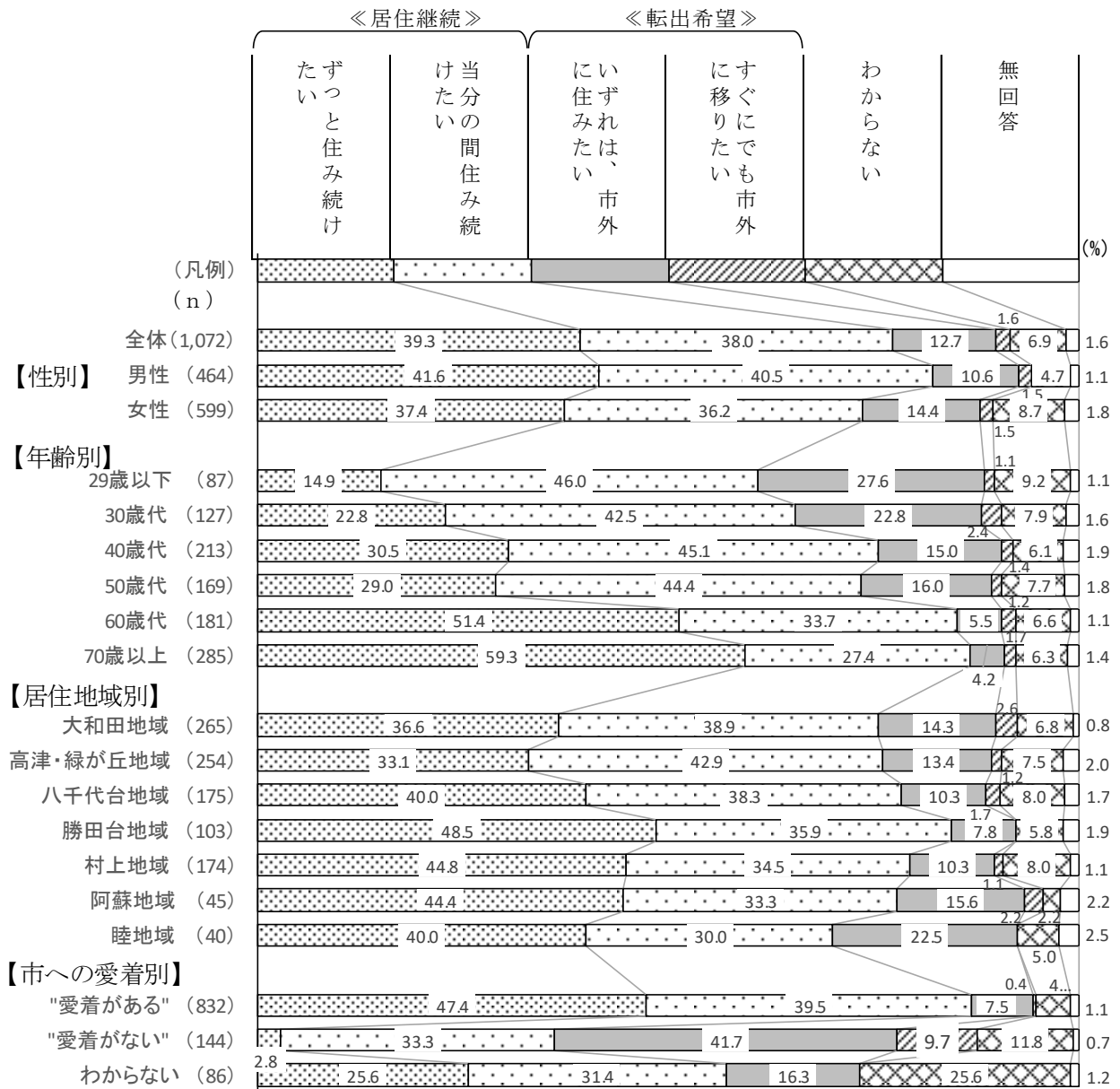
性別では、「わからない」の割合は女性が男性よりも高く、その影響も含め、《居住継続》が男性よりもやや低くなっている。

年齢別では、年齢層が上がるほど《居住継続》の割合が高くなる傾向が顕著に表れており、《居住継続》は29歳以下では60.9%であるが、70歳以上では86.7%となっている。

居住地域別では、《居住継続》が最も高いのは勝田台地域で84.4%となっている。

市への愛着心との関係を見ると、《居住継続》が、愛着がある場合は86.9%と高いのに対し、愛着がない場合は36%程度にとどまっており、愛着心と居住継続意識の間には強い相関があることを示している。

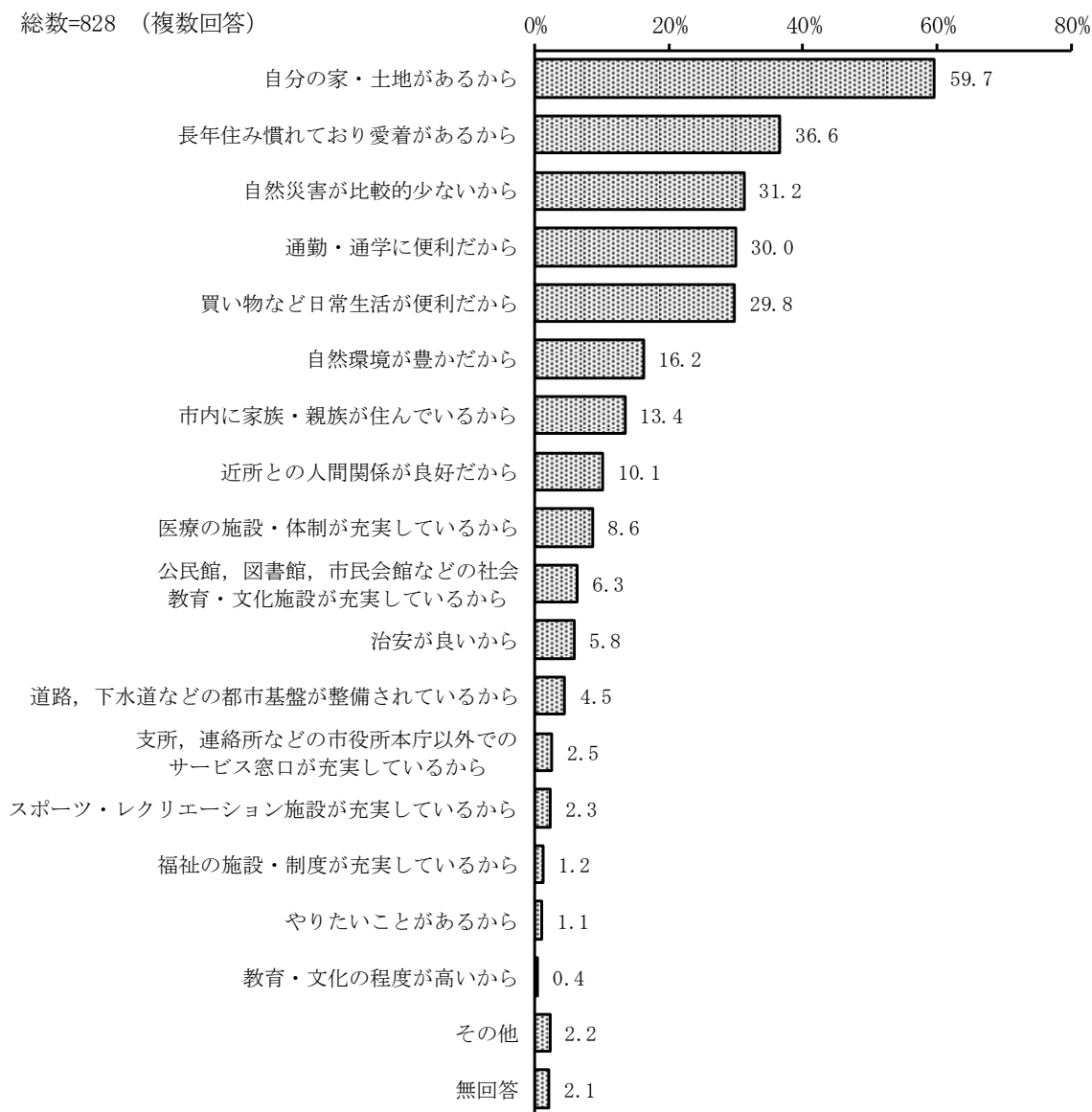
＜性別・年齢別・居住地域・市への愛着心別＞



(3-1) 居住継続の理由

(問4で「1 ずっと住み続けたい」「2 当分の間住み続けたい」とお答えの方にお尋ねします)

問4-1 住み続けたいと思う理由を次の中から選んでください。(〇は3つまで)



前問で、居住継続意識ありと分類された回答者に対し、その理由を尋ねた結果、「自分の家・土地があるから」が59.7%で最も高く、「長年住み慣れており愛着があるから」が36.6%、「自然災害が比較的少ないから」が31.2%、「通勤・通学に便利だから」が30.0%、「買い物など日常生活が便利だから」が29.8%で続いている。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、1位の「自分の家・土地があるから」と2位の「長年住み慣れており愛着があるから」の順位は同じであるが、3位以下では、特に女性において、「買い物など日常生活が便利だから」が3位であること、男性では「自然災害が比較的少ないから」が3位であるなどの順位の相違が生じている。

年齢別では、29歳以下では「通勤・通学に便利だから」が1位であり、30～50歳代でも「通勤・通学に便利だから」が2位と、現役世代では通勤通学の便の良さを居住継続の理由とする割合が高いことが特徴である。

居住地域別では、阿蘇地域以外では「自分の家・土地があるから」が1位である点は共通であるが、2位は、高津・緑が丘地域及び村上地域で「買い物など日常生活が便利だから」となっており、大規模な商業集積の存在が影響していると考えられる。なお、阿蘇地域では「長年住み慣れており愛着があるから」が1位となっている。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

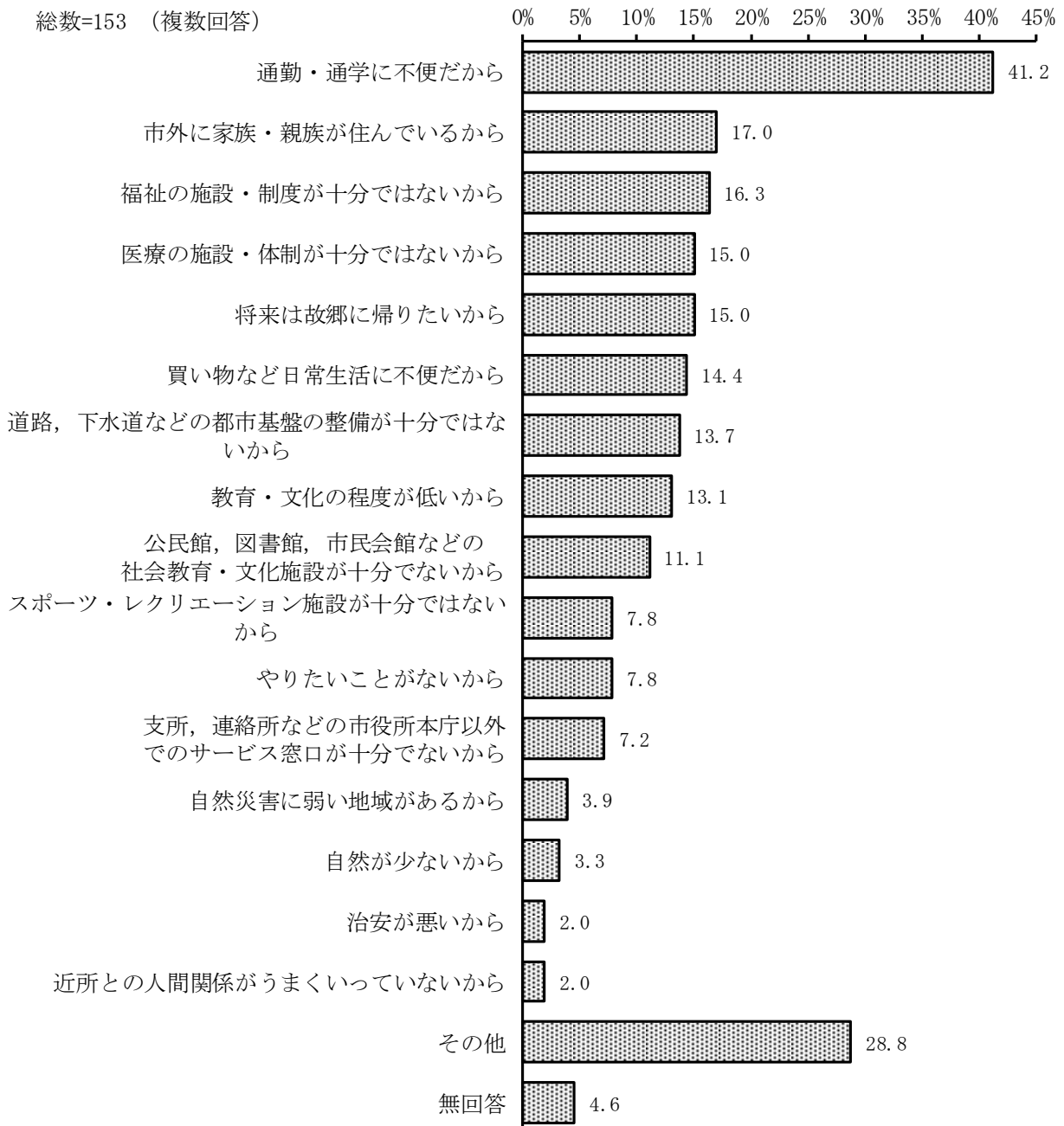
	全体	理由																				
		通勤・通学に便利だから	て福社 の施設・ 制度が充 実し	て医療 の施設・ 体制が充 実し	が充実 している から	公民館、 図書館、 市民会館 などの社 会教育・ 文化施設	ンスポ ーツ・レ クリエー ション	盤が整 備され ている から	自然環 境が豊 かだか ら	あるか ら	長年住 み慣れ ており 愛着が あるか ら	自分 の家・ 土地が あるか ら	ら教育 ・文化 の程度 が高い から	だ買 い物な ど日常 生活が 便利だ から	治安が 良いか ら	近所 との人 間関係 が良好 だ	ら自然 災害が 比較的 少ない から	が本所 以外で のサー ビス窓 口	支所、 連絡所 などの 市役所	やりた いこと がある から	市内に 家族・ 親族が 住んで いるか ら	
性別	828 100.0	248 30.0	10 1.2	71 8.6	52 6.3	19 2.3	37 4.5	134 16.2	303 36.6	494 59.7	3 0.4	247 29.8	48 5.8	84 10.1	258 31.2	21 2.5	9 1.1	111 13.4				
	381 100.0	125 32.8	4 1.0	38 10.0	21 5.5	12 3.1	21 5.5	62 16.3	132 34.6	219 57.5	-	108 28.3	21 5.1	37 9.7	128 33.6	9 2.4	5 1.3	46 12.1				
	441 100.0	122 27.7	6 1.4	33 7.5	30 6.8	7 1.6	16 3.6	72 16.3	166 37.6	272 61.7	3 0.7	138 31.3	27 6.1	46 10.4	129 29.3	11 2.5	4 0.9	64 14.5				
年齢	53 100.0	32 60.4	1 1.9	-	4 7.5	2 3.8	2 3.8	9 17.5	18 34.0	20 37.7	-	14 26.4	8 15.1	4 7.5	9 17.0	1 1.9	1 1.9	11 20.8				
	83 100.0	37 44.6	1 1.2	4 4.8	2 2.4	2 2.4	3 3.6	9 10.8	25 30.1	48 57.8	-	27 32.5	6 7.2	11 13.3	17 20.5	-	2 2.4	13 15.7				
	161 100.0	65 40.4	1 0.6	7 4.3	13 8.1	5 3.1	1 0.6	18 11.2	41 25.5	109 67.7	2 1.2	46 28.6	6 3.7	15 9.3	42 26.1	1 0.6	2 1.2	31 19.3				
	124 100.0	47 37.9	-	7 5.6	7 5.6	4 3.2	1 0.8	22 17.7	38 30.6	77 62.1	-	41 33.1	4 3.2	10 8.1	29 23.4	5 4.0	1 0.8	20 16.1				
	154 100.0	32 20.8	1 0.6	13 8.4	9 5.8	2 1.3	4 2.6	30 19.5	72 46.8	100 64.9	1 0.6	53 34.4	7 4.5	12 7.8	58 37.7	-	-	17 11.0				
	247 100.0	34 13.8	6 2.4	40 16.2	16 6.5	6 2.4	26 10.5	51 20.6	105 42.5	137 55.5	-	65 26.3	16 6.5	31 12.6	102 41.3	14 5.7	3 1.2	18 7.3				
居住地	200 100.0	61 30.5	3 1.5	15 7.5	20 10.0	6 3.0	4 2.0	41 20.5	68 34.0	112 56.0	1 0.5	61 30.5	15 7.5	21 10.5	59 29.5	2 1.0	2 1.0	29 14.5				
	193 100.0	61 31.6	3 1.6	11 5.7	8 4.1	3 1.6	6 3.1	24 12.4	62 32.1	124 64.2	1 0.5	78 40.4	11 5.7	14 7.3	55 28.5	6 3.1	1 0.5	22 11.4				
	137 100.0	46 33.6	3 2.2	14 10.2	4 2.9	4 2.9	11 8.0	13 9.5	51 37.2	84 61.3	-	34 24.8	9 6.6	13 9.5	44 32.1	4 2.9	1 0.7	15 10.9				
	87 100.0	24 27.6	-	11 12.6	3 3.4	3 3.4	9 10.3	12 13.8	37 42.5	54 62.1	-	16 18.4	1 1.1	15 17.2	32 36.8	3 3.4	1 1.1	9 10.3				
	138 100.0	43 31.2	1 0.7	11 8.0	13 9.4	3 2.2	6 4.3	26 18.8	47 34.1	74 53.6	1 0.7	50 36.2	6 4.3	12 8.7	41 29.7	3 2.2	3 2.2	22 15.9				
	35 100.0	7 20.0	-	9 25.7	3 8.6	-	-	12 34.3	21 60.0	18 51.4	-	3 8.6	3 8.6	4 11.4	14 40.0	2 5.7	-	5 14.3				
	28 100.0	3 10.7	-	-	-	-	1 3.6	6 21.4	12 42.9	24 85.7	-	3 10.7	1 3.6	3 10.7	11 39.3	1 3.6	1 3.6	8 28.6				

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 (属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)
 注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。

(3-2) 転出希望の理由

(問4で「3 いずれは、市外に住みたい」「4 すぐにでも市外に移りたい」とお答えの方にお尋ねします)

問4-2 転出したいと思う理由は何ですか。(〇は3つまで)



前々問で転出希望と分類された回答者に対し、その理由を複数回答で尋ねた結果、「通勤・通学に不便だから」が41.2%と群を抜いて1位となった。2位以下は、「市外に家族・親族が住んでいるから」が17.0%、「福祉の施設・制度が十分ではないから」が16.3%、「医療の施設・体制が十分ではないから」が15.0%で続く。

《性別・年齢別・居住地域別》

男女ともに、「通勤・通学に不便だから」が1位、「その他」が2位なのは共通であるが、3位以下の順位は大きく異なる。男性では、「都市基盤の整備が十分ではないから」が3位であり、女性では「市外に家族・親族が住んでいるから」が3位となっている。

年齢別では、30歳代では「その他」が1位であり、40歳代では「都市基盤の整備が十分ではないから」が2位、50歳代では「医療の施設・体制が十分ではないから」が2位などといった相違がみられる。

居住地域別では、「その他」が2位となる地区が多く、八千代台地域では、「通勤・通学に不便だから」と並んで「市外に家族・親族が住んでいるから」が1位となっている。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

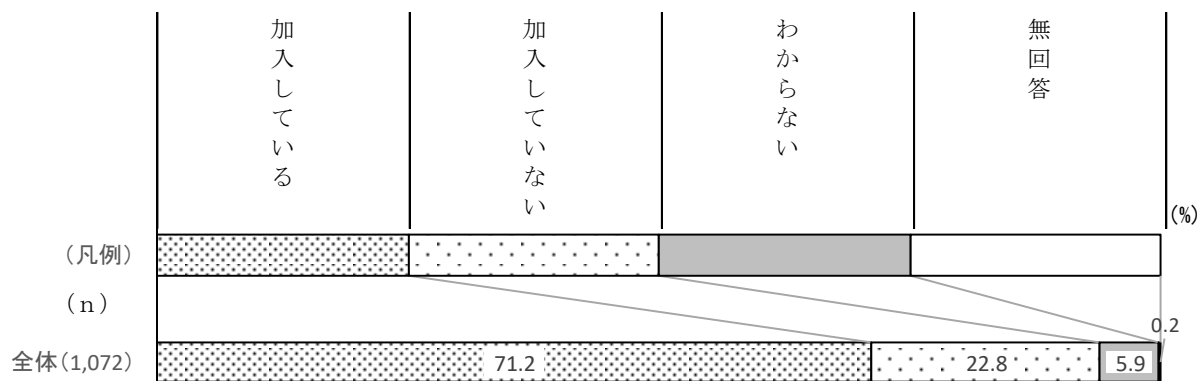
		通勤・通学に不便だから 福祉の施設・制度が十分ではないから 医療の施設・体制が十分ではないから 施設が十分でないから 公民館、図書館、市民会館などの社会教育・文化施設が十分でないから ショッピング・レクリエーション施設が十分でないから いから 道路の整備が十分ではないから 自然が少ないから から 教育・文化の程度が低いから 買い物など日常生活に不便だから 治安が悪いから 近所との人間関係がうまくいっていないから ら 将来は故郷に帰りたいから 自然災害に弱い地域があるから 窓口が十分でないから 支所、連絡所などの市役所以外でのサービス やりたくないから 市外に家族・親族が住んでいるから																
		回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数
性別	全体	153	63	25	23	17	12	21	5	20	22	3	3	23	6	11	12	26
		100.0	41.2	16.3	15.0	11.1	7.8	13.7	3.3	13.1	14.4	2.0	2.0	15.0	3.9	7.2	7.8	17.0
性別	男性	56	27	7	9	4	5	10	2	6	7	1	-	8	1	1	6	5
		100.0	48.2	12.5	16.1	7.1	8.9	17.9	3.6	10.7	12.5	1.8	-	14.3	1.8	1.8	10.7	8.9
性別	女性	95	36	18	14	13	7	11	3	12	15	2	3	14	5	10	6	20
		100.0	37.9	18.9	14.7	13.7	7.4	11.6	3.2	12.6	15.8	2.1	3.2	14.7	5.3	10.5	6.3	21.1
年齢	29歳以下	25	15	-	1	1	2	-	1	1	3	-	-	1	-	-	7	2
		100.0	60.0	-	4.0	4.0	8.0	-	4.0	4.0	12.0	-	-	4.0	-	-	28.0	8.0
	30歳代	32	10	5	4	2	4	3	-	4	5	-	1	6	1	2	1	8
		100.0	31.3	15.6	12.5	6.3	12.5	9.4	-	12.5	15.6	-	3.1	18.8	3.1	6.3	3.1	25.0
	40歳代	35	19	4	4	1	1	10	4	7	4	1	-	6	2	3	3	3
		100.0	54.3	11.4	11.4	2.9	2.9	28.6	11.4	20.0	11.4	2.9	-	17.1	5.7	8.6	8.6	8.6
	50歳代	29	13	6	8	6	4	4	-	2	3	1	2	5	1	6	1	4
	100.0	44.8	20.7	27.6	20.7	13.8	13.8	-	6.9	10.3	3.4	6.9	17.2	3.4	20.7	3.4	13.8	
年齢	60歳代	13	4	6	2	4	1	2	-	1	2	1	-	2	-	-	-	5
		100.0	30.8	46.2	15.4	30.8	7.7	15.4	-	7.7	15.4	7.7	-	15.4	-	-	-	38.5
	70歳以上	16	2	4	4	3	-	2	-	3	5	-	-	2	2	-	-	2
	100.0	12.5	25.0	25.0	18.8	-	12.5	-	18.8	31.3	-	-	12.5	12.5	-	-	-	12.5
居住地	大和田地域	45	22	5	6	2	3	7	-	6	6	-	1	5	3	3	4	7
		100.0	48.9	11.1	13.3	4.4	6.7	15.6	-	13.3	13.3	-	2.2	11.1	6.7	6.7	8.9	15.6
	高津・緑が丘地域	37	14	6	7	6	3	6	3	2	5	1	1	5	1	4	2	5
		100.0	37.8	16.2	18.9	16.2	8.1	16.2	8.1	5.4	13.5	2.7	2.7	13.5	2.7	10.8	5.4	13.5
	八千代台地域	21	7	4	5	5	3	1	-	1	3	1	-	6	2	-	2	7
		100.0	33.3	19.0	23.8	23.8	14.3	4.8	-	4.8	14.3	4.8	-	28.6	9.5	-	9.5	33.3
	勝田台地域	8	2	3	-	1	1	1	-	3	2	-	-	1	-	2	1	1
	100.0	25.0	37.5	-	12.5	12.5	12.5	-	37.5	25.0	-	-	12.5	-	25.0	12.5	12.5	
村上地域	20	8	6	2	2	1	-	1	3	2	1	-	4	-	-	2	3	
	100.0	40.0	30.0	10.0	10.0	5.0	-	5.0	15.0	10.0	5.0	-	20.0	-	-	10.0	15.0	
阿蘇地域	8	2	-	-	-	-	-	1	-	1	2	-	-	1	-	1	1	1
	100.0	25.0	-	-	-	-	-	12.5	-	12.5	25.0	-	-	12.5	-	12.5	12.5	12.5
睦地域	9	6	1	3	1	-	5	1	2	2	-	-	-	-	1	-	-	
	100.0	66.7	11.1	33.3	11.1	-	55.6	11.1	22.2	22.2	-	-	-	-	11.1	-	-	

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 (属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)
 注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。
 (「その他」の割合が2番目に高い場合もある)

3 「地域との関わり合い」について

(1) 自治会への加入状況

問5 自治会に加入していますか。(○は1つ)



自治会への加入状況は、「加入している」が71.2%で、「加入していない」が22.8%、「わからない」が5.9%となっている。

《時系列比較》

前回（平成27年度）調査での同じ設問では、「加入している」が70.6%であり、ほぼ同様の結果となっている。

《性別・年齢別・住居形態・居住地域別》

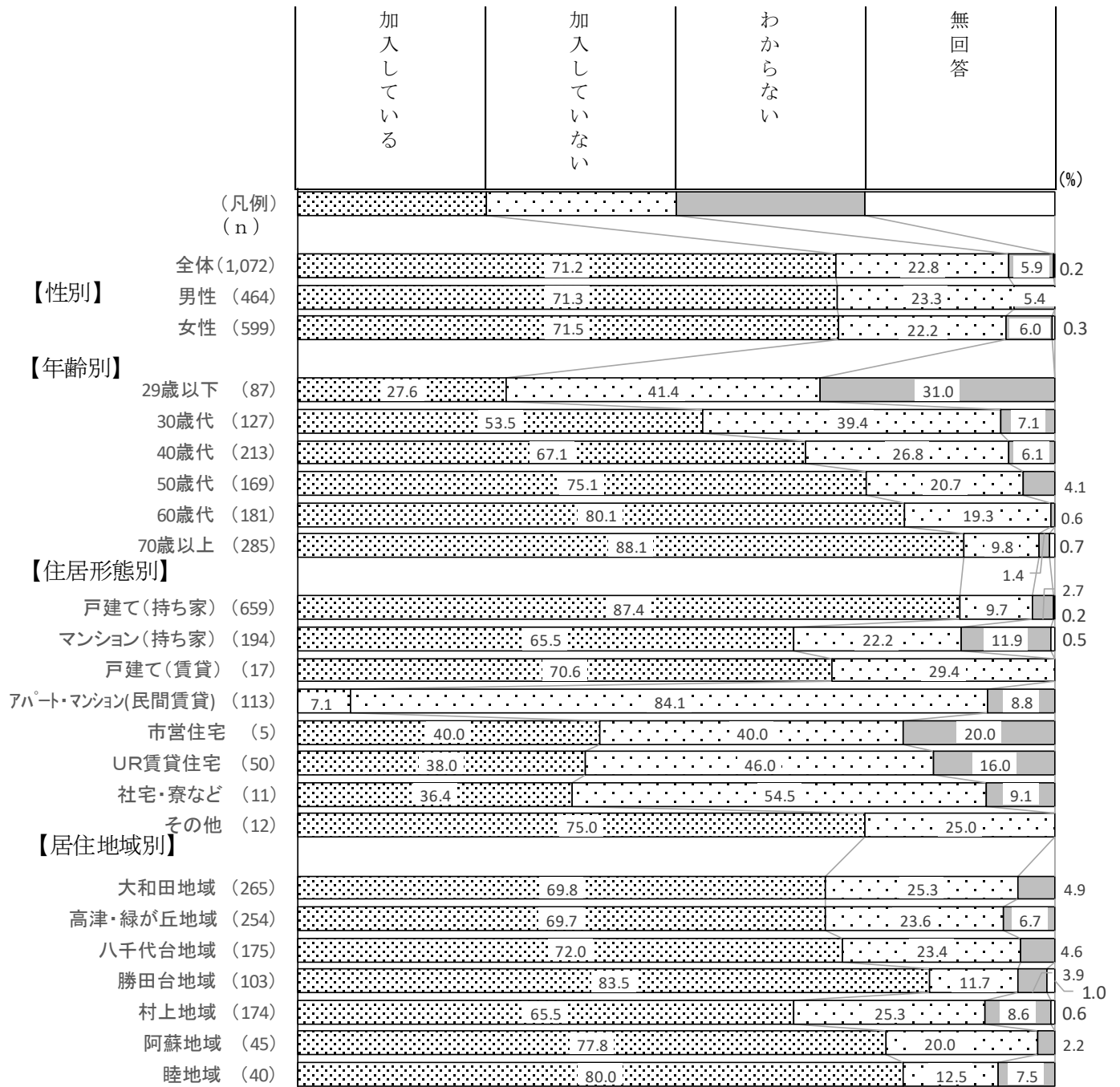
男女ではほぼ同様の結果となっている。

年齢別では、年齢層が上がるほど「加入している」の割合が高まる傾向が顕著であり、その値は、29歳以下では27.6%であるのに対し、70歳以上では88.1%と、3倍以上の開きがある。

住居形態別にみると、戸建て（持ち家）では87.4%と大半が「加入している」のに対し、アパート・マンション（賃貸）では7.1%と大きな相違がある。マンションでも持ち家の場合は65.5%が「加入している」であり、戸建てか持ち家である場合に「加入している」割合が高いことがわかる。

居住地域別では、勝田台地域で「加入している」割合が83.5%と最も高く、逆に村上地域では65.5%と最も低い。上記住居形態の地域による構成の相違が反映されているものとみられる。

<性別・年齢別・住居形態別・居住地域別>



(1-1) 自治会に加入しない理由

(問5で「2 加入していない」とお答えの方にお伺いします)

問5-1 自治会に加入しない理由は何ですか。(〇は1つ)



前問で、自治会に「加入していない」と答えた回答者にその理由を尋ねたところ、「自分が住んでいるところに自治会がないから」が 21.3%で最も高く、「自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから」が 20.1%、「当番などを負担に感じるから」が 13.5%、「自治会の必要性を感じないから」が 9.0%の順となっている。

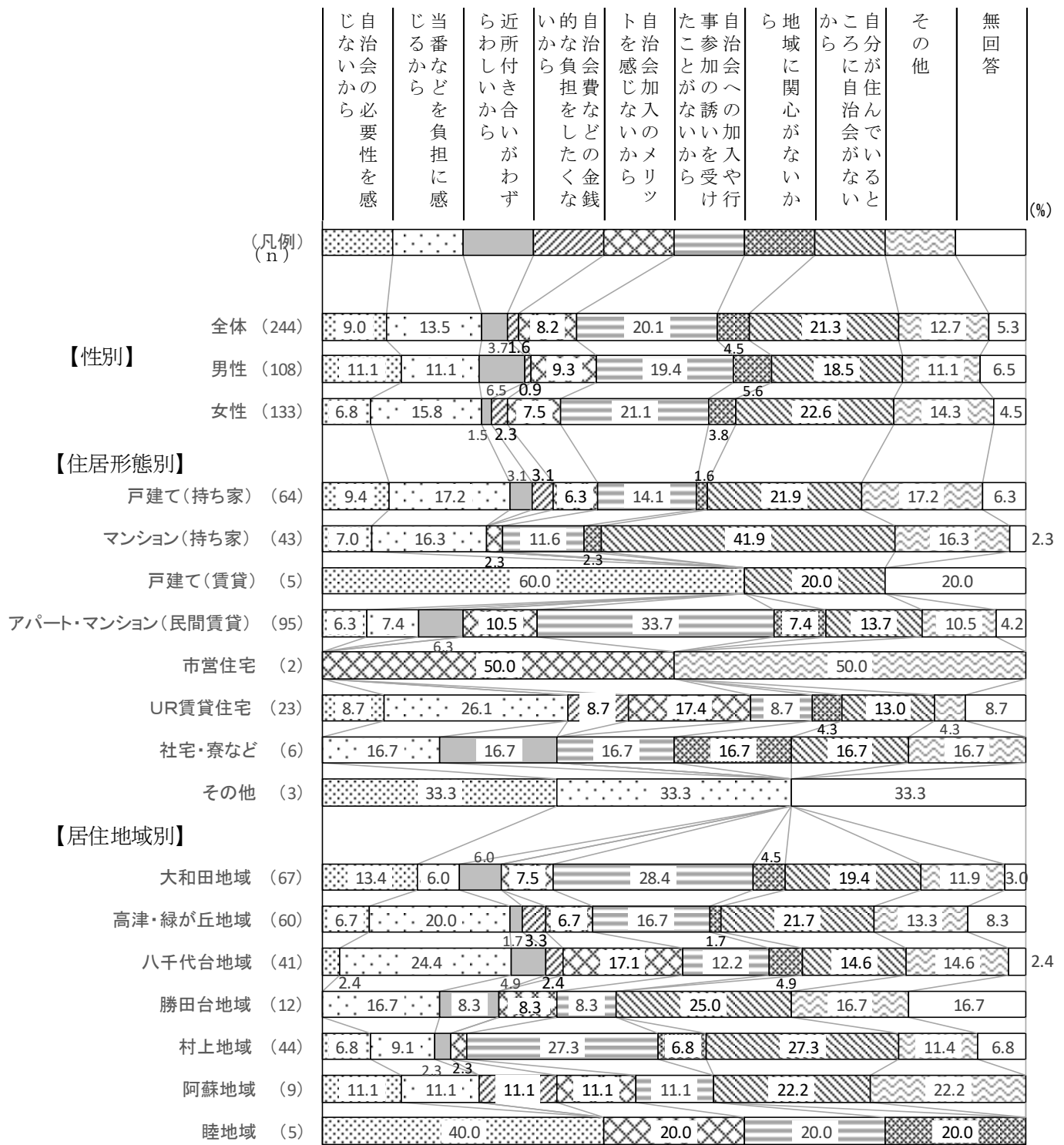
《性別・住居形態別・居住地域別》

性別にみると、男性の方が女性より高い割合の項目として、「自治会の必要性を感じないから」や「自治会加入のメリットがないから」、「近所付き合いがわずらわしいから」などがあげられる。逆に、女性の方が高い割合の項目としては、「当番などを負担に感じるから」、「自分が住んでいるところに自治会がないから」などがあげられる。

住居形態別では、特に「加入していない」割合が高いアパート・マンション（民間賃貸）において、「自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから」の割合が高いが目立つ。

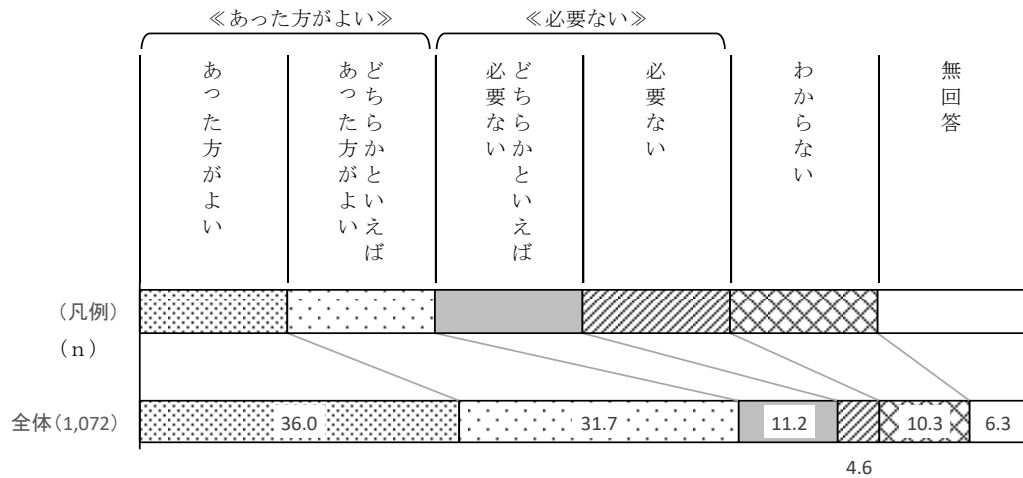
居住地域別では、八千代台地域や高津・緑が丘地域では「当番などを負担に感じる」の割合が比較的高く、大和田地域や村上地域では「自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから」の割合が比較的高い。また、村上地域では「自分が住んでいるところに自治会がないから」の割合が高く、やはり地域の住居形態の構成の相違が反映していると考えられる。

<性別・居住形態別・居住地域別>



(2) 自治会の必要性

問6 自治会はあった方がよいと思いますか。(○は1つ)



自治会の必要性については、「あった方がよい」が 36.0%、「どちらかといえばあった方がよい」が 31.7%で、両者を合わせた《あった方がよい》が 67.7%と、3分の2が必要性を認めている。一方、「どちらかといえば必要ない」が 11.2%、「必要ない」が 4.6%で、合わせた《必要ない》は 15.8%である。「わからない」は 10.3%となっている。

《時系列比較》

前回(平成27年度)調査では、《あった方がよい》は 72.1%であり、今回の調査と対比すると、自治会の必要性の認識割合は低下したとみられる。

《性別・年齢別・住居形態・居住地域別》

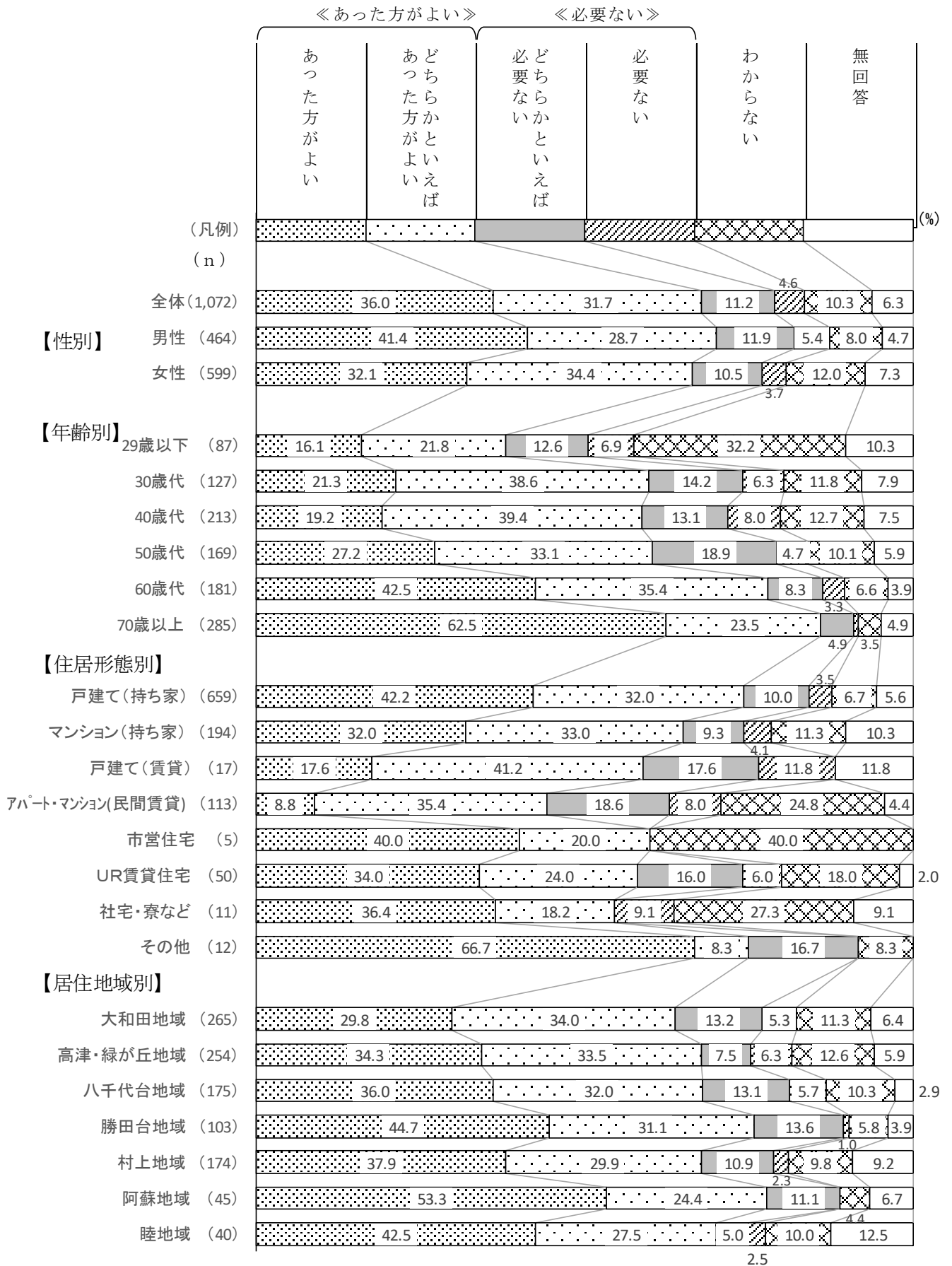
性別では、「わからない」と無回答の割合で女性の方が高いが、《あった方がよい》、《必要ない》については男女で大きな差異はみられない。

年齢別では、《あった方がよい》の割合は、年齢層が上がるほど高まる傾向が顕著である。なお、29歳以下では、「わからない」が3割を占めている。

住居形態別では、戸建て(持ち家)やマンション(持ち家)では《あった方がよい》の割合が比較的高く、アパート・マンション(民間賃貸)ではその値が 44.2%と目立って低くなっている。

居住地域別では、《あった方がよい》の割合が最も高いのは阿蘇地域の 77.7%で、次いで勝田台地域が 75.8%と高く、大和田地域が 63.8%で最も低くなっている。

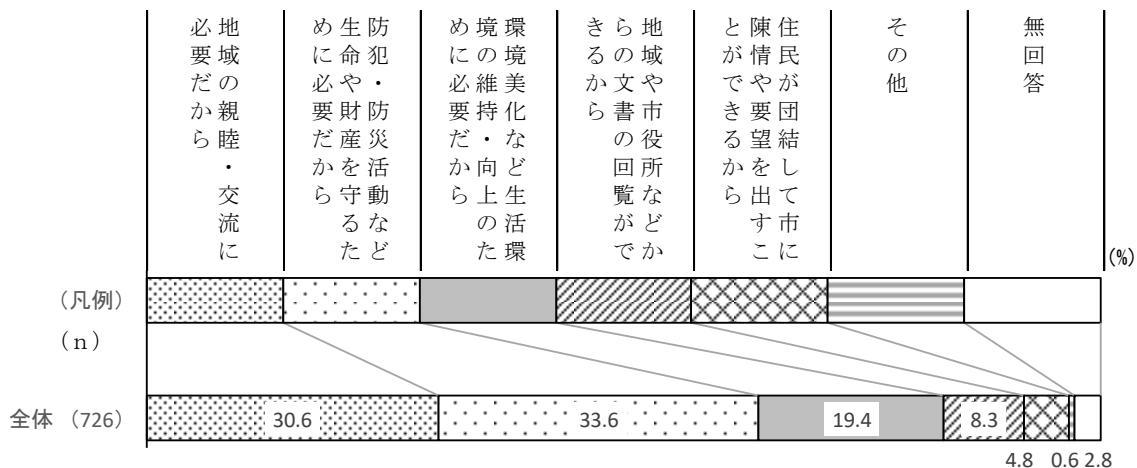
<性別・年齢別・住居形態別・居住地域別>



(2-1) 自治会が必要だと思う理由

(問6で「1 あった方がよい」「2 どちらかといえばあった方がよい」とお答えの方にお尋ねします)

問6-1 なぜ自治会はあった方がよいと思いますか。(〇は1つ)



前問で、自治会が「あった方がよい」（「どちらかといえば」を含む）に分類された回答者にその理由を尋ねたものである。理由としては、「防犯・防災活動などに必要だから」が33.6%で最も高く、「地域の親睦・交流に必要だから」が30.6%、「環境美化など生活環境の維持・向上に必要だから」が19.4%、「文書の回覧ができるから」が8.3%が続いている。この傾向は、前回（平成27年度）調査での同じ設問の結果とほぼ同様である。

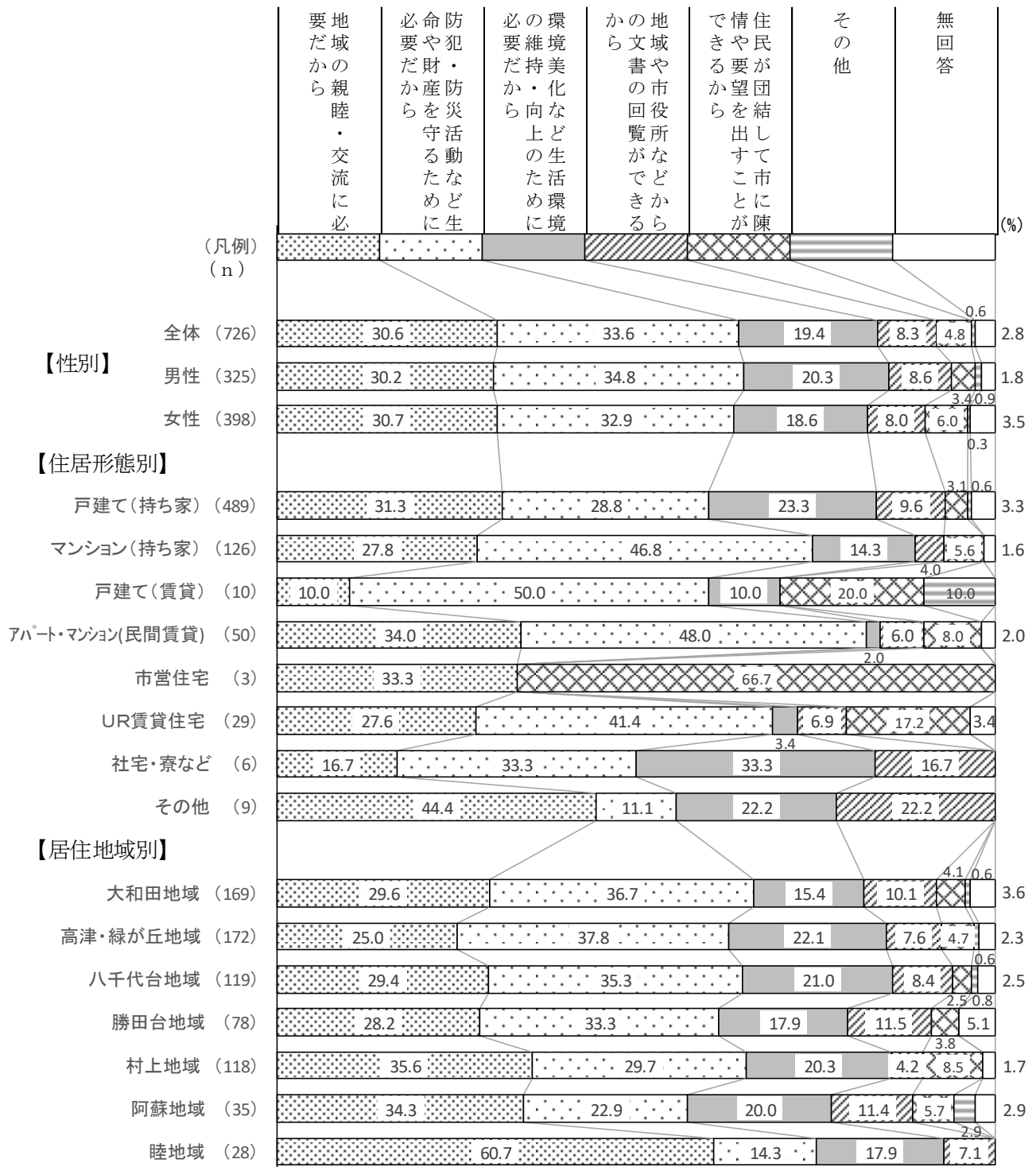
《性別・住居形態別・居住地域別》

性別では傾向の大きな相違はみられない。

住居形態別では、戸建て（持ち家）の場合は全体の構成に近いが、マンション（持ち家、賃貸）や戸建て（賃貸）では「防犯・防災活動などに必要だから」の割合が5割前後と相対的に高いなどの相違がみられる。

居住地域別では、阿蘇地域、睦地域で「防犯・防災活動などに必要だから」の割合が比較的低いことや、睦地域では「地域の親睦・交流に必要だから」が5割以上と高率を占めるといった特徴がみられる。

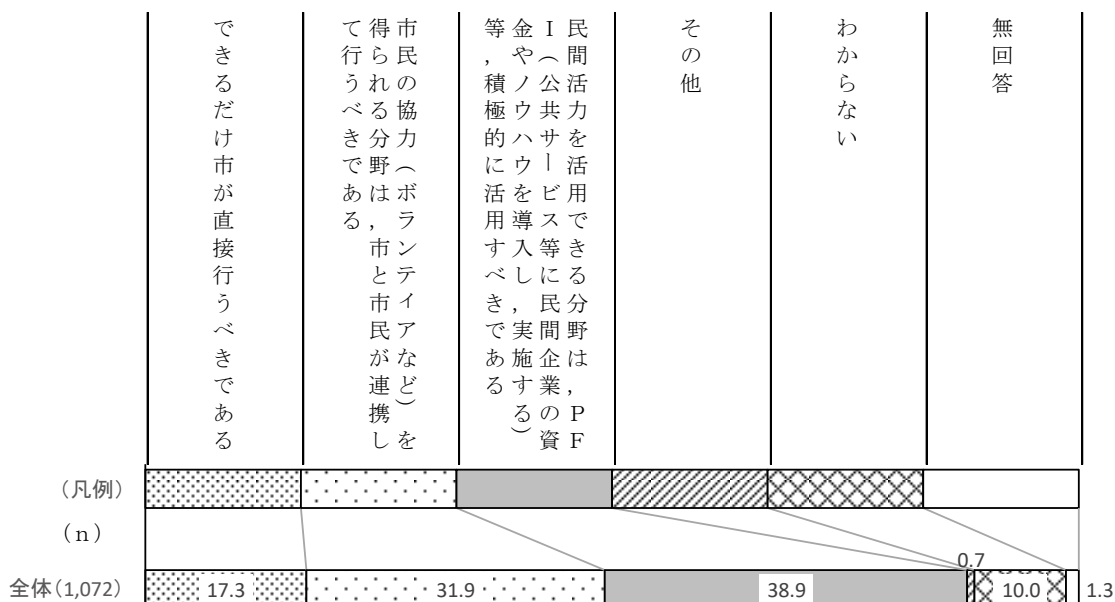
<性別・住居形態別・居住地域別>



4 「行政サービスの在り方」について

(1) 行政サービスの在り方

問7 八千代市が行政サービスを実施するのに、どのような形式がよいと思いますか。(〇は1つ)



行政サービスの実施に関しては、「民間活力を活用できる分野は、PFI等、積極的に活用すべき」が38.9%で最も高く、「市民の協力を得られる分野は、市と市民が連携して行うべき」が31.9%、「できるだけ市が直接行うべき」が17.3%、「わからない」が10.0%となっている。

なお、前回（平成27年度）調査でも同様の設問を行っているが、選択肢構成が異なり対等な比較ができないため、省略する。

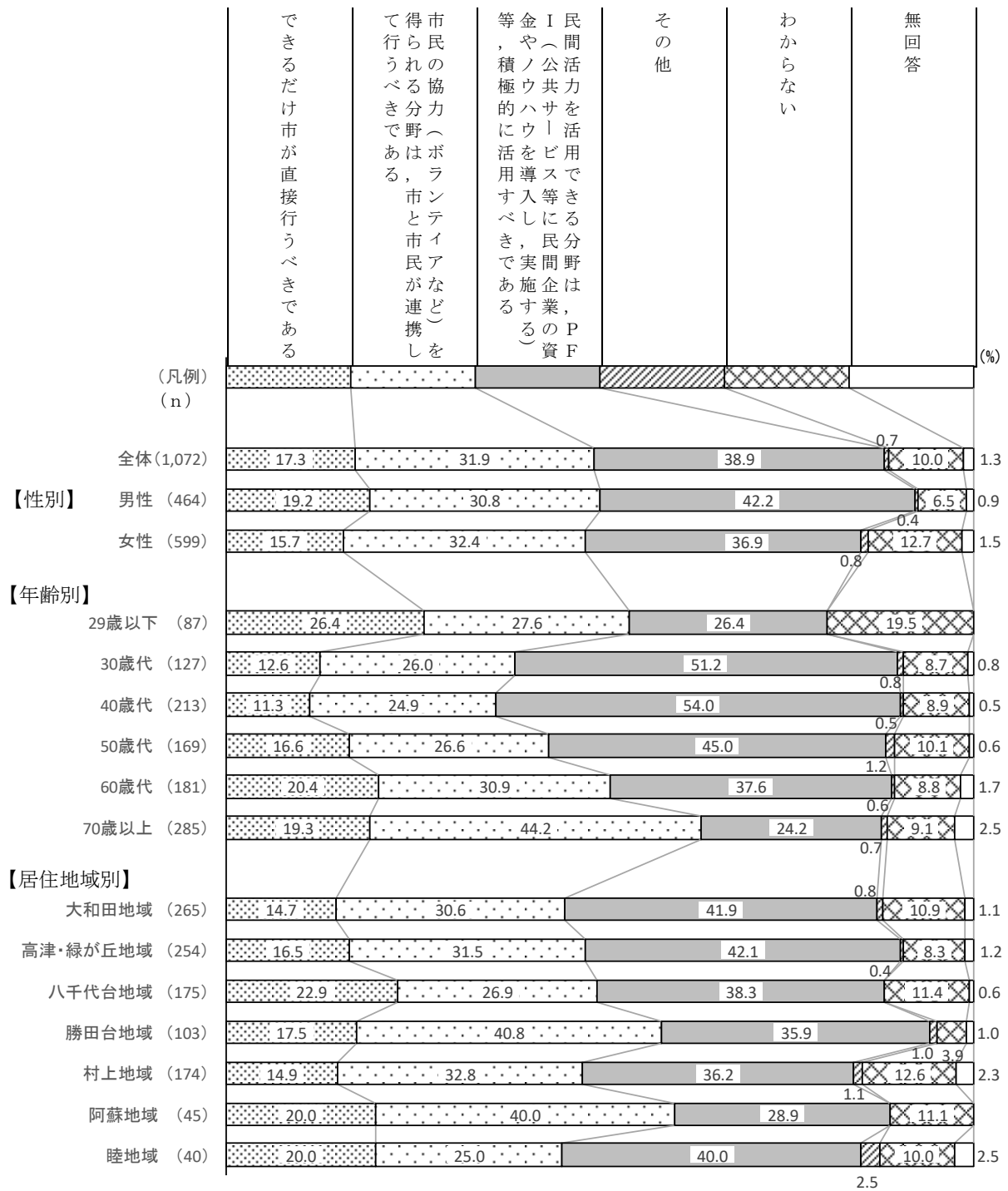
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男性で「民間活力を活用できる分野は、PFI等、積極的に活用すべき」の割合が女性よりやや高く、その分、女性は「わからない」の割合が高くなっている。

年齢別では、50歳以上の年齢層において、「民間活力を活用できる分野は、PFI等、積極的に活用すべき」の割合が低下し、逆に「市民の協力を得られる分野は、市と市民が連携して行うべき」の割合が高まる傾向が顕著である。また、年齢別で見たとき「できるだけ市が直接行うべき」の割合が最も高いのは、29歳以下となっている。

居住地域別では、「市民の協力を得られる分野は、市と市民が連携して行うべき」の割合が、勝田台地域、阿蘇地域で比較的高くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



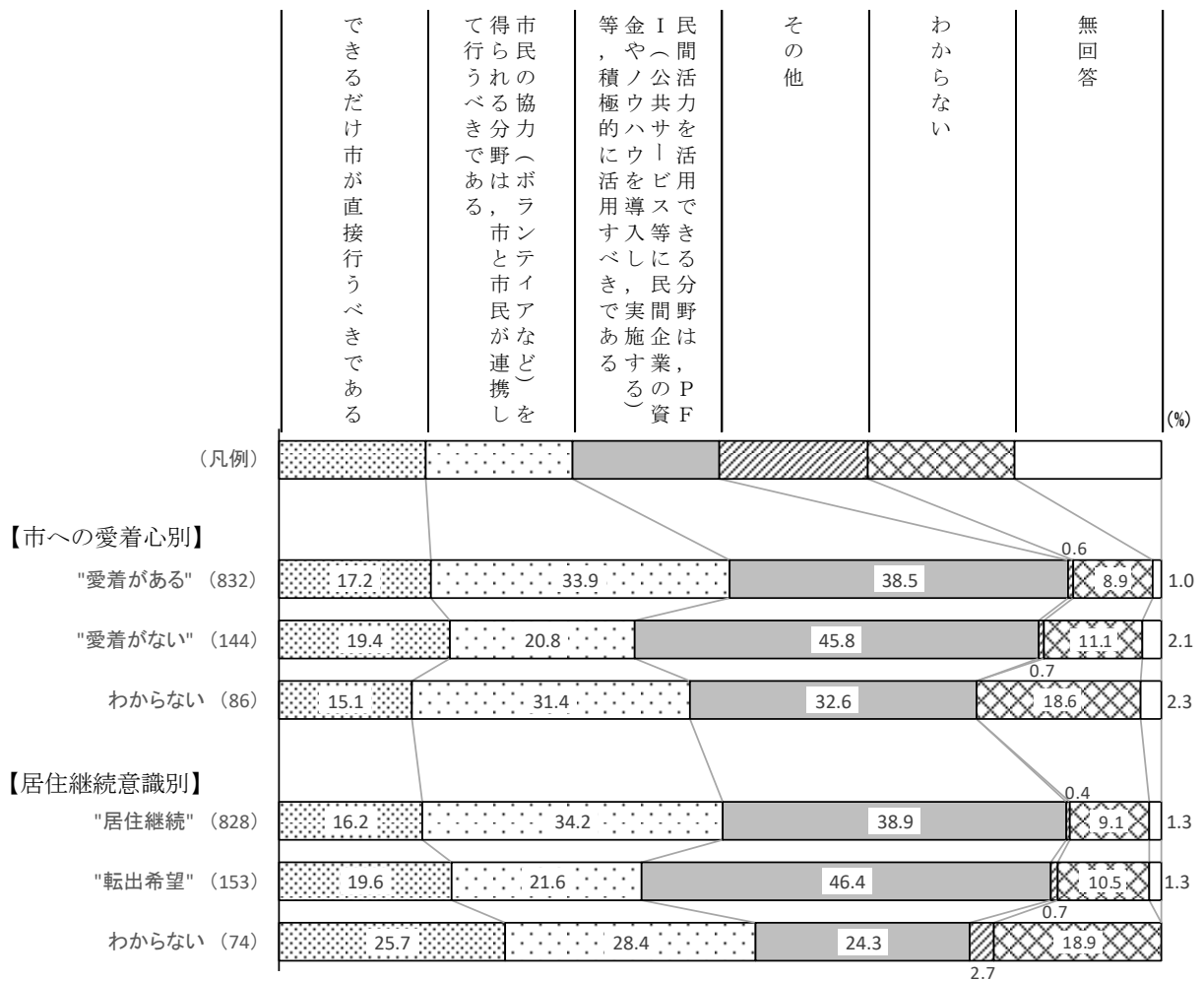
《市への愛着心・居住継続意識別》

市への愛着心との関係でみると、愛着があると分類された回答者では、愛着がないと回答者と比較して「市民の協力を得られる分野は、市と市民が連携して行うべき」の割合が高くなっている。

市内への居住継続意識との関係でみると、居住継続意識ありの場合で、やはり「市民の協力を得られる分野は、市と市民が連携して行うべき」の割合が目立って高い。

市への愛着や居住継続意識の高さが、「協働」意識と相関を有するものと考えられる。

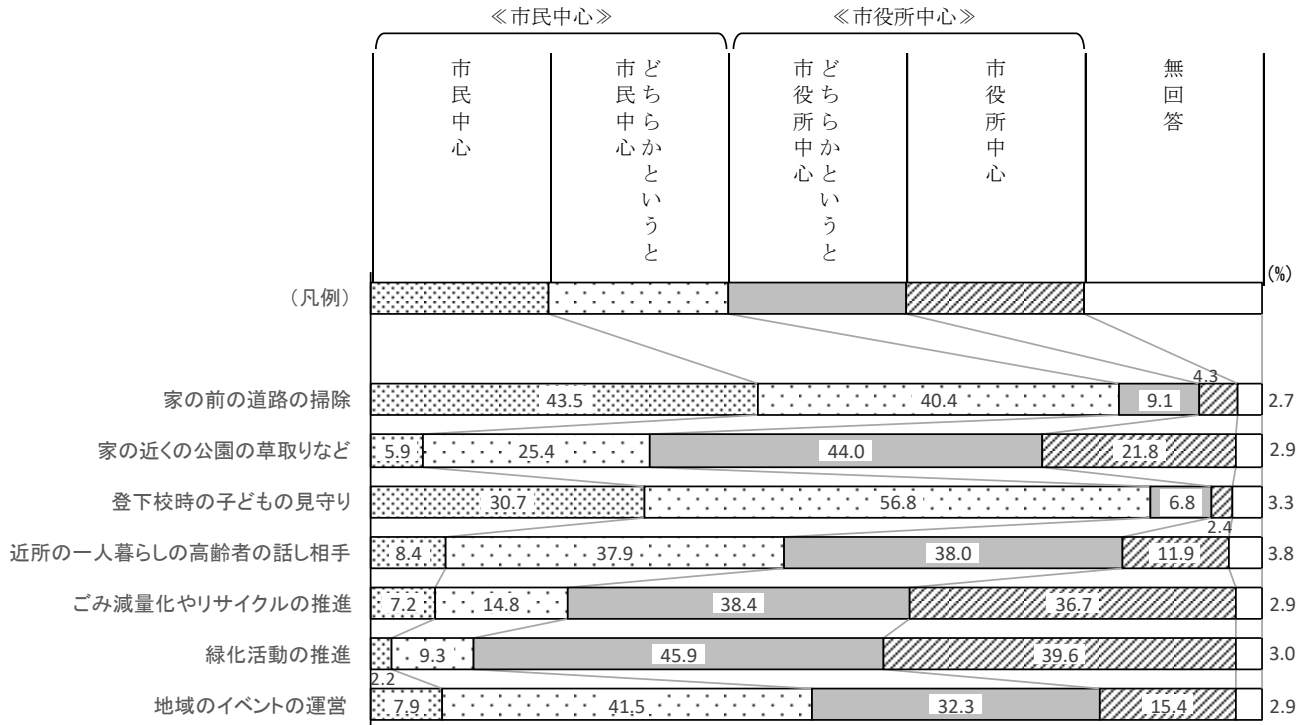
＜市への愛着心・居住継続意識別＞



(2) 市民と市役所の関係

問8 次のような仕事について、市民か市役所のどちらが中心になって行うべきだと思いますか。(〇は1つずつ)

(※「市民」には「市民」個人だけではなく、自治会などのコミュニティ組織を含みます。)



7種類のまちづくりに関する活動に関して、その中心主体が市民、市役所のどちらであるべきかを尋ねるものである。

「どちらかという」を含めて、《市民中心》と《市役所中心》に二分し、それぞれで回答割合の高い活動項目を列举すると、以下のようになる。

市民中心		市役所中心		
1位	登下校時の子どもの見守り	87.5%	緑化活動の推進	85.5%
2位	家の前の道路の掃除	83.9%	ごみ減量化やリサイクルの推進	75.1%
3位	地域のイベントの運営	49.4%	家の近くの公園の草取りなど	65.8%

なお、「近所の一人暮らしの高齢者の話し相手」は、「地域のイベントの運営」とともに、《市民中心》と《市役所中心》の割合が拮抗している。

◎家の前の道路の掃除

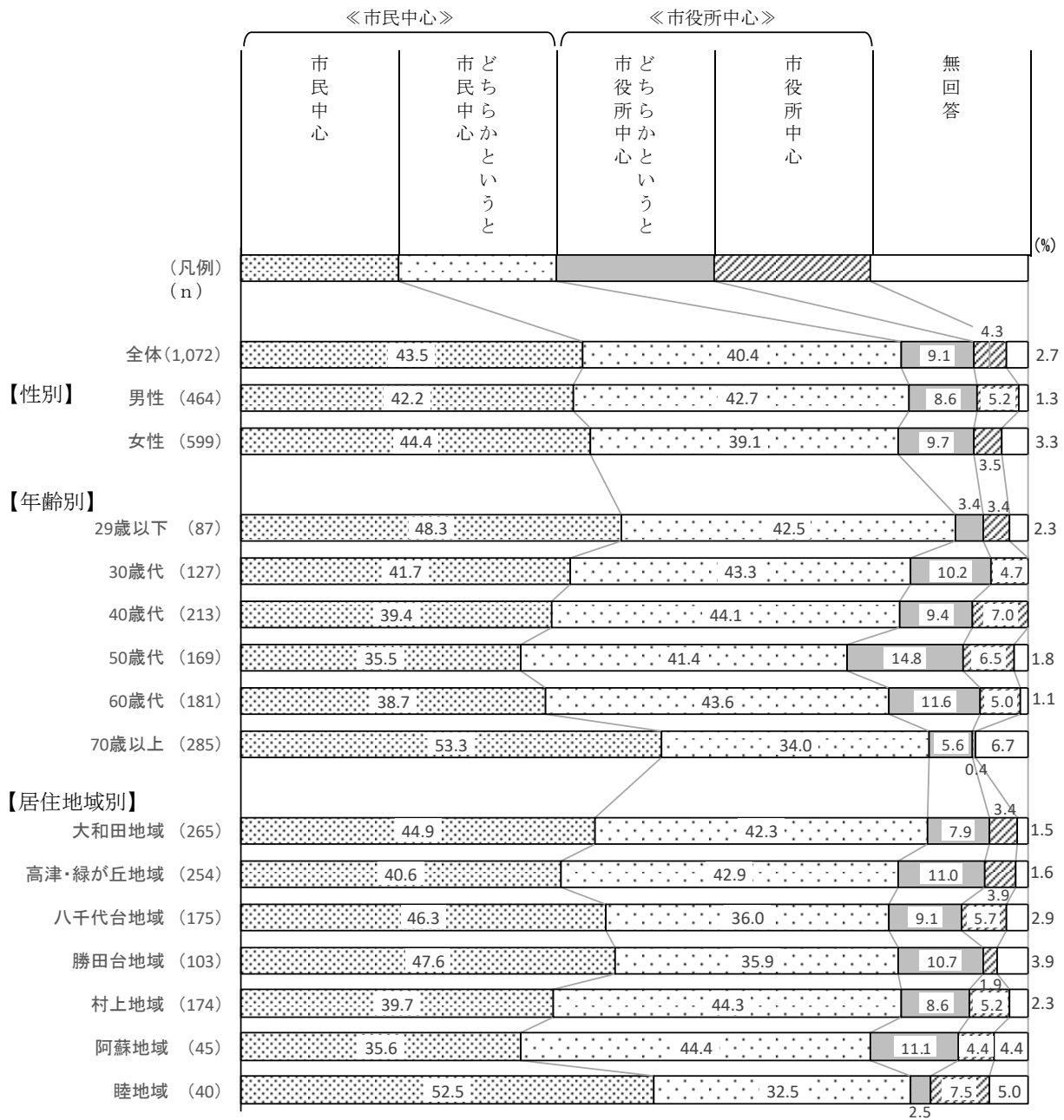
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では大きな相違がみられない。

年齢別では、50歳代で《市民中心》の割合が最も低くなり、それよりも高い年齢層、低い年齢層でその割合が高まるというV字型の分布である。

居住地域別では、大和田地域、睦地域等で《市民中心》の割合がやや高い。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

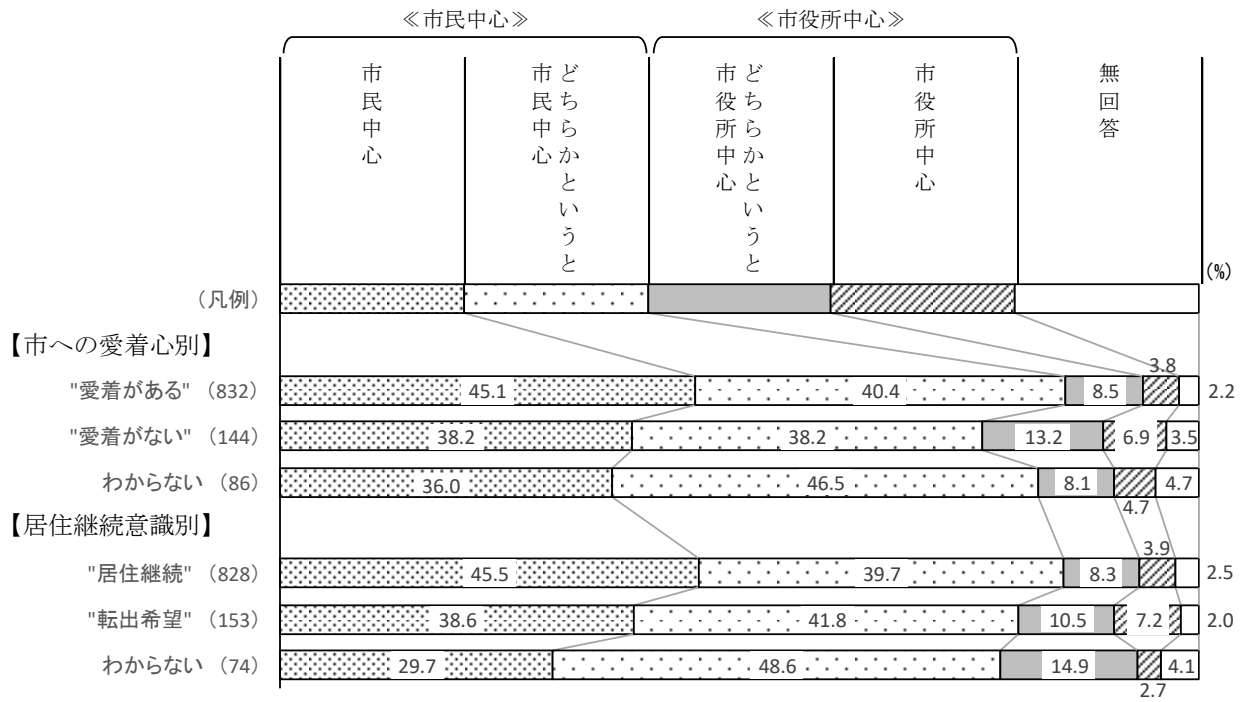


《市への愛着心・居住継続意識別》

市への愛着心があると分類された回答者では、《市民中心》の割合が相対的に高くなっている。

市内への居住継続意識ありと分類された回答者での《市民中心》の割合が、転出希望と分類された回答者の値よりもやや高くなっている。

＜市への愛着心・居住継続意識別＞



◎家の近くの公園の草取りなど

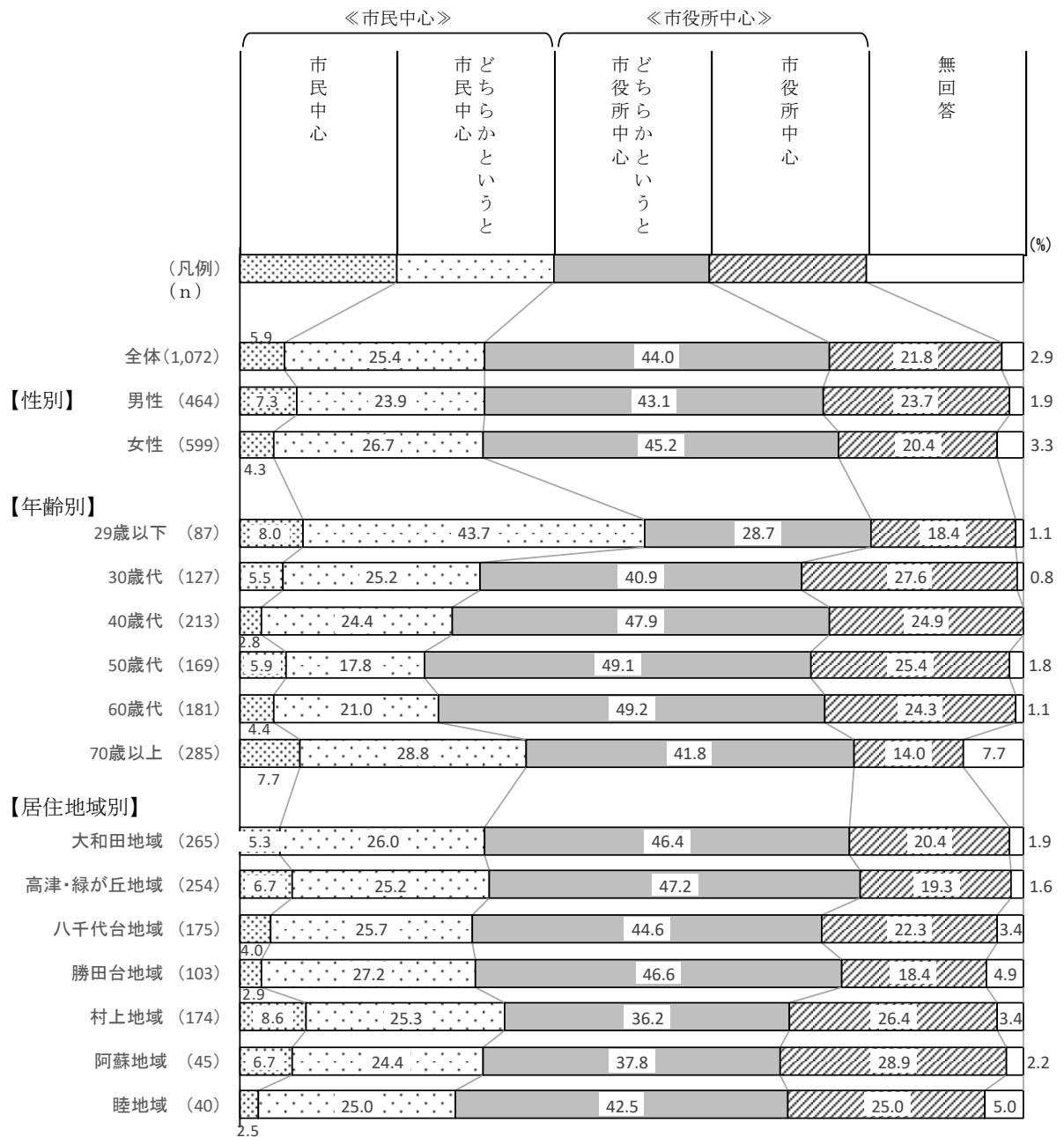
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では大きな差異はみられない。

年齢別では、29歳以下及び70歳以上で《市民中心》の割合が他の年齢層よりも高いのが特徴である。

居住地域別では、特に大きな相違はみられないが、村上地域で《市民中心》の割合が他地域よりもやや高い。

<性別・年齢別・居住地域別>

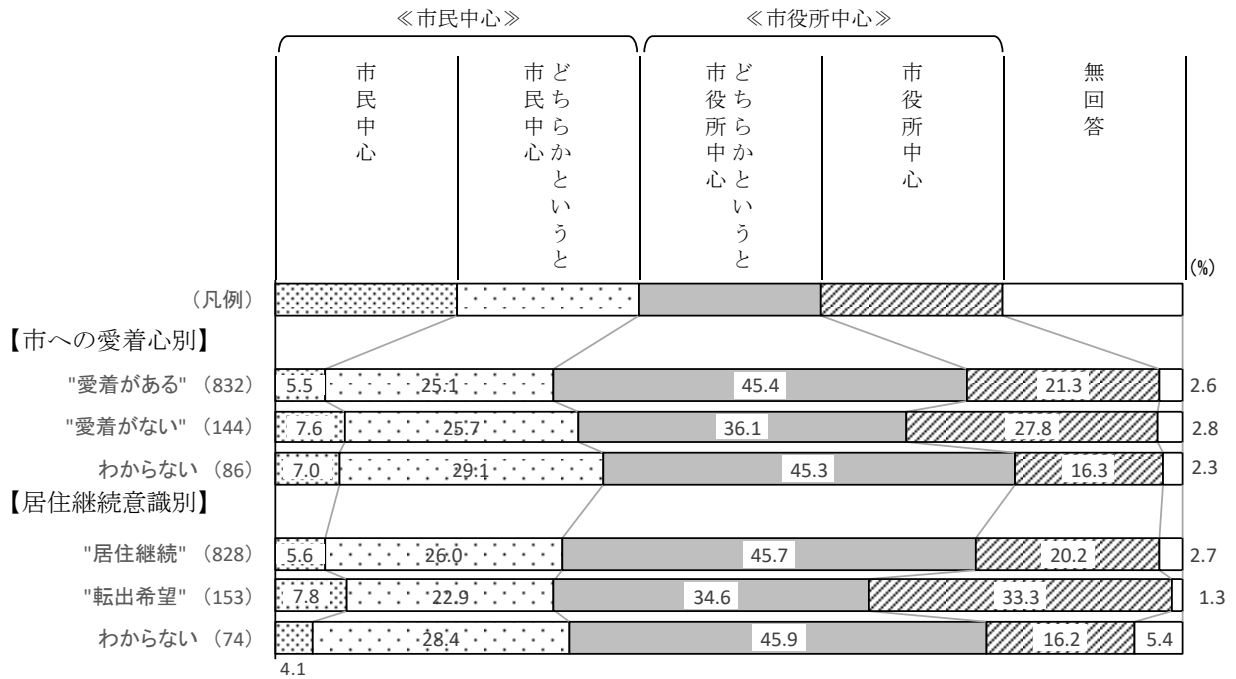


《市への愛着心・居住継続意識別》

市への愛着心があると分類された回答者の方が、ないと分類された回答者よりも、《市役所中心》の割合がわずかながら高い。

居住継続意識の有無別では、顕著な相違はみられない。

＜市への愛着心・居住継続意識別＞



◎登下校時の子どもの見守り

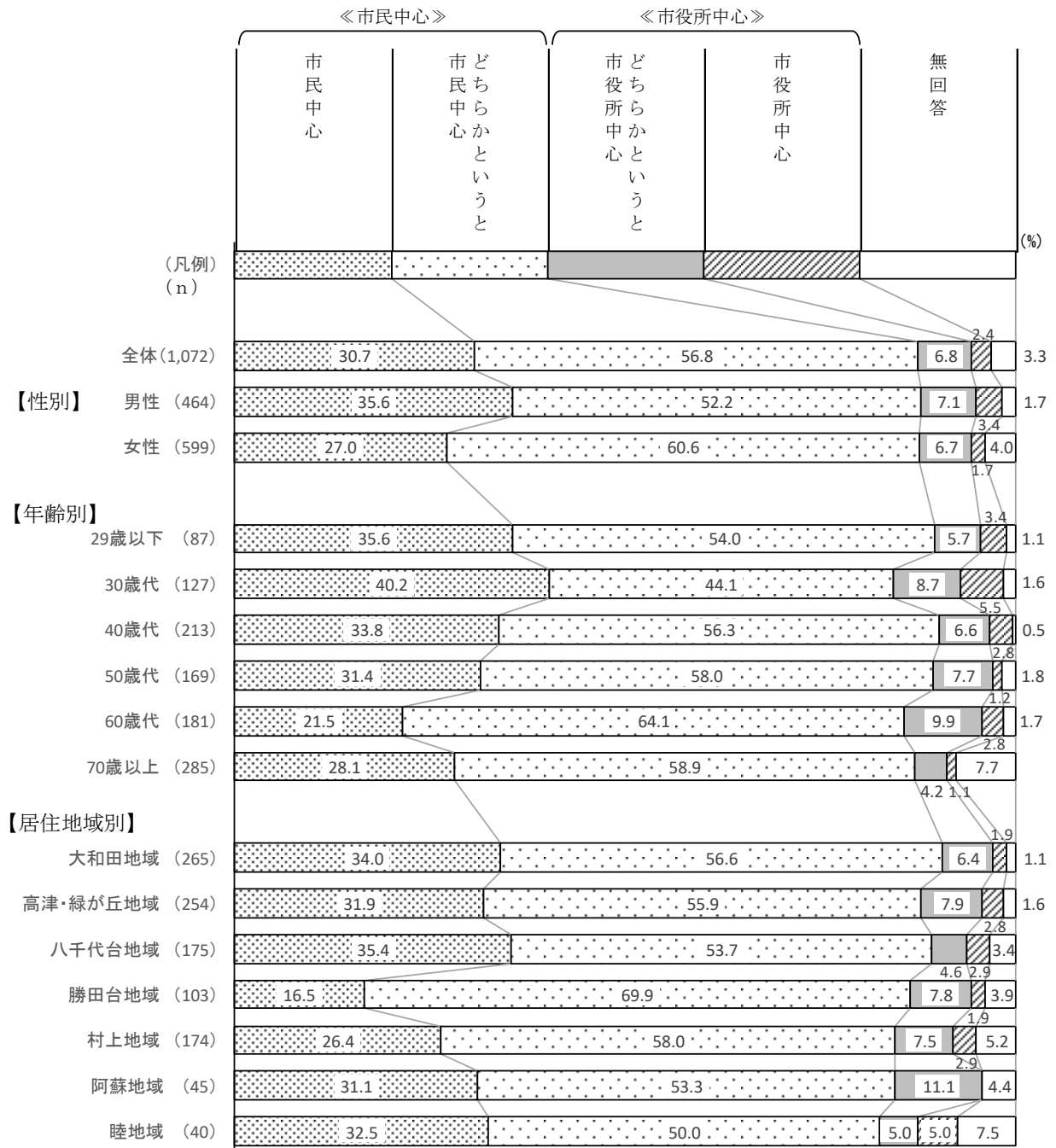
《性別・年齢別・居住地域別》

男女による相違はほとんどないが、積極的な「市民中心」の割合が男性で比較的高い。

年齢別でも大きな相違はみられないが、積極的な「市民中心」の割合が30歳代で最も高く、その値は年齢層が上がるほど60歳代まで低下する傾向がみられる。

居住地域別では、大和田地域、八千代台地域で《市民中心》の割合が比較的高い。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

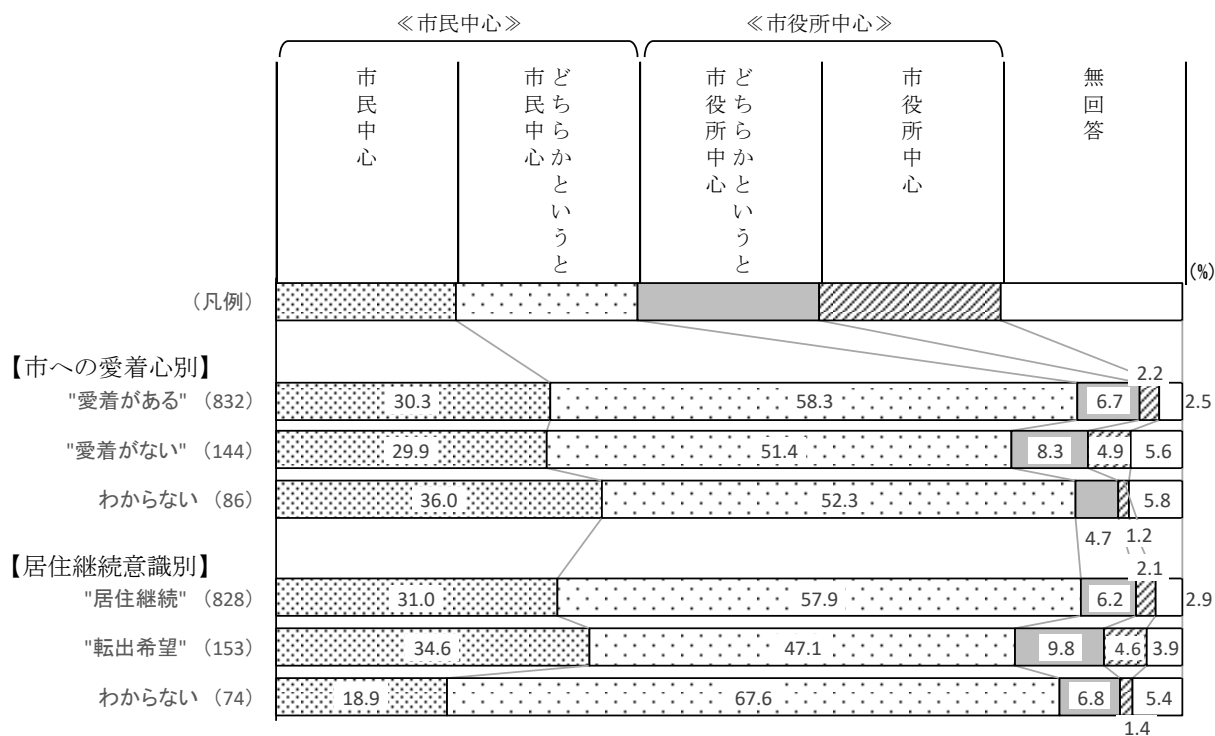


《市への愛着心・居住継続意識別》

市への愛着心があると分類された回答者で、《市民中心》の割合がやや高い。

市内への居住継続意識ありの場合、転出希望の回答者に比べて、《市民中心》の割合がやや高くなっている。

＜市への愛着心・居住継続意識別＞



◎近所の一人暮らしの高齢者の話し相手

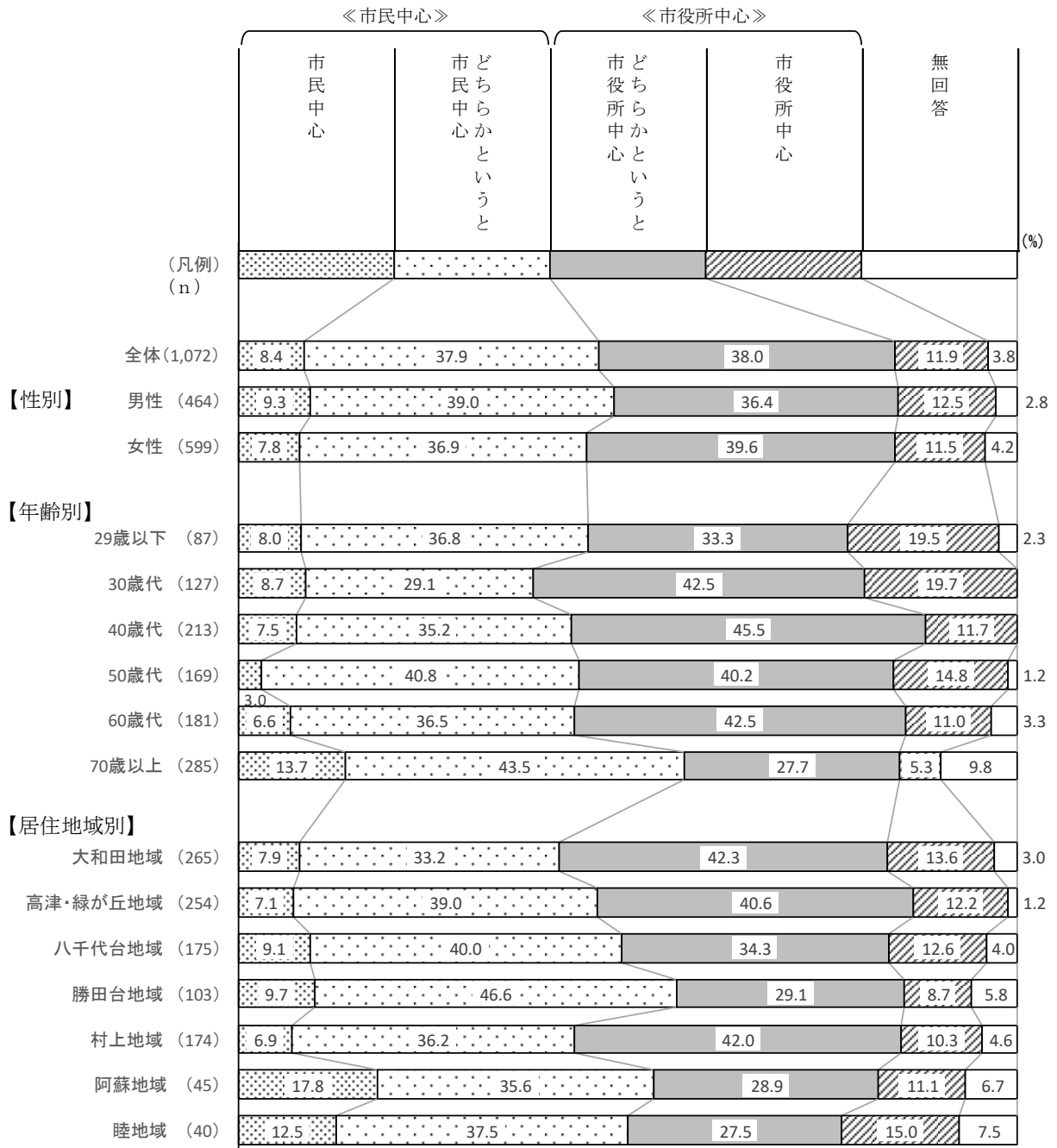
《性別・年齢別・居住地域別》

男女による傾向の相違はあまり大きなものはみられない。

年齢による相違も目立ったものはみられないが、当事者ともいえる70歳以上では《市民中心》の割合が高く、自助・共助の意識の表れともみられる。

居住地区別では、勝田台地域、阿蘇地域で《市民中心》の割合が比較的高い。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

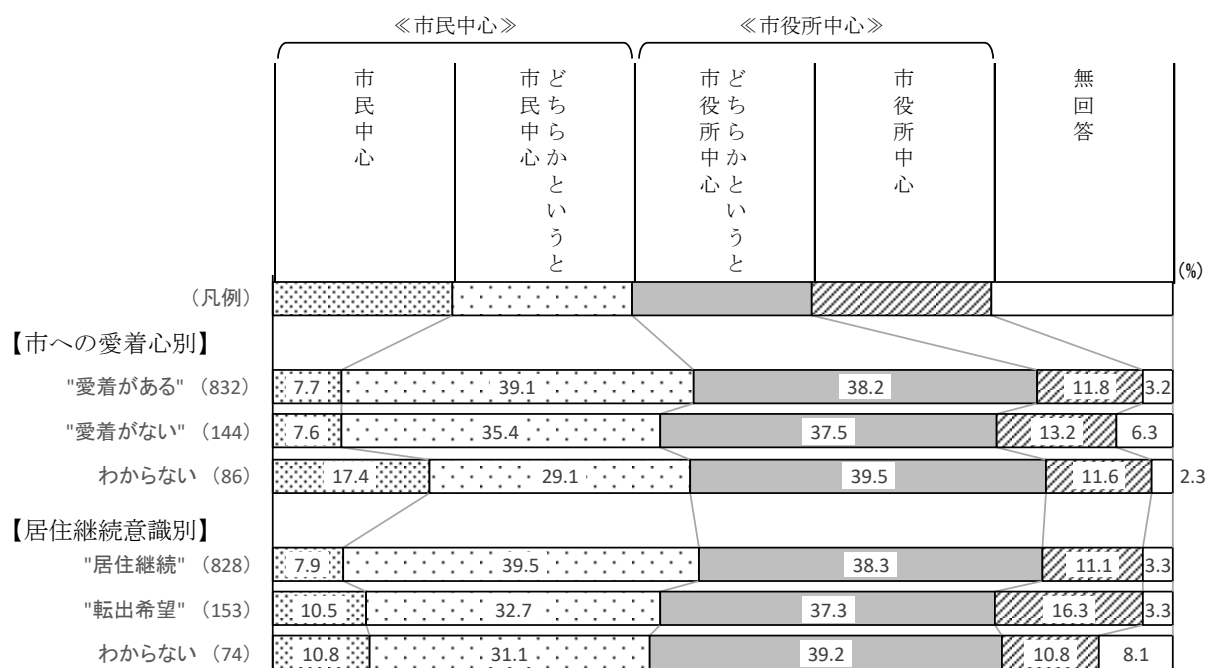


《市への愛着心・居住継続意識別》

市への愛着心による大きな差異はみられない。

また、市内への居住継続意識ありの場合の方が、転出希望の場合よりも《市民中心》の割合がやはりわずかに高い。

＜市への愛着心・居住継続意識別＞



◎ごみ減量化やリサイクルの推進

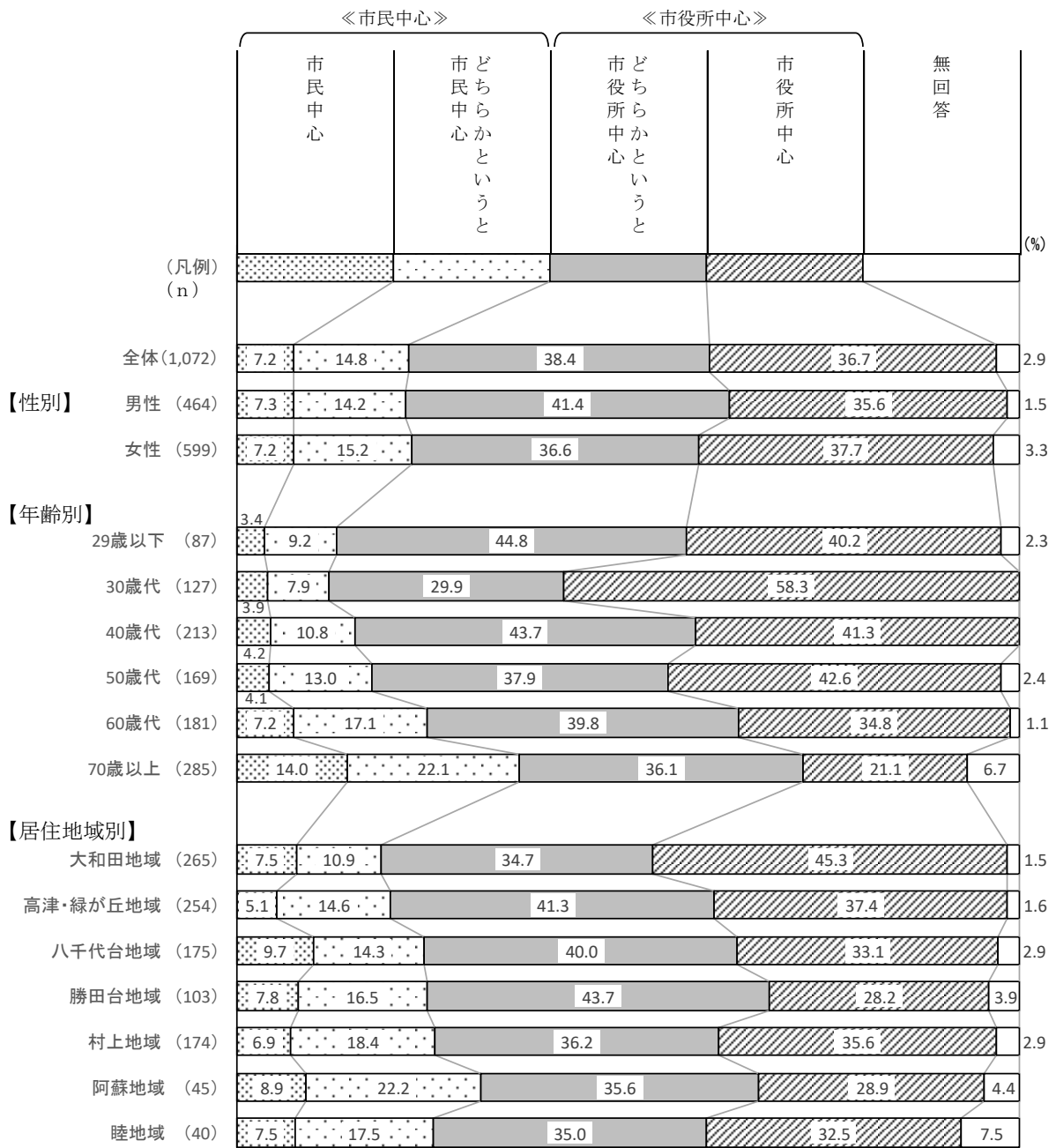
《性別・年齢別・居住地域別》

男女による傾向の相違はほとんどみられない。

年齢別では、年齢層が上がるほど《市民中心》の割合が高まる傾向が顕著にみられる。30歳代では11.8%のものが、70歳以上では36.1%と高い値になっている。

居住地域別では、《市民中心》の割合が最も高いのが阿蘇地域であり、最も低いのが大和田地域となっている。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

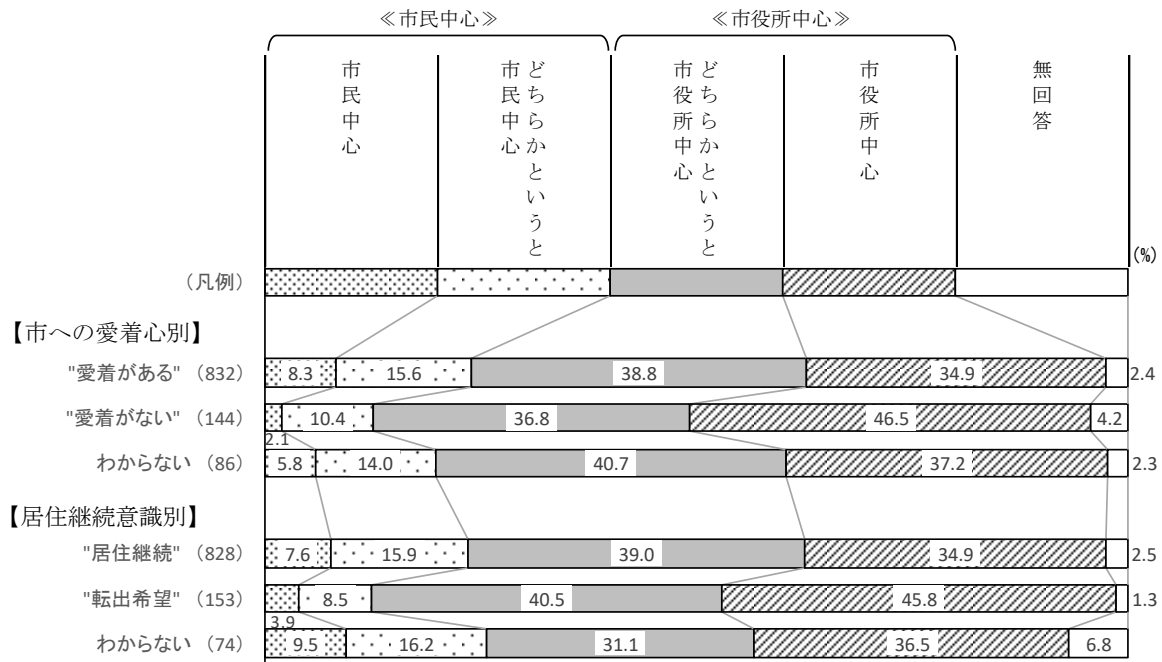


《市への愛着心・居住継続意識別》

市への愛着心がある場合の方が、ない場合よりも、《市民中心》の割合が明らかに高い。

また、市内への居住継続意識がある場合の方が、転出希望の場合よりも《市民中心》の割合が高く、その差は約2倍となっている。

＜市への愛着心・居住継続意識別＞



◎緑化活動の推進

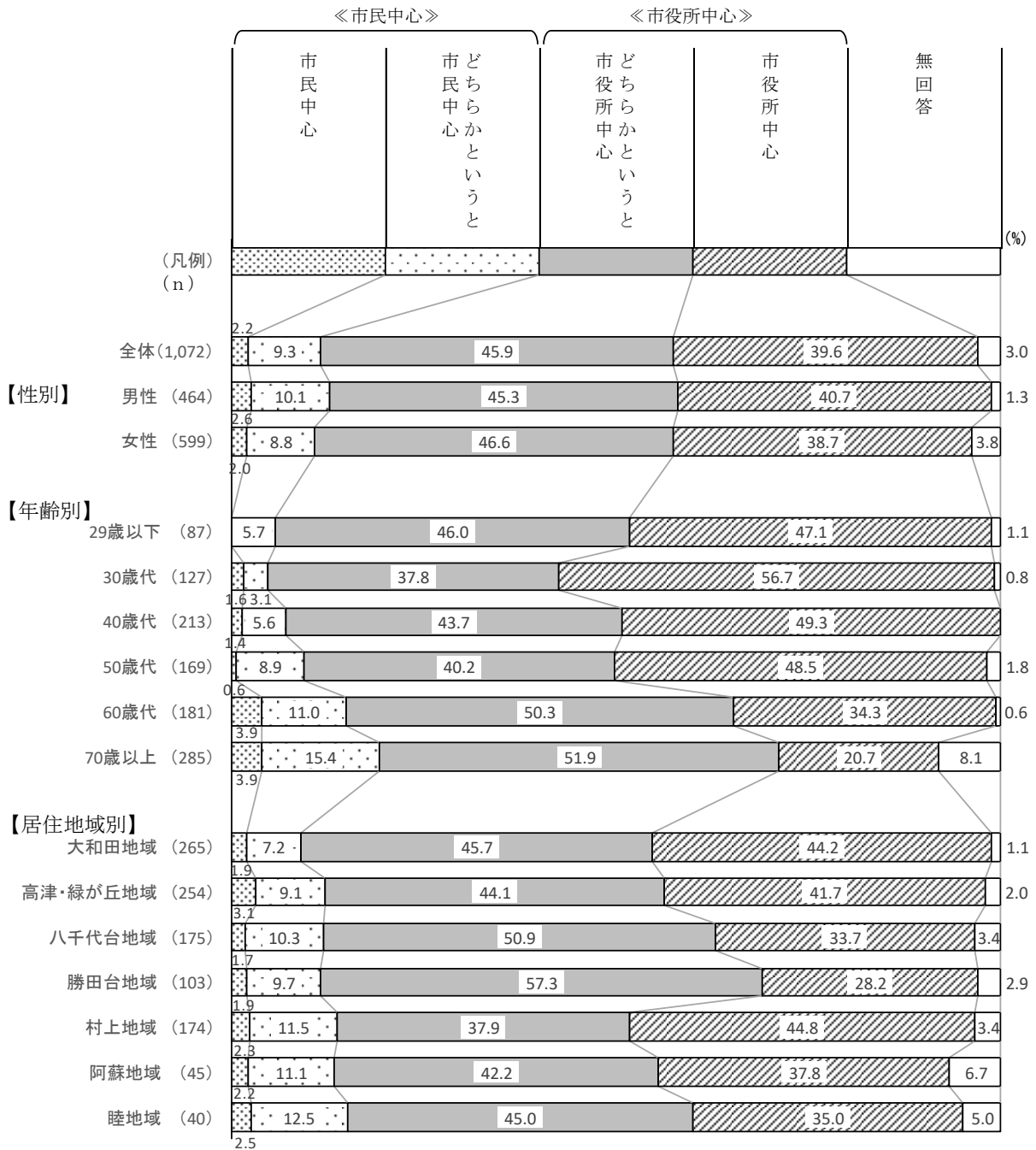
《性別・年齢別・居住地域別》

全体に「市役所中心」の割合が高い項目であるが、性別による大きな差異はみられない。

年齢別では、30歳以上の年齢層において、《市民中心》の割合が高まる傾向が顕著であり、70歳以上では19.3%となっている。

居住地域別では、大和田地域で《市民中心》の割合が相対的にやや低いのが目立つ。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

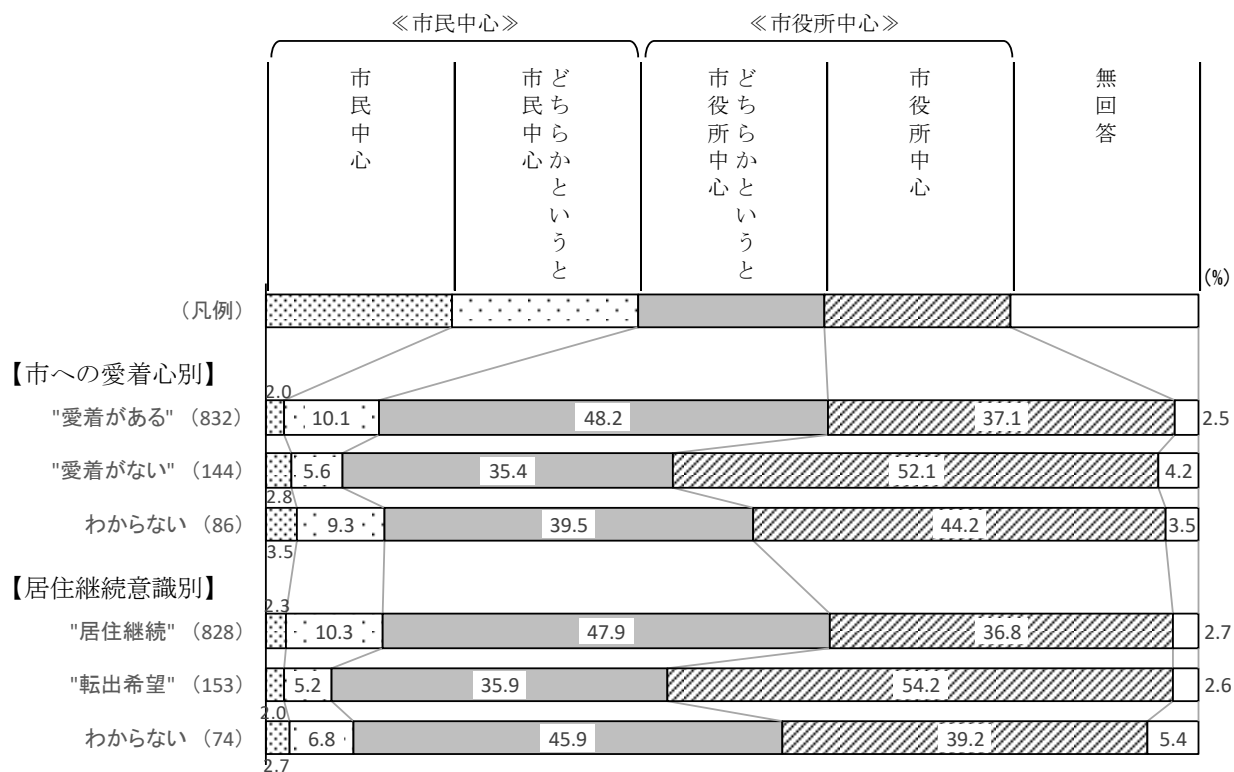


《市への愛着心・居住継続意識別》

市への愛着心による大きな差異はみられない。

また、市内への居住継続意識ありの場合の方が、転出希望の場合よりもやはり《市民中心》の割合が高い。

＜市への愛着心・居住継続意識別＞



◎地域のイベントの運営

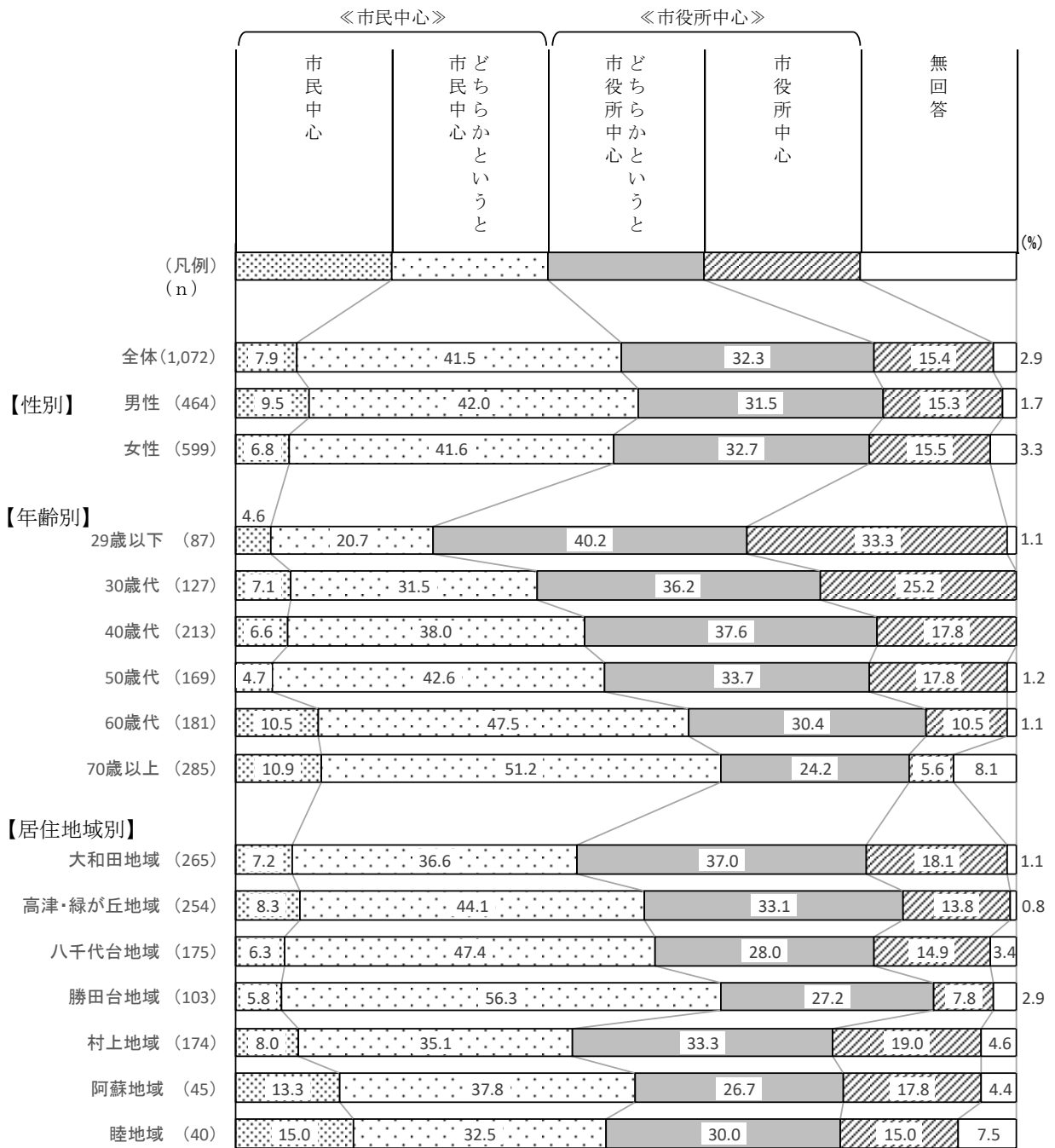
《性別・年齢別・居住地域別》

全体に、《市民中心》と《市役所中心》が拮抗しているが、性別では大きな相違はみられない。

年齢別では、年齢層が上がるほど《市民中心》の割合が高まる傾向が顕著であり、70歳以上では62.1%となっている。

居住地域別では、特に、勝田台地域で《市民中心》の割合が高い。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

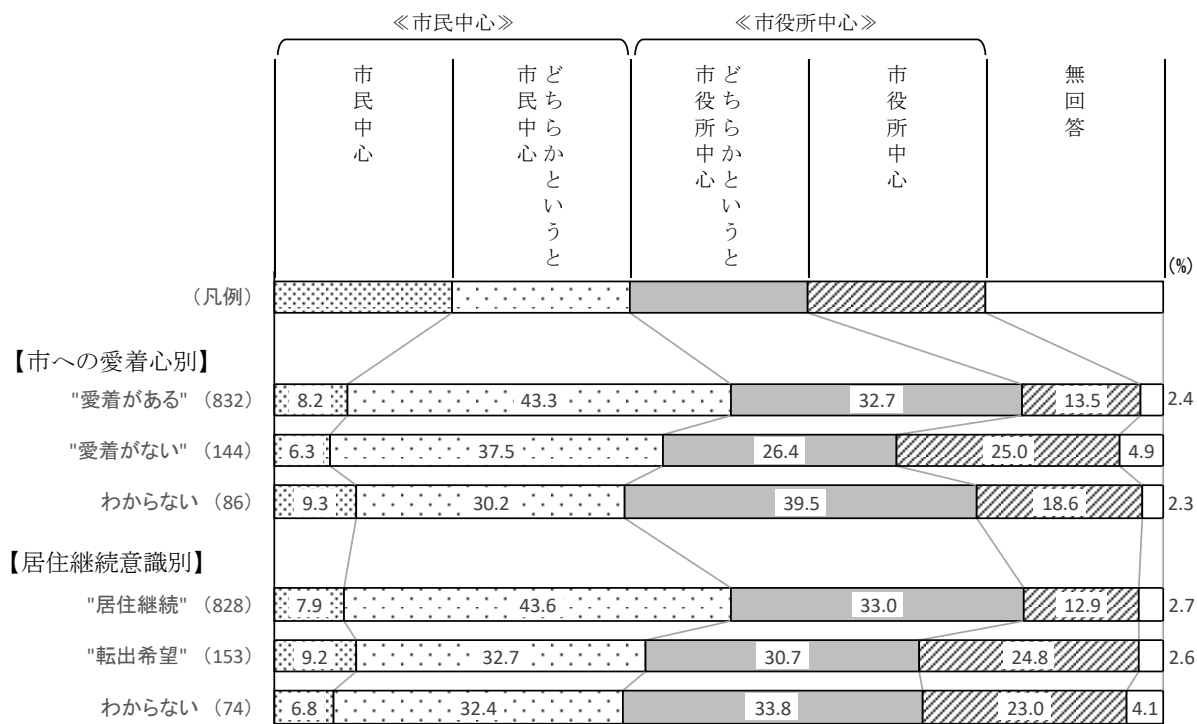


《市への愛着心・居住継続意識別》

市への愛着心がある場合の方が、ない場合に比べて《市民中心》の割合がやや高い。

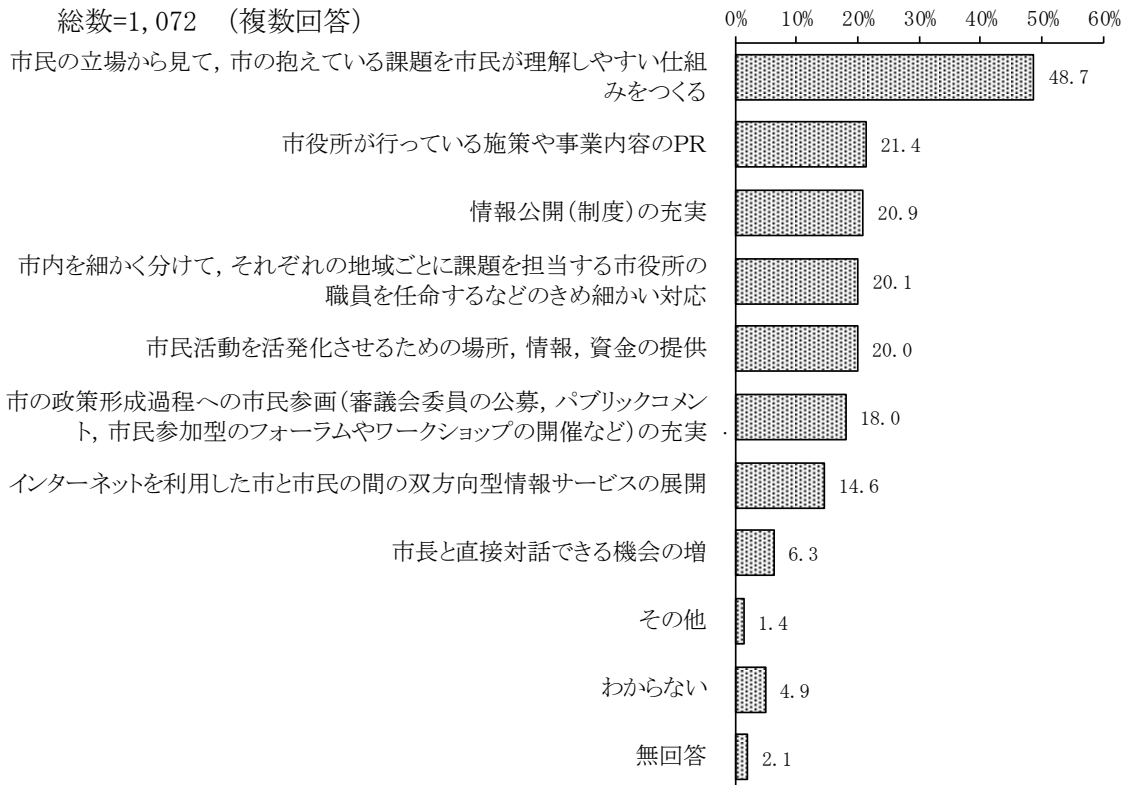
また、市内への居住継続意識がある場合の方が、転出希望の場合と比べて《市民中心》の割合が高くなっている。

＜市への愛着心・居住継続意識別＞



(3) 市民参加の条件整備

問9 今後市では、課題を市民と一体となって、解決していきたいと考えています。そのための条件づくりとして何が必要だと思いますか。(〇は2つまで)



市民参加、協働の条件としては、「市の課題を市民が理解しやすい仕組みづくり」が48.7%で最も高く、「市役所の施策や事業内容のPR」が21.4%、「情報公開(制度)の充実」が20.9%、「地域ごとの課題へのきめ細かい対応」が20.1%で続いている。

前回(平成27年度)も同様の設問を行っており、ほぼ同様の結果であったが、上位項目の中では2位と3位の順位が入れ代わっている。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「市の課題を市民が理解しやすい仕組みづくり」が最上位であることは男女共通であるが、男性は「市役所の施策や事業内容のPR」、女性は「情報公開(制度)の充実」が2位である点などの相違がある。

年齢別では、「市の課題を市民が理解しやすい仕組みづくり」が最上位であることは全年齢層で共通であるが、2位以下の順位が年齢層によって異なっている。30歳代では「地域ごとの課題へのきめ細かい対応」、29歳以下では「市民活動活発化への場所、情報、資金の提供」がそれぞれ2位となっている。

居住地域別では、勝田台地域での「市民活動活発化への場所、情報、資金の提供」の割合の相対的な高さなどが目立っている。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		全体	市役所が行っている施策や事業内容のPR	情報公開（制度）の充実	市民の立場から見て、市の抱えている課題を市民が理解しやすい仕組みをつくる	市民の担当する市役所の職、それぞれに地域ごとのきめ細	市長と直接対話できる機会の増	市民活動を活性化させるための場所、情報、資金の提供	市の政策形成過程への市民参加型のフォーラムやワークショップの開催など	市の政策形成過程への市民参加型委員の公募	インターネットの展開
全体		1,072 100.0	229 21.4	224 20.9	522 48.7	215 20.1	68 6.3	214 20.0	193 18.0	156 14.6	
性別	男性	464 100.0	108 23.3	94 20.3	222 47.8	100 21.6	26 5.6	102 22.0	94 20.3	82 17.7	
	女性	599 100.0	119 19.9	129 21.5	296 49.4	112 18.7	42 7.0	111 18.5	97 16.2	74 12.4	
年齢	29歳以下	87 100.0	17 19.5	11 12.6	46 52.9	14 16.1	5 5.7	25 28.7	10 11.5	14 16.1	
	30歳代	127 100.0	26 20.5	21 16.5	59 46.5	35 27.6	12 9.4	29 22.8	18 14.2	27 21.3	
	40歳代	213 100.0	26 12.2	52 24.4	107 50.2	44 20.7	19 8.9	35 16.4	39 18.3	46 21.6	
	50歳代	169 100.0	35 20.7	34 20.1	87 51.5	34 20.1	10 5.9	34 20.1	31 18.3	31 18.3	
	60歳代	181 100.0	35 19.3	45 24.9	93 51.4	32 17.7	8 4.4	32 17.7	42 23.2	20 11.0	
	70歳以上	285 100.0	88 30.9	60 21.1	125 43.9	53 18.6	14 4.9	59 20.7	50 17.5	17 6.0	
居住地	大和田地域	265 100.0	56 21.1	48 18.1	132 49.8	53 20.0	15 5.7	53 20.0	50 18.9	49 18.5	
	高津・緑が丘地域	254 100.0	54 21.3	69 27.2	121 47.6	47 18.5	16 6.3	49 19.3	40 15.7	39 15.4	
	八千代台地域	175 100.0	34 19.4	36 20.6	91 52.0	33 18.9	10 5.7	32 18.3	32 18.3	21 12.0	
	勝田台地域	103 100.0	19 18.4	25 24.3	43 41.7	22 21.4	6 5.8	29 28.2	22 21.4	12 11.7	
	村上地域	174 100.0	45 25.9	29 16.7	91 52.3	31 17.8	13 7.5	35 20.1	31 17.8	20 11.5	
	阿蘇地域	45 100.0	11 24.4	5 11.1	18 40.0	13 28.9	4 8.9	7 15.6	12 26.7	7 15.6	
	睦地域	40 100.0	7 17.5	10 25.0	17 42.5	13 32.5	4 10.0	7 17.5	3 7.5	6 15.0	

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

(属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)

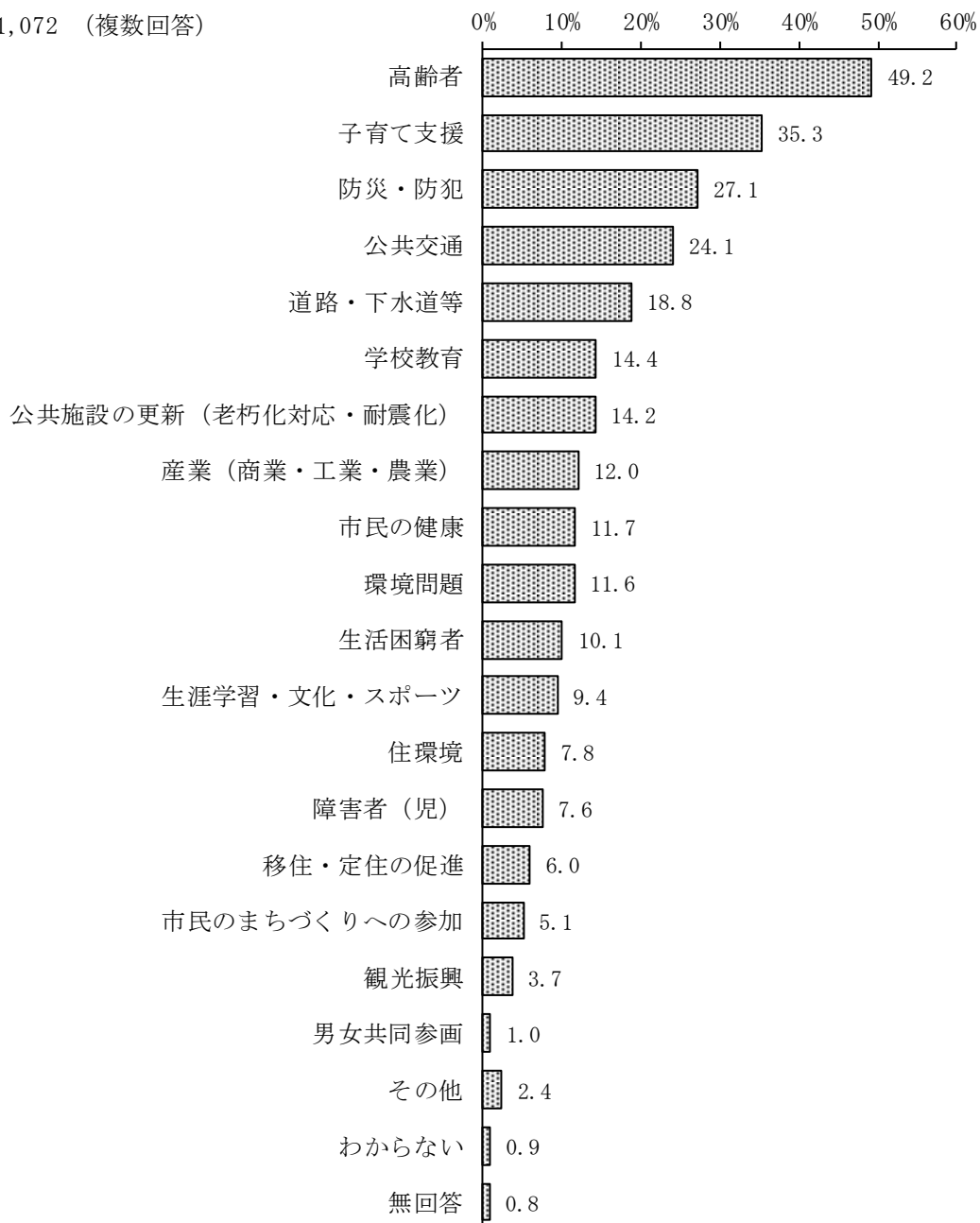
注) 「その他」、「わからない」、「無回答」は表記を省略している。

5 八千代市が力を入れて取り組むべき施策について

(1) 市が力を入れて取り組むべき施策

問 10 今後、八千代市が力を入れて取り組むべき施策は何だと思いますか（○は3つまで）

総数=1,072（複数回答）



市が力を入れて取り組むべき施策としては、「高齢者」が49.2%で最も高く、「子育て支援」が35.3%、「防災・防犯」が27.1%、「公共交通」が24.1%で続く。

前回（平成27年度）調査でも同様の設問を行っており、選択肢が一部異なるが、今回の結果の1位～3位は前回と同じである。前回の選択肢になかった「公共交通」が4位にあがっていることが今回の特徴である。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、大きな差異はないが、中位の項目で、「学校教育」は女性の方が割合が高く、「道路・下水道等」は男性の方が高い、といった相違もある。

年齢別では、40歳代以下の年齢層で「子育て支援」が1位となっているのが特徴的である。また、30歳代では「学校教育」が2位であり、50歳代以上の年齢層では「防災・防犯」が2位である点が目立つ。

居住地域別では、各地域ほぼ共通の傾向であるが、睦地域だけは「公共交通」が2位であり、その回答割合も37.5%と7地域中最大であって、逆に「子育て支援」は22.5%と最小であるという特徴がある。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		高齢者	環境問題	障害者(児)	道路・下水道等	子育て支援	学校教育	市民の健康	観光振興	産業(商業・工業・)	ポーツ	生涯学習・文化・ス	移住・定住の促進	男女共同参画	公共交通	住環境	防災・防犯	生活困窮者	朽化対応・耐震化(老)	公共施設の更新(老)	市民のまちづくりへ
	全体	1,072	527	124	81	201	378	154	125	40	129	101	64	11	258	84	291	108	152	55	
		100.0	49.2	11.6	7.6	18.8	35.3	14.4	11.7	3.7	12.0	9.4	6.0	1.0	24.1	7.8	27.1	10.1	14.2	5.1	
性別	男性	464	221	59	36	101	173	60	60	20	68	44	33	5	108	46	125	46	52	22	
		100.0	47.6	12.7	7.8	21.8	37.3	12.9	12.9	4.3	14.7	9.5	7.1	1.1	23.3	9.9	26.9	9.9	11.2	4.7	
	女性	599	301	65	43	99	205	93	63	20	59	57	31	6	145	38	166	60	99	33	
		100.0	50.3	10.9	7.2	16.5	34.2	15.5	10.5	3.3	9.8	9.5	5.2	1.0	24.2	6.3	27.7	10.0	16.5	5.5	
年齢	29歳以下	87	32	8	2	11	44	11	3	7	6	6	9	2	30	7	17	5	13	3	
		100.0	36.8	9.2	2.3	12.6	50.6	12.6	3.4	8.0	6.9	6.9	10.3	2.3	34.5	8.0	19.5	5.7	14.9	3.4	
	30歳代	127	34	8	7	23	79	41	6	7	16	4	10	3	36	7	31	8	19	4	
		100.0	26.8	6.3	5.5	18.1	62.2	32.3	4.7	5.5	12.6	3.1	7.9	2.4	28.3	5.5	24.4	6.3	15.0	3.1	
	40歳代	213	76	13	13	50	88	55	16	12	29	16	19	-	43	16	52	17	51	16	
		100.0	35.7	6.1	6.1	23.5	41.3	25.8	7.5	5.6	13.6	7.5	8.9	-	20.2	7.5	24.4	8.0	23.9	7.5	
	50歳代	169	93	19	15	29	41	17	17	1	22	19	11	2	45	24	59	19	25	5	
	100.0	55.0	11.2	8.9	17.2	24.3	10.1	10.1	0.6	13.0	11.2	6.5	1.2	26.6	14.2	34.9	11.2	14.8	3.0		
60歳代	181	106	26	11	35	58	10	21	6	32	22	5	1	33	12	58	20	23	7		
	100.0	58.6	14.4	6.1	19.3	32.0	5.5	11.6	3.3	17.7	12.2	2.8	0.6	18.2	6.6	32.0	11.0	12.7	3.9		
70歳以上	285	181	49	31	51	68	19	60	7	23	34	9	3	66	17	73	38	20	20		
	100.0	63.5	17.2	10.9	17.9	23.9	6.7	21.1	2.5	8.1	11.9	3.2	1.1	23.2	6.0	25.6	13.3	7.0	7.0		
居住地	大和田地域	265	123	33	20	56	109	36	24	9	27	26	13	2	69	17	61	23	45	13	
		100.0	46.4	12.5	7.5	21.1	41.1	13.6	9.1	3.4	10.2	9.8	4.9	0.8	26.0	6.4	23.0	8.7	17.0	4.9	
	高津・緑が丘地域	254	108	29	17	47	86	46	29	15	35	22	15	3	72	19	76	29	36	15	
		100.0	42.5	11.4	6.7	18.5	33.9	18.1	11.4	5.9	13.8	8.7	5.9	1.2	28.3	7.5	29.9	11.4	14.2	5.9	
	八千代台地域	175	92	18	13	42	63	21	21	8	18	12	15	2	36	12	50	18	23	10	
		100.0	52.6	10.3	7.4	24.0	36.0	12.0	12.0	4.6	10.3	6.9	8.6	1.1	20.6	6.9	28.6	10.3	13.1	5.7	
	勝田台地域	103	65	10	9	16	35	17	12	2	12	9	6	-	18	7	31	13	8	5	
	100.0	63.1	9.7	8.7	15.5	34.0	16.5	11.7	1.9	11.7	8.7	5.8	-	17.5	6.8	30.1	12.6	7.8	4.9		
村上地域	174	81	22	12	18	55	23	26	6	23	28	8	3	24	23	52	16	32	10		
	100.0	46.6	12.6	6.9	10.3	31.6	13.2	14.9	3.4	13.2	16.1	4.6	1.7	13.8	13.2	29.9	9.2	18.4	5.7		
阿蘇地域	45	28	7	3	9	17	6	8	-	4	3	2	1	15	1	9	5	1	2		
	100.0	62.2	15.6	6.7	20.0	37.8	13.3	17.8	-	8.9	6.7	4.4	2.2	33.3	2.2	20.0	11.1	2.2	4.4		
睦地域	40	23	4	5	10	9	3	2	-	8	1	3	-	15	4	10	2	5	-		
	100.0	57.5	10.0	12.5	25.0	22.5	7.5	5.0	-	20.0	2.5	7.5	-	37.5	10.0	25.0	5.0	12.5	-		

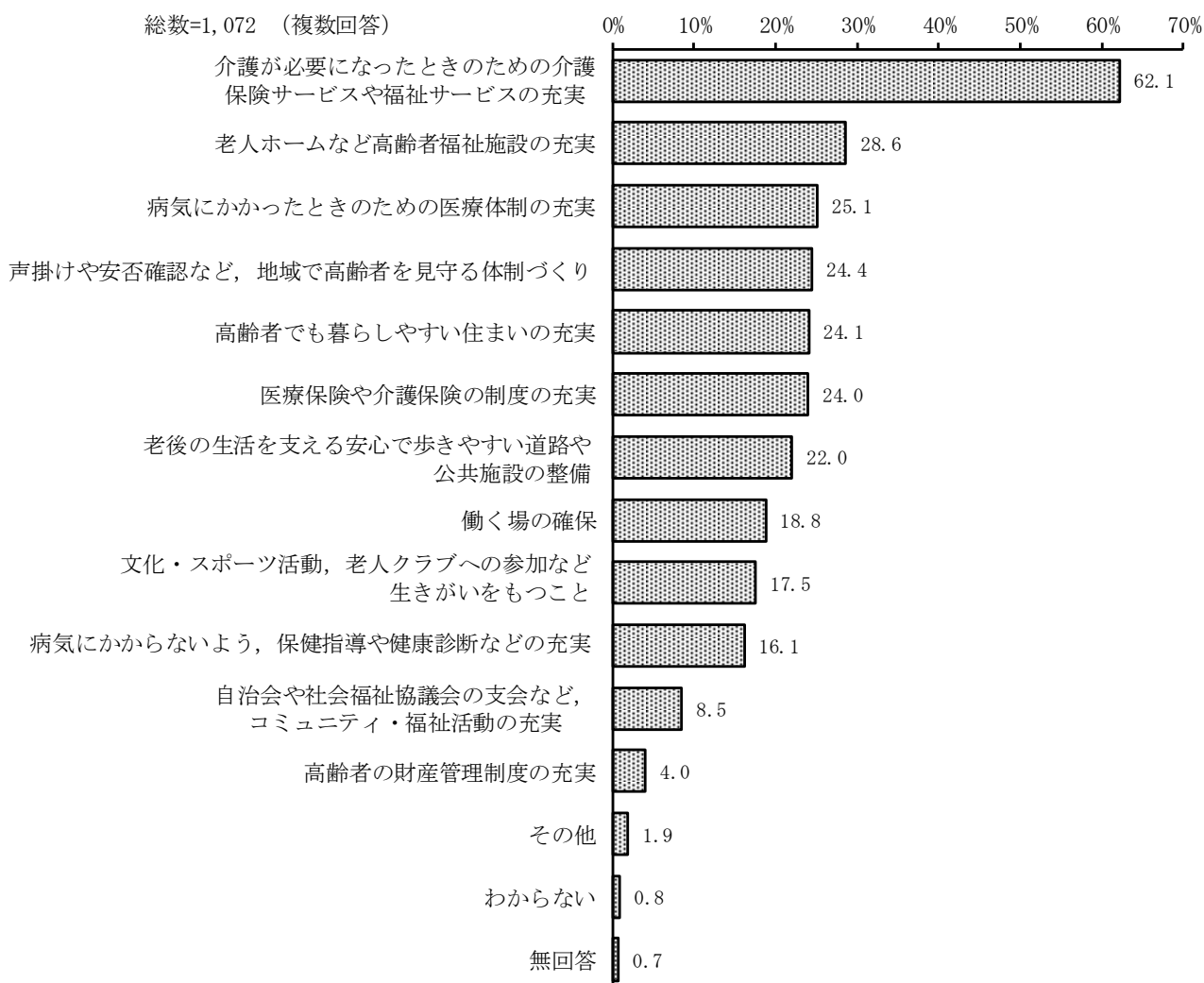
各属性の中で最も割合が高い選択肢
各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」, 「わからない」, 「無回答」は表記を省略している。

6 超高齢社会について

(1) 高齢者が安心して暮らしていくために大切なこと

問 11 高齢者が安心して暮らしていくには、今後どのようなことが大切だと思いますか。(〇は3つまで)



高齢者の安心な生活のために大切なこととしては、「介護が必要になったときのための介護保険や福祉のサービスの充実」が 62.1%で最も高く、これに、「老人ホームなど高齢者福祉施設の充実」が 28.6%、「医療体制の充実」が 25.1%、「地域で高齢者を見守る体制づくり」が 24.4%で続いている。「医療保険や介護保険の制度の充実」も 6 位 (24.0%) であり、1 位と合わせると、介護保険を含めた介護サービスの充実が市民の大きな関心事といえる。

《時系列比較》

前回 (平成 27 年度) 調査でも同様の設問をしており、選択肢が異なるが、前回も「介護が必要になったときのための福祉サービスの充実」が 1 位であり、類似の傾向であった。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、1 位、2 位の項目は共通であるが、「医療保険や介護保険の制度の充実」や「地域で高齢者を見守る体制づくり」などの項目で女性の方が男性より目立って高い回答率であり、順位も異なっている。

年齢別では、各年齢層ともに「介護が必要になったときのための介護保険や福祉のサービスの充実」が1位である点は共通であるが、2位以下の順位に年齢層による相違がみられる。29歳以下及び60歳代以上では「老人ホームなど高齢者福祉施設の充実」が2位であるのに対し、30歳代、50歳代では「地域で高齢者を見守る体制づくり」が、また40歳代では「働く場の確保」が2位であるなどの相違がある。

居住地域別でも、1位は共通であるが2位以下の順位が異なっている。村上地域では「高齢者でも暮らしやすい住まいの充実」が2位で、回答率31.0%は7地域中最大である。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		介護が必要になったときのための介護サービスや福祉サービスの充実	病気がかかったときのための医療体制の充実	医療保険や介護保険の制度の充実	病診断などから不要なよう、保健指導や健康診断などの充実	老人ホームなど高齢者福祉施設の充実	高齢者でも暮らしやすい住まいの充実	道路や公共施設の整備	老後の生活を支える安心で歩きやすい	文化・スポーツ活動、老人クラブへの参加など生きがいをもつこと	働く場の確保	声掛けや安否確認など、地域で高齢者を見守る体制づくり	高齢者の財産管理制度の充実	自治会や社会福祉協議会の支会など、コミュニティ・福祉活動の充実
	全体	1,072 100.0	666 62.1	269 25.1	257 24.0	173 16.1	307 28.6	258 24.1	236 22.0	188 17.5	201 18.8	262 24.4	43 4.0	91 8.5
性別	男性	464 100.0	290 62.5	122 26.3	98 21.1	77 16.6	137 29.5	105 22.6	97 20.9	88 19.0	92 19.8	103 22.2	21 4.5	46 9.9
	女性	599 100.0	371 61.9	145 24.2	157 26.2	95 15.9	167 27.9	151 25.2	137 22.9	100 16.7	109 18.2	156 26.0	21 3.5	45 7.5
年齢	29歳以下	87 100.0	41 47.1	20 23.0	23 26.4	16 18.4	26 29.9	23 26.4	13 14.9	22 25.3	12 13.8	18 20.7	4 4.6	4 4.6
	30歳代	127 100.0	63 49.6	30 23.6	28 22.0	20 15.7	35 27.6	36 28.3	31 24.4	29 22.8	32 25.2	37 29.1	4 3.1	10 7.9
	40歳代	213 100.0	139 65.3	44 20.7	55 25.8	25 11.7	46 21.6	54 25.4	46 21.6	41 19.2	64 30.0	44 20.7	14 6.6	14 6.6
	50歳代	169 100.0	110 65.1	46 27.2	43 25.4	24 14.2	32 18.9	40 23.7	43 25.4	27 16.0	39 23.1	50 29.6	10 5.9	12 7.1
	60歳代	181 100.0	119 65.7	51 28.2	46 25.4	34 18.8	58 32.0	42 23.2	34 18.8	28 15.5	32 17.7	39 21.5	6 3.3	17 9.4
	70歳以上	285 100.0	189 66.3	76 26.7	61 21.4	53 18.6	107 37.5	59 20.7	65 22.8	41 14.4	22 7.7	71 24.9	5 1.8	34 11.9
居住地	大和田地域	265 100.0	178 67.2	73 27.5	63 23.8	44 16.6	68 25.7	51 19.2	55 20.8	49 18.5	52 19.6	76 28.7	11 4.2	18 6.8
	高津・緑が丘地域	254 100.0	149 58.7	70 27.6	74 29.1	39 15.4	73 28.7	59 23.2	49 19.3	48 18.9	55 21.7	55 21.7	10 3.9	25 9.8
	八千代台地域	175 100.0	102 58.3	35 20.0	34 19.4	33 18.9	53 30.3	42 24.0	51 29.1	30 17.1	36 20.6	43 24.6	8 4.6	6 3.4
	勝田台地域	103 100.0	65 63.1	25 24.3	21 20.4	15 14.6	39 37.9	24 23.3	19 18.4	13 12.6	12 11.7	33 32.0	4 3.9	17 16.5
	村上地域	174 100.0	107 61.5	40 23.0	39 22.4	34 19.5	45 25.9	54 31.0	34 19.5	35 20.1	28 16.1	33 19.0	5 2.9	18 10.3
	阿蘇地域	45 100.0	28 62.2	12 26.7	10 22.2	6 13.3	13 28.9	10 22.2	10 22.2	7 15.6	9 20.0	12 26.7	3 6.7	5 11.1
	睦地域	40 100.0	29 72.5	11 27.5	14 35.0	1 2.5	10 25.0	12 30.0	11 27.5	6 15.0	7 17.5	6 15.0	1 2.5	2 5.0

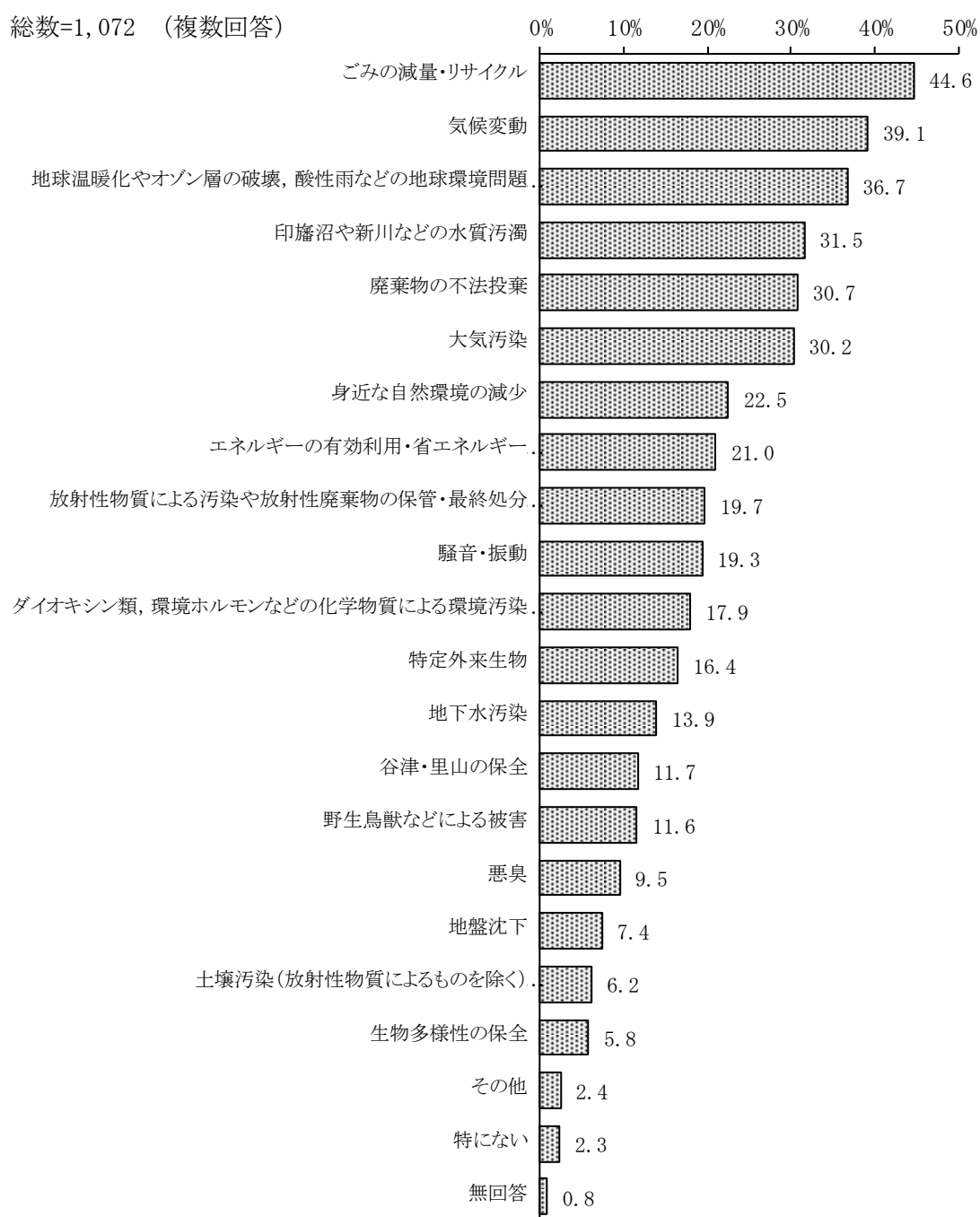
各属性の中で最も割合が高い選択肢
各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」、「わからない」、「無回答」は表記を省略している。

7 環境問題について

(1) 関心のある環境問題

問 12 関心を持っている環境問題は何ですか。(〇はいくつでも)



関心を持っている環境問題としては、「ごみの減量・リサイクル」が44.6%で最も高く、「気候変動」が39.1%、「温暖化など地球環境問題」が36.7%、「印旛沼や新川などの水質汚濁」が31.5%で続いている。

《時系列比較》

前回(平成27年度)調査でも同様の設問を行っており、選択肢が異なるが、前回は「ごみの減少・再資源化」が1位であった。

《性別・年齢別・居住地域別》

「ごみの減量・リサイクル」が最も高いのは男女共通であるが、男性では「印旛沼や新川などの水質汚濁」が2位，女性では「気候変動」が2位であるなどの相違がある。

年齢別では、「ごみの減量・リサイクル」が共通して高いが、29歳以下や50～60歳代において、「温暖化などの地球環境問題」、30～40歳代や70歳以上において「気候変動」の割合が比較的高い。

居住地域別では、八千代台地域や勝田台地域で「温暖化などの地球環境問題」の割合が相対的に高いほか、阿蘇地域では「廃棄物の不法投棄」や「印旛沼や新川などの水質汚濁」の割合が高く、睦地域では「印旛沼や新川などの水質汚濁」や「大気汚染」などの割合が高くなっている。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

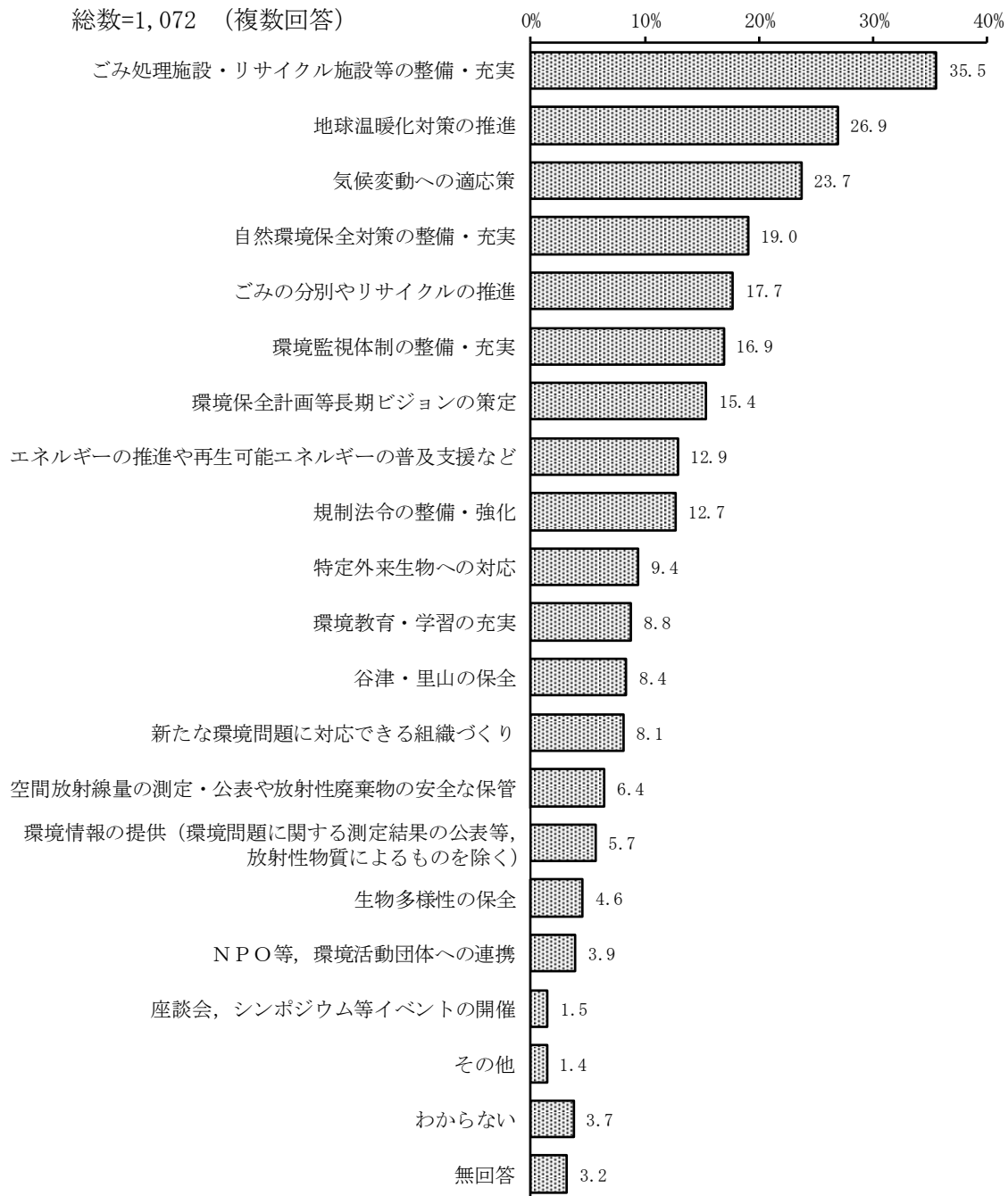
	全体	大気汚染	印旛沼や新川などの水質汚濁	ダイオキシン類、環境ホルモンなどの化学物質による環境汚染	騒音・振動	悪臭	地下水汚染	のを(除く)	土壌汚染(放射性物質によるものを除く)	地盤沈下	ごみの減量・リサイクル	廃棄物の不法投棄	身近な自然環境の減少	エネルギーの有効利用・省エネ	酸性雨などの地球環境問題	地球温暖化やオゾン層の破壊	生物多様性の保全	谷津・里山の保全	放射性物質による汚染や放射性廃棄物の保管・最終処分	野生鳥獣などによる被害	特定外来生物	気候変動
		回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数
性別	全体	1,072	324	338	192	207	102	149	66	79	478	329	241	225	393	62	125	211	124	176	419	
	男性	464	117	164	69	103	41	59	19	30	201	143	121	99	161	33	71	70	47	81	157	
	女性	599	206	172	123	101	60	89	47	49	274	184	119	126	231	29	53	141	77	95	261	
年齢	29歳以下	87	25	23	9	14	12	5	1	5	37	16	17	20	28	11	4	15	7	17	24	
		100.0	28.7	26.4	10.3	16.1	13.8	5.7	1.1	5.7	42.5	18.4	19.5	23.0	32.2	12.6	4.6	17.2	8.0	19.5	27.6	
	30歳代	127	29	37	18	33	19	15	10	13	51	33	22	29	28	2	5	30	18	16	49	
		100.0	22.8	29.1	14.2	26.0	15.0	11.8	7.9	10.2	40.2	26.0	17.3	22.8	22.0	1.6	3.9	23.6	14.2	12.6	38.6	
	40歳代	213	67	57	31	42	23	24	18	18	92	59	47	57	71	12	22	51	18	29	78	
		100.0	31.5	26.8	14.6	19.7	10.8	11.3	8.5	8.5	43.2	27.7	22.1	26.8	33.3	5.6	10.3	23.9	8.5	13.6	36.6	
	50歳代	169	53	48	36	31	17	23	12	16	88	52	41	37	72	13	26	33	19	30	68	
	100.0	31.4	28.4	21.3	18.3	10.1	13.6	7.1	9.5	52.1	30.8	24.3	21.9	42.6	7.7	15.4	19.5	11.2	17.8	40.2		
60歳代	181	52	66	36	40	17	34	7	8	72	58	47	33	76	11	24	34	26	30	70		
	100.0	28.7	36.5	19.9	22.1	9.4	18.8	3.9	4.4	39.8	32.0	26.0	18.2	42.0	6.1	13.3	18.8	14.4	16.6	38.7		
70歳以上	285	95	105	60	43	13	46	17	18	135	110	66	47	116	13	44	47	36	54	128		
	100.0	33.3	36.8	21.1	15.1	4.6	16.1	6.0	6.3	47.4	38.6	23.2	16.5	40.7	4.6	15.4	16.5	12.6	18.9	44.9		
居住地	大和田地域	265	82	83	50	48	21	32	14	25	129	74	59	62	97	21	32	54	32	49	101	
		100.0	30.9	31.3	18.9	18.1	7.9	12.1	5.3	9.4	48.7	27.9	22.3	23.4	36.6	7.9	12.1	20.4	12.1	18.5	38.1	
	高津・緑が丘地域	254	91	69	55	53	29	38	23	18	118	66	64	57	92	16	25	51	27	30	100	
		100.0	35.8	27.2	21.7	20.9	11.4	15.0	9.1	7.1	46.5	26.0	25.2	22.4	36.2	6.3	9.8	20.1	10.6	11.8	39.4	
	八千代台地域	175	44	52	22	30	7	19	10	7	73	55	40	29	75	7	23	39	25	36	74	
		100.0	25.1	29.7	12.6	17.1	4.0	10.9	5.7	4.0	41.7	31.4	22.9	16.6	42.9	4.0	13.1	22.3	14.3	20.6	42.3	
	勝田台地域	103	34	32	20	19	7	13	5	7	49	34	23	18	46	6	11	19	10	15	44	
		100.0	33.0	31.1	19.4	18.4	6.8	12.6	4.9	6.8	47.6	33.0	22.3	17.5	44.7	5.8	10.7	18.4	9.7	14.6	42.7	
村上地域	174	43	62	30	35	22	21	7	13	74	58	33	45	60	5	21	29	20	23	64		
	100.0	24.7	35.6	17.2	20.1	12.6	12.1	4.0	7.5	42.5	33.3	19.0	25.9	34.5	2.9	12.1	16.7	11.5	13.2	36.8		
阿蘇地域	45	8	19	6	9	6	12	2	7	16	25	8	10	8	4	7	7	7	8	15		
	100.0	17.8	42.2	13.3	20.0	13.3	26.7	4.4	15.6	35.6	55.6	17.8	22.2	17.8	8.9	15.6	15.6	15.6	17.8	33.3		
睦地域	40	16	18	6	8	8	11	3	1	16	14	11	2	10	3	6	10	2	12	16		
	100.0	40.0	45.0	15.0	20.0	20.0	27.5	7.5	2.5	40.0	35.0	27.5	5.0	25.0	7.5	15.0	25.0	5.0	30.0	40.0		

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」, 「特にない」, 「無回答」は表記を省略している。

(2) 環境への取組みの期待

問 13 環境に対する取組みとして何を期待しますか。(〇は3つまで)



環境に対する取り組みとして期待することは、「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」が 35.5%で最も高く、「地球温暖化対策の推進」が 26.9%、「気候変動への適応策」が 23.7%、「自然環境保全対策の整備・充実」が 19.0%の順となっており、前問での環境問題への関心事項にほぼ対応している。

《時系列比較》

前回(平成27年度)調査でも同様の設問を行っており、選択肢が異なるが、前回も「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」が1位であるなど、全体に類似した傾向である。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、上位2項目は共通であるが、3位以下において、男性は「環境監視体制の整備・充実」や「規制法令の整備・強化」の割合が女性より目立って高く、逆に「気候変動への適応策」などで女性の割合が高い項目もあるなど、相違を見せている。

年齢別では、概ね共通の傾向であるが、29歳以下では「ごみの分別やリサイクルの推進」が2位で、30～40歳代では「気候変動への適応策」が2位になるなどの特徴もみられる。

居住地域別では、阿蘇地域で「ごみの分別やリサイクルの推進」の割合が特に高く、陸地域では「気候変動への適応策」が特に高いなどの特徴がある。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	策定	環境保全計画等長期ビジョンの	規制法令の整備・強化	環境監視体制の整備・充実	自然環境保全対策の整備・充実	等ごみ処理施設・リサイクル施設の整備・充実	ごみの分別やリサイクルの推進	環境情報の提供（環境問題に関する測定結果の公表等、放射性物質によるものを除く）	生物多様性の保全	谷津・里山の保全	特定外来生物への対応	環境教育・学習の充実	トの開催、シンポジウム等イベント	携NPO等、環境活動団体への連携	新たな環境問題に対応できる組織づくり	地球温暖化対策の推進	気候変動への適応策	エネルギーの普及支援など	放射性廃棄物の安全な保管	空間放射線量の測定・公表や放	
		回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数
性別	全体	1,072	165	136	181	204	381	190	61	49	90	101	94	16	42	87	288	254	138	69		
	男性	464	87	80	105	98	172	76	35	29	52	45	34	11	14	34	108	99	54	20		
	女性	599	77	55	76	103	207	113	26	20	38	55	58	5	26	52	177	154	84	49		
年齢	29歳以下	87	12	10	9	14	27	23	1	7	5	6	8	-	4	3	18	15	13	5		
		100.0	13.8	11.5	10.3	16.1	31.0	26.4	1.1	8.0	5.7	6.9	9.2	-	4.6	3.4	20.7	17.2	14.9	5.7		
	30歳代	127	17	24	22	19	40	29	6	3	8	15	16	3	5	10	32	34	13	10		
		100.0	13.4	18.9	17.3	15.0	31.5	22.8	4.7	2.4	6.3	11.8	12.6	2.4	3.9	7.9	25.2	26.8	10.2	7.9		
	40歳代	213	26	24	37	23	75	33	16	8	20	13	21	5	8	18	43	56	36	21		
		100.0	12.2	11.3	17.4	10.8	35.2	15.5	7.5	3.8	9.4	6.1	9.9	2.3	3.8	8.5	20.2	26.3	16.9	9.9		
	50歳代	169	31	22	28	36	65	23	11	13	14	19	13	-	5	13	50	44	25	10		
	100.0	18.3	13.0	16.6	21.3	38.5	13.6	6.5	7.7	8.3	11.2	7.7	-	3.0	7.7	29.6	26.0	14.8	5.9			
60歳代	181	25	19	33	37	75	29	9	8	16	18	10	2	10	19	56	45	26	9			
	100.0	13.8	10.5	18.2	20.4	41.4	16.0	5.0	4.4	8.8	9.9	5.5	1.1	5.5	10.5	30.9	24.9	14.4	5.0			
70歳以上	285	53	35	51	71	97	52	18	10	27	29	24	6	9	23	86	59	24	14			
	100.0	18.6	12.3	17.9	24.9	34.0	18.2	6.3	3.5	9.5	10.2	8.4	2.1	3.2	8.1	30.2	20.7	8.4	4.9			
居住地	大和田地域	265	45	38	46	42	104	51	12	10	21	26	27	4	10	21	67	53	30	20		
		100.0	17.0	14.3	17.4	15.8	39.2	19.2	4.5	3.8	7.9	9.8	10.2	1.5	3.8	7.9	25.3	20.0	11.3	7.5		
	高津・緑が丘地域	254	32	38	47	40	87	51	20	14	22	17	26	4	11	22	65	64	39	14		
		100.0	12.6	15.0	18.5	15.7	34.3	20.1	7.9	5.5	8.7	6.7	10.2	1.6	4.3	8.7	25.6	25.2	15.4	5.5		
	八千代台地域	175	22	23	26	47	57	27	5	10	15	24	12	5	6	17	57	42	25	10		
		100.0	12.6	13.1	14.9	26.9	32.6	15.4	2.9	5.7	8.6	13.7	6.9	2.9	3.4	9.7	32.6	24.0	14.3	5.7		
	勝田台地域	103	19	15	16	15	36	21	10	6	9	5	10	-	3	8	29	21	9	9		
		100.0	18.4	14.6	15.5	14.6	35.0	20.4	9.7	5.8	8.7	4.9	9.7	-	2.9	7.8	28.2	20.4	8.7	8.7		
村上地域	174	34	13	24	38	58	19	9	3	18	14	12	2	4	10	52	50	25	13			
	100.0	19.5	7.5	13.8	21.8	33.3	10.9	5.2	1.7	10.3	8.0	6.9	1.1	2.3	5.7	29.9	28.7	14.4	7.5			
阿蘇地域	45	8	4	11	6	19	12	5	4	3	3	2	-	3	7	7	10	5	1			
	100.0	17.8	8.9	24.4	13.3	42.2	26.7	11.1	8.9	6.7	6.7	4.4	-	6.7	15.6	15.6	22.2	11.1	2.2			
陸地域	40	4	3	10	11	16	6	-	2	2	11	2	2	1	4	1	7	12	4	2		
	100.0	10.0	7.5	25.0	27.5	40.0	15.0	-	5.0	5.0	27.5	5.0	2.5	10.0	2.5	17.5	30.0	10.0	5.0			

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

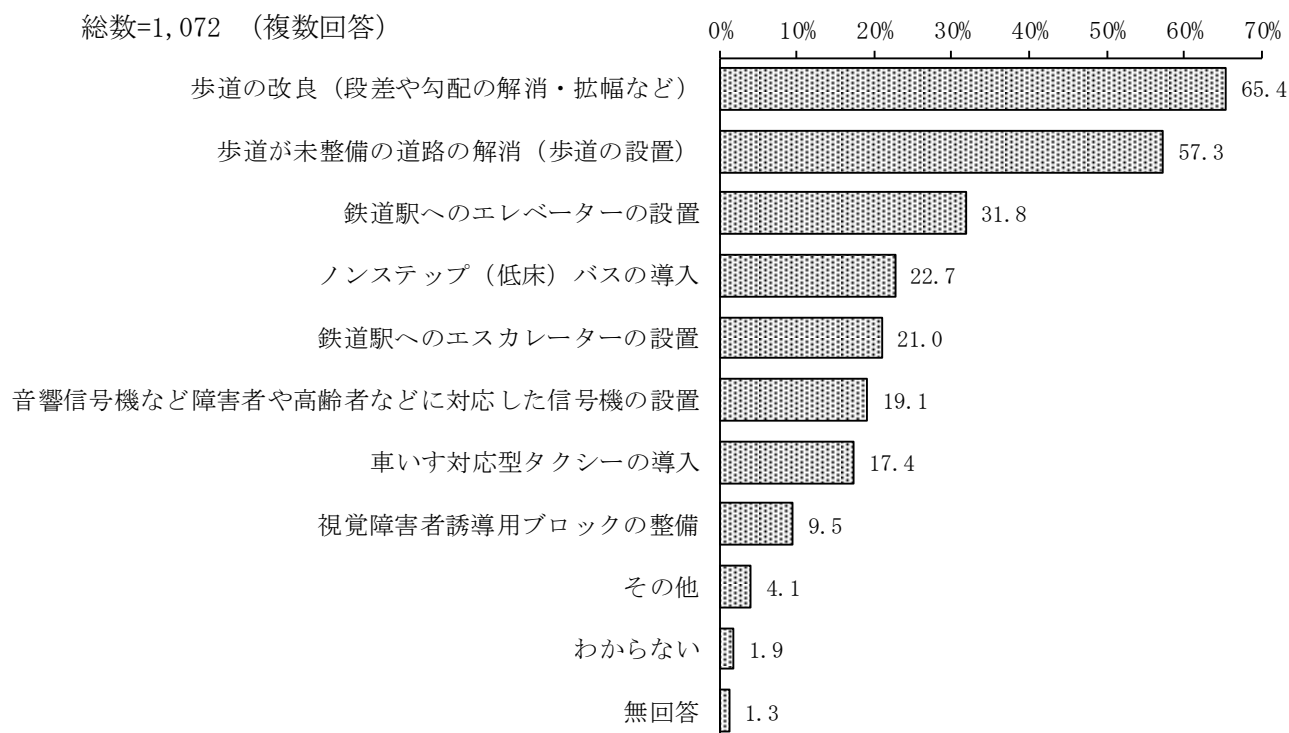
注) 「その他」、「わからない」、「無回答」は表記を省略している。

8 交通について

(1) 交通バリアフリーの優先策

問 14 交通バリアフリー化で優先的に取り組む対策は何だと思いますか。

(○は3つまで)



交通バリアフリーの優先策としては、「歩道の改良」が 65.4%で最も高く、「歩道の設置」が 57.3%、「鉄道駅へのエレベーターの設置」が 31.8%、「ノンステップ (低床) バスの導入」が 22.7%で続いている。

《時系列比較》

前回 (平成 27 年度) 調査の同様の設問でも、「歩道の改良」が最も多かった。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、概ね男女共通の傾向であるが、男性は「鉄道駅へのエスカレーターの設置」、女性は「鉄道駅へのエレベーターの設置」の割合がそれぞれ相対的に高いなどの特徴がある。

年齢別では、30 歳代で「鉄道駅へのエレベーターの設置」の割合が 48%と目立って高い。

居住地域別では、同じく「鉄道駅へのエレベーターの設置」の割合が勝田台地域で 46.6%と他地域より目立って高くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		全体	鉄道駅へのエレベーターの設置	鉄道駅へのエスカレーター	バスの導入	の車いす対応型タクシー	視覚障害者誘導用ブ	歩道の改良（段差や勾配の解消・拡幅など）	歩道が未整備の道路の解消（歩道の設置）	や高齢者などに障害し
全体		1,072 100.0	341 31.8	225 21.0	243 22.7	186 17.4	102 9.5	701 65.4	614 57.3	205 19.1
性別	男性	464 100.0	123 26.5	108 23.3	93 20.0	74 15.9	50 10.8	309 66.6	281 60.6	82 17.7
	女性	599 100.0	215 35.9	116 19.4	149 24.9	111 18.5	51 8.5	387 64.6	328 54.8	120 20.0
年齢	29歳以下	87 100.0	23 26.4	19 21.8	29 33.3	12 13.8	11 12.6	44 50.6	40 46.0	22 25.3
	30歳代	127 100.0	61 48.0	29 22.8	17 13.4	12 9.4	12 9.4	88 69.3	85 66.9	23 18.1
	40歳代	213 100.0	69 32.4	37 17.4	41 19.2	27 12.7	15 7.0	140 65.7	146 68.5	30 14.1
	50歳代	169 100.0	59 34.9	28 16.6	42 24.9	44 26.0	18 10.7	112 66.3	93 55.0	26 15.4
	60歳代	181 100.0	56 30.9	36 19.9	32 17.7	35 19.3	18 9.9	123 68.0	109 60.2	36 19.9
	70歳以上	285 100.0	70 24.6	74 26.0	80 28.1	55 19.3	27 9.5	189 66.3	135 47.4	64 22.5
居住地	大和田地域	265 100.0	60 22.6	42 15.8	66 24.9	46 17.4	30 11.3	183 69.1	151 57.0	51 19.2
	高津・緑が丘地域	254 100.0	73 28.7	48 18.9	57 22.4	51 20.1	25 9.8	177 69.7	169 66.5	50 19.7
	八千代台地域	175 100.0	67 38.3	45 25.7	31 17.7	26 14.9	10 5.7	120 68.6	101 57.7	29 16.6
	勝田台地域	103 100.0	48 46.6	34 33.0	27 26.2	14 13.6	9 8.7	59 57.3	43 41.7	22 21.4
	村上地域	174 100.0	62 35.6	40 23.0	39 22.4	34 19.5	20 11.5	99 56.9	86 49.4	32 18.4
	阿蘇地域	45 100.0	17 37.8	8 17.8	11 24.4	8 17.8	5 11.1	25 55.6	27 60.0	7 15.6
	睦地域	40 100.0	11 27.5	6 15.0	8 20.0	6 15.0	-	29 72.5	27 67.5	9 22.5

- 各属性の中で最も割合が高い選択肢
- 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

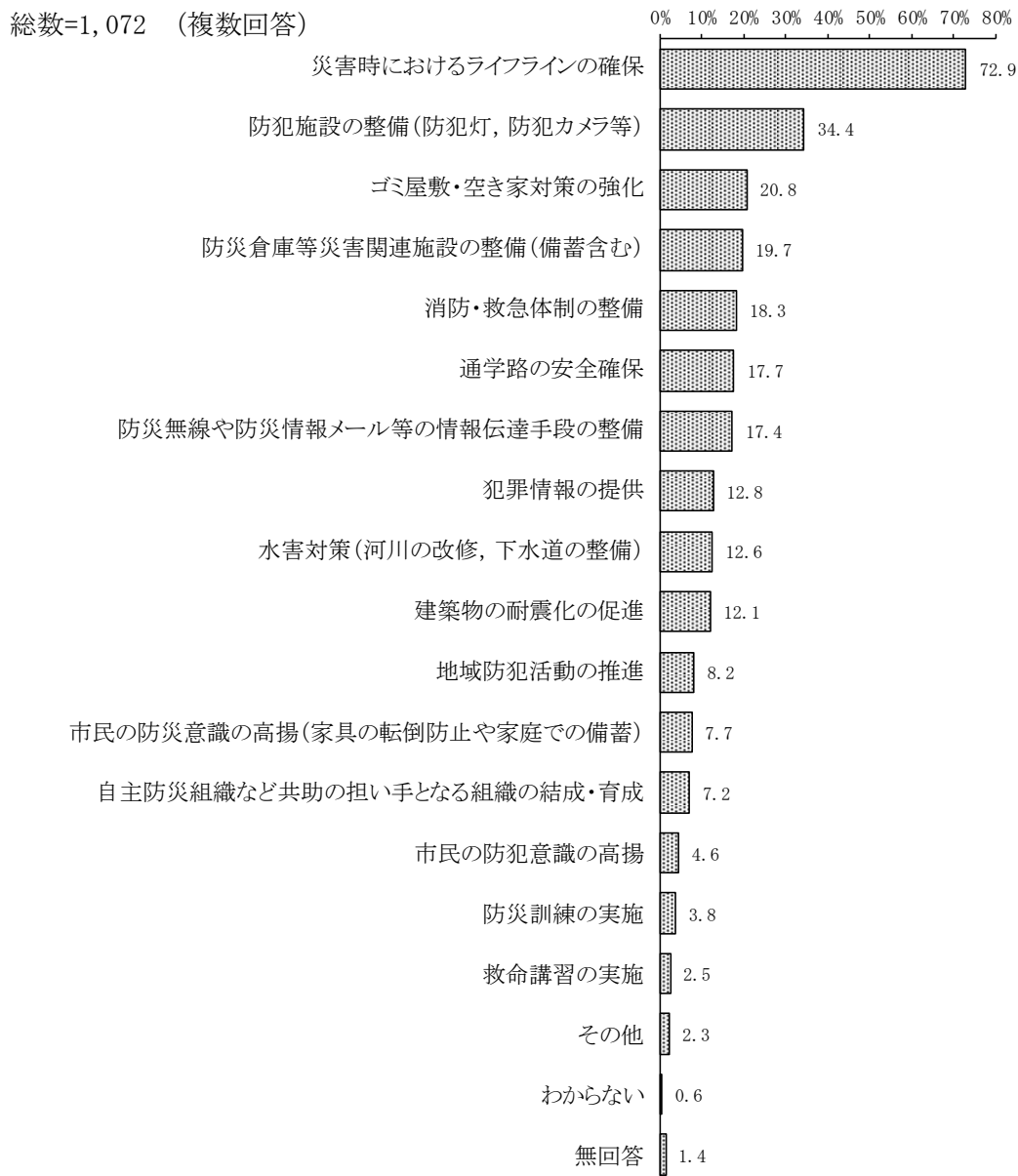
注) 「その他」、「わからない」、「無回答」は表記を省略している。

9 安心して安全なまちづくりについて

(1) 安心して安全なまちづくりのために取り組むべきこと

問 15 安心して安全なまちづくりを進める上で取り組むべきことは何だと思えますか。

(○は3つまで)



安心して安全なまちづくりのために取り組むべきこととしては、「災害時におけるライフラインの確保」が72.9%で最も高く、「防犯施設の整備」が34.4%、「ゴミ屋敷・空き家対策の強化」が20.8%、「防災倉庫等災害関連施設の整備」が19.7%で続いている。

《時系列比較》

前回(平成27年度)調査での同様の設問においても、「災害時におけるライフラインの確保」が1位であった。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女ほぼ共通の傾向であるが、男性で「消防・救急体制の整備」の割合が女性より目立って高いなどの相違もみられる。

年齢別では、上位の項目は共通であるが、29歳以下で「防災倉庫等災害関連施設の整備」の割合が25.3%、30歳代で「通学路の安全確保」の割合が35.4%、50歳代で「防災無線や防災情報メール等の情報伝達手段の整備」が24.3%と特に高いこと、「犯罪情報の提供」も年齢層によって割合がかなり異なることなどの相違もみられる。

居住地域別では、全体で2位の「防犯施設の整備」の割合が睦地域では45.0%と特に高い値であるなどの特徴がある。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	災害時の確保	防災倉庫等災害関連施設の整備(備蓄含む)	消防・救急体制の整備	防災訓練の実施	市民の防災意識の高揚(家具の転倒防止や家庭での備蓄)	防災無線や防災情報メール等の情報伝達手段の整備	自主防災組織など共助の担い手となる組織の結成・育成	建築物の耐震化の促進	犯罪情報の提供	地域防犯活動の推進	防犯施設の整備(防犯灯、防犯カメラ等)	通学路の安全確保	ゴミ屋敷・空き家対策の強化	市民の防犯意識の高揚	救命講習の実施	水道対策(河川の改修、下水道の整備)	
		回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	
全体	1,072	782	211	196	41	83	186	77	130	137	88	369	190	223	49	27	135	
	100.0	72.9	19.7	18.3	3.8	7.7	17.4	7.2	12.1	12.8	8.2	34.4	17.7	20.8	4.6	2.5	12.6	
性別	男性	464	335	90	105	21	42	37	51	64	39	166	81	92	25	9	53	
	女性	599	440	120	91	20	41	108	39	78	72	203	108	130	23	17	80	
	100.0	73.5	20.0	15.2	3.3	6.8	18.0	6.5	13.0	12.0	8.0	33.9	18.0	21.7	3.8	2.8	13.4	
年齢	29歳以下	87	57	22	13	2	8	5	17	11	7	22	17	16	6	2	13	
		100.0	65.5	25.3	14.9	2.3	9.2	5.7	19.5	12.6	8.0	25.3	19.5	18.4	6.9	2.3	14.9	
	30歳代	127	93	31	15	7	9	4	21	22	5	47	45	19	4	3	19	
		100.0	73.2	24.4	11.8	5.5	7.1	12.6	3.1	16.5	17.3	3.9	37.0	35.4	3.1	2.4	15.0	
	40歳代	213	156	46	27	8	18	31	11	21	26	22	82	49	41	10	9	29
		100.0	73.2	21.6	12.7	3.8	8.5	14.6	5.2	9.9	12.2	10.3	38.5	23.0	19.2	4.7	4.2	13.6
	50歳代	169	138	34	38	3	10	41	10	21	23	9	55	21	40	5	5	21
	100.0	81.7	20.1	22.5	1.8	5.9	24.3	5.9	12.4	13.6	5.3	32.5	12.4	23.7	3.0	3.0	12.4	
60歳代	181	142	32	39	6	9	36	17	15	28	15	53	24	42	7	4	28	
	100.0	78.5	17.7	21.5	3.3	5.0	19.9	9.4	8.3	15.5	8.3	29.3	13.3	23.2	3.9	2.2	15.5	
70歳以上	285	189	45	63	15	28	53	29	34	26	29	110	32	63	15	3	24	
	100.0	66.3	15.8	22.1	5.3	9.8	18.6	10.2	11.9	9.1	10.2	38.6	11.2	22.1	5.3	1.1	8.4	
居住地	大和田地域	265	192	46	42	14	20	43	15	34	41	26	91	55	56	7	8	41
		100.0	72.5	17.4	15.8	5.3	7.5	16.2	5.7	12.8	15.5	9.8	34.3	20.8	21.1	2.6	3.0	15.5
	高津・緑が丘地域	254	194	52	47	5	26	49	18	31	32	21	95	46	40	12	4	32
		100.0	76.4	20.5	18.5	2.0	10.2	19.3	7.1	12.2	12.6	8.3	37.4	18.1	15.7	4.7	1.6	12.6
	八千代台地域	175	122	35	40	5	5	25	14	21	20	12	56	31	51	8	4	23
		100.0	69.7	20.0	22.9	2.9	2.9	14.3	8.0	12.0	11.4	6.9	32.0	17.7	29.1	4.6	2.3	13.1
	勝田台地域	103	75	15	18	2	8	17	9	19	9	10	38	17	32	3	1	7
	100.0	72.8	14.6	17.5	1.9	7.8	16.5	8.7	18.4	8.7	9.7	36.9	16.5	31.1	2.9	1.0	6.8	
村上地域	174	126	43	34	7	19	28	13	19	21	13	53	28	28	15	6	13	
	100.0	72.4	24.7	19.5	4.0	10.9	16.1	7.5	10.9	12.1	7.5	30.5	16.1	16.1	8.6	3.4	7.5	
阿蘇地域	45	34	10	11	7	2	12	3	3	3	2	16	6	4	2	3	7	
	100.0	75.6	22.2	24.4	15.6	4.4	26.7	6.7	6.7	6.7	4.4	35.6	13.3	8.9	4.4	6.7	15.6	
睦地域	40	29	8	2	1	-	7	4	2	8	3	18	4	10	-	-	11	
	100.0	72.5	20.0	5.0	2.5	-	17.5	10.0	5.0	20.0	7.5	45.0	10.0	25.0	-	-	27.5	

各属性の中で最も割合が高い選択肢
各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

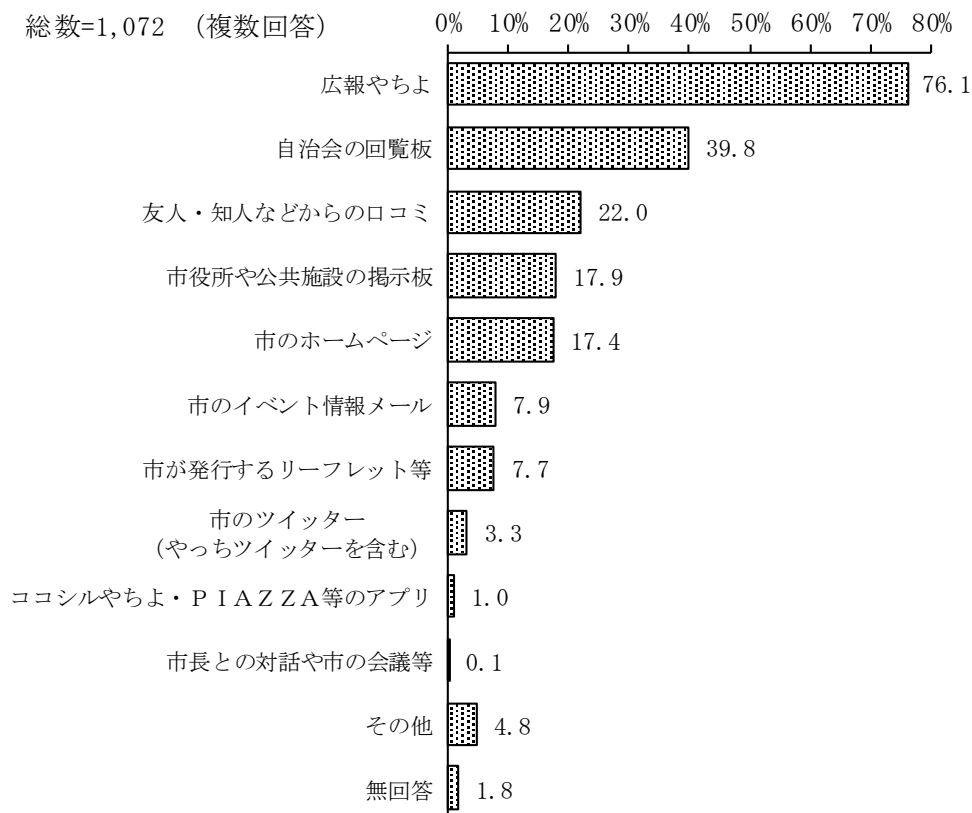
注) 「その他」, 「わからない」, 「無回答」は表記を省略している。

10 情報の提供について

(1) 市行政情報の入手方法

問 16 市の事業やイベントなどの情報をどのような手段で入手していますか。

(〇は3つまで)



市行政情報の入手方法は、「広報やちよ」が76.1%で最も高く、「自治会の回覧板」が39.8%、「友人・知人などからの口コミ」が22.0%、「市役所や公共施設の掲示板」が17.9%の順となっている。

《時系列比較》

前回(平成27年度)調査でも同様の設問を行っており、選択肢が異なるが、前回の選択肢になかった「自治会の回覧板」が今回2位を占めており、回覧板の役割の重要性を示している。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、概ね男女共通の傾向である。

年齢別では、29歳以下や30歳代では「友人・知人などからの口コミ」が2位であることや、「市のホームページ」は40～50歳代で割合が高いこと、などの特徴がみられる。

居住地域別では、「市役所や公共施設の掲示板」の割合が村上地域で特に高い、などの特徴がみられる。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

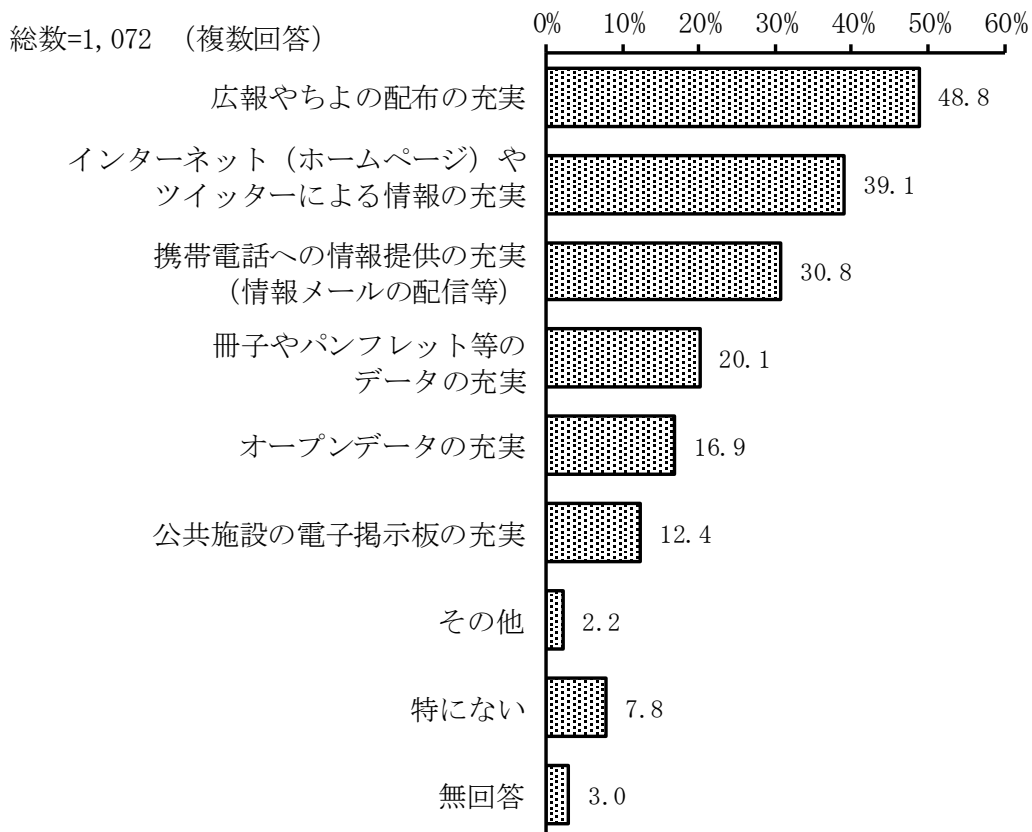
		全体	広報やちよ	市役所や公共施設の掲	友人・知人などからの	市が発行するリーフ	市のホームページ	市のイベント情報メー	市のツイッター(含む)	市のツイッター(含む)	AZコシルやちよ・P I	市長との対話や市の会	自治会の回覧板
全体		1,072 100.0	816 76.1	192 17.9	236 22.0	83 7.7	187 17.4	85 7.9	35 3.3	11 1.0	1 0.1	427 39.8	
性別	男性	464 100.0	347 74.8	85 18.3	96 20.7	37 8.0	90 19.4	26 5.6	16 3.4	2 0.4	1 0.2	188 40.5	
	女性	599 100.0	462 77.1	105 17.5	139 23.2	46 7.7	96 16.0	59 9.8	19 3.2	9 1.5	-	237 39.6	
年齢	29歳以下	87 100.0	48 55.2	11 12.6	16 18.4	5 5.7	15 17.2	2 2.3	11 12.6	1 1.1	-	10 11.5	
	30歳代	127 100.0	72 56.7	26 20.5	33 26.0	2 1.6	24 18.9	19 15.0	9 7.1	3 2.4	-	32 25.2	
	40歳代	213 100.0	138 64.8	39 18.3	49 23.0	19 8.9	52 24.4	33 15.5	11 5.2	4 1.9	-	59 27.7	
	50歳代	169 100.0	136 80.5	25 14.8	25 14.8	15 8.9	44 26.0	14 8.3	2 1.2	2 1.2	-	65 38.5	
	60歳代	181 100.0	162 89.5	28 15.5	43 23.8	15 8.3	30 16.6	1 0.6	1 0.6	-	1 0.6	93 51.4	
	70歳以上	285 100.0	254 89.1	61 21.4	68 23.9	27 9.5	21 7.4	16 5.6	1 0.4	1 0.4	-	166 58.2	
居住地	大和田地域	265 100.0	203 76.6	46 17.4	54 20.4	20 7.5	45 17.0	24 9.1	11 4.2	1 0.4	-	101 38.1	
	高津・緑が丘地域	254 100.0	179 70.5	43 16.9	61 24.0	24 9.4	53 20.9	26 10.2	9 3.5	5 2.0	-	98 38.6	
	八千代台地域	175 100.0	125 71.4	30 17.1	43 24.6	9 5.1	32 18.3	8 4.6	4 2.3	1 0.6	1 0.6	77 44.0	
	勝田台地域	103 100.0	89 86.4	19 18.4	22 21.4	8 7.8	8 7.8	8 7.8	3 2.9	2 1.9	-	49 47.6	
	村上地域	174 100.0	138 79.3	41 23.6	36 20.7	16 9.2	28 16.1	10 5.7	6 3.4	1 0.6	-	58 33.3	
	阿蘇地域	45 100.0	38 84.4	8 17.8	7 15.6	5 11.1	8 17.8	3 6.7	2 4.4	-	-	19 42.2	
	睦地域	40 100.0	35 87.5	2 5.0	10 25.0	1 2.5	11 27.5	5 12.5	-	1 2.5	-	22 55.0	

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。

(2) 情報施策への希望

問 17 今後、市に取り組んでほしい情報の提供に関する施策は何ですか。(〇は3つまで)



市の情報施策への希望としては、「広報やちよの配布の充実」が48.8%で最も高く、「インターネットやツイッターによる情報の充実」が39.1%、「携帯電話への情報提供の充実」が30.8%、「冊子やパンフレット等のデータの充実」が20.1%が続いている。

《時系列比較》

前回(平成27年度)調査での同様の設問では選択肢が異なるが、前回も「『広報やちよ』の充実」が1位であった。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、各選択肢とも男性での割合の方が高く、複数回答において男性が多く項目を選択したことを示している。

年齢別では、「広報やちよの配布の充実」は特に高齢者で割合が高く、70歳以上では75.1%となっている。一方、「インターネットやツイッターによる情報の充実」は50歳代以下の年齢層で5割前後と特に高い割合を示している。

居住地域別では、高津・緑が丘地域で「インターネットやツイッターによる情報の充実」が1位となっている。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

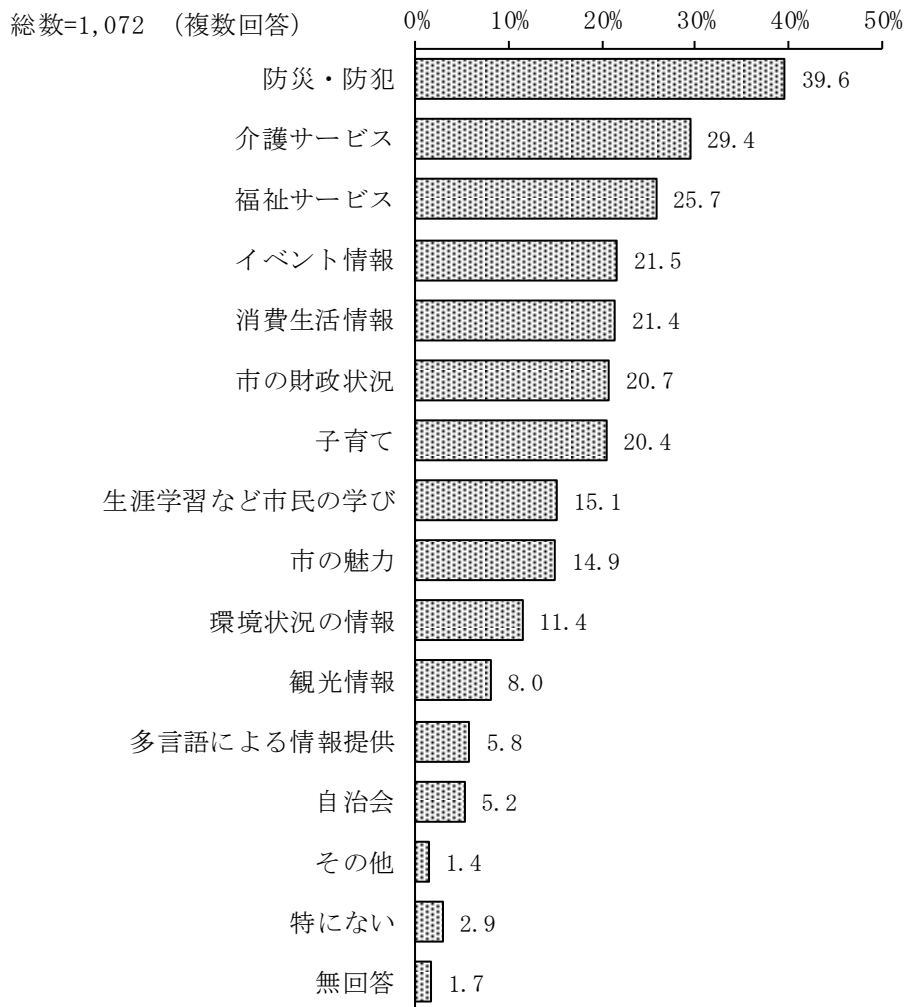
		全体	広報やちよの配布の充実	電子やタブレット等の充実	公共施設の電子掲示板の充実	インターネット（ホームページ）やツイッターによる情報の充実	携帯電話への情報提供の充実（メールの配信等）	オープンデータの充実
全体		1,072 100.0	523 48.8	216 20.1	133 12.4	419 39.1	330 30.8	181 16.9
性別	男性	464 100.0	233 50.2	103 22.2	68 14.7	200 43.1	160 34.5	100 21.6
	女性	599 100.0	284 47.4	113 18.9	65 10.9	219 36.6	170 28.4	80 13.4
年齢	29歳以下	87 100.0	16 18.4	9 10.3	12 13.8	46 52.9	15 17.2	19 21.8
	30歳代	127 100.0	41 32.3	22 17.3	11 8.7	69 54.3	27 21.3	33 26.0
	40歳代	213 100.0	68 31.9	34 16.0	22 10.3	105 49.3	73 34.3	43 20.2
	50歳代	169 100.0	72 42.6	27 16.0	28 16.6	81 47.9	67 39.6	37 21.9
	60歳代	181 100.0	107 59.1	40 22.1	19 10.5	60 33.1	55 30.4	29 16.0
	70歳以上	285 100.0	214 75.1	84 29.5	41 14.4	56 19.6	93 32.6	19 6.7
居住地	大和田地域	265 100.0	111 41.9	56 21.1	34 12.8	110 41.5	84 31.7	43 16.2
	高津・緑が丘地域	254 100.0	114 44.9	49 19.3	31 12.2	117 46.1	87 34.3	53 20.9
	八千代台地域	175 100.0	95 54.3	37 21.1	20 11.4	53 30.3	49 28.0	22 12.6
	勝田台地域	103 100.0	61 59.2	24 23.3	8 7.8	35 34.0	33 32.0	20 19.4
	村上地域	174 100.0	83 47.7	33 19.0	23 13.2	68 39.1	39 22.4	32 18.4
	阿蘇地域	45 100.0	29 64.4	13 28.9	9 20.0	13 28.9	17 37.8	4 8.9
	睦地域	40 100.0	23 57.5	4 10.0	7 17.5	18 45.0	18 45.0	5 12.5

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」, 「特にない」, 「無回答」は表記を省略している。

(3) 充実させてほしい情報提供内容

問 18 今後、市に充実させてほしい情報提供の内容は何ですか。(〇は3つまで)



今後充実させてほしい情報提供内容としては、「防災・防犯」が39.6%で最も高く、「介護サービス」が29.4%、「福祉サービス」が25.7%、「イベント情報」が21.5%の順となっている。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、上位項目は男女で共通であるが、女性では「生涯学習など市民の学び」や「子育て」の割合が男性よりも高く、男性では「市の財政状況」や「環境状況の情報」などの割合が女性より高くなっている。

年齢別では、29歳以下では「イベント情報」や「市の財政状況」、30歳代では「子育て」、40～60歳代では「防災・防犯」、70歳以上では「介護サービス」や「福祉サービス」の割合が高いなど、世代に応じた特徴がみられる。

居住地域別では、「防災・防犯」の割合が比較的高く、勝田台地域では「介護サービス」、「福祉サービス」の割合が特に高い、などの特徴がみられる。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	市の魅力	多言語情報提供による	消費生活情報	自治会	市の財政状況	防災・防犯	介護サービス	福祉サービス	観光情報	子育て	環境状況の情報	市民の学習など	イベント情報	
全体	1,072 100.0	160 14.9	62 5.8	229 21.4	56 5.2	222 20.7	424 39.6	315 29.4	276 25.7	86 8.0	219 20.4	122 11.4	162 15.1	231 21.5	
性別	男性	464 100.0	82 17.7	29 6.3	100 21.6	31 6.7	114 24.6	188 40.5	129 27.8	117 25.2	40 8.6	82 17.7	63 13.6	54 11.6	107 23.1
	女性	599 100.0	77 12.9	33 5.5	126 21.0	24 4.0	106 17.7	232 38.7	183 30.6	158 26.4	46 7.7	137 22.9	58 9.7	107 17.9	122 20.4
年齢	29歳以下	87 100.0	19 21.8	9 10.3	9 10.3	1 1.1	26 29.9	22 25.3	7 8.0	16 18.4	12 13.8	25 28.7	5 5.7	5 5.7	26 29.9
	30歳代	127 100.0	12 9.4	7 5.5	16 12.6	3 2.4	24 18.9	52 40.9	15 11.8	21 16.5	13 10.2	77 60.6	8 6.3	13 10.2	44 34.6
	40歳代	213 100.0	21 9.9	14 6.6	34 16.0	4 1.9	38 17.8	98 46.0	52 24.4	34 16.0	19 8.9	63 29.6	14 6.6	35 16.4	63 29.6
	50歳代	169 100.0	19 11.2	14 8.3	47 27.8	2 1.2	32 18.9	82 48.5	58 34.3	53 31.4	17 10.1	19 11.2	31 18.3	31 18.3	30 17.8
	60歳代	181 100.0	26 14.4	11 6.1	48 26.5	7 3.9	38 21.0	73 40.3	59 32.6	53 29.3	13 7.2	16 8.8	23 12.7	33 18.2	32 17.7
	70歳以上	285 100.0	62 21.8	7 2.5	71 24.9	38 13.3	62 21.8	93 32.6	122 42.8	98 34.4	12 4.2	19 6.7	39 13.7	44 15.4	34 11.9
居住地	大和田地域	265 100.0	35 13.2	12 4.5	51 19.2	9 3.4	48 18.1	114 43.0	74 27.9	69 26.0	25 9.4	61 23.0	28 10.6	41 15.5	72 27.2
	高津・緑が丘地域	254 100.0	44 17.3	10 3.9	60 23.6	9 3.5	55 21.7	109 42.9	72 28.3	63 24.8	25 9.8	56 22.0	25 9.8	42 16.5	54 21.3
	八千代台地域	175 100.0	29 16.6	13 7.4	35 20.0	14 8.0	42 24.0	63 36.0	54 30.9	43 24.6	13 7.4	31 17.7	20 11.4	20 11.4	31 17.7
	勝田台地域	103 100.0	12 11.7	8 7.8	23 22.3	11 10.7	22 21.4	25 24.3	37 35.9	35 34.0	3 2.9	25 24.3	11 10.7	17 16.5	14 13.6
	村上地域	174 100.0	21 12.1	11 6.3	37 21.3	7 4.0	36 20.7	71 40.8	47 27.0	36 20.7	15 8.6	25 14.4	28 16.1	31 17.8	37 21.3
	阿蘇地域	45 100.0	12 26.7	4 8.9	6 13.3	4 8.9	5 11.1	19 42.2	15 33.3	10 22.2	1 2.2	10 22.2	2 4.4	8 17.8	16 35.6
	睦地域	40 100.0	6 15.0	3 7.5	12 30.0	1 2.5	10 25.0	15 37.5	13 32.5	16 40.0	4 10.0	8 20.0	5 12.5	2 5.0	4 10.0

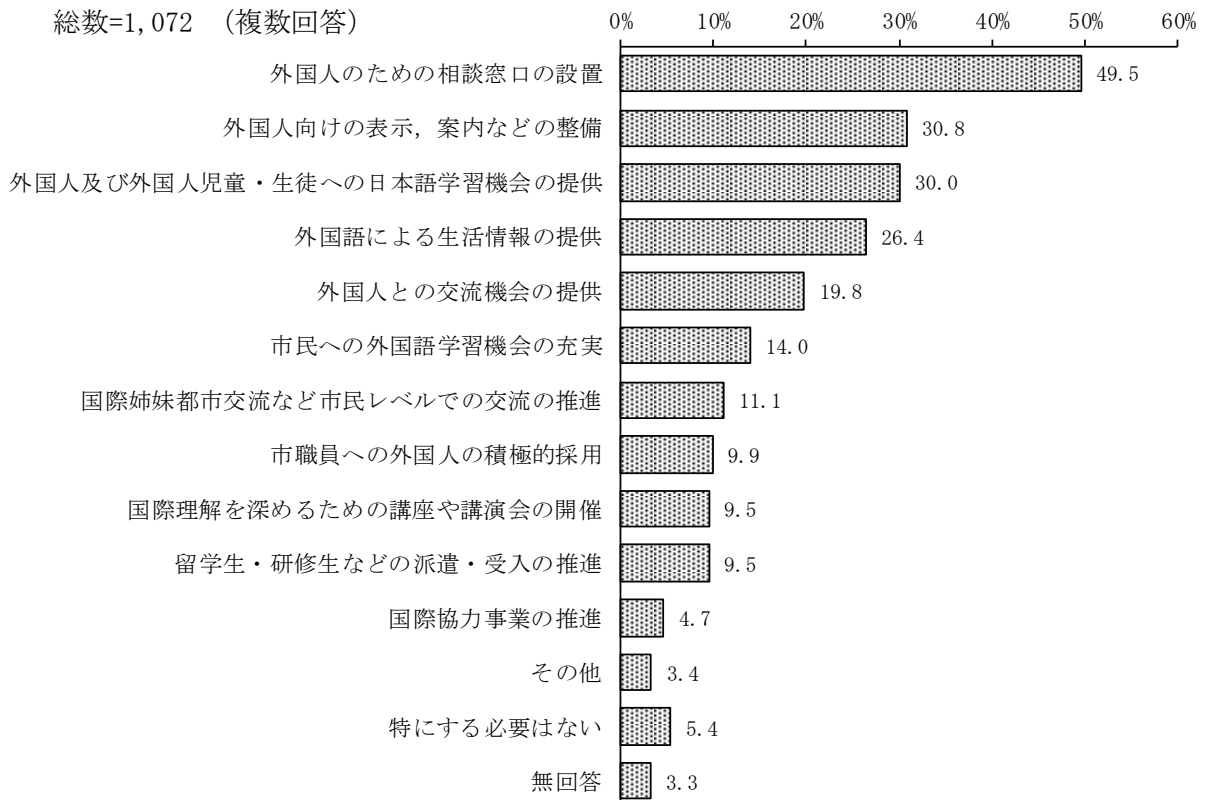
各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」, 「特になし」, 「無回答」は表記を省略している。

11 多文化共生について

(1) 多文化共生の施策

問 19 八千代市は、アメリカ合衆国テキサス州タイラー市と国際姉妹都市提携、タイ王国バンコク都と友好都市提携をしています。また、市内に住む外国人は増加しており、3月末現在、5,400人を超えています。このことを踏まえて、今後、市としてどのような施策を行っていくべきだと思いますか。（○は3つまで）



多文化共生の施策としては、「外国人のための相談窓口の設置」が 49.5%で最も高く、「外国人向けの表示、案内などの整備」が 30.8%、「日本語学習機会の提供」が 30.0%、「外国語による生活情報の提供」が 26.4%の順である。

《時系列比較》

前回（平成 27 年度）調査での同様の設問とは一部選択肢が異なるが、概ね前回と同様の傾向となっている。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男性で「日本語学習機会の提供」が 2 位であるのに対し、女性では「外国人向けの表示、案内などの整備」が 2 位であるなどの相違がみられる。

年齢別では、「外国人向けの表示、案内などの整備」の割合が、特に29歳以下と60歳代で高いのが目立つ。

居住地域別では、勝田台地域や阿蘇地域で「日本語学習機会の提供」の割合が特に高く、また、睦地域では「外国人向けの表示、案内などの整備」や「外国語による生活情報の提供」の割合の高さが目立つ。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	外国人の ための 相談窓 口	外国人 向けの 表示、 案内	外国 語に よる 生活 情報 の	外国 人及 び日 本語 学 習機 会・	国際 座 理 解 や 講 演 を 深 め る た め の	国際 レ ベ ル 姉 妹 都 の 交 流 な ど 推 進	外国 人 と の 交 流 機 会 の 提 供	留 学 生 ・ 研 修 生 な ど の 派 遣	市 職 員 へ の 外 国 人 の 積 極 的 採 用	市民 への 外 国 語 学 習 機 会	国際 協 力 事 業 の 推 進
		回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数	構成比 (%)	回答数
全体	1,072	531	330	283	322	102	119	212	102	106	150	50
性別												
男性	464	210	134	104	148	51	62	101	54	52	66	26
女性	599	317	196	178	173	51	56	109	47	53	83	23
年齢												
29歳以下	87	39	43	27	16	8	12	15	9	9	10	5
30歳代	127	64	35	35	38	10	17	22	9	24	23	8
40歳代	213	93	52	57	72	18	31	57	25	25	42	9
50歳代	169	96	45	50	51	15	21	32	16	16	24	5
60歳代	181	93	69	48	55	17	11	30	11	9	17	7
70歳以上	285	141	84	63	89	34	26	54	31	22	33	15
居住地												
大和田地域	265	114	78	77	79	29	29	52	20	19	39	13
高津・緑が丘地域	254	132	81	62	73	19	30	65	29	30	33	19
八千代台地域	175	92	52	51	50	17	18	33	17	10	20	4
勝田台地域	103	55	28	21	40	14	13	18	9	13	15	4
村上地域	174	96	58	45	54	16	18	29	13	24	29	8
阿蘇地域	45	21	11	10	16	3	6	7	4	5	7	-
睦地域	40	14	19	14	7	3	3	5	9	4	4	1

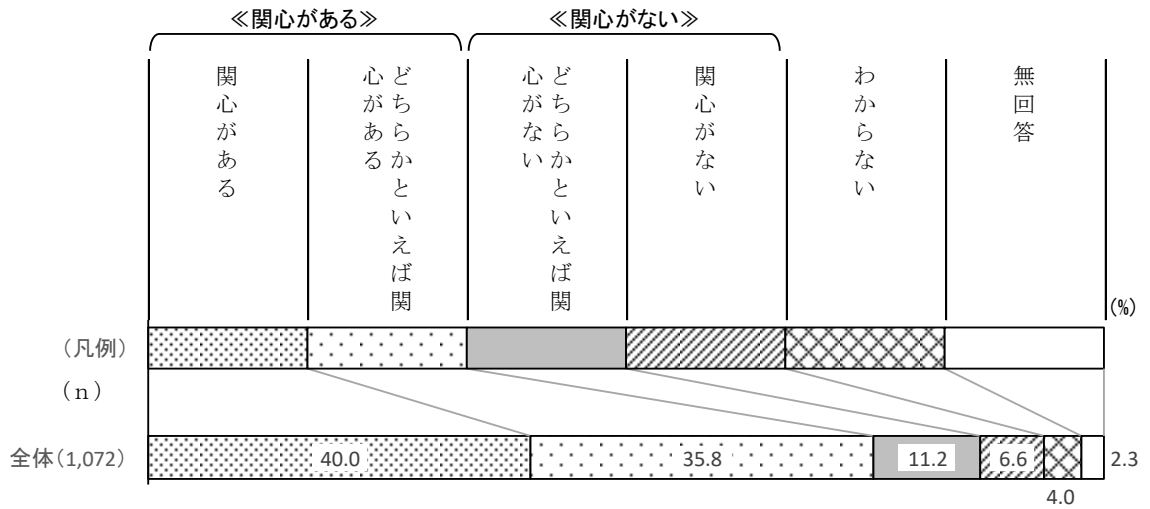
各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」, 「特にする必要はない」, 「無回答」は表記を省略している。

12 食育について

(1) 食育への関心度

問 20 食育に関心がありますか。(○は1つ)

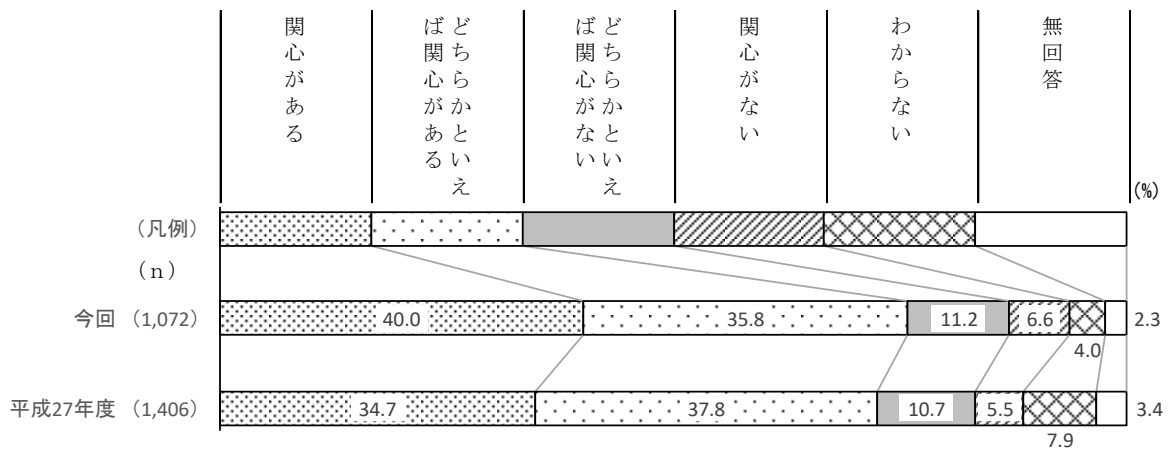


食育に対しては、「関心がある」が40.0%、「どちらかといえば関心がある」が35.8%で、合わせた《関心がある》が75.8%となる。一方、「どちらかといえば関心がない」が11.2%、「関心がない」が6.6%で、合わせた《関心がない》は17.8%となる。

《時系列比較》

前回（平成27年度）調査では《関心がある》は72.5%であったので、食育への関心度はわずかながら上昇したともみられる。

<時系列比較>

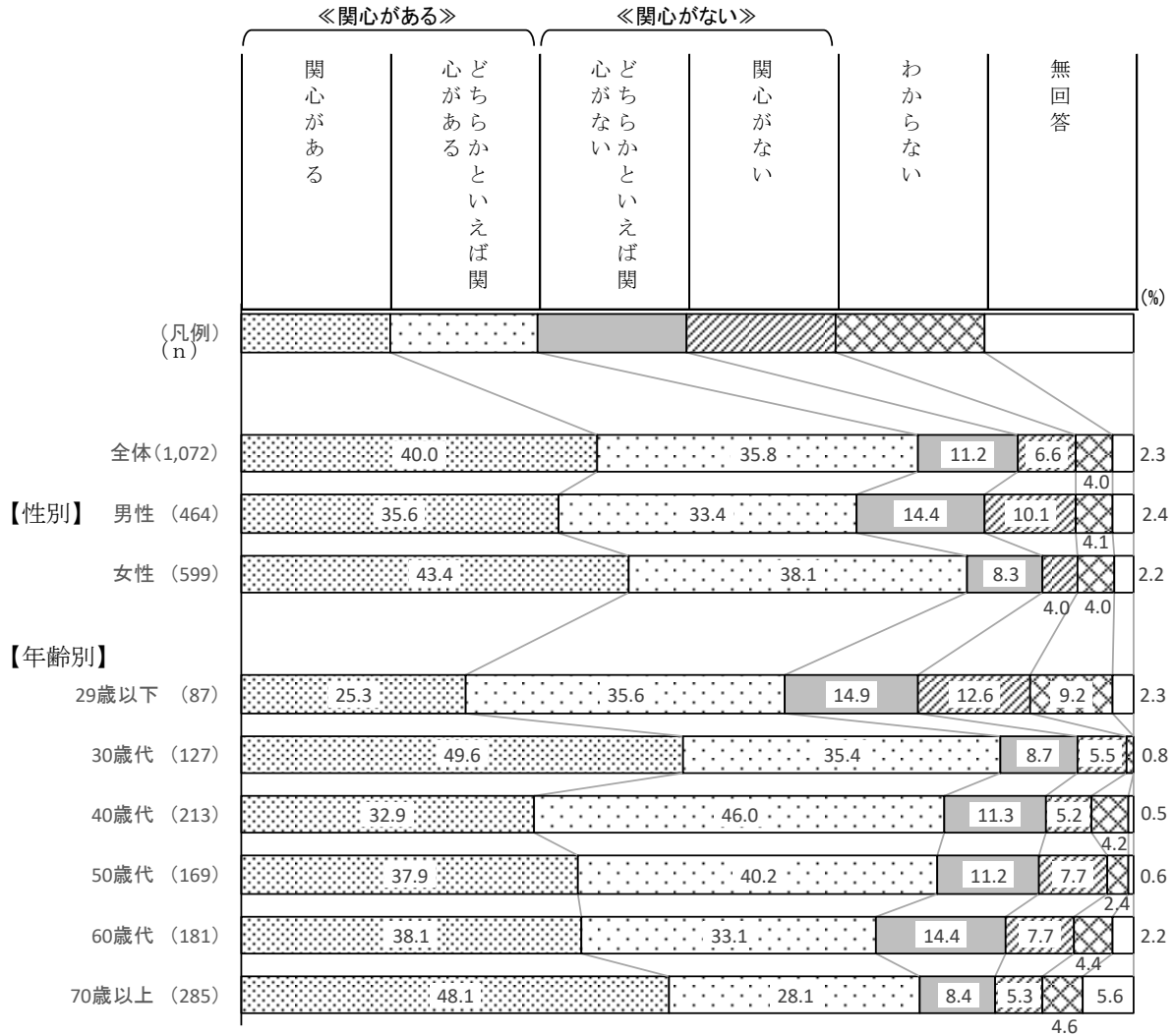


《性別・年齢別》

性別では、女性の方が男性よりも《関心がある》の割合が高く、8割を超えている。

年齢別では、特に、30歳代での関心度の高さが目立ち、《関心がある》は85.0%となっている。

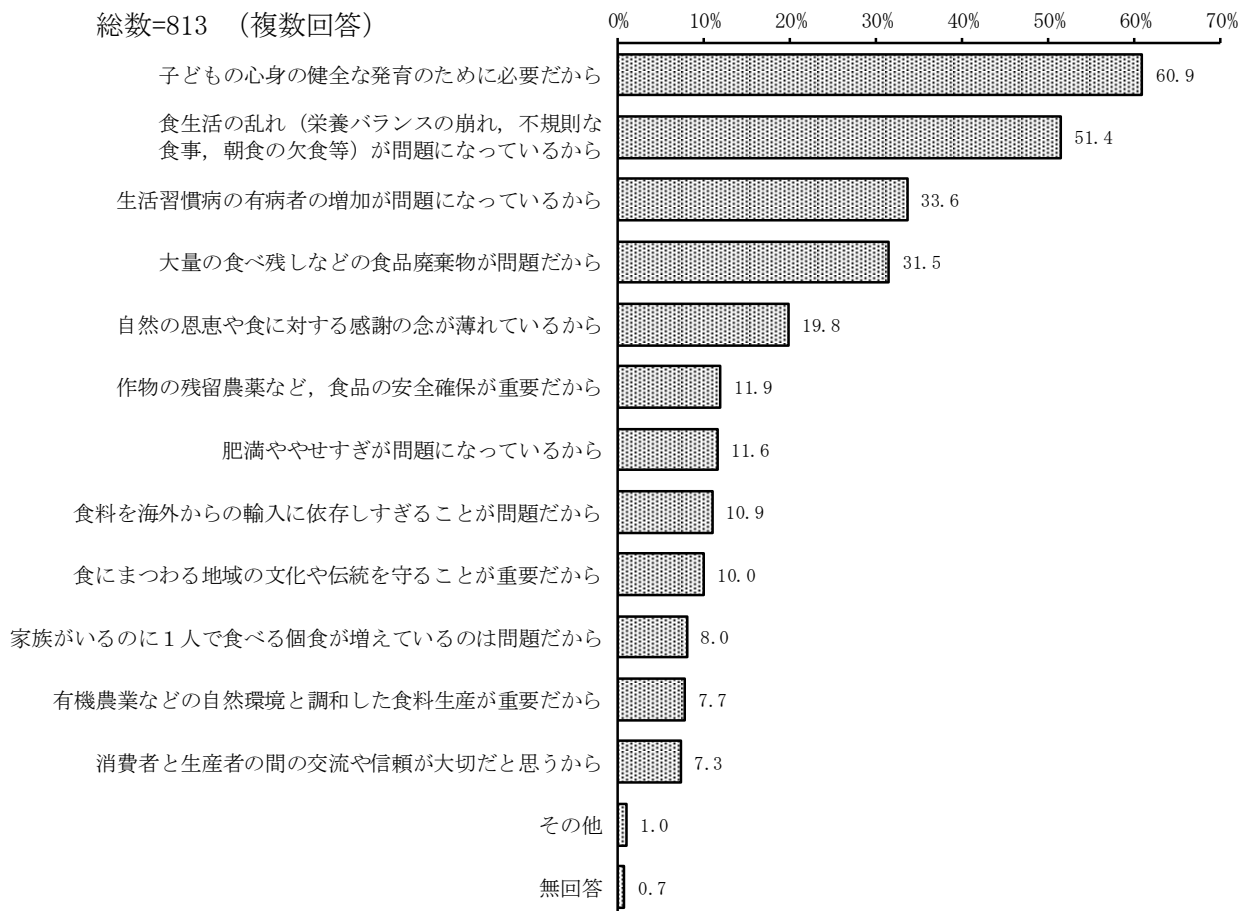
＜性別・年齢別＞



(1-1) 食育に関心がある理由

(問 20 で「1 関心がある」「2 どちらかといえば関心がある」とお答えの方にお尋ねします)

問 20-1 食育に関心がある理由は何ですか。(○は3つまで)



食育に「関心がある」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」が 60.9%で最も高く、「食生活の乱れが問題になっているから」が 51.4%、「生活習慣病の有病者の増加が問題になっているから」が 33.6%、「大量の食べ残しなどの食品廃棄物が問題だから」が 31.5%の順となっている。

《時系列比較》

前回(平成 27 年度)調査での同様の設問では選択肢が異なるが、上位の項目は概ね同様の傾向であった。

《性別・年齢別》

性別では、共通で最上位の「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」、 「食生活の乱れが問題になっているから」や「大量の食べ残しなどの食品廃棄物が問題だから」の割合で女性の方が高い一方、「生活習慣病の有病者の増加が問題になっているから」や「肥満ややせすぎが問題になっているから」の割合は男性の方が高いなどの相違もみられる。

年齢別では、29歳以下で「食生活の乱れが問題になっているから」の割合が69.8%と特に高く、「肥満ややせすぎが問題になっているから」の割合も22.6%と他の年齢層よりも目立って高い。

<性別・年齢別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		に子どもの心身の健全な発育のため	食生活の乱れ(栄養バランスの崩れ)が問題になっているから	肥満ややせすぎが問題になっているから	生活習慣病の有病者の増加が問題になっているから	作物の残留農薬など、食品の安全確保が重要だから	食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが重要だから	食料を海外からの輸入に依存しすぎることが問題だから	消費者と生産者の間の交流や信頼が大切だと思えるから	有機農業などの自然環境と調和した食料生産が重要だから	大量の食べ残しなどの食品廃棄物が問題だから	自然の恩恵や食に対する感謝の念が薄れているから	家族が増えているのに1人で食べる個食が増えているのだから	
	全体	813 100.0	495 60.9	418 51.4	94 11.6	273 33.6	97 11.9	81 10.0	89 10.9	59 7.3	63 7.7	256 31.5	161 19.8	65 8.0
性別	男性	320 100.0	182 56.9	162 50.6	46 14.4	116 36.3	33 10.3	38 11.9	31 9.7	24 7.5	22 6.9	93 29.1	76 23.8	16 5.0
	女性	488 100.0	312 63.9	256 52.5	47 9.6	155 31.8	63 12.9	43 8.8	58 11.9	34 7.0	40 8.2	160 32.8	84 17.2	47 9.6
年齢	29歳以下	53 100.0	29 54.7	37 69.8	12 22.6	19 35.8	3 5.7	7 13.2	2 3.8	1 1.9	5 9.4	17 32.1	4 7.5	4 7.5
	30歳代	108 100.0	78 72.2	56 51.9	15 13.9	28 25.9	9 8.3	12 11.1	3 2.8	6 5.6	4 3.7	31 28.7	27 25.0	9 8.3
	40歳代	168 100.0	123 73.2	86 51.2	14 8.3	56 33.3	11 6.5	22 13.1	7 4.2	6 3.6	10 6.0	45 26.8	38 22.6	13 7.7
	50歳代	132 100.0	76 57.6	70 53.0	16 12.1	47 35.6	18 13.6	15 11.4	18 13.6	9 6.8	11 8.3	46 34.8	20 15.2	10 7.6
	60歳代	129 100.0	74 57.4	64 49.6	12 9.3	48 37.2	21 16.3	7 5.4	20 15.5	9 7.0	9 7.0	38 29.5	26 20.2	9 7.0
	70歳以上	217 100.0	113 52.1	105 48.4	23 10.6	73 33.6	33 15.2	18 8.3	38 17.5	27 12.4	23 10.6	75 34.6	46 21.2	19 8.8

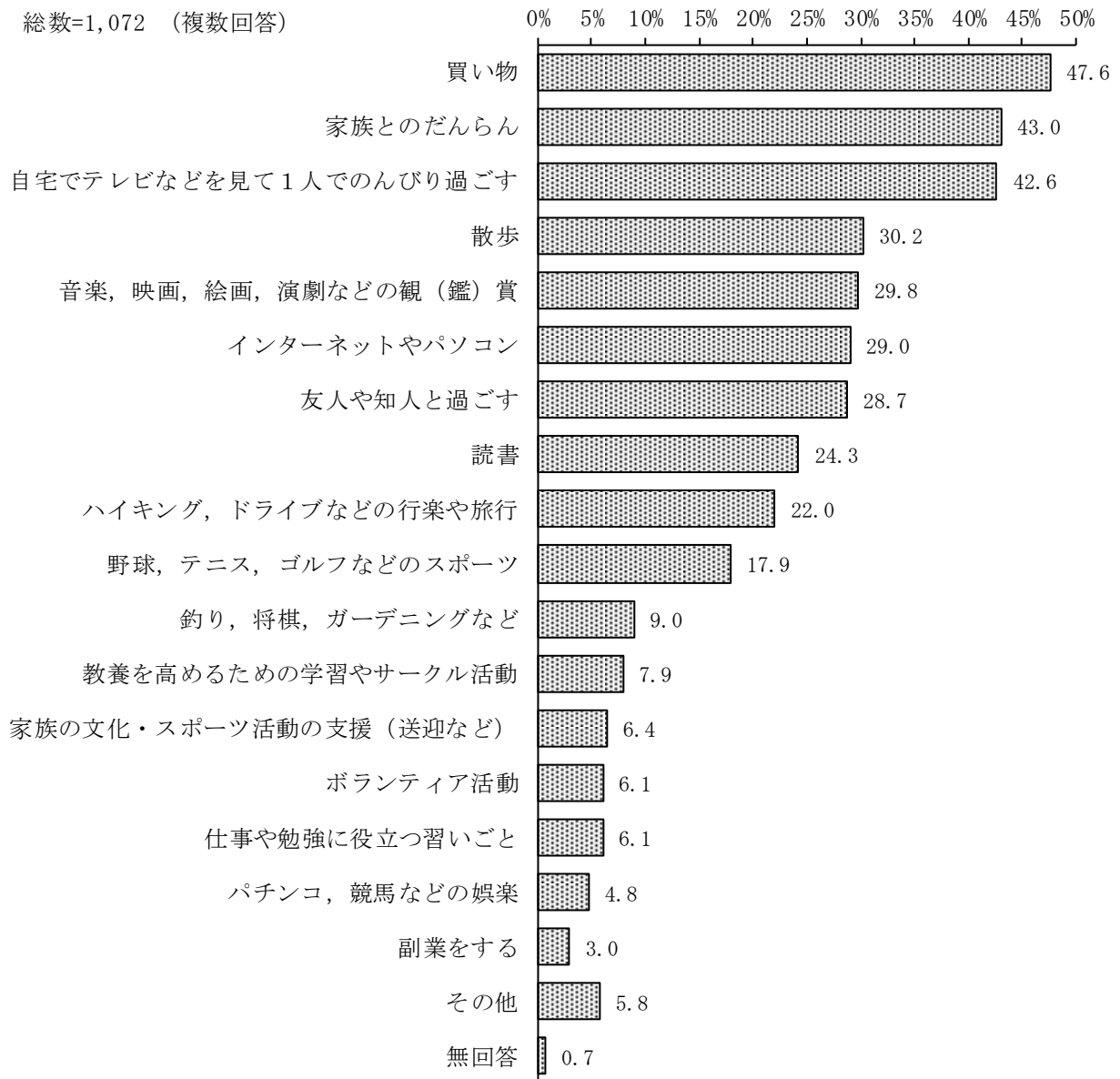
各属性の中で最も割合が高い選択肢
各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。

13 余暇の過ごし方について

(1) 余暇時間の過ごし方

問 21 余暇時間の過ごし方として、よく行っていることは、何ですか。(〇はいくつでも)



余暇時間の過ごし方は、「買い物」が47.6%で最も高く、「家族とのだんらん」が43.0%、「自宅で1人でのんびり過ごす」が42.6%、「散歩」が30.2%と続いている。

《時系列比較》

前回(平成27年度)調査での同様の設問と、上位項目ではほぼ共通の傾向である。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「買い物」が最多なのは女性で、男性は「自宅で1人でのんびり過ごす」が最も高くなっている。

年齢別では、「買い物」が最多なのは50歳代のみで、29歳以下は「音楽、映画、絵画、演劇などの観（鑑）賞」が、30歳代及び40歳代は「家族とのだんらん」が、60歳代は「自宅で1人でのんびり過ごす」が、70歳以上は「散歩」がそれぞれ最多と、年齢により相違がある。

居住地域別でも、地域により順位に差がみられ、勝田台地域では特に「家族とのだんらん」が最も高いなどの特徴がみられる。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	散歩	家族とのだんらん	友人や知人と過ごす	釣り、将棋、ガーデニングなど	読書	音楽、映画、絵画、演劇などの観（鑑）賞	1人で自宅でのんびり過ごす	パチンコ、競馬などの娯楽	野球、テニス、ゴルフなど	ボランティア活動	インターネットやパソコン	仕事や勉強に役立つ習いごと	教養を高めるための学習やサークル活動	ハイキングや旅、ドライブなど	買い物	家族の文化・スポーツ活動（送迎など）	副業をする
全体	1,072	324	461	308	96	260	319	457	51	192	65	311	65	85	236	510	69	32
性別	100.0	30.2	43.0	28.7	9.0	24.3	29.8	42.6	4.8	17.9	6.1	29.0	6.1	7.9	22.0	47.6	6.4	3.0
男性	464	174	180	94	53	112	122	181	36	124	31	151	24	23	114	170	23	18
女性	599	147	280	211	43	145	194	274	15	67	34	157	41	62	122	339	46	14
年齢	100.0	24.5	46.7	35.2	7.2	24.2	32.4	45.7	2.5	11.2	5.7	26.2	6.8	10.4	20.4	56.6	7.7	2.3
29歳以下	87	19	38	41	3	25	51	45	6	14	2	44	9	6	21	48	2	3
30歳代	127	15	82	38	4	17	31	37	6	13	-	41	14	5	26	77	10	2
40歳代	213	29	124	51	12	34	54	80	8	39	7	81	10	11	53	122	37	5
50歳代	169	47	83	39	9	36	60	66	12	35	7	51	10	14	44	92	5	6
60歳代	181	63	57	53	28	43	55	99	12	44	12	45	13	18	37	71	8	8
70歳以上	285	148	76	83	40	102	64	128	7	46	37	44	9	31	55	97	7	8
居住地	100.0	51.9	26.7	29.1	14.0	35.8	22.5	44.9	2.5	16.1	13.0	15.4	3.2	10.9	19.3	34.0	2.5	2.8
大和田地域	265	80	133	65	26	47	71	106	14	43	14	84	15	19	55	126	24	10
高津・緑が丘地域	254	64	110	79	15	66	81	112	10	47	10	69	18	23	66	129	15	8
八千代台地域	175	48	66	47	19	46	52	77	2	30	11	48	11	10	41	80	11	2
勝田台地域	103	40	44	27	11	31	29	39	4	18	13	23	6	9	21	43	6	1
村上地域	174	53	73	52	15	49	59	80	14	39	10	61	9	16	35	89	11	5
阿蘇地域	45	19	18	17	5	10	12	19	4	5	5	13	2	4	7	24	2	-
睦地域	40	17	12	17	5	7	10	20	3	9	2	8	3	3	10	14	-	6
	100.0	42.5	30.0	42.5	12.5	17.5	25.0	50.0	7.5	22.5	5.0	20.0	7.5	7.5	25.0	35.0	-	15.0

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

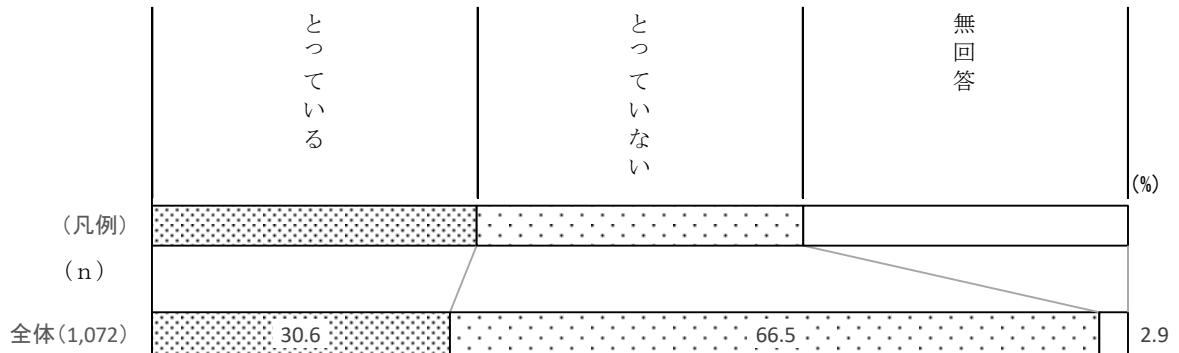
注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。

14 生涯学習や文化活動、スポーツ活動について

(1) 生涯学習・文化活動、スポーツ活動の有無

問 22 仕事や学業以外で趣味や教養、自己の能力を高めるための学習時間（スポーツ活動を含む）をとっていますか。（〇は1つずつ）

■生涯学習・文化活動

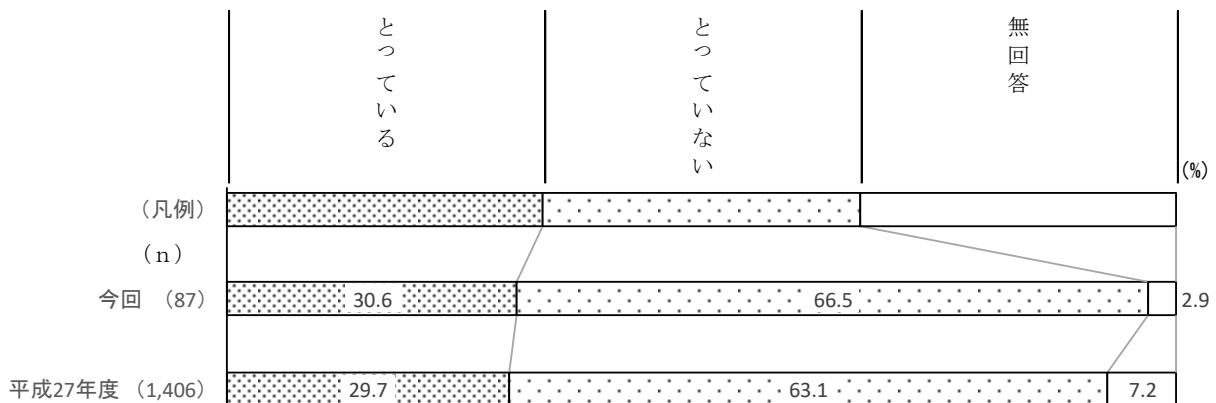


生涯学習・文化活動の時間を「とっていない」が66.5%、「とっている」は30.6%となっている。

《時系列比較》

前回（平成27年度）調査との比較では、「とっている」、「とっていない」ともにわずかに割合が上昇しているが、これは「無回答」の割合の低下によるもので、全体の傾向はほとんど同様とみられる。

<時系列比較>



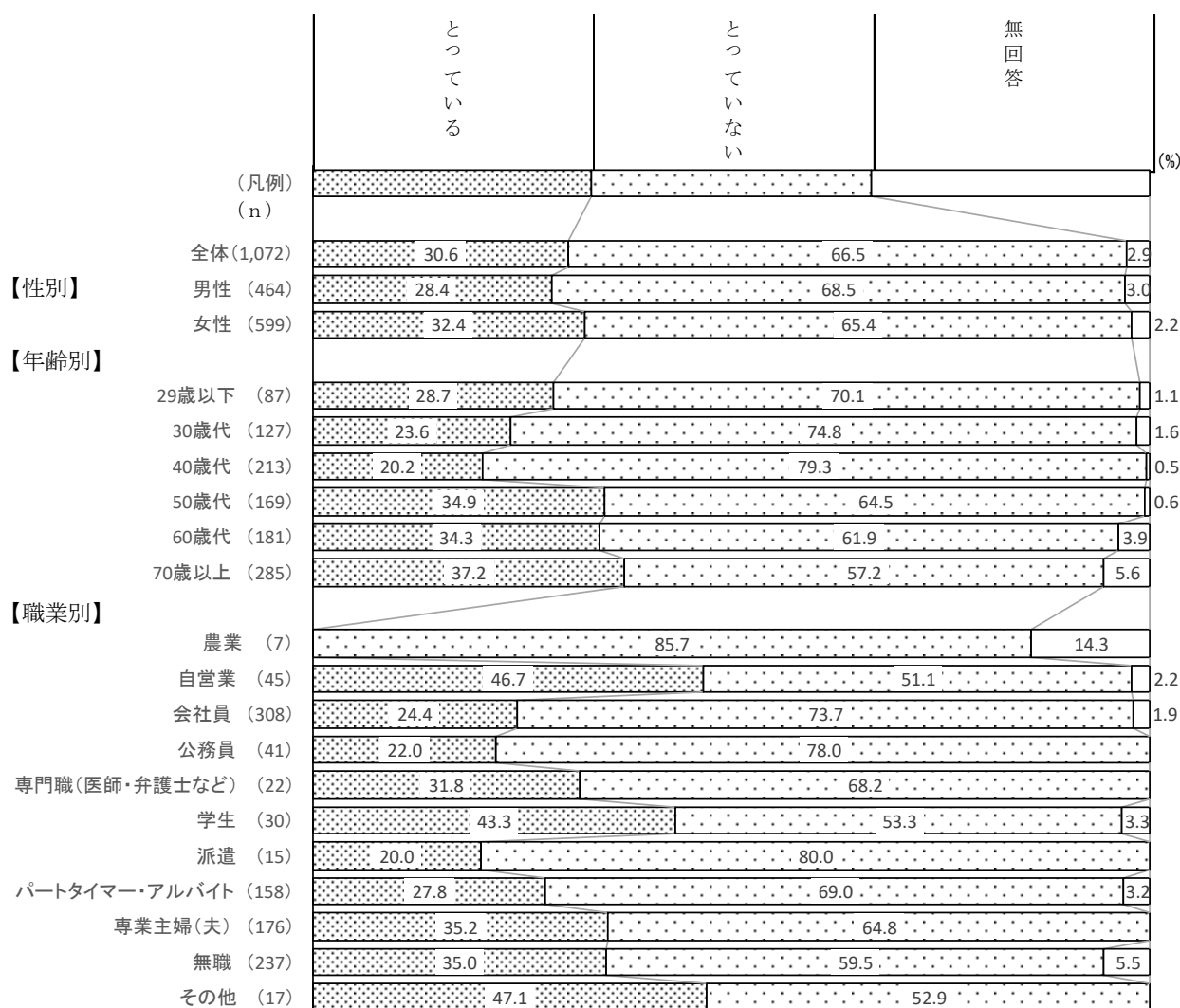
《性別・年齢別・職業別》

性別では、女性の方が「とっている」割合がやや高い。

年齢別では、「とっている割合」は40歳代で最も低く20.2%で、50～60歳代では3割台半ば、70歳以上では37.2%となっている。

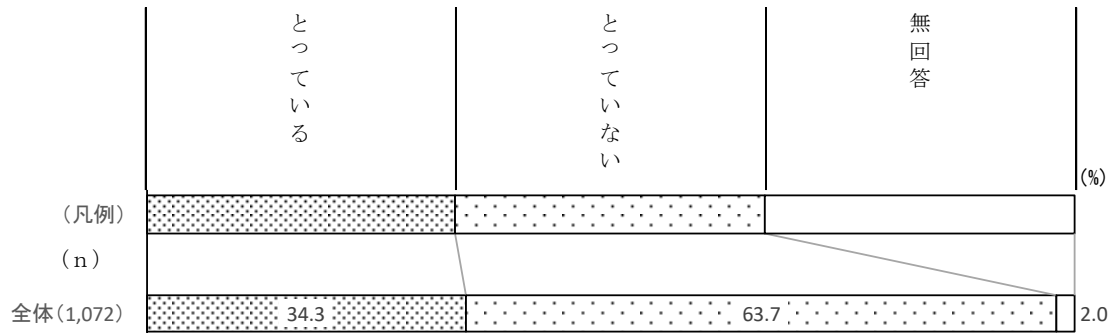
職業別では、自営業や学生で「とっている」割合が比較的高い。

<性別・年齢別・職業別>



問 22 仕事や学業以外で趣味や教養，自己の能力を高めるための学習時間（スポーツ活動を含む）をとっていますか。（○は1つずつ）

■スポーツ活動

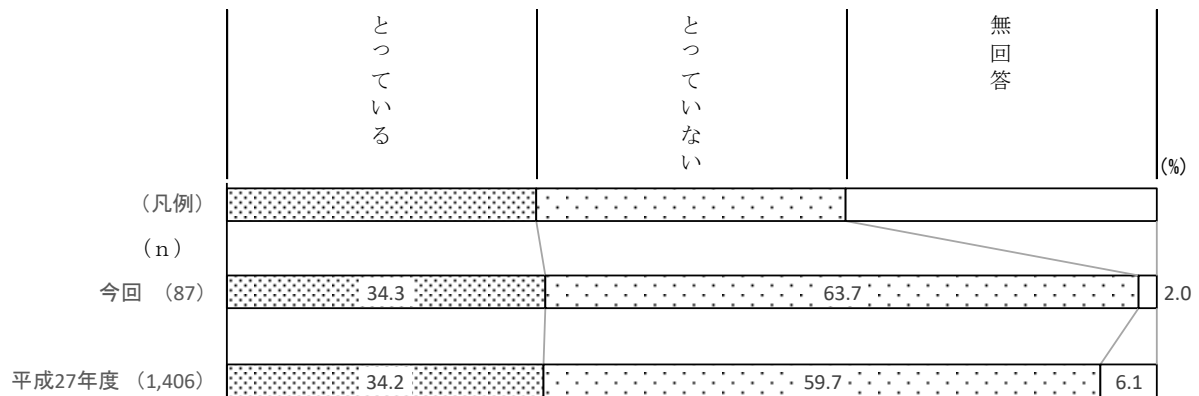


スポーツ活動の時間を「とっていない」が63.7%，「とっている」は34.3%となっている。

《時系列比較》

前回（平成27年度）調査における「とっている」の割合は34.2%で，ほぼ同様の結果である。なお，無回答の割合の相違により，「とっていない」の割合は前回より増加している。

<時系列比較>



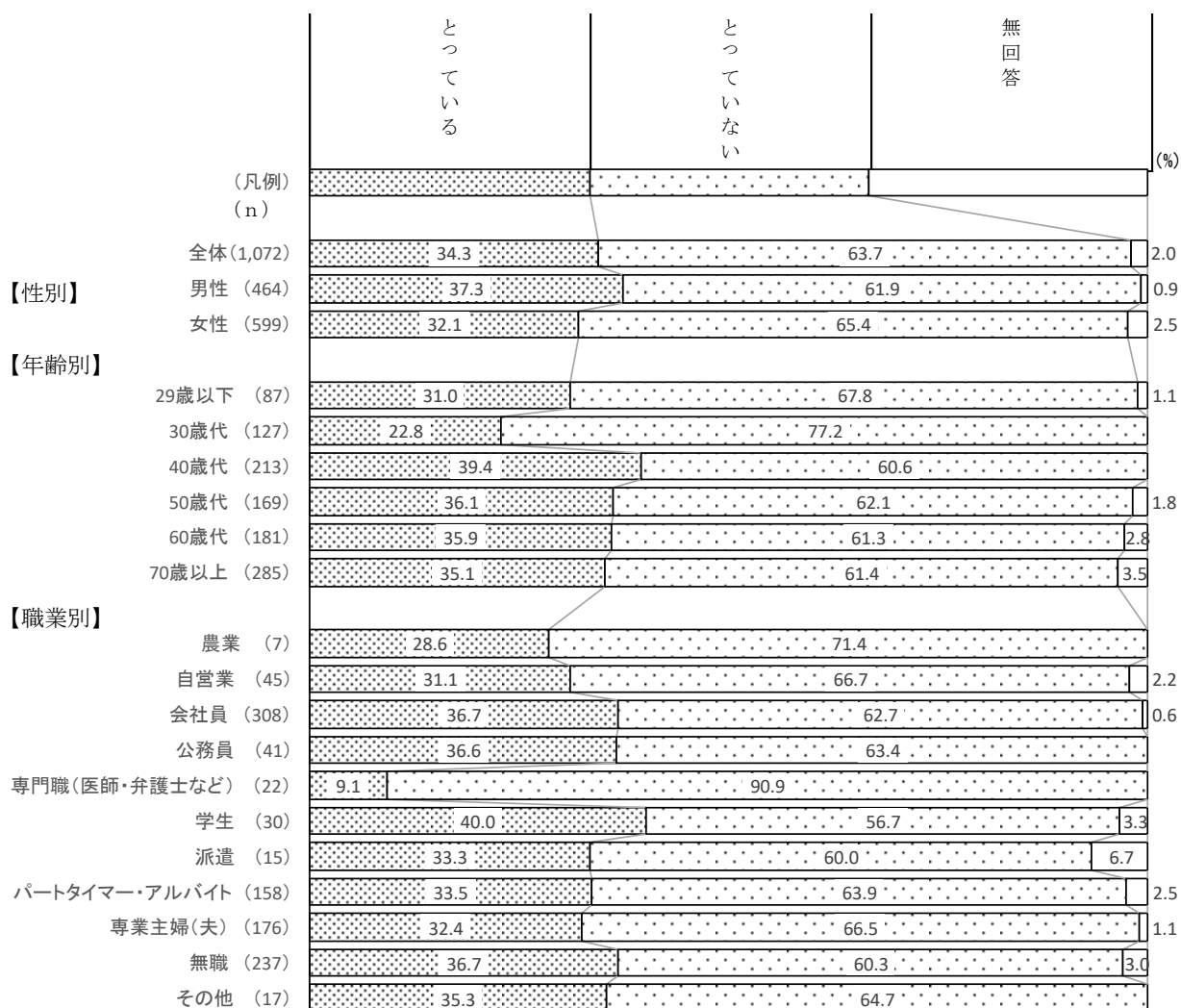
《性別・年齢別・職業別》

性別では、生涯学習・文化活動とは逆に、男性の方が「とっている」割合がやや高い。

年齢別では、30歳代で「とっている」割合が特に低く22.8%で、40歳代ではこれが39.4%に急上昇している。

職業別では、全体に大きな相違がない中で、専門職だけが（回答者数が少ないが）9.1%と小さい値である。

<性別・年齢別・職業別>

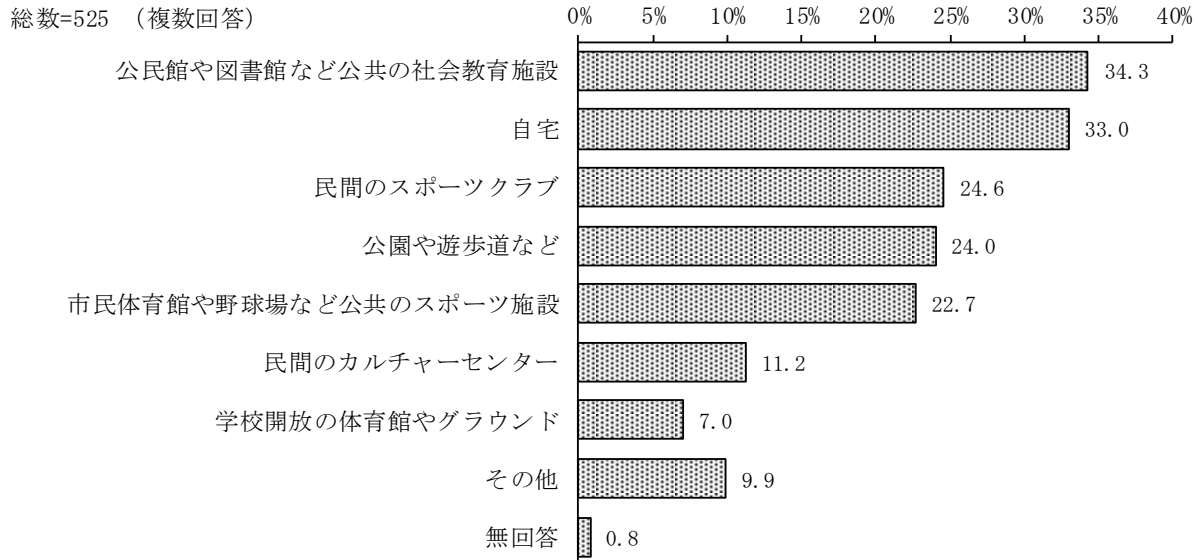


(1-1) 学習や文化・スポーツ活動の場所

(問 22 で (1) か (2) のどちらか1つでも「1 としている」とお答えの方にお尋ねします)

問 22-1 学習や文化、スポーツ活動をするために使っている場所はどのようなところですか。

(○はいくつでも)



生涯学習・文化活動、スポーツ活動の時間をとっている人の活動の場所は、「公共の社会教育施設」が 34.3%で最も高く、「自宅」が 33.0%、「民間のスポーツクラブ」が 24.6%、「公園や遊歩道など」が 24.0%で続いている。

《性別・年齢別・職業別》

性別では、男性は「自宅」が最も高いのに対し、女性は「公共の社会教育施設」が最多で、また男性は、「公園や遊歩道など」の割合も 31.7%と高くなっている。

年齢別では、「公共の社会教育施設」が最多の割合なのは 30 歳代と 70 歳以上で、40 歳代では「民間のスポーツクラブ」の割合が最も高いなどの特徴がみられる。

職業別では、自営業や会社員、パートタイマー・アルバイトで「自宅」の割合が最多であるのに対し、専業主婦(夫)や無職で「公共の社会教育施設」が最多割合となっている。

<性別・年齢別・職業別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		全体	公民館や図書館など 公民の社会教育施設	市民体育館や野球場 など公共のスポーツ施設	学校開放の体育館や グラウンド	公園や遊歩道など	民間のカルチャーセンター	民間のスポーツクラブ	自宅	その他
全体		525 100.0	180 34.3	119 22.7	37 7.0	126 24.0	59 11.2	129 24.6	173 33.0	52 9.9
性別	男性	227 100.0	61 26.9	63 27.8	15 6.6	72 31.7	15 6.6	56 24.7	82 36.1	27 11.9
	女性	294 100.0	118 40.1	56 19.0	22 7.5	53 18.0	43 14.6	72 24.5	89 30.3	25 8.5
年齢	29歳以下	37 100.0	11 29.7	7 18.9	3 8.1	9 24.3	2 5.4	10 27.0	22 59.5	6 16.2
	30歳代	52 100.0	16 30.8	8 15.4	5 9.6	8 15.4	6 11.5	7 13.5	16 30.8	7 13.5
	40歳代	99 100.0	20 20.2	25 25.3	11 11.1	24 24.2	7 7.1	28 28.3	27 27.3	10 10.1
	50歳代	92 100.0	23 25.0	26 28.3	6 6.5	18 19.6	13 14.1	25 27.2	31 33.7	13 14.1
	60歳代	98 100.0	33 33.7	20 20.4	3 3.1	24 24.5	14 14.3	24 24.5	34 34.7	7 7.1
	70歳以上	143 100.0	77 53.8	33 23.1	9 6.3	42 29.4	16 11.2	34 23.8	40 28.0	9 6.3
職業	農業	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-	-	-
	自営業	29 100.0	10 34.5	6 20.7	-	5 17.2	3 10.3	4 13.8	13 44.8	1 3.4
	会社員	140 100.0	26 18.6	37 26.4	15 10.7	34 24.3	10 7.1	44 31.4	47 33.6	20 14.3
	公務員	20 100.0	4 20.0	5 25.0	1 5.0	6 30.0	3 15.0	7 35.0	3 15.0	5 25.0
	専門職（医師・弁護士など）	9 100.0	5 55.6	-	-	1 11.1	-	1 11.1	5 55.6	2 22.2
	学生	17 100.0	6 35.3	5 29.4	3 17.6	3 17.6	-	2 11.8	9 52.9	2 11.8
	派遣	6 100.0	1 16.7	1 16.7	-	4 66.7	1 16.7	-	2 33.3	1 16.7
	パートタイマー・アルバイト	82 100.0	23 28.0	16 19.5	6 7.3	23 28.0	8 9.8	17 20.7	25 30.5	6 7.3
	専業主婦（夫）	89 100.0	48 53.9	17 19.1	9 10.1	16 18.0	10 11.2	19 21.3	27 30.3	5 5.6
	無職	117 100.0	53 45.3	29 24.8	3 2.6	32 27.4	20 17.1	33 28.2	36 30.8	8 6.8
	その他	10 100.0	2 20.0	2 20.0	-	1 10.0	3 30.0	1 10.0	4 40.0	2 20.0

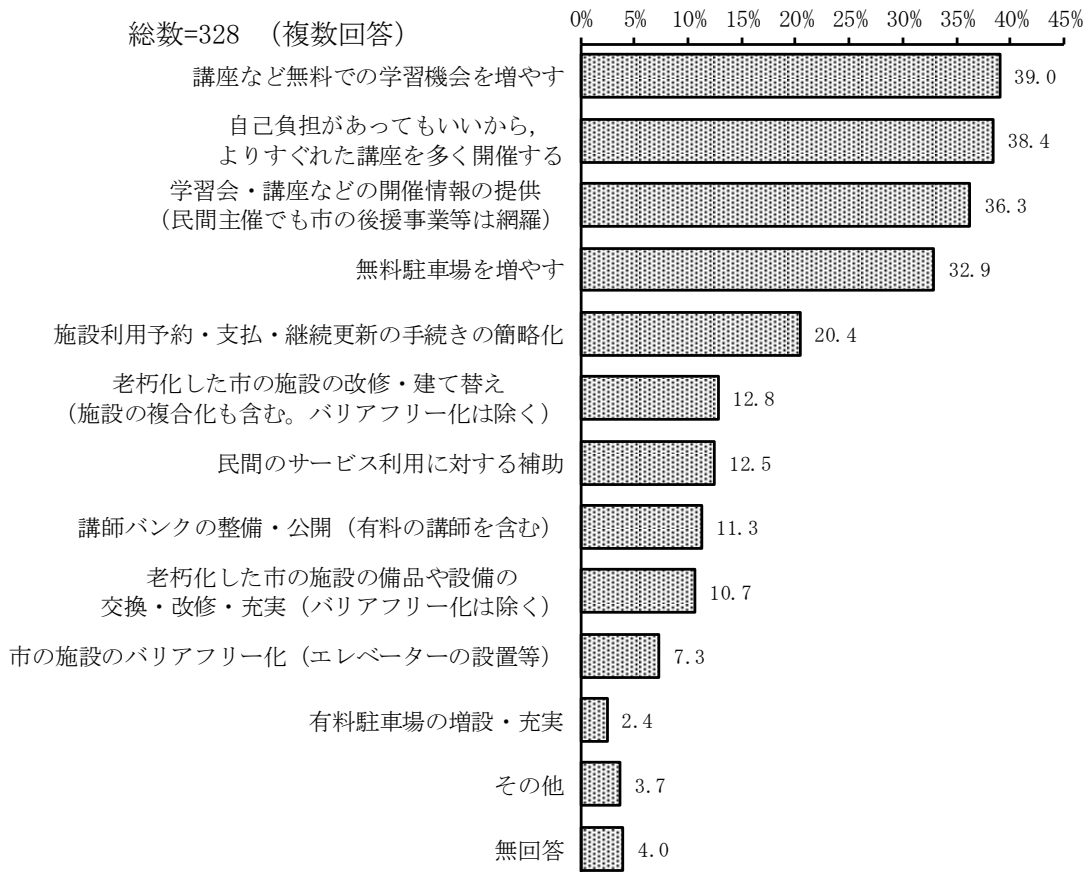
各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 (属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)
 注) 「無回答」は表記を省略している。

(1-2) 生涯学習・文化活動推進に必要なこと

(問 22 の (1) で「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問 22-2 生涯学習・文化活動の推進のために必要なことはどのようなことだと思いますか。

(○は3つまで)



生涯学習や文化活動の時間を「とっている」人に、その活動推進に必要なことを尋ねた結果、「無料での学習機会を増やす」が 39.0% で最も高く、「自己負担でもすぐれた講座を多く」が 38.4%、「学習会・講座などの開催情報の提供」が 36.3%、「無料駐車場を増やす」が 32.9% の順となった。

《性別・年齢別・職業別》

性別では、「無料での学習機会を増やす」は女性の方が、「自己負担でもすぐれた講座を多く」は男性の方が割合が高く、また「学習会・講座などの開催情報の提供」も男性の方が 6.2 ポイント高くなっている。

年齢別では、50～60 歳代において、「自己負担でもすぐれた講座を多く」と並んで「学習会・講座などの開催情報の提供」の割合が高い。

職業別では、特に自営業で (回答者数が少ないが) 「学習会・講座などの開催情報の提供」の割合が高くなっている。

<性別・年齢別・職業別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		全体	講座など無料での学習機会を増やす	自己負担があつてもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する	講師バンクの整備・公開（有料の講師を含む）	学習会・講座などの開催情報の提供（民間主催でも市の後援事業等は網羅）	市の施設のバリアフリー化（エレベーターの設置等）	老朽化した市の施設の改修・建て替え（施設は除く）	老朽化した市の施設の改修・建て替え（施設は除く）	無料駐車場の増やす	有料駐車場の増設・充実	施設利用予約・支払・継続更新の手続きの簡略化	民間のサービス利用に対する補助	その他	
全体		328 100.0	128 39.0	126 38.4	37 11.3	119 36.3	24 7.3	42 12.8	35 10.7	108 32.9	8 2.4	67 20.4	41 12.5	12 3.7	
性別	男性	132 100.0	44 33.3	54 40.9	13 9.8	53 40.2	6 4.5	14 10.6	12 9.1	45 34.1	3 2.3	18 13.6	14 10.6	4 3.0	
	女性	194 100.0	83 42.8	71 36.6	24 12.4	66 34.0	18 9.3	28 14.4	23 11.9	62 32.0	5 2.6	49 25.3	27 13.9	7 3.6	
年齢	29歳以下	25 100.0	10 40.0	10 40.0	3 12.0	8 32.0	-	2 8.0	-	8 32.0	-	4 16.0	6 24.0	1 4.0	
	30歳代	30 100.0	10 33.3	10 33.3	1 3.3	9 30.0	2 6.7	3 10.0	-	15 50.0	1 3.3	5 16.7	4 13.3	2 6.7	
	40歳代	43 100.0	17 39.5	18 41.9	3 7.0	13 30.2	3 7.0	6 14.0	3 7.0	12 27.9	-	10 23.3	6 14.0	2 4.7	
	50歳代	59 100.0	21 35.6	25 42.4	12 20.3	25 42.4	2 3.4	8 13.6	8 13.6	18 30.5	2 3.4	14 23.7	10 16.9	1 1.7	
	60歳代	62 100.0	23 37.1	24 38.7	6 9.7	24 38.7	3 4.8	11 17.7	8 12.9	17 27.4	2 3.2	10 16.1	7 11.3	3 4.8	
	70歳以上	106 100.0	46 43.4	38 35.8	12 11.3	40 37.7	14 13.2	12 11.3	16 15.1	37 34.9	3 2.8	24 22.6	8 7.5	2 1.9	
職業	農業	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	- *	
	自営業	21 100.0	8 38.1	7 33.3	4 19.0	9 42.9	1 4.8	3 14.3	2 9.5	8 38.1	-	6 28.6	2 9.5	-	
	会社員	75 100.0	20 26.7	31 41.3	9 12.0	29 38.7	4 5.3	8 10.7	5 6.7	25 33.3	1 1.3	15 20.0	14 18.7	3 4.0	
	公務員	9 100.0	5 55.6	4 44.4	3 33.3	3 33.3	-	-	2 22.2	3 33.3	2 22.2	1 11.1	-	-	
	専門職（医師・弁護士など）	7 100.0	5 71.4	2 28.6	-	3 42.9	-	1 14.3	-	2 28.6	-	1 14.3	1 14.3	-	
	学生	13 100.0	7 53.8	4 30.8	1 7.7	3 23.1	1 7.7	1 7.7	-	5 38.5	-	3 23.1	2 15.4	-	
	派遣	3 100.0	1 33.3	2 66.7	1 33.3	1 33.3	-	1 33.3	-	2 66.7	-	1 33.3	-	-	
	パートタイマー・アルバイト	44 100.0	22 50.0	16 36.4	2 4.5	13 29.5	2 4.5	9 20.5	6 13.6	11 25.0	2 4.5	10 22.7	8 18.2	1 2.3	
	専業主婦（夫）	62 100.0	27 43.5	31 50.0	6 9.7	24 38.7	7 11.3	11 17.7	6 9.7	19 30.6	1 1.6	19 30.6	6 9.7	2 3.2	
	無職	83 100.0	31 37.3	28 33.7	11 13.3	32 38.6	9 10.8	8 9.6	13 15.7	31 37.3	1 1.2	11 13.3	7 8.4	1 1.2	
	その他	8 100.0	1 12.5	-	-	2 25.0	-	-	-	1 12.5	1 12.5	-	-	1 12.5	4 50.0

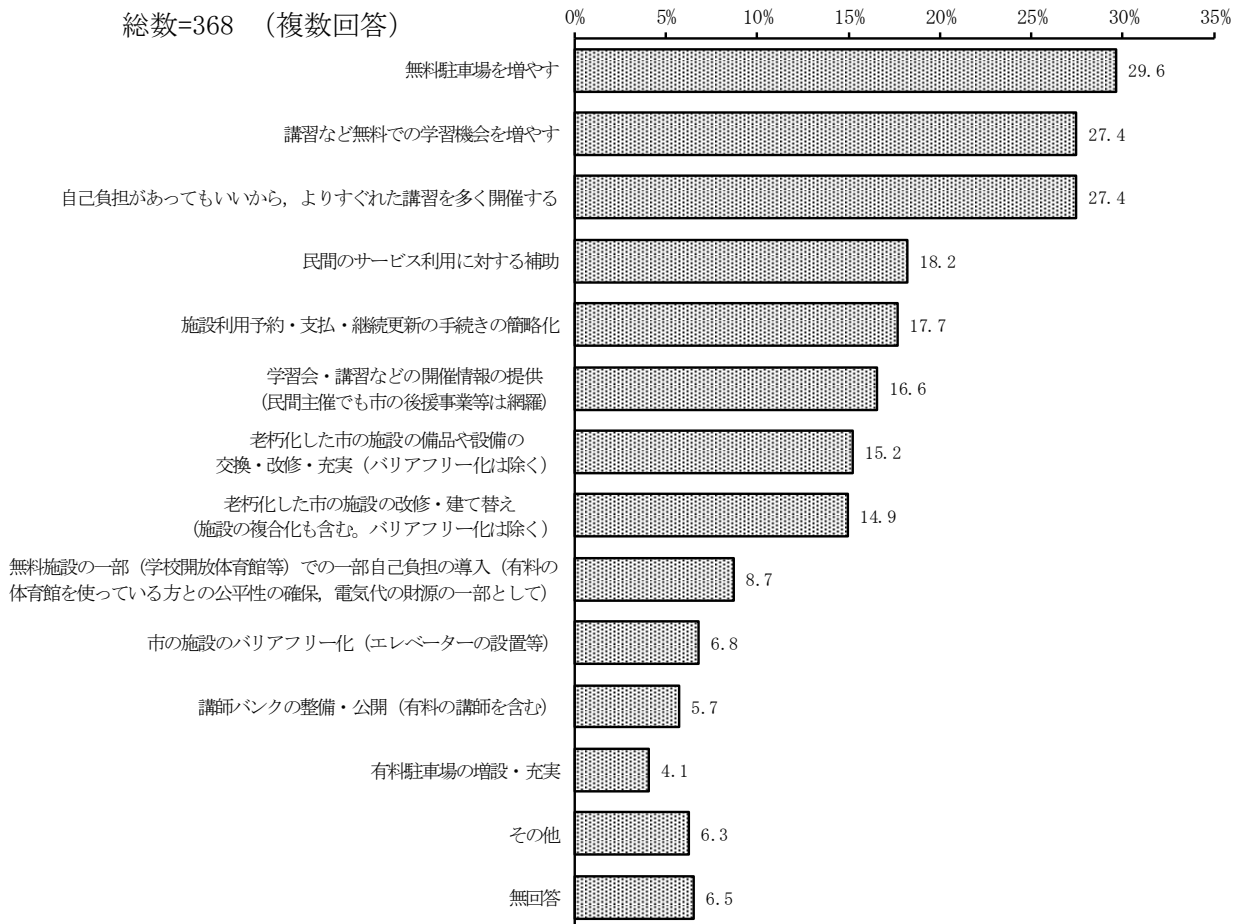
各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 （属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない）

注）「無回答」は表記を省略している。

(1-3) スポーツ活動推進に必要なこと

(問 22 の (2) で「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問 22-3 スポーツ活動の推進のために必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)



スポーツ活動の時間を「とっている」人に、その活動推進に必要なことを尋ねた結果、「無料駐車場を増やす」が 29.6%で最も高く、「無料での学習機会を増やす」、「自己負担でもすぐれた講習を多く」が 27.4%、「民間のサービス利用に対する補助」が 18.2%の順となった。

《性別・年齢別・職業別》

性別では、「無料駐車場を増やす」は男性で特にその割合が 31.8%と高い一方、女性では「無料での学習機会を増やす」が 30.7%と男性より大幅に高い値となっている。

年齢別では、「無料駐車場を増やす」の割合が最多なのは 40 歳代以下の年齢層であり、「無料での学習機会を増やす」の割合が最多なのは 50 歳代以上の年齢層である。

職業別では、パートタイマー・アルバイトや専業主婦 (夫)、無職で、「無料での学習機会を増やす」とともに「自己負担でもすぐれた講習を多く」の割合の高さが目立つ。

<性別・年齢別・職業別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		講習など無料での学習機会を増やす を多く開催する 自己負担があつてもいいから、よりすぐれた講習 講師バンクの整備・公開（有料の講師を含む） 学習会・講習などの開催情報の提供（民間主催で も市の後援事業等は網羅） 市の施設のバリアフリー化（エレベーターの設置 等） 老朽化した市の施設の改修・建て替え（施設の複 合化も含む。バリアフリー化は除く） 老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・ 充実（バリアフリー化は除く） 無料駐車場を増やす 有料駐車場の増設・充実 施設利用予約・支払・継続更新の手続きの簡略化 民間のサービス利用に対する補助 無料施設の一部（学校開放体育館等）での一部自 己負担の導入（有料の体育館を使っている方の 公平性の確保、電気代の財源の一部として） その他																			
		全体	男性	女性	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	農業	自営業	会社員	公務員	専門職（医師・弁護士など）	学生	派遣	パートタイマー・アルバイト	専業主婦（夫）	無職	その他
性別	全体	368	101	101	21	61	25	55	56	109	15	65	67	32	23						
		100.0	27.4	27.4	5.7	16.6	6.8	14.9	15.2	29.6	4.1	17.7	18.2	8.7	6.3						
	男性	173	42	42	7	24	11	24	26	55	9	25	33	14	14						
年齢	女性	192	59	56	14	37	14	30	30	53	6	40	34	18	9						
		100.0	30.7	29.2	7.3	19.3	7.3	15.6	15.6	27.6	3.1	20.8	17.7	9.4	4.7						
	29歳以下	27	5	-	-	3	2	7	6	12	1	7	6	3	2						
		100.0	18.5	-	-	11.1	7.4	25.9	22.2	44.4	3.7	25.9	22.2	11.1	7.4						
	30歳代	29	8	10	1	4	1	2	3	11	1	4	5	1	3						
		100.0	27.6	34.5	3.4	13.8	3.4	6.9	10.3	37.9	3.4	13.8	17.2	3.4	10.3						
	40歳代	84	16	24	5	9	6	14	14	27	4	12	15	8	8						
	100.0	19.0	28.6	6.0	10.7	7.1	16.7	16.7	32.1	4.8	14.3	17.9	9.5	9.5							
50歳代	61	16	15	6	8	1	15	16	14	4	10	15	9	5							
	100.0	26.2	24.6	9.8	13.1	1.6	24.6	26.2	23.0	6.6	16.4	24.6	14.8	8.2							
60歳代	65	23	20	5	13	3	6	6	18	2	13	11	3	3							
	100.0	35.4	30.8	7.7	20.0	4.6	9.2	9.2	27.7	3.1	20.0	16.9	4.6	4.6							
70歳以上	100	33	30	4	24	12	11	11	27	3	19	15	8	2							
	100.0	33.0	30.0	4.0	24.0	12.0	11.0	11.0	27.0	3.0	19.0	15.0	8.0	2.0							
職業	農業	2	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-						
		100.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-						
	自営業	14	4	4	2	3	2	2	-	5	-	1	2	-	1						
		100.0	28.6	28.6	14.3	21.4	14.3	14.3	-	35.7	-	7.1	14.3	-	7.1						
	会社員	113	23	26	7	14	7	17	21	35	6	15	27	15	10						
		100.0	20.4	23.0	6.2	12.4	6.2	15.0	18.6	31.0	5.3	13.3	23.9	13.3	8.8						
	公務員	15	2	2	-	-	1	4	1	6	1	2	5	2	2						
		100.0	13.3	13.3	-	-	6.7	26.7	6.7	40.0	6.7	13.3	33.3	13.3	13.3						
	専門職（医師・弁護士など）	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1						
		100.0	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	50.0						
	学生	12	3	-	-	1	1	3	3	7	1	2	-	3	-						
		100.0	25.0	-	-	8.3	8.3	25.0	25.0	58.3	8.3	16.7	-	25.0	-						
	派遣	5	1	-	1	1	-	2	1	2	-	-	1	-	-						
	100.0	20.0	-	20.0	20.0	-	40.0	20.0	40.0	-	-	20.0	-	-							
パートタイマー・アルバイト	53	19	17	3	6	1	6	8	13	-	13	11	2	2							
	100.0	35.8	32.1	5.7	11.3	1.9	11.3	15.1	24.5	-	24.5	20.8	3.8	3.8							
専業主婦（夫）	57	21	21	4	15	5	7	10	16	2	16	6	4	3							
	100.0	36.8	36.8	7.0	26.3	8.8	12.3	17.5	28.1	3.5	28.1	10.5	7.0	5.3							
無職	87	26	26	4	20	8	13	11	21	4	16	15	6	2							
	100.0	29.9	29.9	4.6	23.0	9.2	14.9	12.6	24.1	4.6	18.4	17.2	6.9	2.3							
その他	6	2	1	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	2							
	100.0	33.3	16.7	-	16.7	-	-	-	33.3	16.7	-	-	-	33.3							

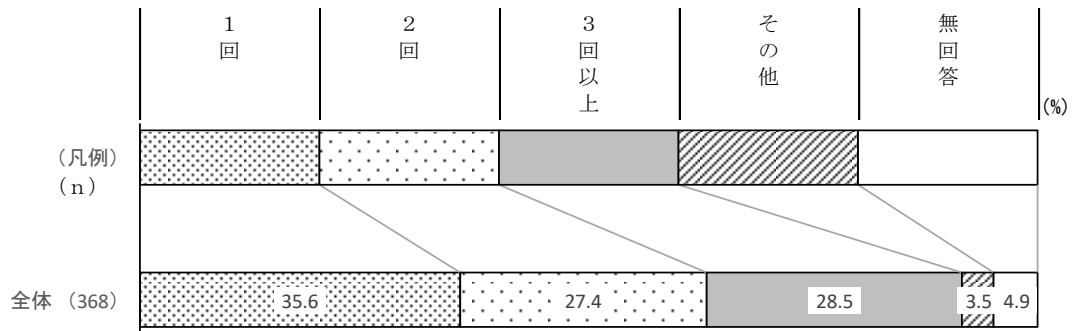
各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 (属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)

注) 「無回答」は表記を省略している。

(1-4) スポーツ活動の頻度

(問 22 で (2) で「1 回」とお答えの方にお尋ねします)

問 22-4 1 週間のうち、30 分以上のスポーツ活動を何回ぐらい行っていますか。(○は1 つ)



スポーツ活動の時間を「とっている」人の1週間のうちの回数は、「1回」が35.6%で最も高く、「3回以上」が28.5%、「2回」が27.4%、「その他」が3.5%となっている。

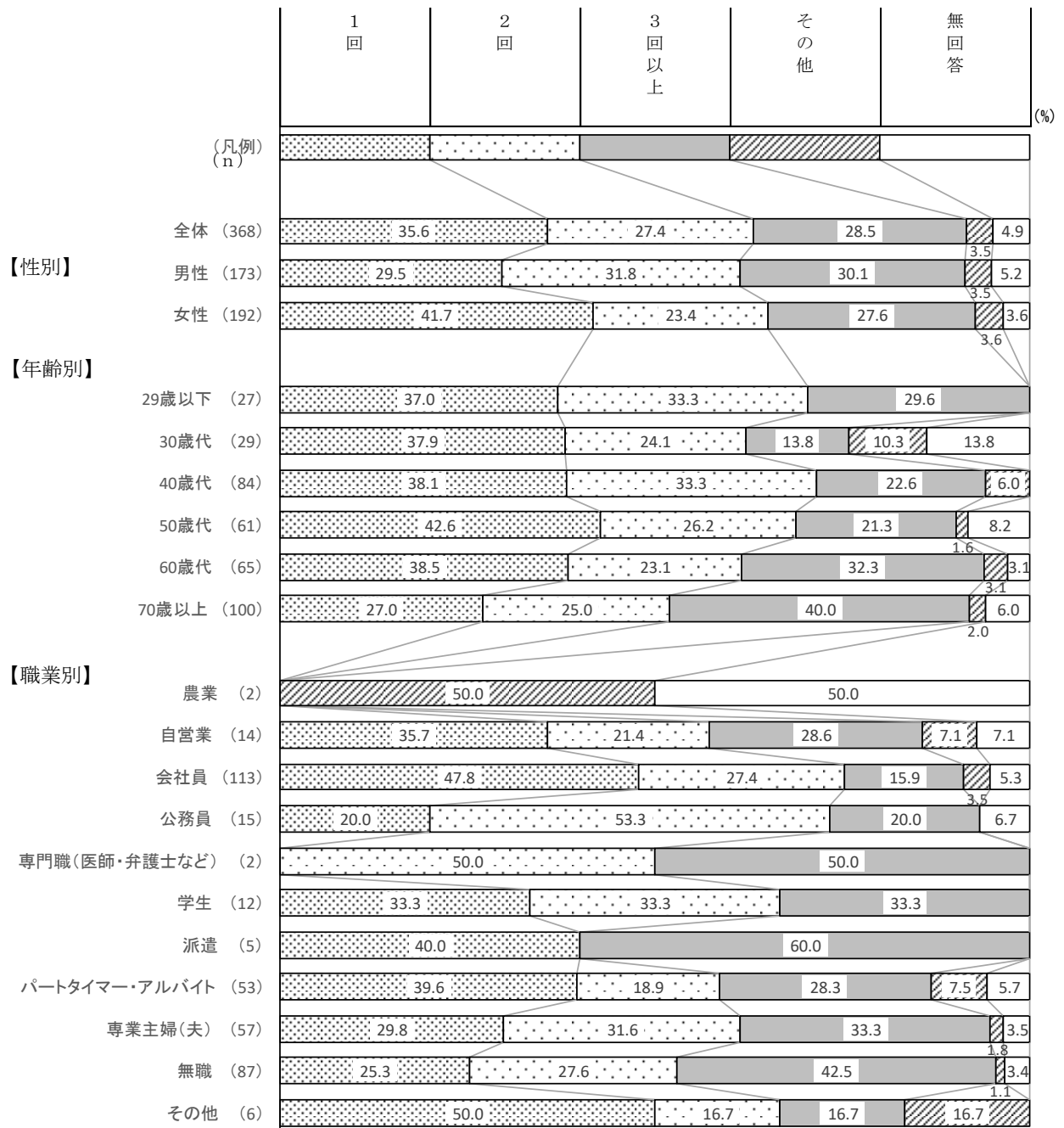
《性別・年齢別・職業別》

性別では、「1回」の割合は女性の方がかなり高く、全体的に男性の方がスポーツ活動の頻度がやや高いといえる。

年齢別では、2回以上の割合が29歳以下と70歳以上で比較的高く、「3回以上」に限定すると、70歳以上で40.0%となっている。

職業別では、会社員では半数近くの47.8%が「1回」となっている。

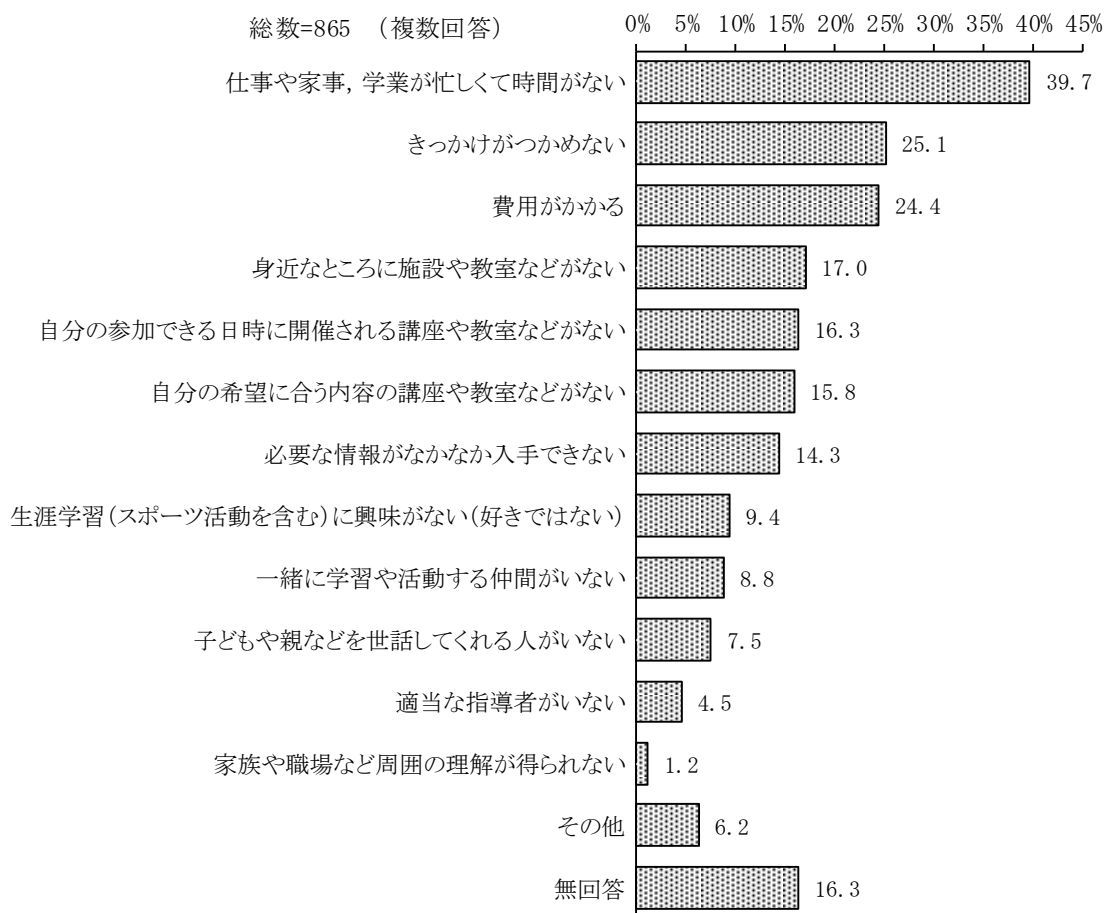
<性別・年齢別・職業別>



(1-5) 学習や文化・スポーツ活動を行っていない理由

(問 22 で (1) か (2) のどちらか1つでも「2 とっていない」とお答えの方にお尋ねします)

問 22-5 学習や文化、スポーツ活動を行っていない理由は何ですか。(○はいくつでも)



学習・文化活動またはスポーツ活動の時間を「とっていない」人にその理由を尋ねた結果、「忙しくて時間がない」が39.7%で最も高く、「きっかけがつかめない」が25.1%、「費用がかかる」が24.4%、「身近に施設や教室がない」が17.0%の順となった。

《性別・年齢別・職業別》

性別では、「忙しくて時間がない」が最多なのは男女共通であるが、男性では「きっかけがつかめない」が2位、女性では「費用がかかる」が2位、という相違がある。

年齢別では、60歳代で「きっかけがつかめない」の割合が32.2%と特に高く、また、70歳以上では「自分の希望に合う講座や教室がない」の割合が最多となっている。

<性別・年齢別・職業別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		全体	仕事や家事、 学業が忙しくて 時間がない	家族や職場など周囲の 理解が得られない	子どもや親などを世話して くれる人がいない	適当な指導者がいない	身近なところに施設や教室な どがない	自分の希望に合う内容の講座 や教室などが無い	自分の参加できる日時に開催 される講座や教室がない	一緒に学習や活動する仲間が いない	必要な情報がなかなか入手で きない	費用がかかる	きっかけがつかめない	生涯学習（スポーツ活動を含 む）に興味がない（好きでは ない）
全体		865 100.0	343 39.7	10 1.2	65 7.5	39 4.5	147 17.0	137 15.8	141 16.3	76 8.8	124 14.3	211 24.4	217 25.1	81 9.4
性別	男性	373 100.0	147 39.4	4 1.1	12 3.2	22 5.9	65 17.4	53 14.2	50 13.4	47 12.6	61 16.4	85 22.8	103 27.6	39 10.5
	女性	488 100.0	195 40.0	6 1.2	53 10.9	17 3.5	82 16.8	83 17.0	91 18.6	28 5.7	63 12.9	126 25.8	114 23.4	41 8.4
年齢	29歳以下	71 100.0	40 56.3	-	3 4.2	3 4.2	12 16.9	4 5.6	7 9.9	11 15.5	13 18.3	30 42.3	21 29.6	13 18.3
	30歳代	119 100.0	69 58.0	2 1.7	28 23.5	2 1.7	19 16.0	11 9.2	12 10.1	8 6.7	15 12.6	30 25.2	28 23.5	7 5.9
	40歳代	184 100.0	88 47.8	3 1.6	18 9.8	6 3.3	24 13.0	29 15.8	36 19.6	6 3.3	17 9.2	64 34.8	43 23.4	12 6.5
	50歳代	138 100.0	64 46.4	1 0.7	4 2.9	9 6.5	25 18.1	25 18.1	25 18.1	10 7.2	21 15.2	32 23.2	36 26.1	10 7.2
	60歳代	143 100.0	46 32.2	2 1.4	6 4.2	7 4.9	27 18.9	24 16.8	27 18.9	16 11.2	21 14.7	28 19.6	46 32.2	13 9.1
	70歳以上	204 100.0	34 16.7	2 1.0	6 2.9	12 5.9	39 19.1	43 21.1	32 15.7	24 11.8	37 18.1	27 13.2	42 20.6	25 12.3
職業	農業	6 100.0	3 50.0	1 16.7	2 33.3	-	2 33.3	1 16.7	1 16.7	-	1 16.7	2 33.3	-	-
	自営業	38 100.0	18 47.4	-	1 2.6	3 7.9	6 15.8	6 15.8	4 10.5	4 10.5	7 18.4	3 7.9	7 18.4	2 5.3
	会社員	255 100.0	147 57.6	4 1.6	21 8.2	14 5.5	42 16.5	31 12.2	46 18.0	20 7.8	34 13.3	72 28.2	62 24.3	21 8.2
	公務員	37 100.0	23 62.2	1 2.7	1 2.7	1 2.7	6 16.2	5 13.5	5 13.5	4 10.8	7 18.9	3 8.1	11 29.7	2 5.4
	専門職（医師・弁護 士など）	22 100.0	8 36.4	-	1 4.5	1 4.5	4 18.2	4 18.2	2 9.1	3 13.6	3 13.6	6 27.3	7 31.8	2 9.1
	学生	21 100.0	12 57.1	-	-	-	3 14.3	1 4.8	3 14.3	3 14.3	3 14.3	9 42.9	6 28.6	4 19.0
	派遣	12 100.0	7 58.3	1 8.3	1 8.3	-	3 25.0	1 8.3	2 16.7	2 8.3	1 8.3	5 41.7	7 58.3	2 16.7
	パートタイマー・ア ルバイト	136 100.0	59 43.4	-	11 8.1	2 1.5	13 9.6	22 16.2	28 20.6	9 6.6	13 9.6	41 30.1	35 25.7	14 10.3
	専業主婦（夫）	144 100.0	41 28.5	3 2.1	19 13.2	5 3.5	29 20.1	33 22.9	20 13.9	10 6.9	21 14.6	35 24.3	36 25.0	8 5.6
	無職	170 100.0	15 8.8	-	7 4.1	12 7.1	34 20.0	31 18.2	22 12.9	21 12.4	31 18.2	32 18.8	39 22.9	24 14.1
	その他	13 100.0	4 30.8	-	-	1 7.7	3 23.1	1 7.7	5 38.5	-	2 15.4	1 7.7	5 38.5	1 7.7

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 （属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない）

注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。

15 八千代市が取り組んでいる施策の重要度と満足度について

(1) 施策の重要度・満足度

問 23 下の表に示した各項目について、あなたの生活にとってどのくらい重要だと思いますか。また、どのくらい満足していますか。あてはまるものを1つずつ選び、重要度、満足度のそれぞれの番号に○印をつけてください。

総合計画の6分野にわたる計44項目の施策について、重要度、満足度の評価をそれぞれ5段階の中から選択する設問である。

以下に、各施策項目での選択肢別回答割合を示すとともに、以下により加重平均を算出した結果を「評価点」として示す。

重要度		満足度	
重要である	= 2点	満足	= 2点
やや重要である	= 1点	やや満足	= 1点
普通	= 0点	普通	= 0点
あまり重要でない	= -1点	やや不満	= -1点
重要でない	= -2点	不満	= -2点

↓	↓
各選択肢の回答数に得点を乗じたものの合計 を回答数合計（無回答を除く）で除す	各選択肢の回答数に得点を乗じたものの合計 を回答数合計（無回答を除く）で除す
↓	↓
評価点	評価点

この「評価点」が正值であれば、平均的に普通以上の重要度、満足度であることになり、負値であれば平均以下の重要度、満足度であることになる。

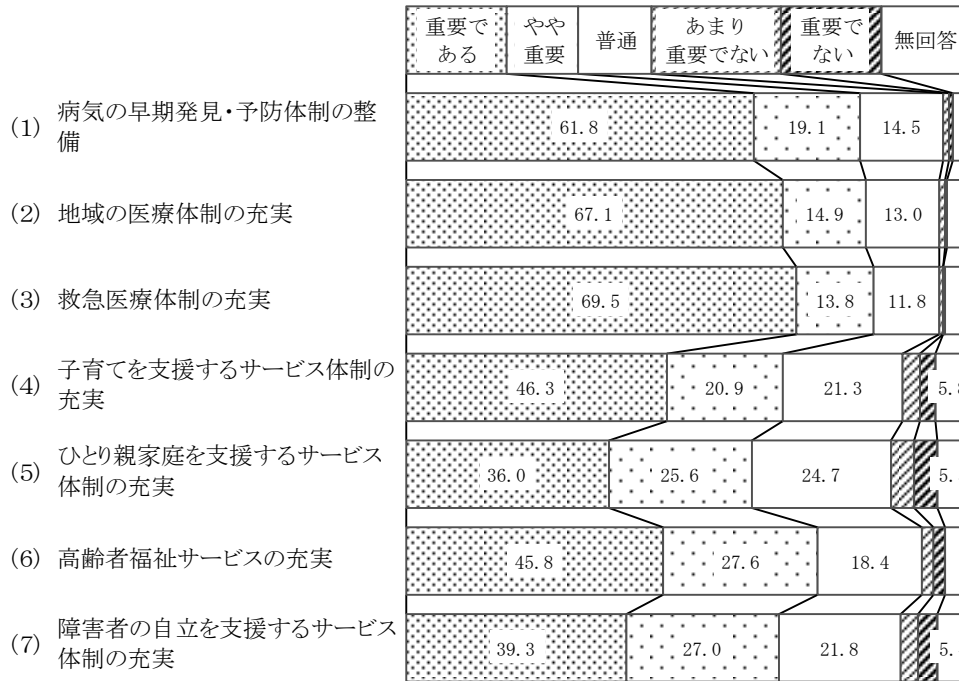
この「評価点」を施策項目間で比較すれば、重要度あるいは満足度の高い施策項目、低い施策項目を相対比較することができる。また、属性別のクロス集計においても、属性による平均重要度、満足度の相違を把握することができる。

《健康福祉都市》

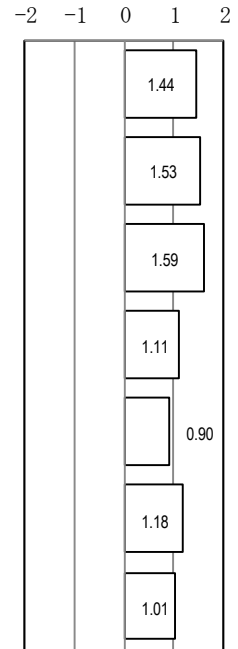
重要度

総数=1,072

単位:% (5%未満非表示)



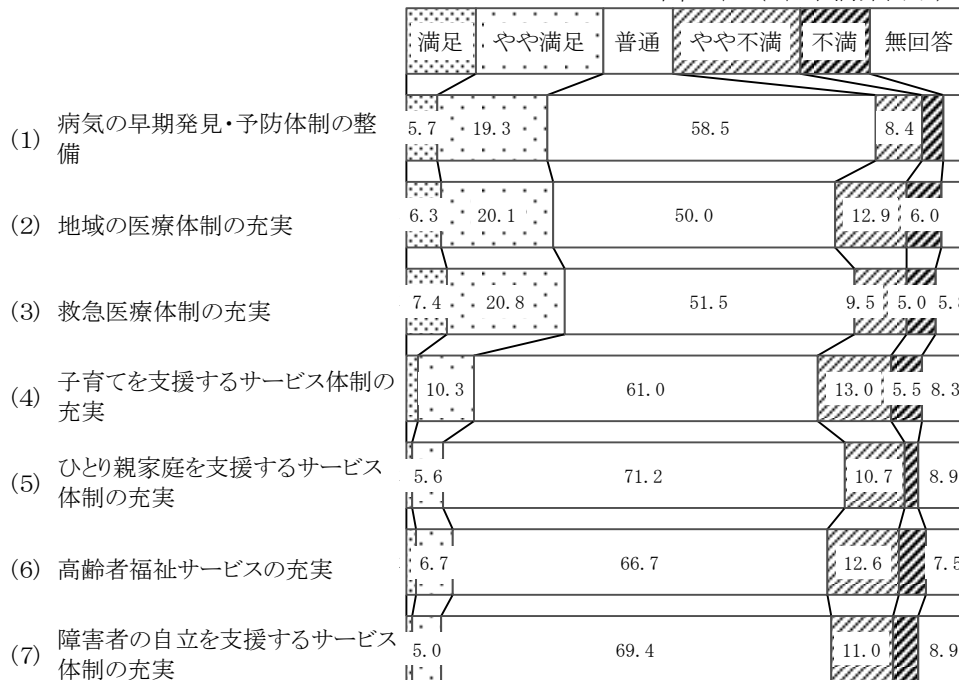
<評価点>



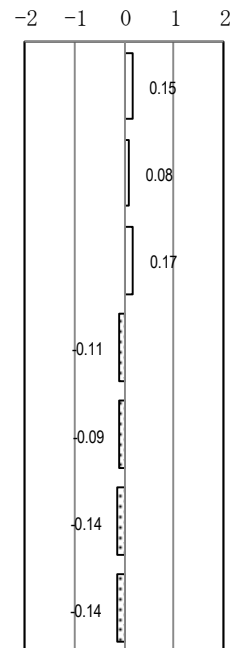
満足度

総数=1,072

単位:% (5%未満非表示)



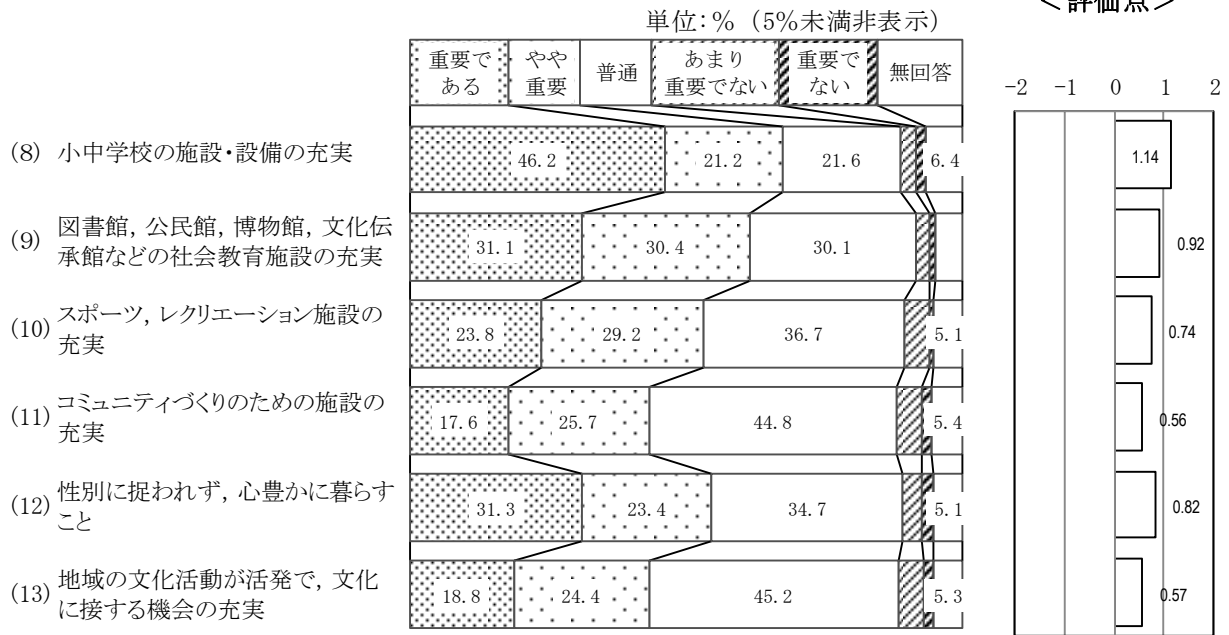
<評価点>



《教育文化都市》

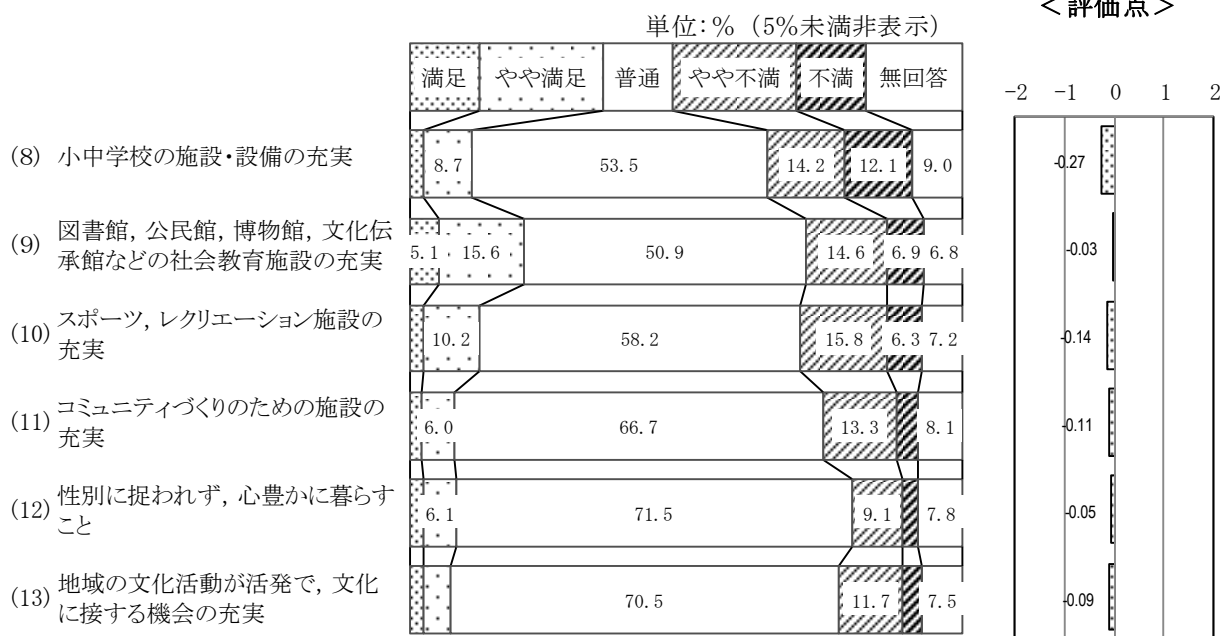
重要度

総数=1,072



満足度

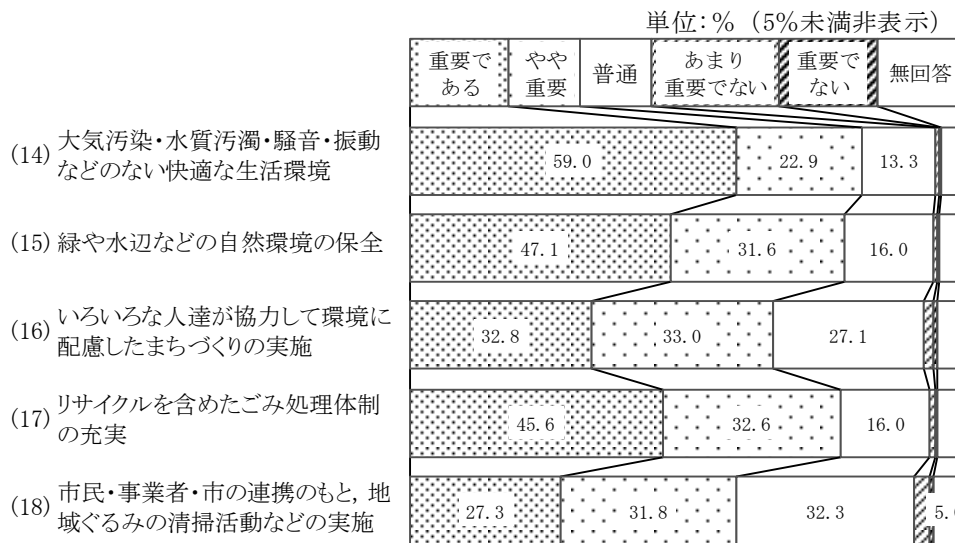
総数=1,072



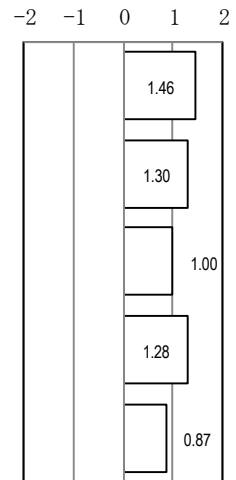
《環境共生都市》

重要度

総数=1,072

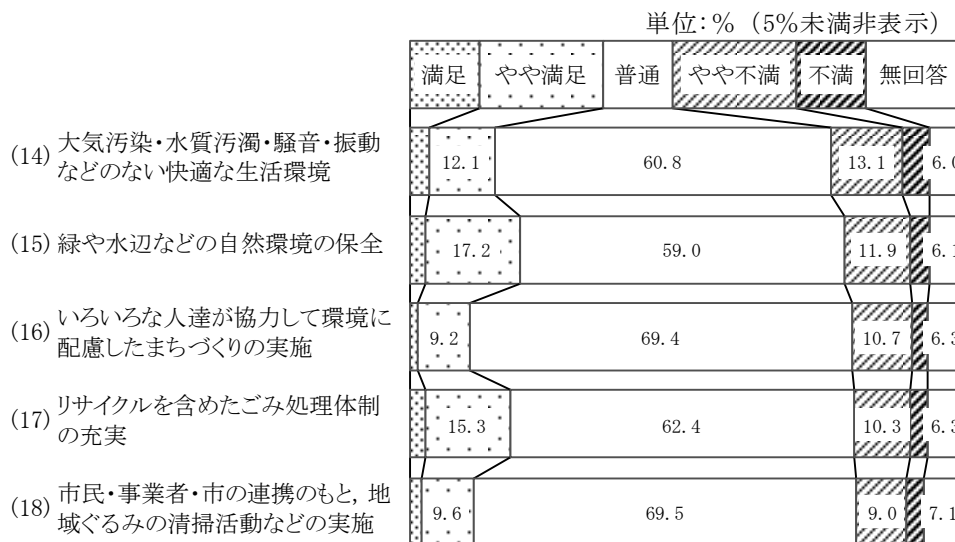


＜評価点＞

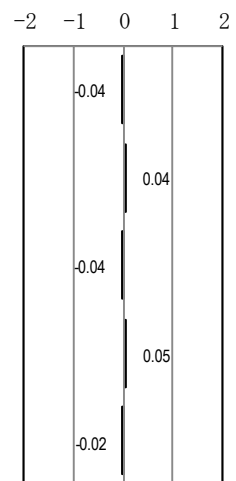


満足度

総数=1,072



＜評価点＞

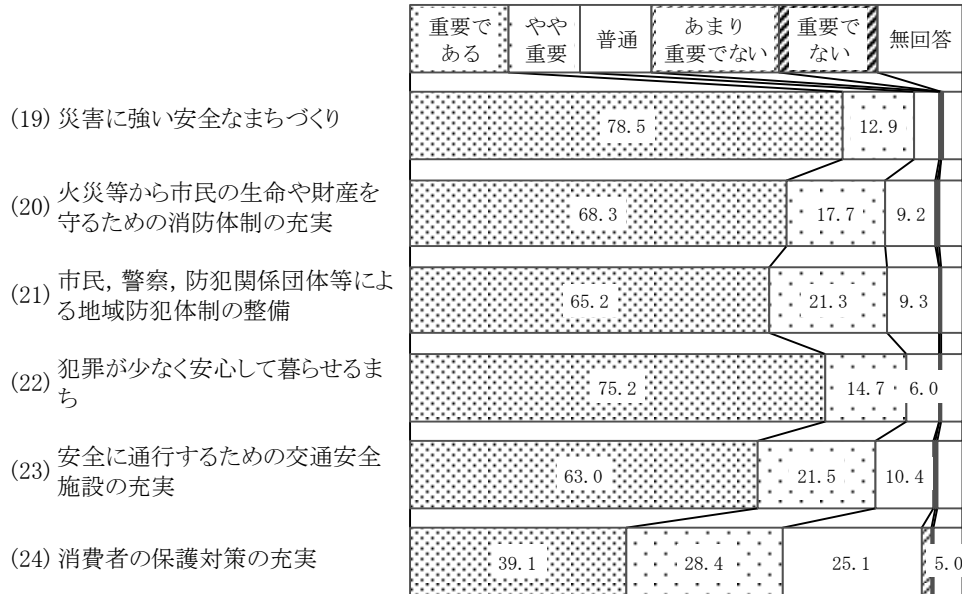


《安心安全都市》

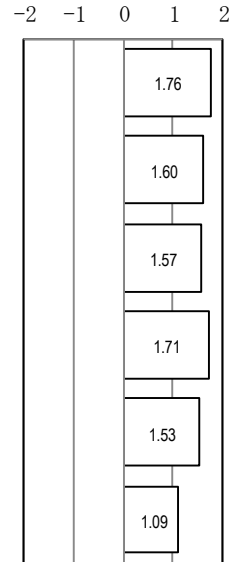
重要度

総数=1,072

単位:% (5%未満非表示)



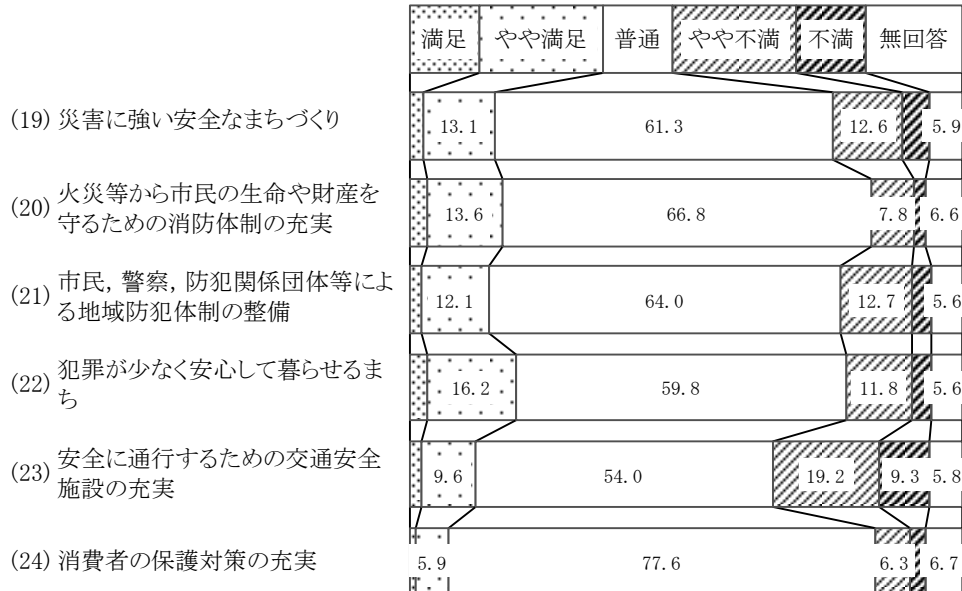
＜評価点＞



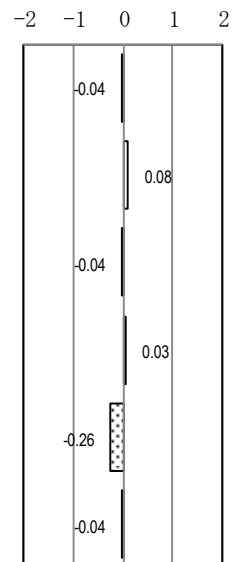
満足度

総数=1,072

単位:% (5%未満非表示)



＜評価点＞



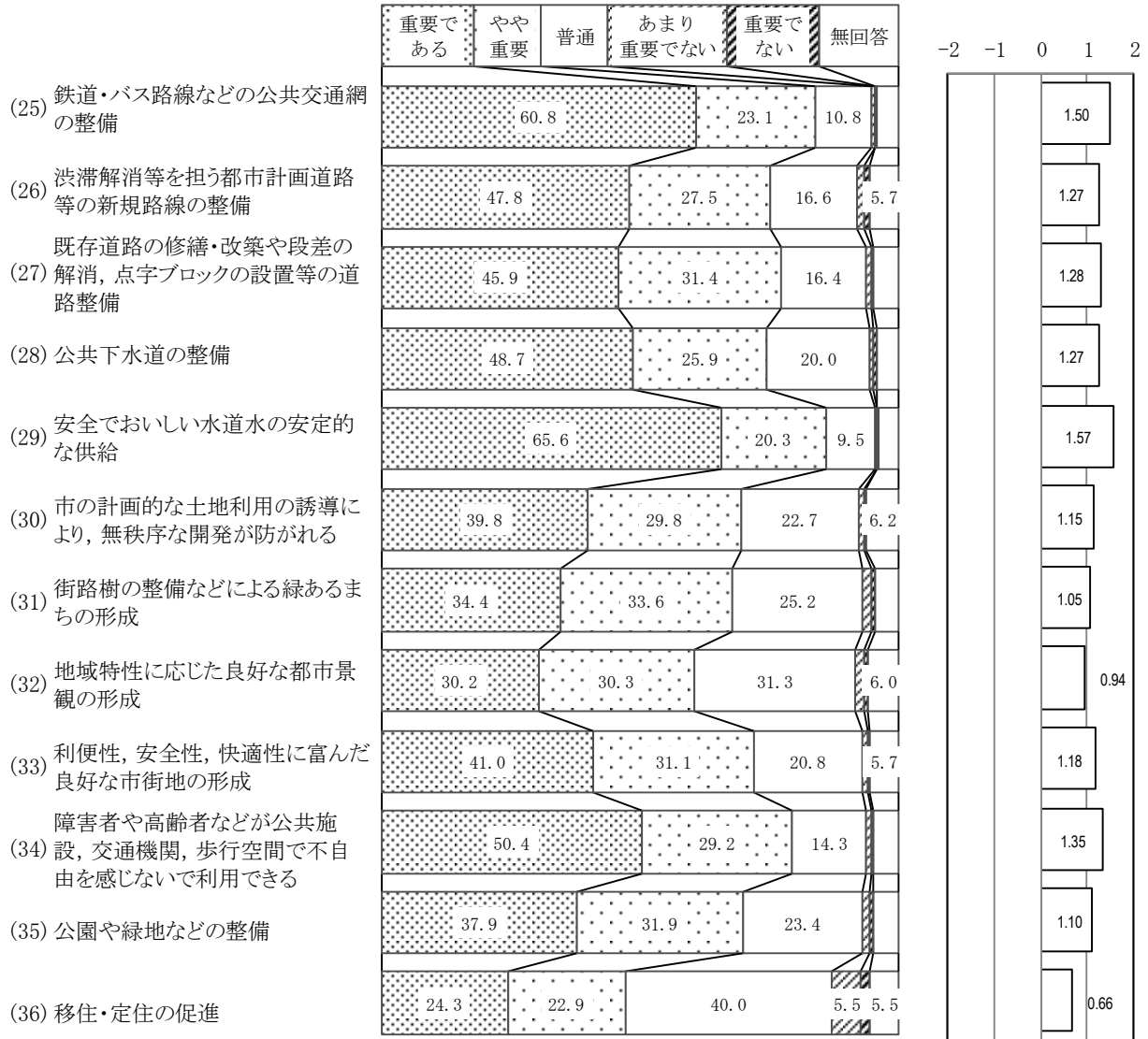
《快適生活都市》

重要度

総数=1,072

単位:% (5%未満非表示)

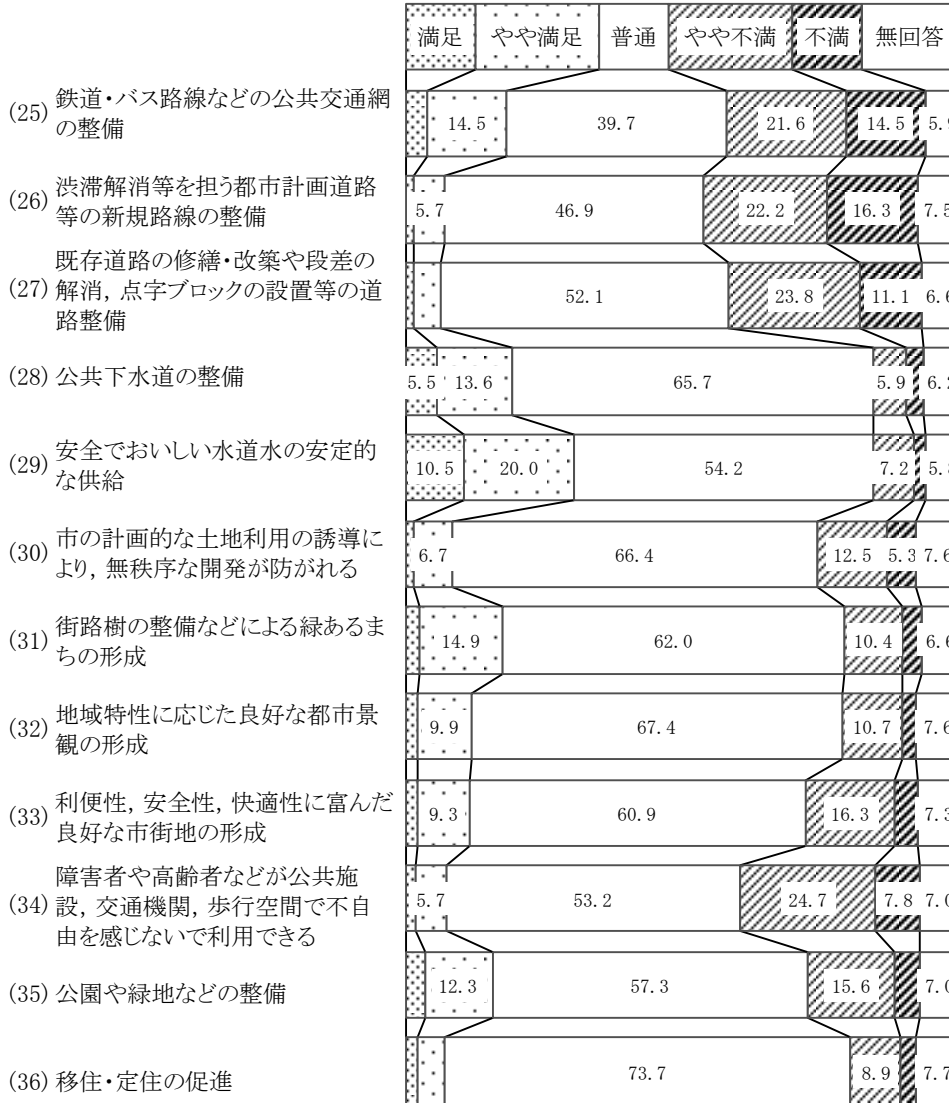
＜評価点＞



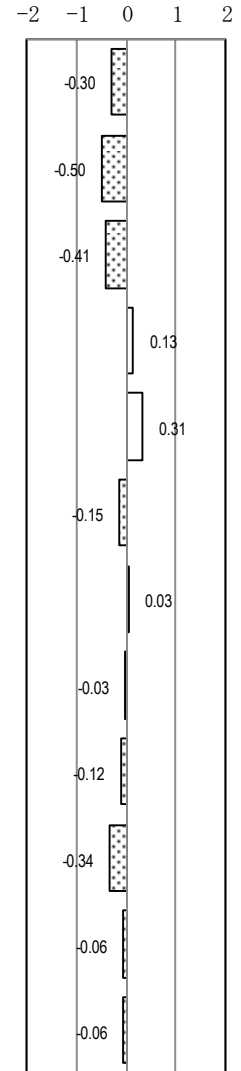
満足度

総数=1,072

単位:% (5%未満非表示)



<評価点>

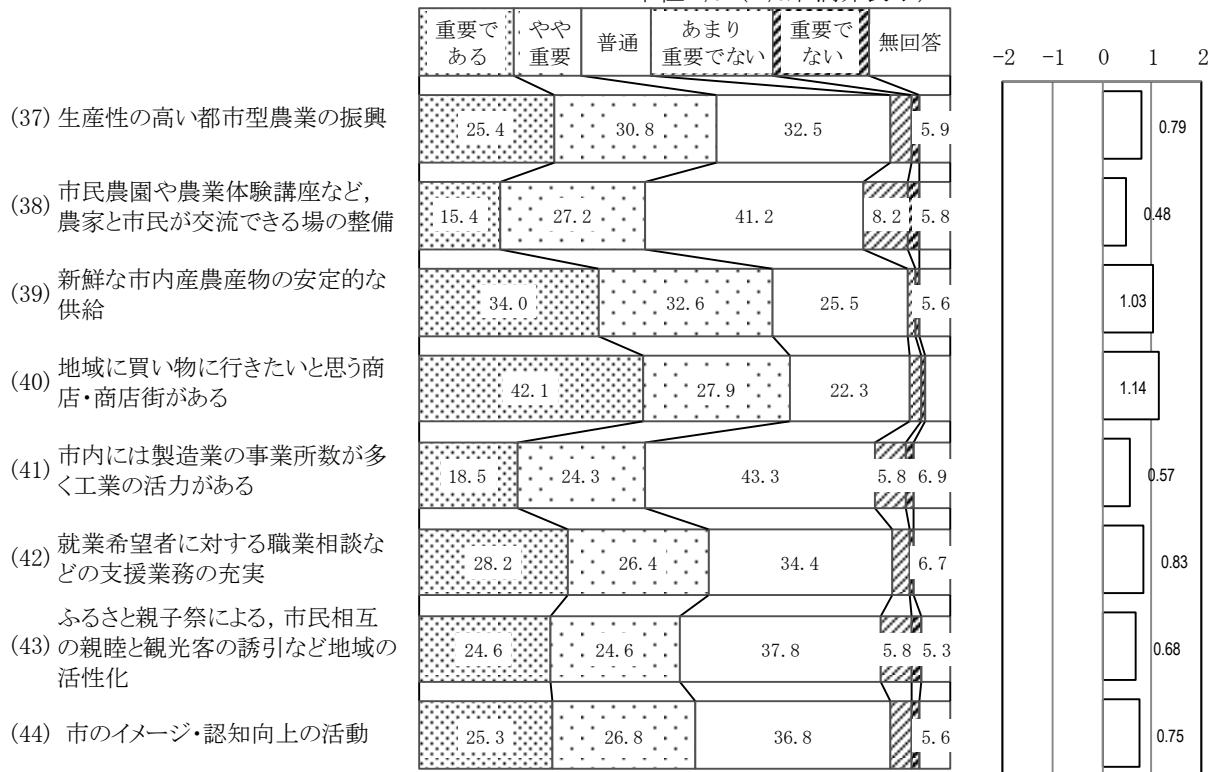


《産業活力都市》

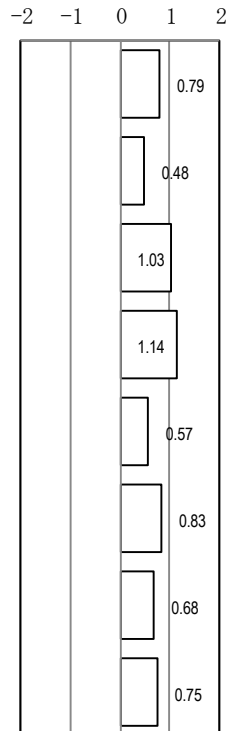
重要度

総数=1,072

単位:% (5%未満非表示)



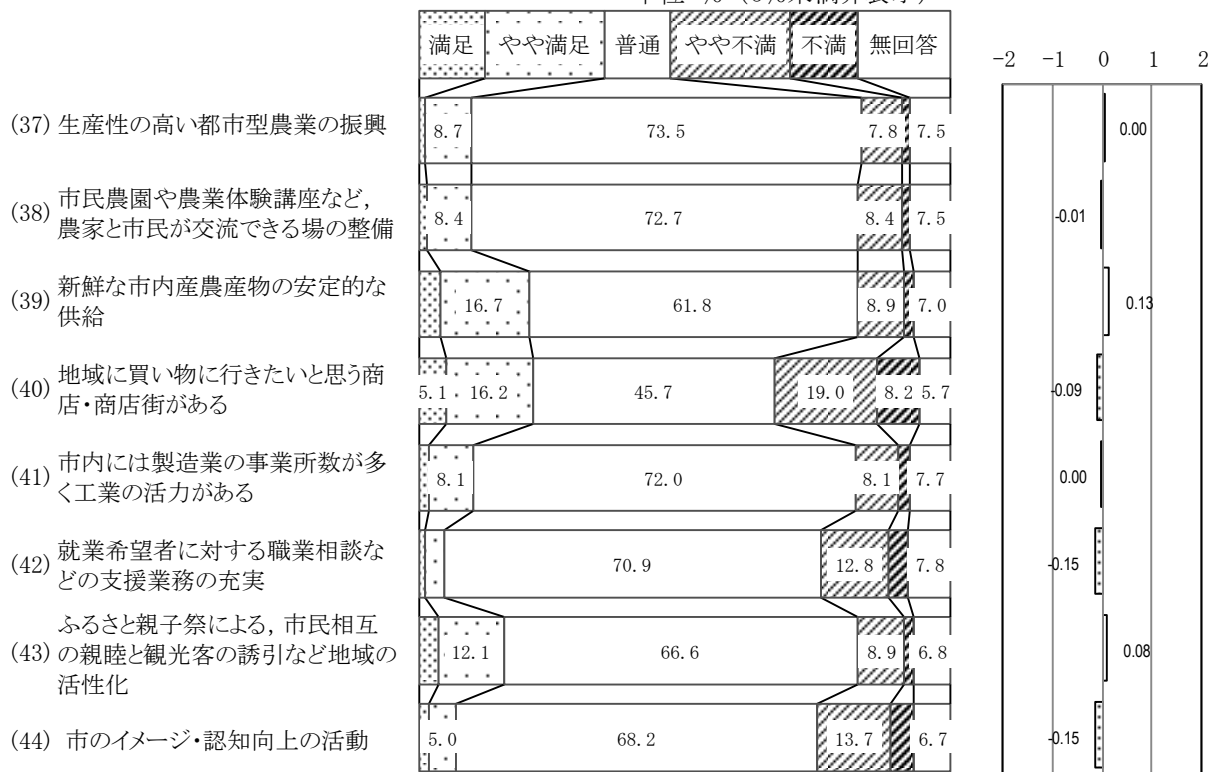
<評価点>



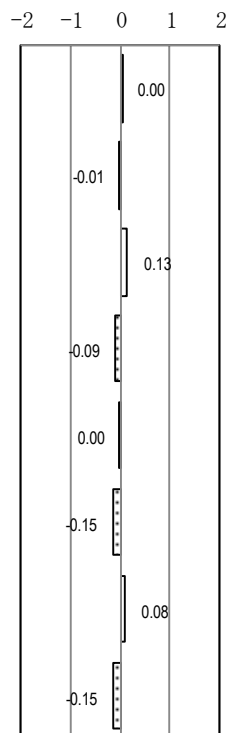
満足度

総数=1,072

単位:% (5%未満非表示)



<評価点>



全 44 項目中の比較で、重要度、満足度の評価点の上位、下位の項目を抽出すると以下のとおりである。

重要度の最上位は、防災、防犯、消防、救急医療等といった安全・安心に関する項目が占めた。

また、満足度の最上位は「安全でおいしい水道水の安定的な供給」で、最下位は、「渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備」であり、道路・交通関係の項目の満足度が低位で続いている。

(評価点上位・下位の施策項目)

重要度			
	順位	施策項目	評価点
上位5項目	1位	(19)災害に強い安全なまちづくり	1.76
	2位	(22)犯罪が少なく安心して暮らせるまち	1.71
	3位	(20)火災等から市民の生命や財産を守るための消防体制の充実	1.60
	4位	(3)救急医療体制の充実	1.59
	5位	(21)市民、警察、防犯関係団体等による地域防犯体制の整備	1.57
:			
下位5項目	40位	(36)移住・定住の促進	0.66
	41位	(13)地域の文化活動が活発で、文化に接する機会の充実	0.57
	42位	(41)市内には製造業の事業所数が多く工業の活力がある	0.57
	43位	(11)コミュニティづくりのための施設の充実	0.56
	44位	(38)市民農園や農業体験講座など、農家と市民が交流できる場の整備	0.48

満足度			
	順位	施策項目	評価点
上位5項目	1位	(29)安全でおいしい水道水の安定的な供給	0.31
	2位	(3)救急医療体制の充実	0.17
	3位	(1)病気の早期発見・予防体制の整備	0.15
	4位	(39)新鮮な市内産農産物の安定的な供給	0.13
	5位	(28)公共下水道の整備	0.13
:			
下位5項目	40位	(8)小中学校の施設・設備の充実	-0.27
	41位	(25)鉄道・バス路線などの公共交通網の整備	-0.30
	42位	(34)障害者や高齢者などが公共施設、交通機関、歩行空間で不自由を感じないで利用できる	-0.34
	43位	(27)既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの設置等の道路整備	-0.41
	44位	(26)渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備	-0.50

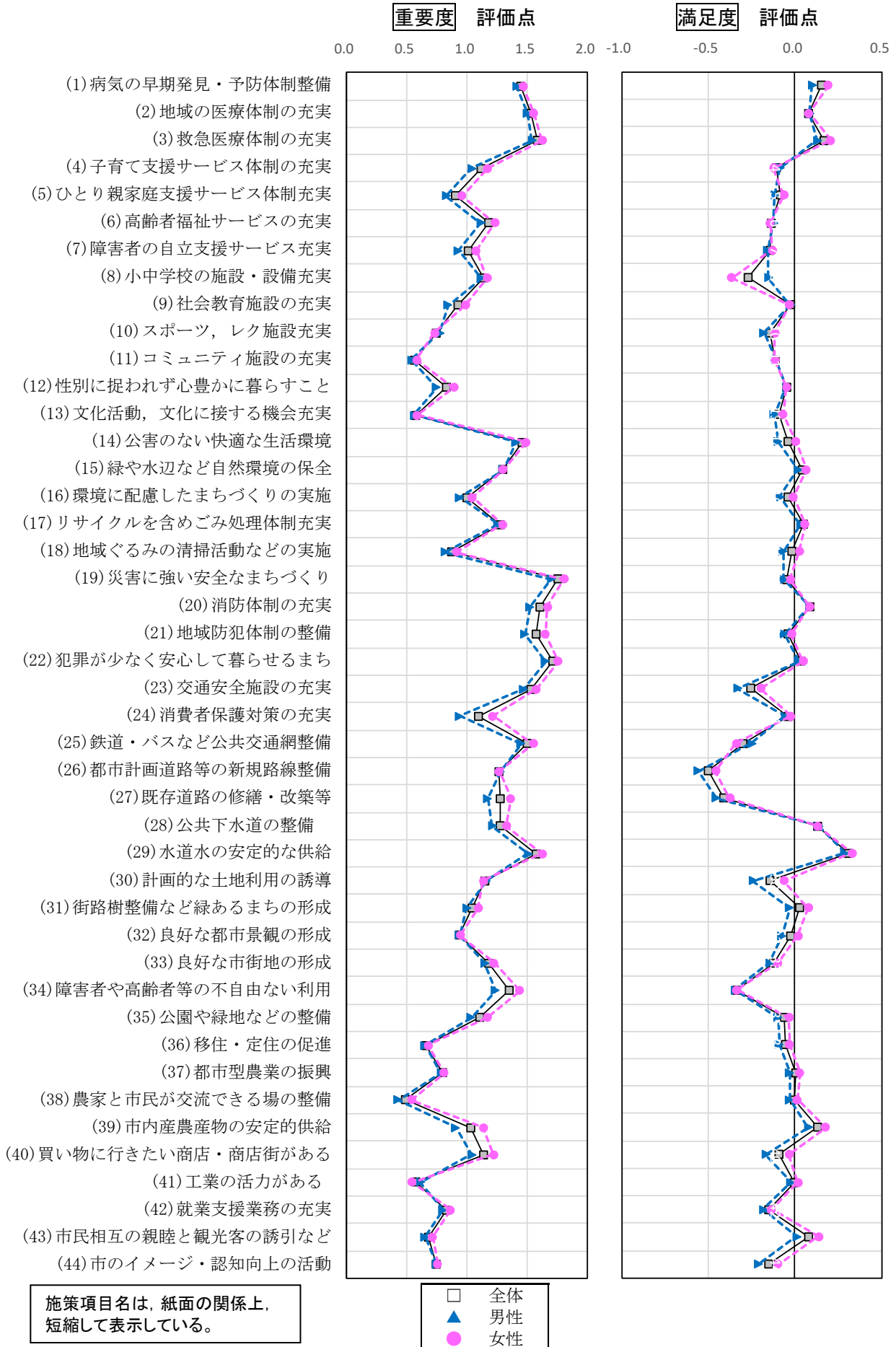
(2) 重要度・満足度の属性別比較

性別では、男女ともに概ね同様の傾向である中で、重要度に関しては、子育て支援をはじめとした健康福祉に関する項目や安心安全、快適生活に関する多くの項目で、女性の方が評価点がやや高いものが目立ち、重要性の認識が高いことを物語っている。満足度においても、快適生活に関する項目等で男性の方が女性よりわずかに評価点が低いものが目につくが、特に、「小中学校の施設・設備充実」では、男性より女性の満足度評価点が目立って低くなっている。

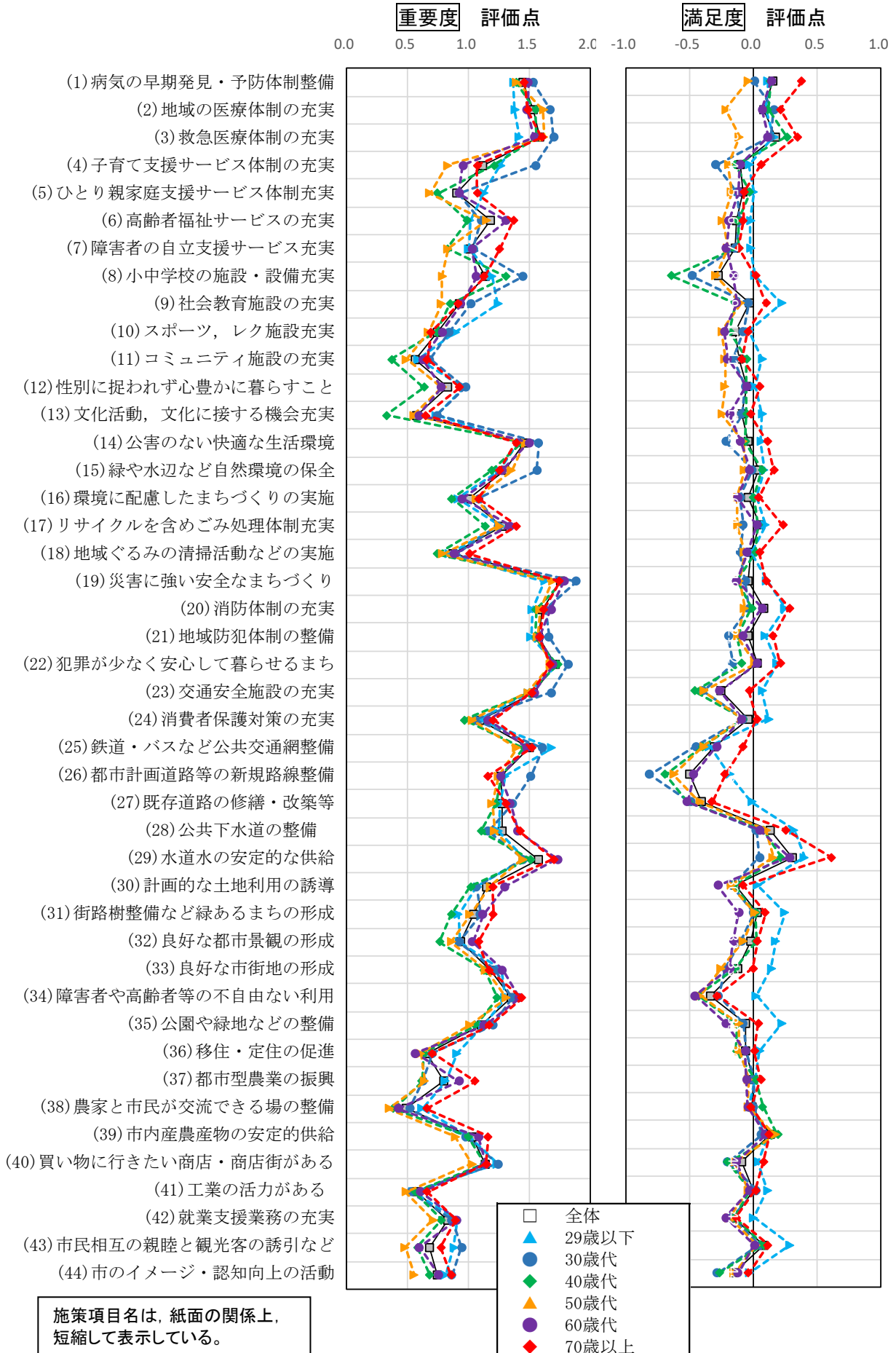
年齢別では、健康福祉や教育文化、安心安全などに関する多くの項目で、30歳代の重要度の評価点が比較的高く、また、安全安心や快適生活に関する多くの項目で、29歳以下及び70歳以上の満足度の評価点が比較的高いことなどが指摘できる。「小中学校の施設・設備充実」の満足度が、特に30歳代、40歳代で低いことも特徴である。

居住地域別では、安全安心に関する多くの項目で阿蘇地域での重要度の評価点が比較的高いことや産業活力に関する項目では睦地域での重要度評価点の高さが目立っている。満足度の評価点では、全体に多くの項目で、睦地域での値の低さが顕著である。

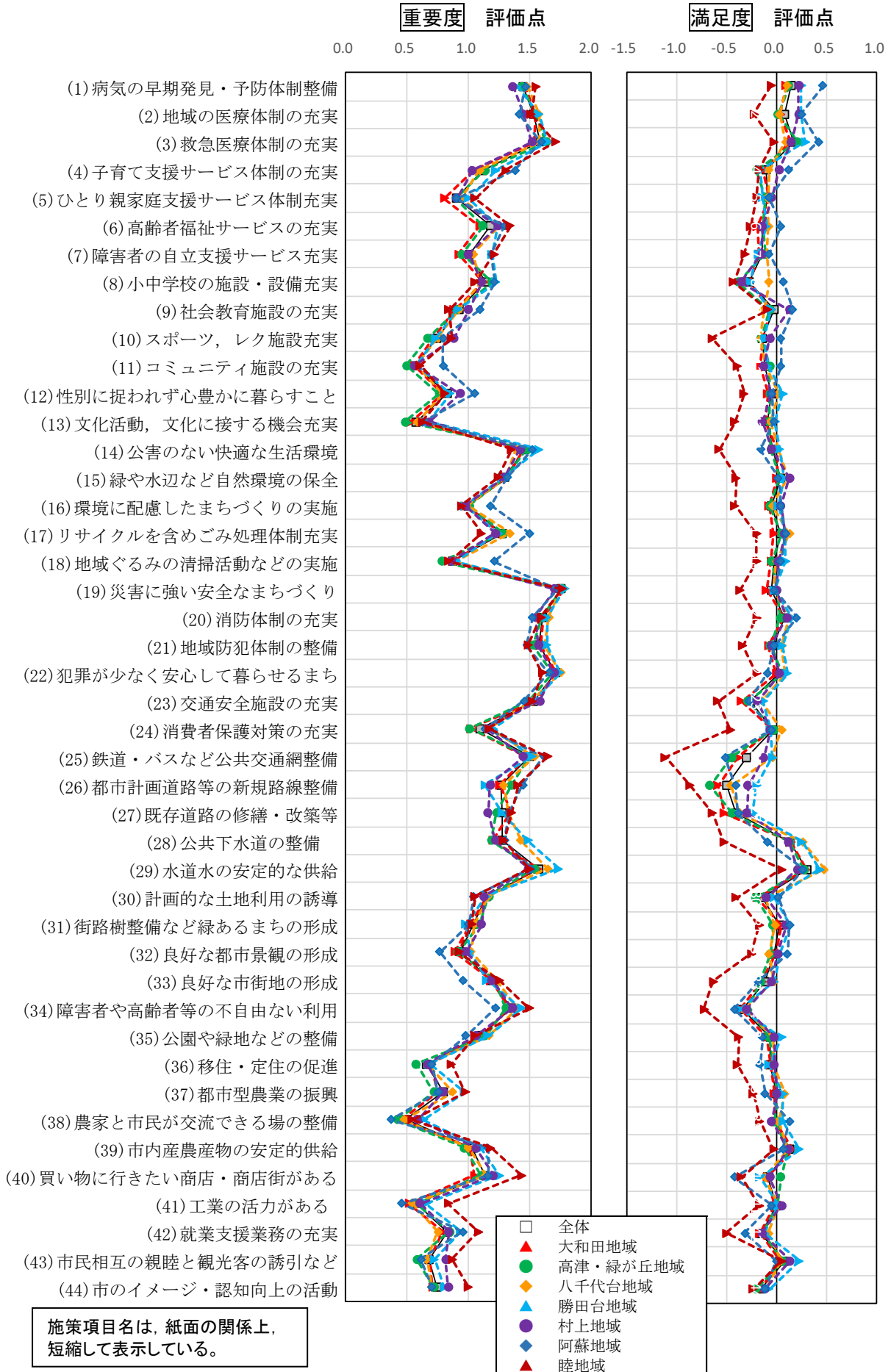
<性別>



<年齢別>



<居住地域別>



(3) 重要度と満足度の関係

重要度の評価点を横軸に、満足度の評価点を縦軸にとり、各施策項目の値をプロットした図を、6つの分野別に示す。

この図上では、以下に示すように、特に図の「右下」に位置する施策項目が、重要度が高く満足度が低いものになり、今後の施策展開で重要性が高い項目と評価できる。

図の左上方向	図の右上方向
重要度は低いが、満足度は高い	重要度が高く、満足度も高い
図の左下方向	図の右下方向
重要度が低く、満足度も低い	重要度は高いが、満足度は低い

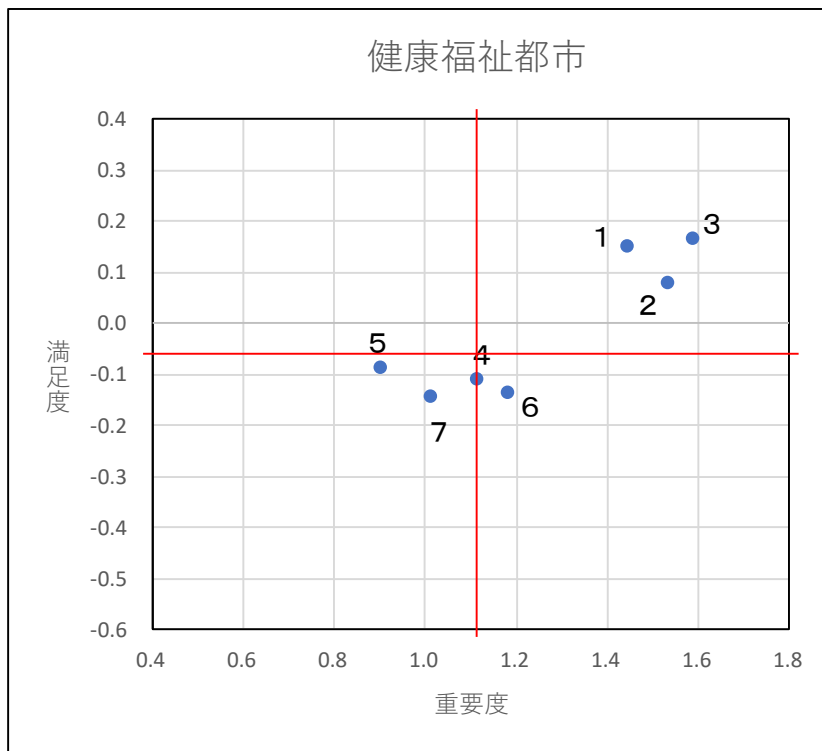
グラフでは、44の全項目の評価点平均値（重要度：1.12，満足度：-0.06）を赤線で示したが、これよりも上下、左右で顕著に値の高さ、低さが表れているものを抽出すると以下ようになる。

「右下」に顕著に属する項目は、高齢者福祉サービス、交通安全施設整備、公共交通網整備、都市計画道路等の整備、道路環境の改善、バリアフリー対策といったところである。

(重要度と満足度の関係が顕著な施策項目)

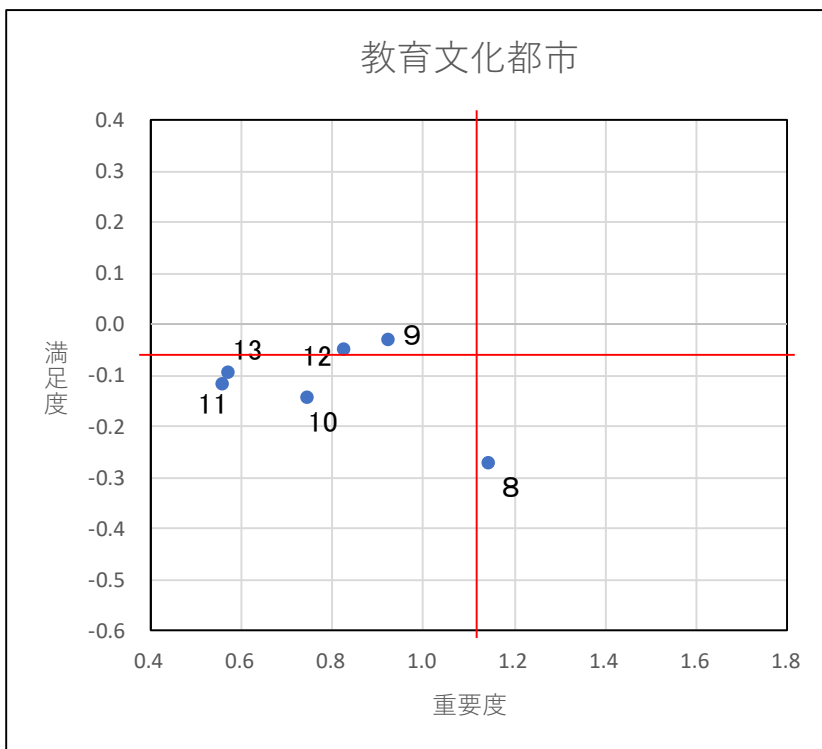
図の左上方向 (重要度は低いが、満足度は高い)	図の右上方向 (重要度が高く、満足度も高い)
(18) 市民・事業者・市の連携のもと、地域ぐるみの清掃活動などの実施 (31) 街路樹の整備などによる緑あるまちの形成 (37) 生産性の高い都市型農業の振興 (38) 市民農園や農業体験講座など、農家と市民が交流できる場の整備 (41) 市内には製造業の事業所数が多く工業の活力がある (43) ふるさと親子祭による、市民相互の親睦と観光客の誘引など地域の活性化	(1) 病気の早期発見・予防体制の整備 (2) 地域の医療体制の充実 (3) 救急医療体制の充実 (15) 緑や水辺などの自然環境の保全 (17) リサイクルを含めたごみ処理体制の充実 (20) 火災等から市民の生命や財産を守るための消防体制の充実 (22) 犯罪が少なく安心して暮らせるまち (28) 公共下水道の整備 (29) 安全でおいしい水道水の安定的な供給
図の左下方向 (重要度が低く、満足度も低い)	図の右下方向 (重要度は高いが、満足度は低い)
(5) ひとり親家庭を支援するサービス体制の充実 (7) 障害者の自立を支援するサービス体制の充実 (10) スポーツ、レクリエーション施設の充実 (11) コミュニティづくりのための施設の充実 (13) 地域の文化活動が活発で、文化に接する機会の充実 (42) 就業希望者に対する職業相談などの支援業務の充実 (44) 市のイメージ・認知向上の活動	(6) 高齢者福祉サービスの充実 (23) 安全に通行するための交通安全施設の充実 (25) 鉄道・バス路線などの公共交通網の整備 (26) 渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備 (27) 既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの設置等の道路整備 (34) 障害者や高齢者などが公共施設、交通機関、歩行空間で不自由を感じないで利用できる

重要度評価点と満足度評価点の関係図①



- (1) 病気の早期発見・予防体制の整備
- (2) 地域の医療体制の充実
- (3) 救急医療体制の充実
- (4) 子育てを支援するサービス体制の充実
- (5) ひとり親家庭を支援するサービス体制の充実
- (6) 高齢者福祉サービスの充実
- (7) 障害者の自立を支援するサービス体制の充実

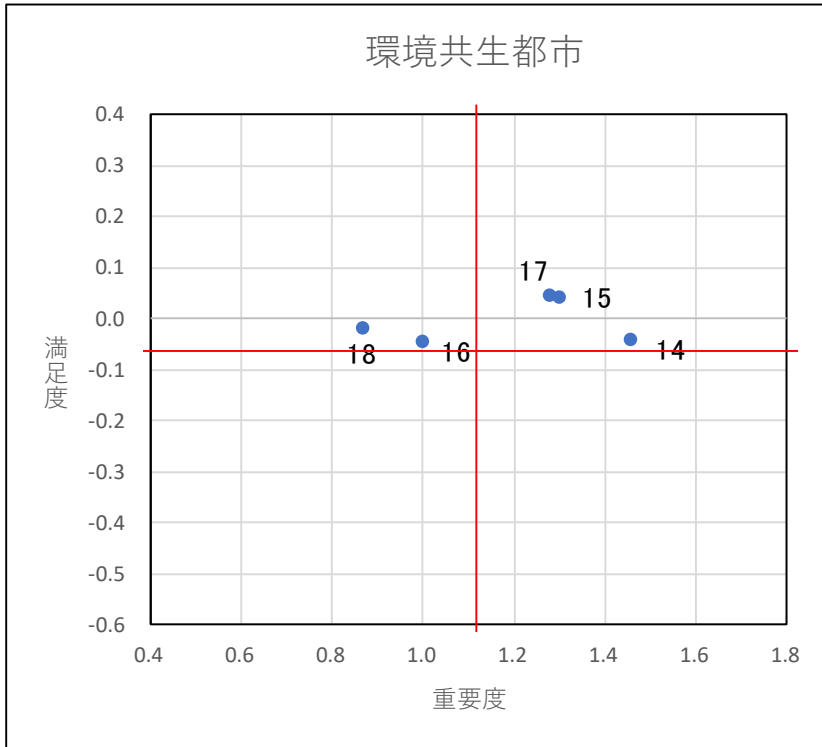
赤線は、全44項目の平均値を示す



- (8) 小中学校の施設・設備の充実
- (9) 図書館、公民館、博物館、文化伝承館などの社会教育施設の充実
- (10) スポーツ、レクリエーション施設の充実
- (11) コミュニティづくりのための施設の充実
- (12) 性別に捉われず、心豊かに暮らすこと
- (13) 地域の文化活動が活発で、文化に接する機会の充実

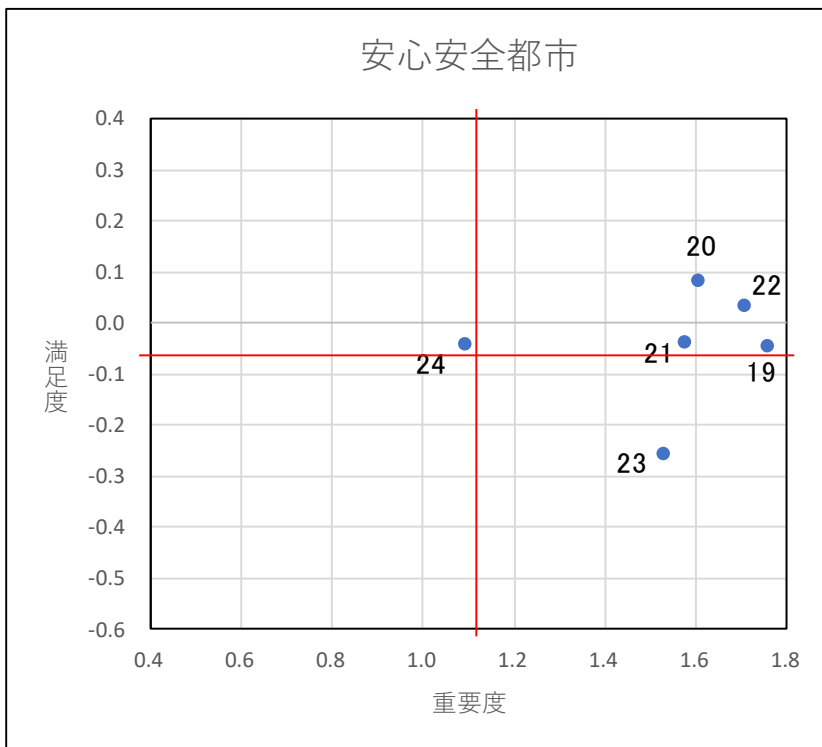
赤線は、全44項目の平均値を示す

重要度評価点と満足度評価点の関係図②



- (14) 大気汚染・水質汚濁・騒音・振動などのない快適な生活環境
- (15) 緑や水辺などの自然環境の保全
- (16) いろいろな人達が協力して環境に配慮したまちづくりの実施
- (17) リサイクルを含めたごみ処理体制の充実
- (18) 市民・事業者・市の連携のもと、地域ぐるみの清掃活動などの実施

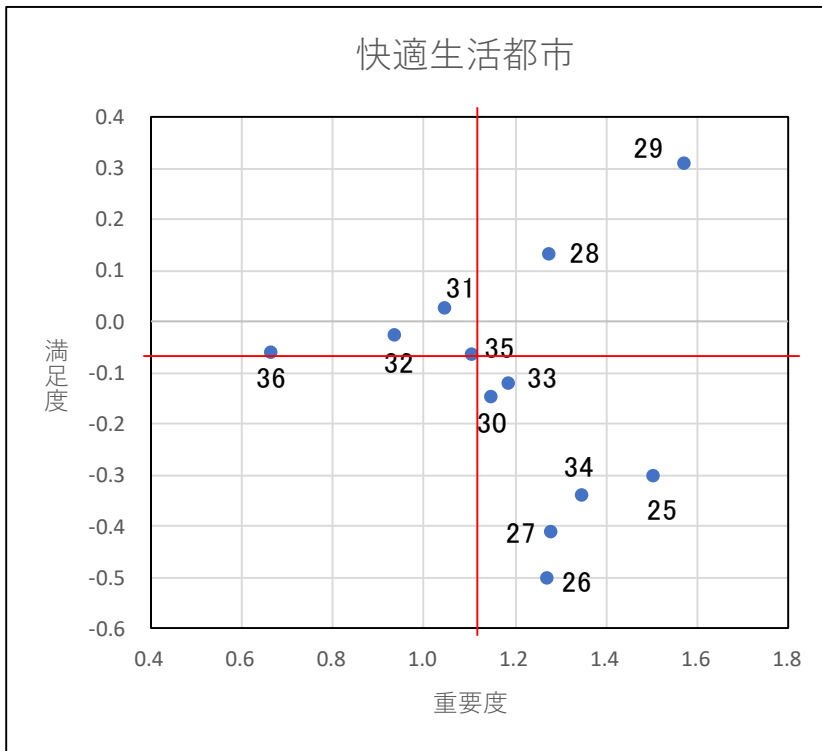
赤線は、全44項目の平均値を示す



- (19) 災害に強い安全なまちづくり
- (20) 火災等から市民の生命や財産を守るための消防体制の充実
- (21) 市民、警察、防犯関係団体等による地域防犯体制の整備
- (22) 犯罪が少なく安心して暮らせるまち
- (23) 安全に通行するための交通安全施設の充実
- (24) 消費者の保護対策の充実

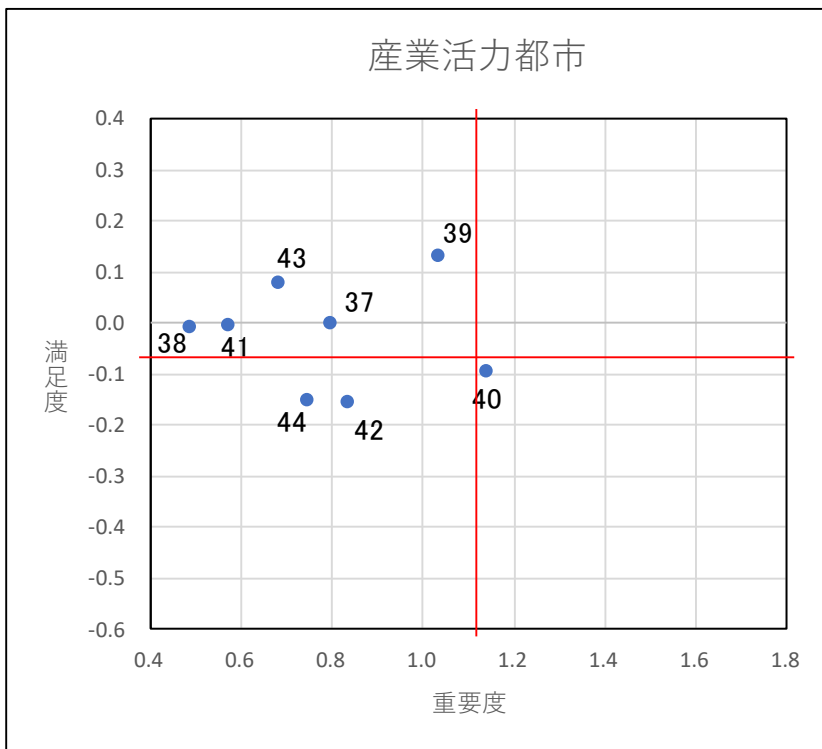
赤線は、全44項目の平均値を示す

重要度評価点と満足度評価点の関係図③



赤線は、全44項目の平均値を示す

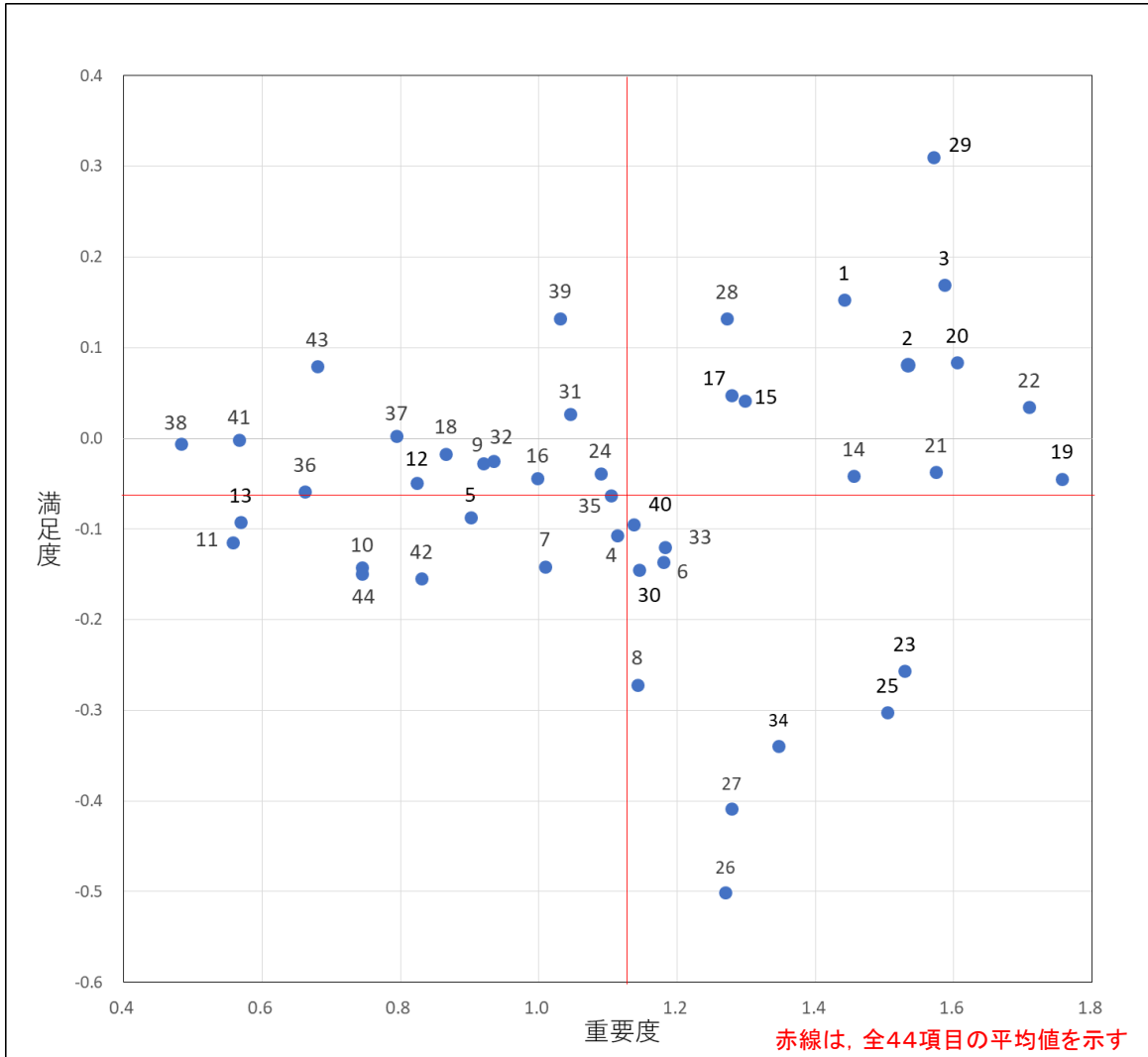
- (25) 鉄道・バス路線などの公共交通網の整備
- (26) 渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備
- (27) 既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの設置等の道路整備
- (28) 公共下水道の整備
- (29) 安全でおいしい水道水の安定的な供給
- (30) 市の計画的な土地利用の誘導により、無秩序な開発が防がれる
- (31) 街路樹の整備などによる緑あるまちの形成
- (32) 地域特性に応じた良好な都市景観の形成
- (33) 利便性、安全性、快適性に富んだ良好な市街地の形成
- (34) 障害者や高齢者などが公共施設、交通機関、歩行空間で不自由を感じないで利用できる
- (35) 公園や緑地などの整備
- (36) 移住・定住の促進



赤線は、全44項目の平均値を示す

- (37) 生産性の高い都市型農業の振興
- (38) 市民農園や農業体験講座など、農家と市民が交流できる場の整備
- (39) 新鮮な市内産農産物の安定的な供給
- (40) 地域に買い物に行きたいと思う商店・商店街がある
- (41) 市内には製造業の事業所数が多く工業の活力がある
- (42) 就業希望者に対する職業相談などの支援業務の充実
- (43) ふるさと親子祭による、市民相互の親睦と観光客の誘引など地域の活性化
- (44) 市のイメージ・認知向上の活動

44項目の位置を全てプロットすると、満足度の重要度の関係は、以下ようになる。



- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 病気の早期発見・予防体制の整備 (2) 地域の医療体制の充実 (3) 救急医療体制の充実 (4) 子育てを支援するサービス体制の充実 (5) ひとり親家庭を支援するサービス体制の充実 (6) 高齢者福祉サービスの充実 (7) 障害者の自立を支援するサービス体制の充実 (8) 小中学校の施設・設備の充実 (9) 図書館、公民館、博物館、文化伝承館などの社会教育施設の充実 (10) スポーツ、レクリエーション施設の充実 (11) コミュニティづくりのための施設の充実 (12) 性別に捉われず、心豊かに暮らすこと (13) 地域の文化活動が活発で、文化に接する機会の充実 (14) 大気汚染・水質汚濁・騒音・振動などない快適な生活環境 (15) 緑や水辺などの自然環境の保全 (16) いろいろな人達が協力して環境に配慮したまちづくりの実施 (17) リサイクルを含めたごみ処理体制の充実 (18) 市民・事業者・市の連携のもと、地域ぐるみの清掃活動などの実施 (19) 災害に強い安全なまちづくり (20) 火災等から市民の生命や財産を守るための消防体制の充実 (21) 市民、警察、防犯関係団体等による地域防犯体制の整備 (22) 犯罪が少なく安心して暮らせるまち | <ul style="list-style-type: none"> (23) 安全に通行するための交通安全施設の充実 (24) 消費者の保護対策の充実 (25) 鉄道・バス路線などの公共交通網の整備 (26) 洗滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備 (27) 既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの設置等の道路整備 (28) 公共下水道の整備 (29) 安全でおいしい水道水の安定的な供給 (30) 市の計画的な土地利用の誘導により、無秩序な開発が防がれる (31) 街路樹の整備などによる緑あるまちの形成 (32) 地域特性に応じた良好な都市景観の形成 (33) 利便性、安全性、快適性に富んだ良好な市街地の形成 (34) 障害者や高齢者などが公共施設、交通機関、歩行空間で不自由を感じないで利用できる (35) 公園や緑地などの整備 (36) 移住・定住の促進 (37) 生産性の高い都市型農業の振興 (38) 市民農園や農業体験講座など、農家と市民が交流できる場の整備 (39) 新鮮な市内産農産物の安定的な供給 (40) 地域に買い物に行きたいと思う商店・商店街がある (41) 市内には製造業の事業所数が多く工業の活力がある (42) 就業希望者に対する職業相談などの支援業務の充実 (43) ふるさと親子祭による、市民相互の親睦と観光客の誘引など地域の活性化 (44) 市のイメージ・認知向上の活動 |
|---|---|

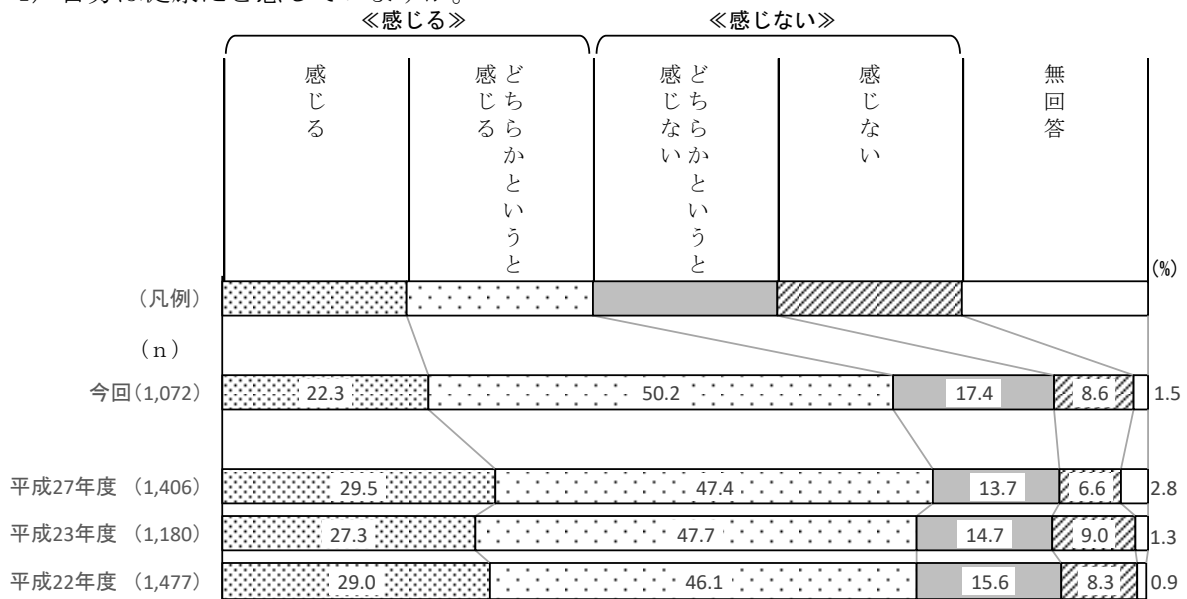
16 後期基本計画における指標について

問 24 下の表に示した各項目について、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○印をつけてください。

(1) 健康福祉都市をめざして

◆健康状態

1) 自分は健康だと感じていますか。



自分が健康だということに対し、「どちらかというと感じる」が50.2%で最も高く、「感じる」が22.3%、「どちらかというと感じない」が17.4%、「感じない」が8.6%が続いている。

「どちらかという」とを含めた《感じる》の回答が72.5%と、全体の4分の3近くを占めているが、前回（平成27年度）調査よりわずかに減少している。

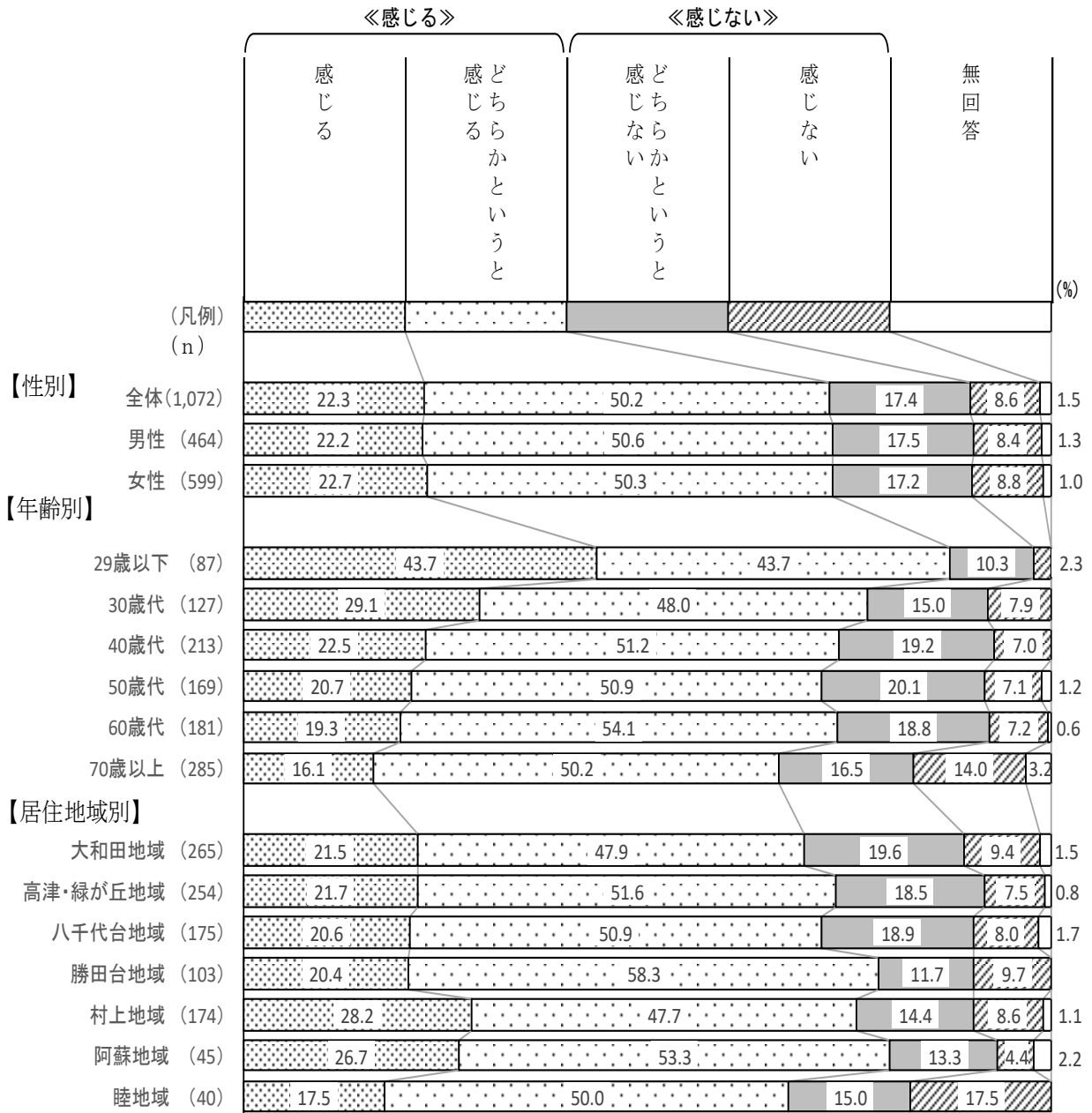
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女ほとんど同様の傾向である。

年齢別では、年齢層が上がるほど概ね、健康と感じる割合が低下する傾向が鮮明である。70歳以上では、《感じる》の割合は66.3%となっているが、それでも約3分の2の水準である。

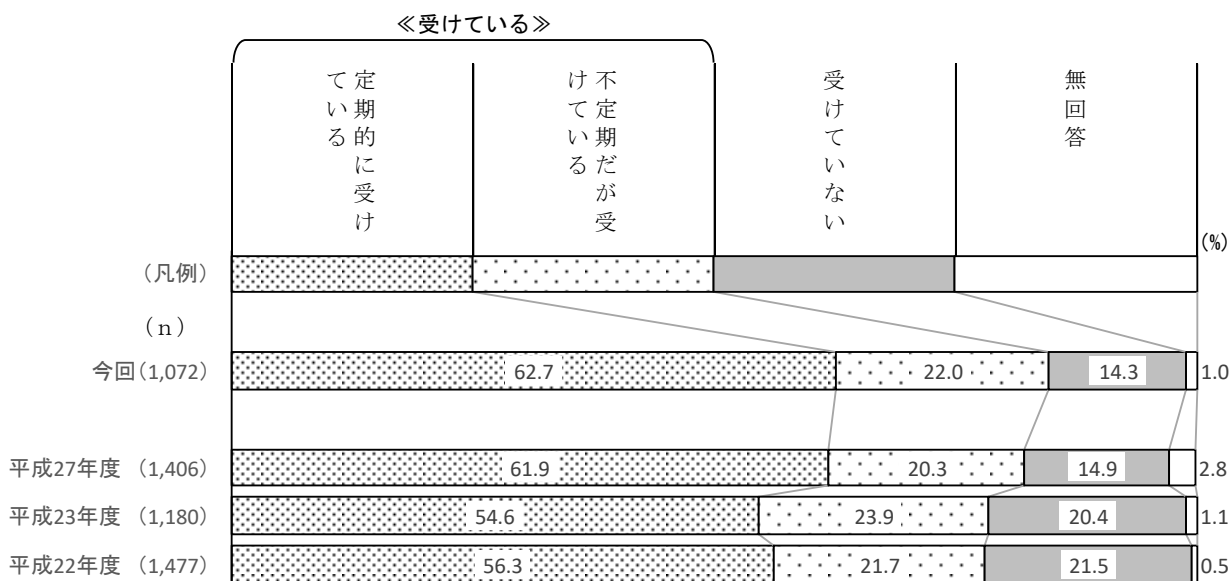
居住地域別では、勝田台、村上、阿蘇地域で《感じる》の割合が相対的に高い。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆健康診断や人間ドックの受診

2) 定期的に健康診断・健康診査や人間ドックを受けていますか。



健康診断・健康診査や人間ドックを「定期的に受けている」が62.7%で最も高く、「不定期だが受けている」が22.0%、「受けていない」が14.3%が続いている。「不定期」を含めて《受けている》の合計は84.7%であり、前回（平成27年度）調査よりわずかに増加している。

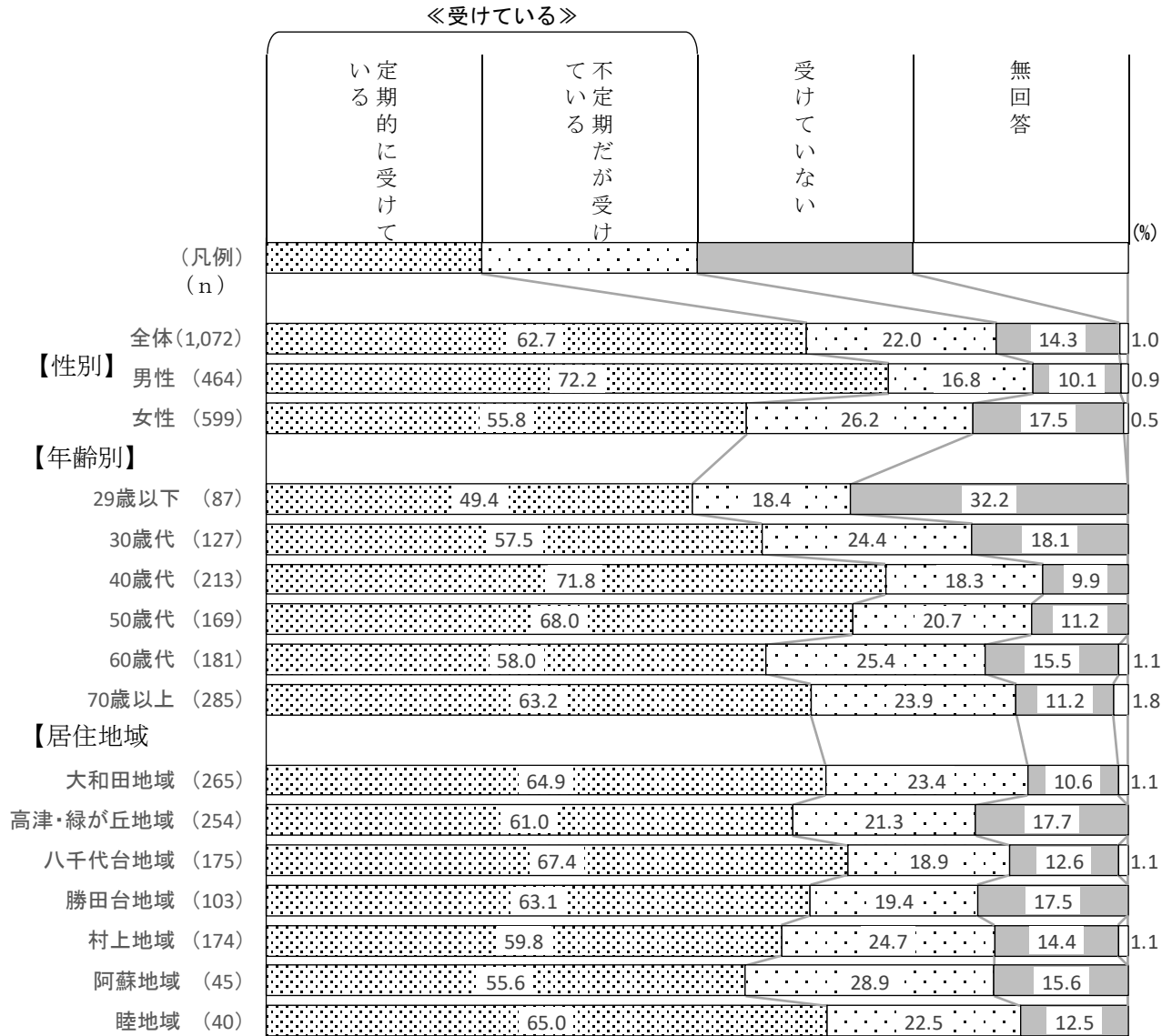
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《受けている》の割合は男性の方が女性より7ポイントほど高い。

年齢別では、《受けている》の割合は40～50歳代で特に高く、9割近くに達しているが、若い年齢層では相対的に低くなっており、特に29歳以下では67.8%となっている。

居住地域別では、《受けている》の割合は大きな差異はないが、「定期的に受けている」の割合は八千代台地域で最も高く、阿蘇地域で最も低い。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆かかりつけ医の有無

3) かかりつけ医を決めていますか。

	決めている	決めていない	無回答	(%)
(凡例)				
(n)				
今回(1,072)	63.6	35.2		1.2
平成27年度 (1,406)	64.2	32.4		3.5
平成23年度 (1,180)	63.3	35.7		1.0
平成22年度 (1,477)	60.8	38.5		0.7

かかりつけ医を「決めている」は63.6%、「決めていない」は35.2%となっている。前回（平成27年度）以前の調査と大きな変動はない。

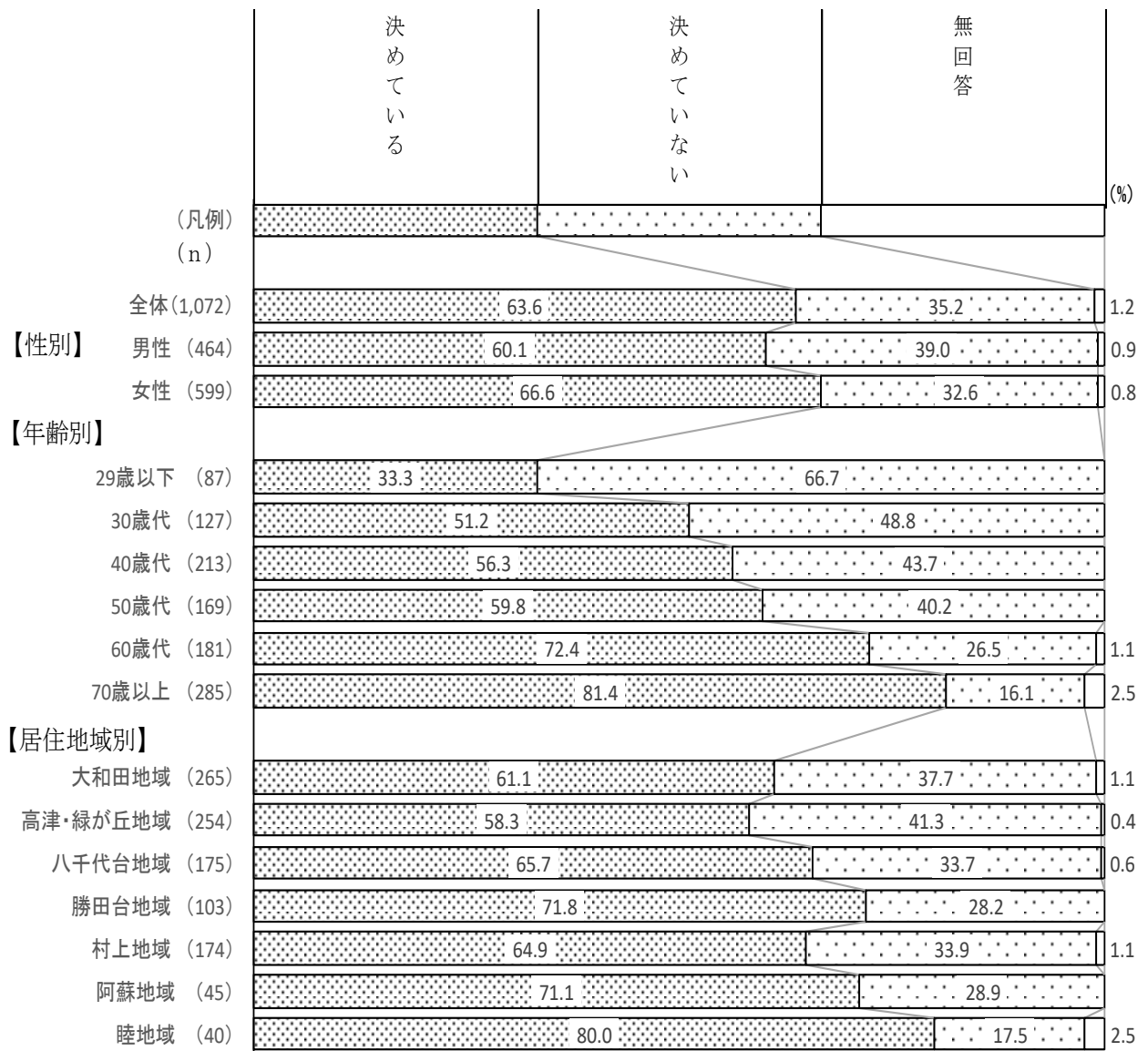
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、女性の方が「決めている」割合がやや高い。

年齢別では、年齢層が上がるほど「決めている」割合が高まることが顕著であり、29歳以下では33.3%であるが、70歳以上では81.4%となる。

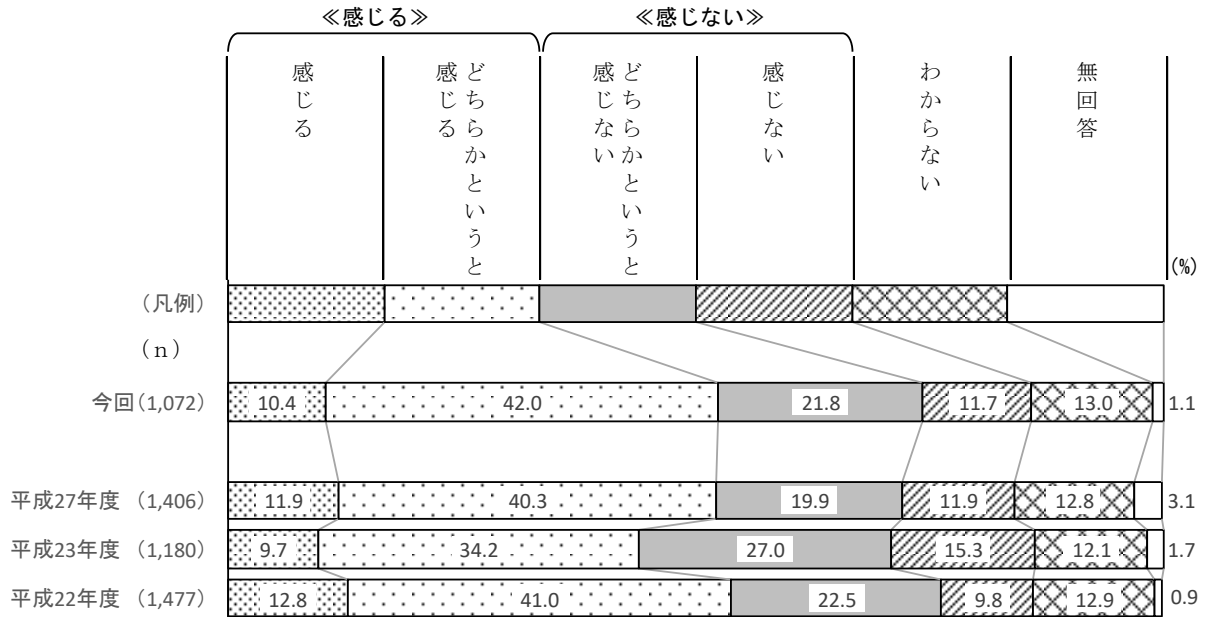
居住地域別では、睦地域、勝田台地域、阿蘇地域の順で「決めている」割合が高く、逆に、高津・緑が丘地域では最も低い58.3%となっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆地域医療体制の整備状況

4) 地域医療体制が整っていると感じますか。



地域医療体制が整っていると「どちらかというと感じる」が42.0%で最も高く、「どちらかというと感じない」が21.8%、「わからない」が13.0%、「感じない」が11.7%で続く。「どちらかという」とを含めた《感じる》の割合は52.4%となっており、前回（平成27年度）調査とほぼ同水準である。

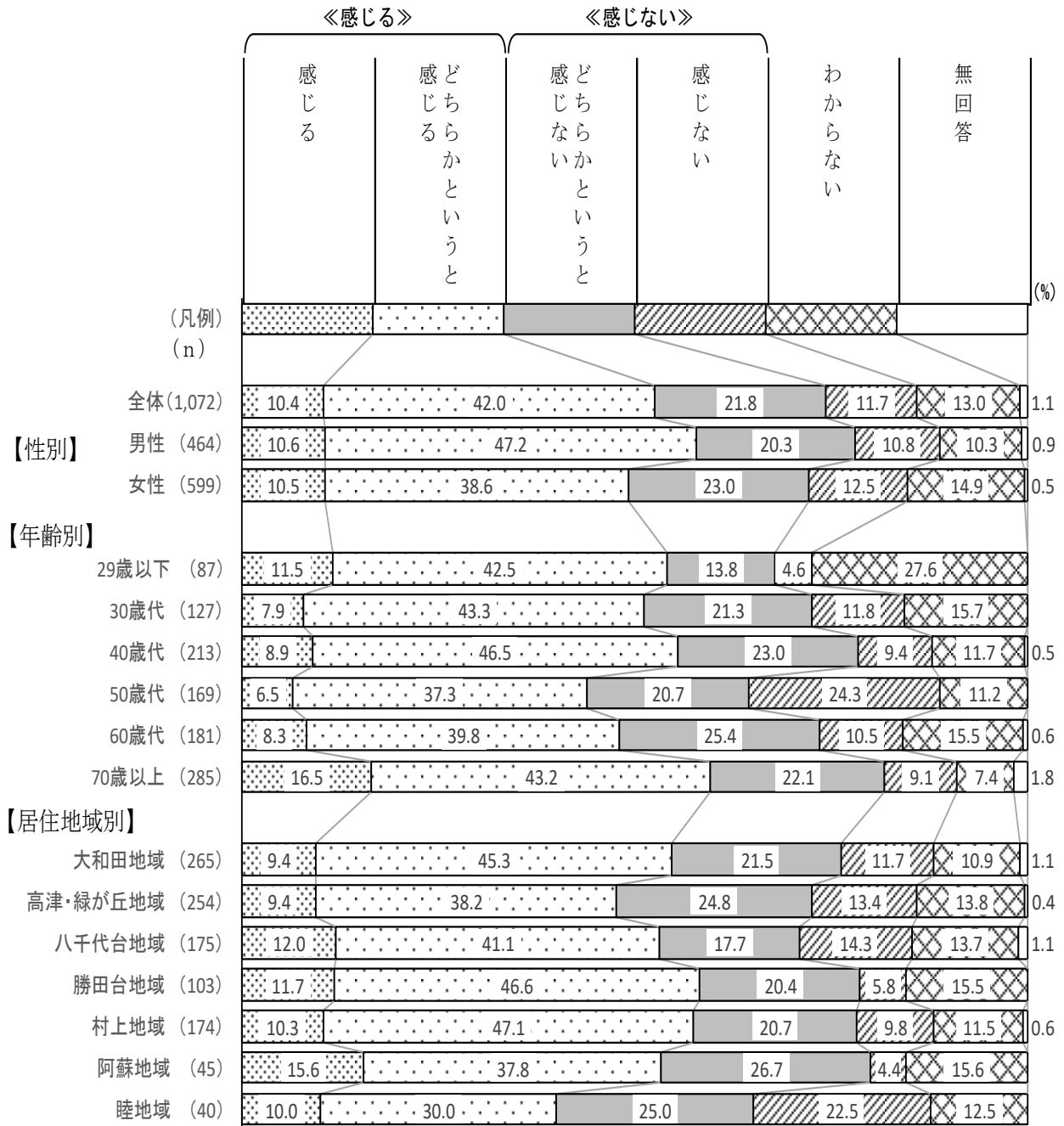
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、女性の方が「どちらかという」とを含め《感じない》の割合がやや高く、厳しい評価である。

年齢別では、特に50歳代、60歳代において、《感じる》の割合が4割台と相対的に低くなっている。

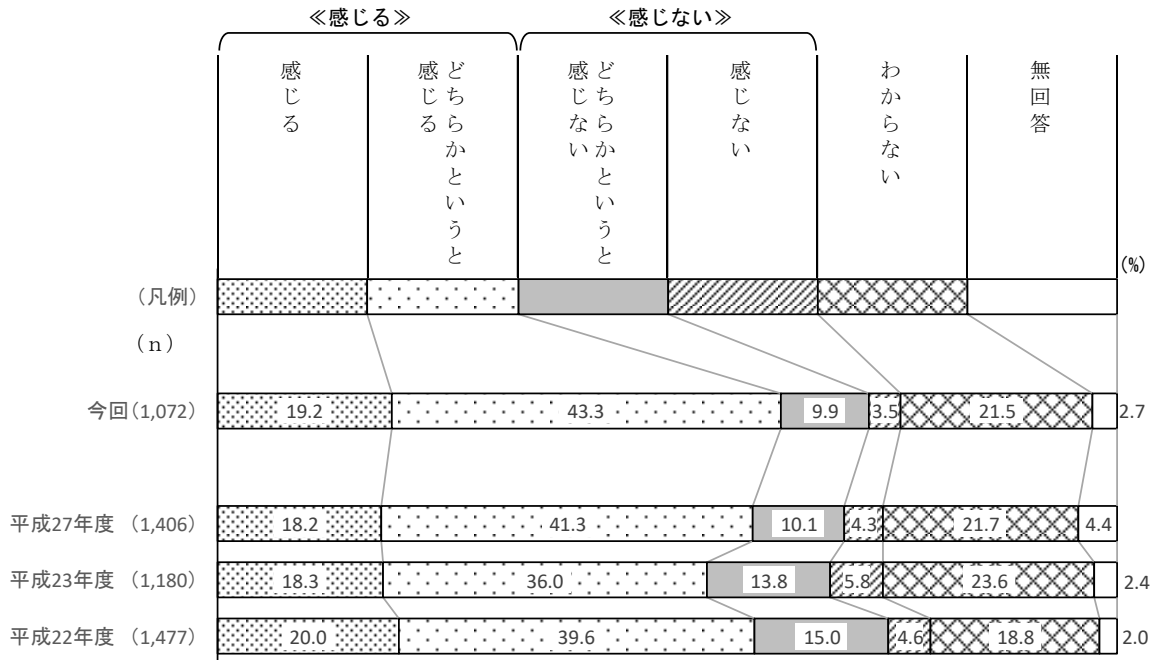
居住地域別では、睦地域、次いで高津・緑が丘地域で《感じる》の割合の低さが目立っている。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆子どもの健やかな発育・発達

5) 子どもが心身ともに健やかに発育・発達していると感じますか。



子どもの健やかな発育・発達を「どちらかというと感じる」が43.3%で最も高く、「わからない」が21.5%、「感じる」が19.2%、「どちらかというと感じない」が9.9%が続いている。前回(平成27年度)調査と比べて、「どちらかというと感じる」を含めた《感じる》の割合がやや(3ポイントほど)高まっている。

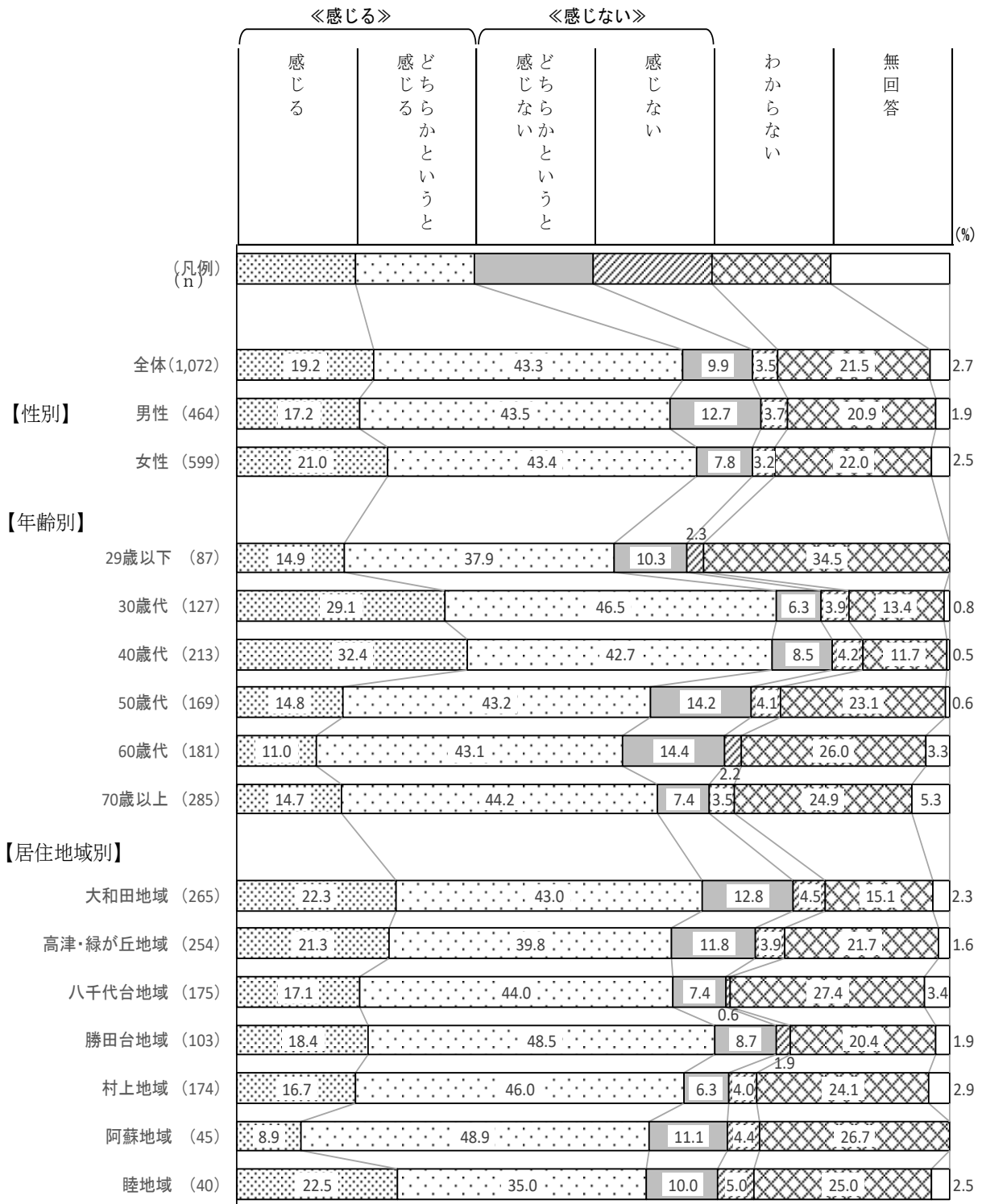
《性別・年齢別・居住地別》

性別では、女性の方が、《感じる》の割合がわずかに高い。

年齢別では、子育て世代やそれに続く世代に相当する30~40歳代で《感じる》の割合が特に高いのが目立ち、30歳代ではその割合が75.6%に達している。

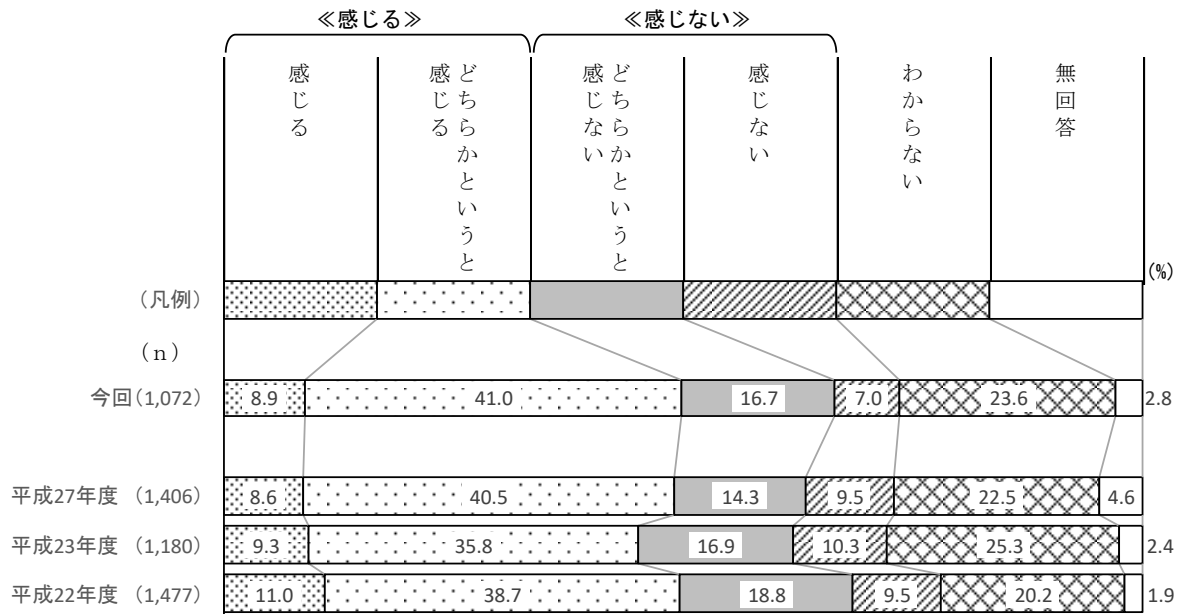
居住地別では、大きな差異はないが、《感じる》の割合が最も高いのが勝田台地域、最も低いのが睦地域で、その差は9ポイント程度となっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆子育てしやすいまち

6) 子育てしやすいまちと感じていますか。



子育てしやすいまちは、「どちらかというと感じる」が41.0%で最も高く、「わからない」が23.6%、「どちらかというと感じない」が16.7%、「感じる」が8.9%が続いている。「どちらかというと感じる」を含めた《感じる》の割合が、前回（平成27年度）調査よりもわずかに増えたが、逆に「どちらかというと感じない」を含めた《感じない》の割合は同水準である。

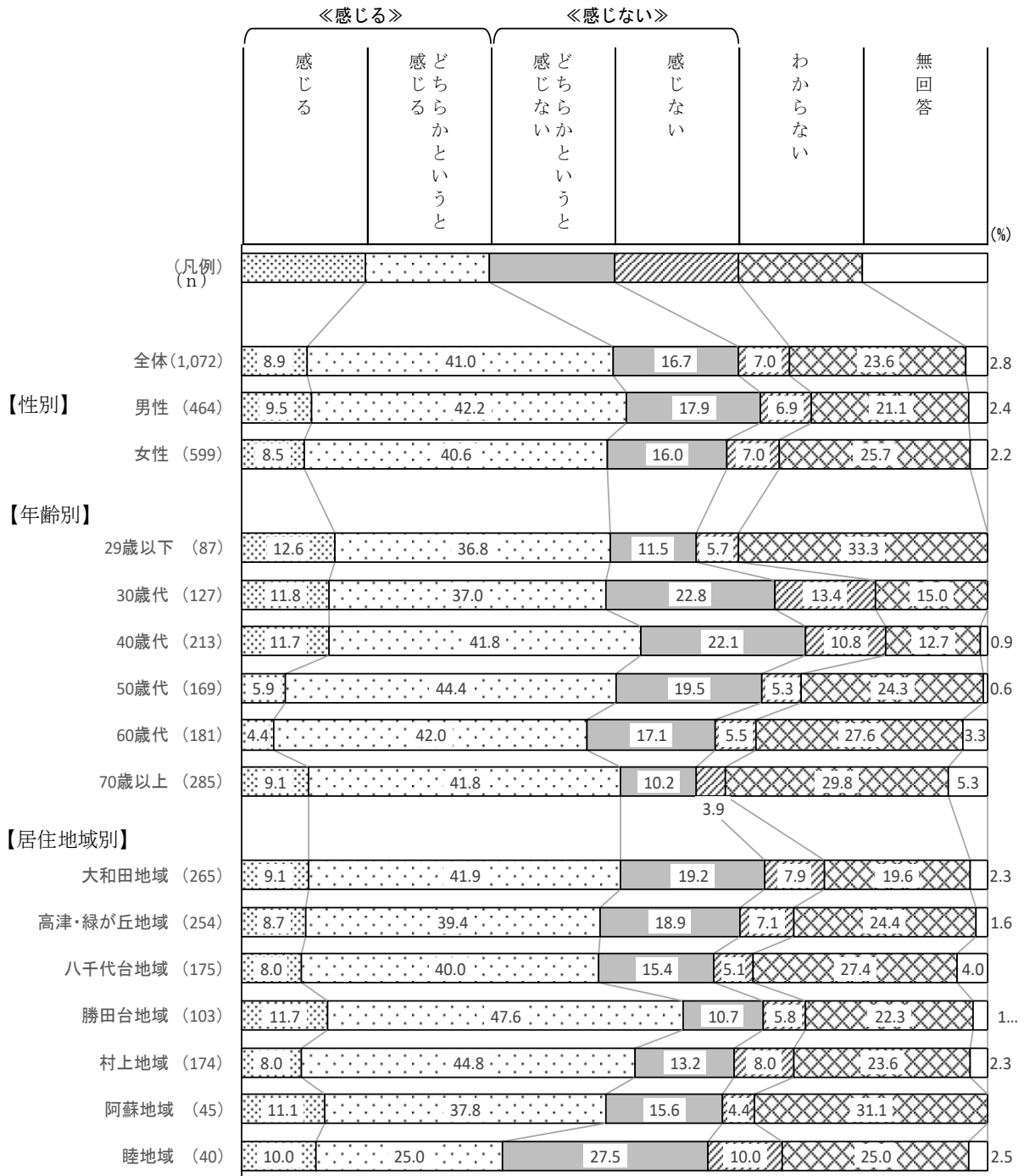
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「わからない」の比率の差を考慮すると、男女による傾向の差はほとんど認められない。

年齢別では、《感じる》の割合は大きな差はないが、《感じない》の割合は、子育ての当事者世代である30歳代、40歳代で目立って高くなっている。他の世代ではそれに代わって「わからない」の割合が相対的に高い。

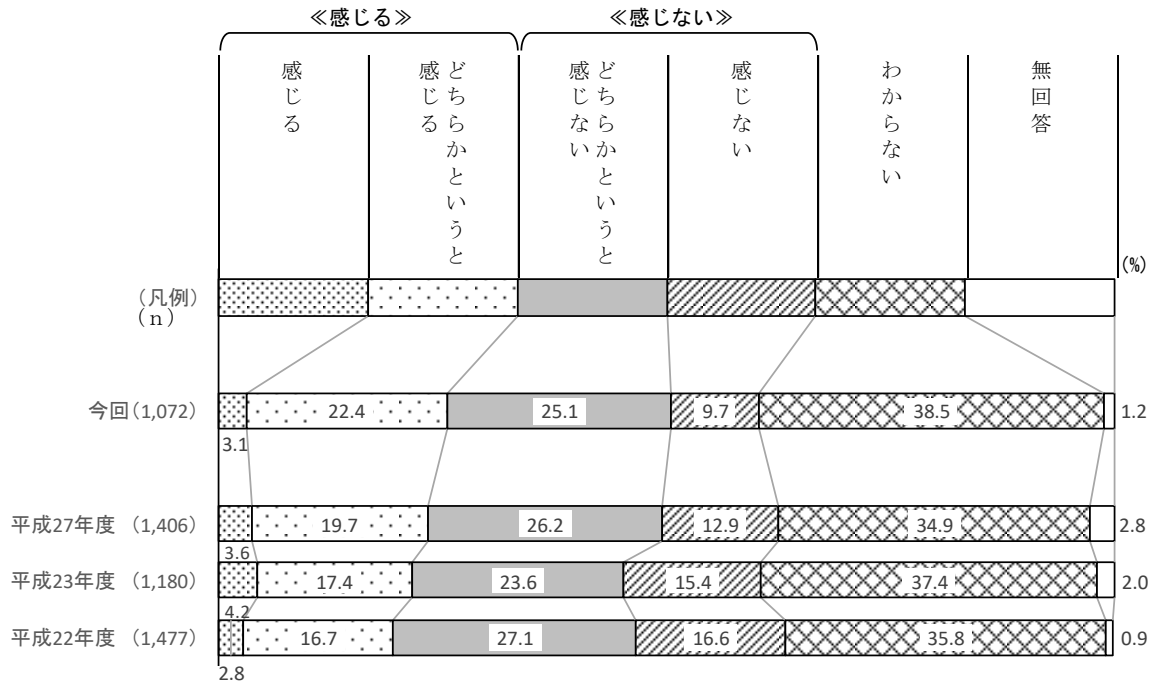
居住地域別では、《感じる》の割合が勝田台地域、村上地域で比較的高く、逆に睦地域は最も低く、35.0%にとどまっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆高齢者福祉サービスの充実

7) 高齢者福祉サービスが充実していると感じますか。



高齢者福祉サービスの充実は、「わからない」が38.5%で最も高く、「どちらかというと感じない」が25.1%、「どちらかというと感じる」が22.4%、「感じない」が9.7%が続いている。前回（平成27年度）調査と比べ、「どちらかという」とを含めた《感じる》の割合が2ポイント程度上昇している。

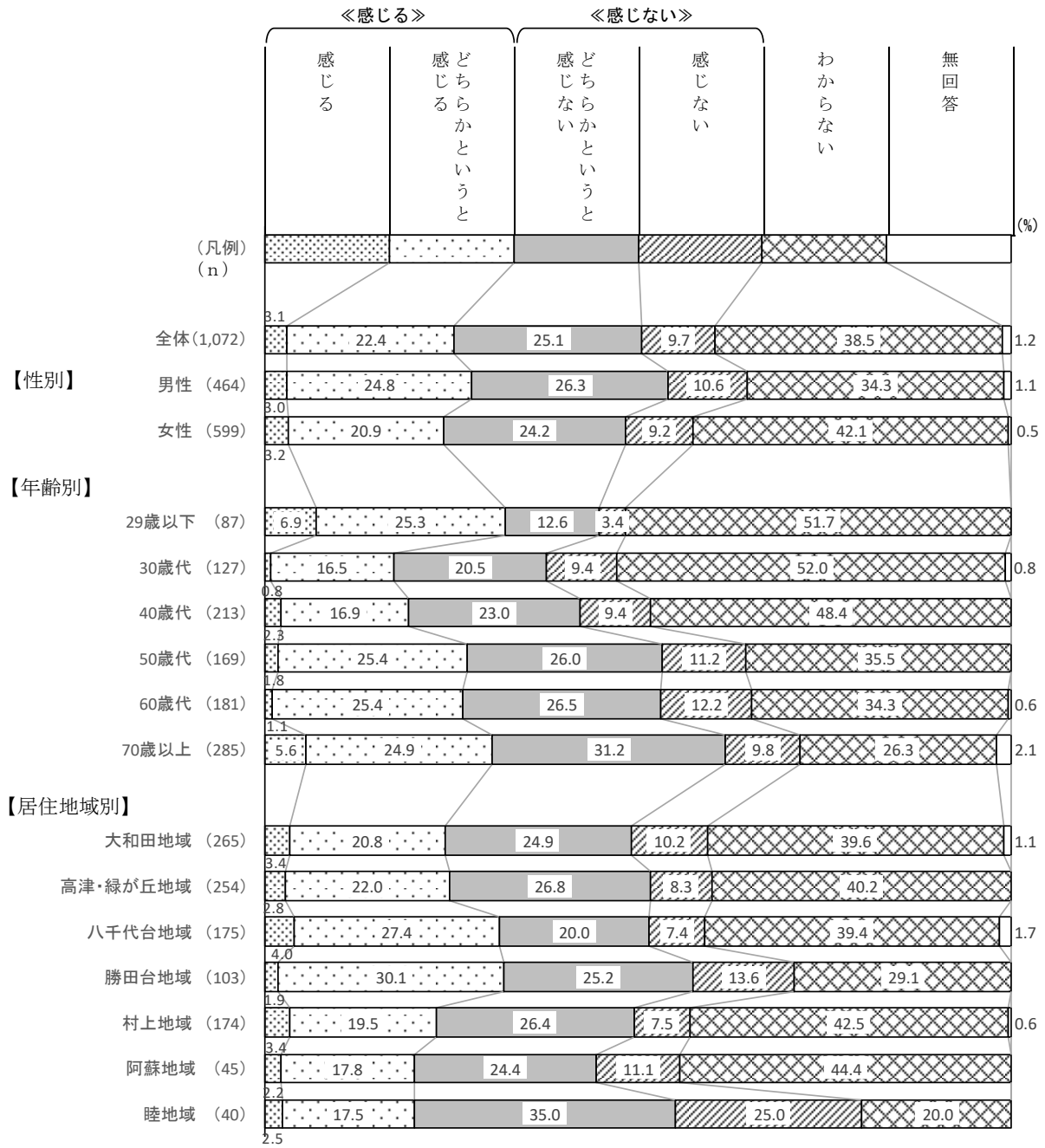
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「わからない」の割合が女性の方がやや高い。

年齢別では、若い年齢層ほど「わからない」の割合が高い傾向が顕著であるが、29歳以下の世代において、《感じる》の割合が32.2%と最も高くなっているのが注目される。

居住地域別では、八千代台地域、勝田台地域で《感じる》の割合が相対的に高くなっている。

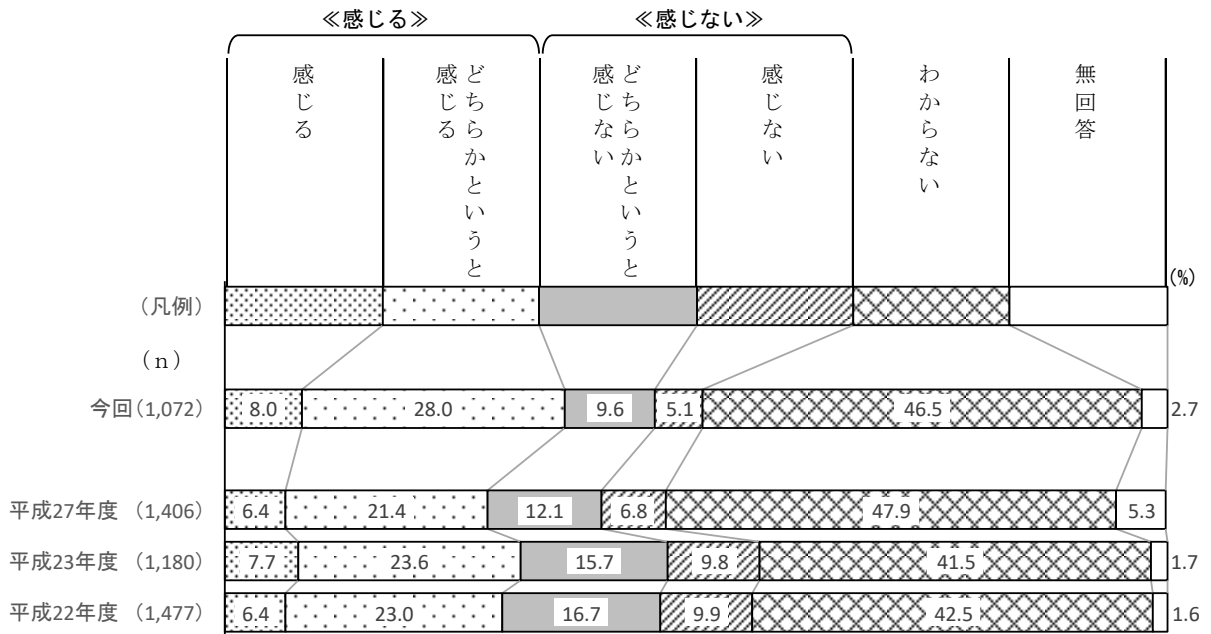
<性別・年齢別・居住地域別>



(2) 教育文化都市をめざして

◆幼稚園教育の充実

8) 幼稚園の教育が充実していると感じますか。



幼稚園教育の充実は、「わからない」が46.5%で最も高く、「どちらかというと感じる」が28.0%、「どちらかというと感じない」が9.6%、「感じる」が8.0%で続く。「どちらかという」とを含めた《感じる》の割合は36.0%であるが、これは、前回（平成27年度）調査と比べて約8ポイント増と、大幅に増大している。

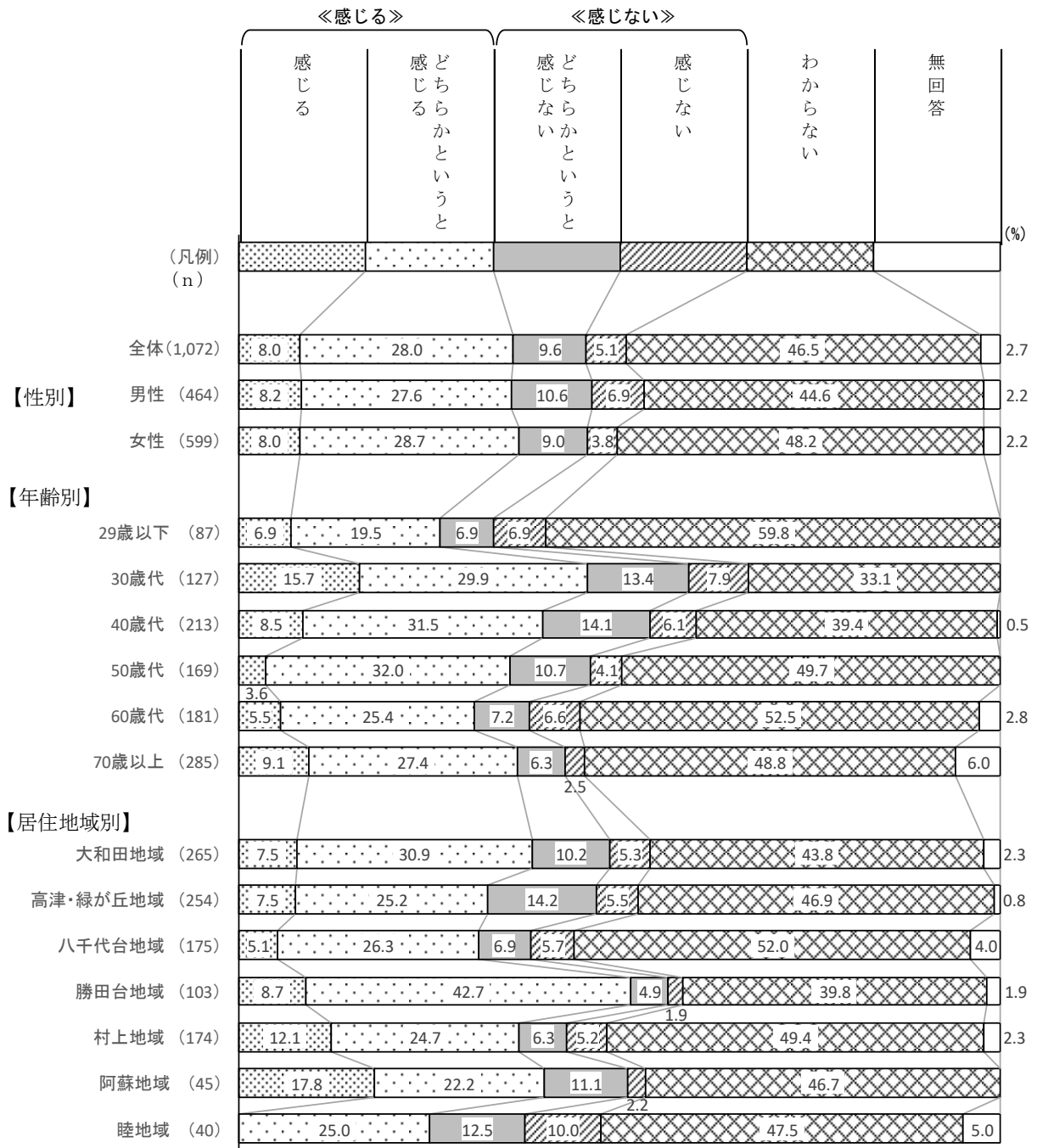
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、女性の方が「わからない」の割合がやや高く、その分、「感じない」の割合が低くなっている。

年齢別では、子育ての当事者である30歳代、40歳代以外の世代では「わからない」が5割前後またはそれ以上と高いが、当事者の30歳代、40歳代では《感じる》の割合が高く、特に30歳代では45.6%に達している。

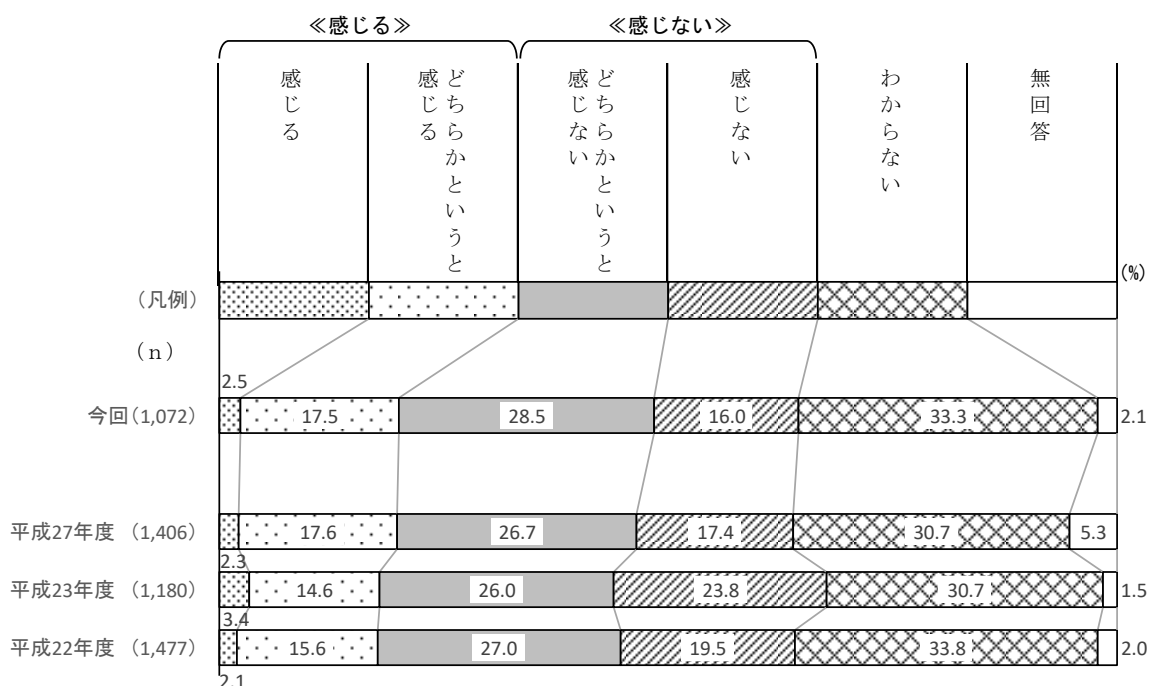
居住地域別では、《感じる》の割合が、勝田台地域で特に高く、逆に睦地域で特に低いのが目立つ。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆生涯学習情報の得やすさ

9) 生涯学習情報が得られやすいと感じますか。



生涯学習情報の得やすさに関しては、「わからない」が33.3%で最も高く、「どちらかというと感じない」が28.5%、「どちらかというと感じる」が17.5%、「感じない」が16.0%が続いている。前回（平成27年度）調査とほぼ同様の傾向である。

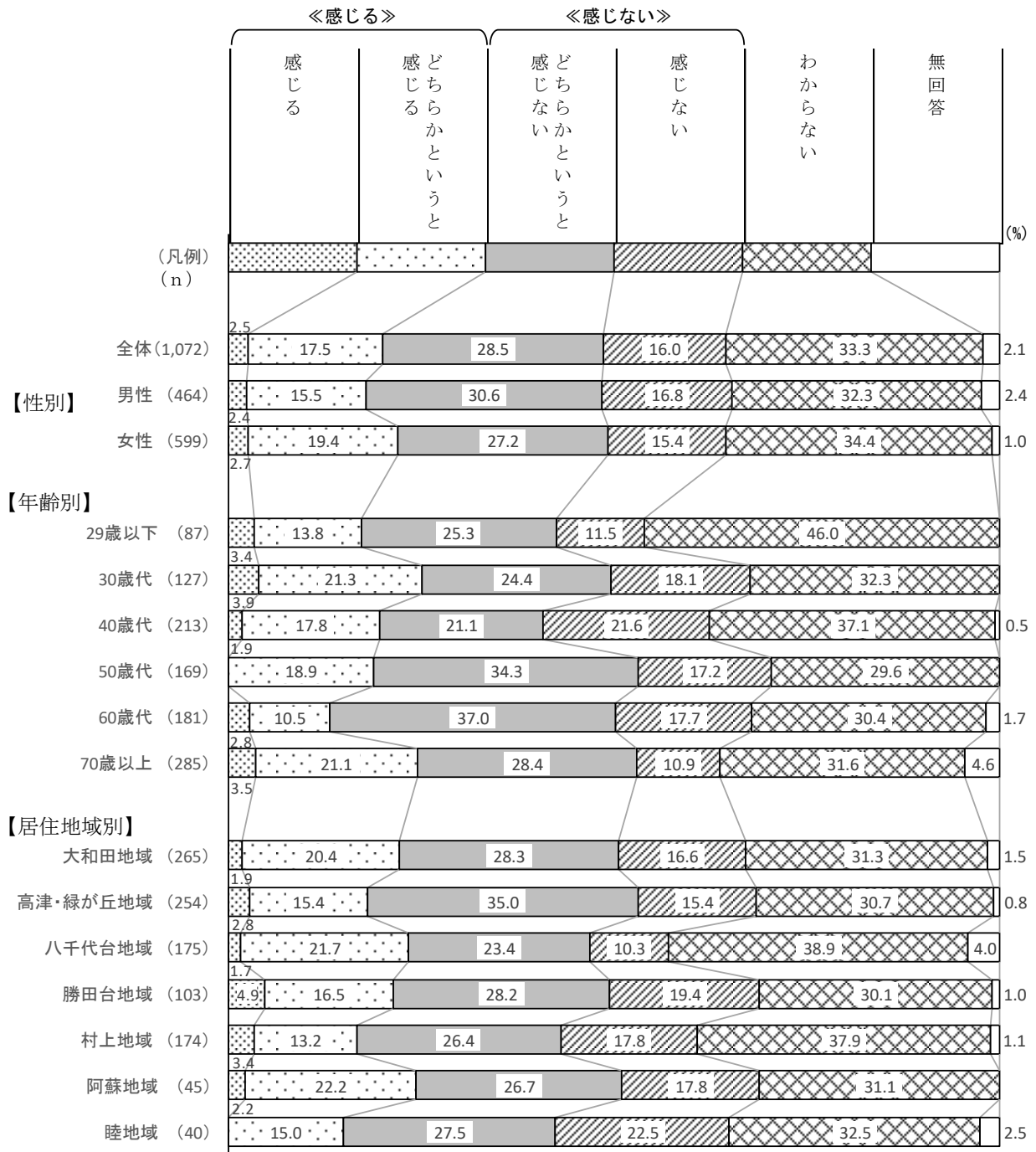
《性別・年齢別・居住地別》

性別では、「どちらかという」とを含めた《感じない》の割合が、男性の方がやや高い。

年齢別では、「どちらかという」とを含めた《感じる》の割合が、30歳代、70歳以上で比較的高く、逆に60歳代では最も低い13.3%となっている。

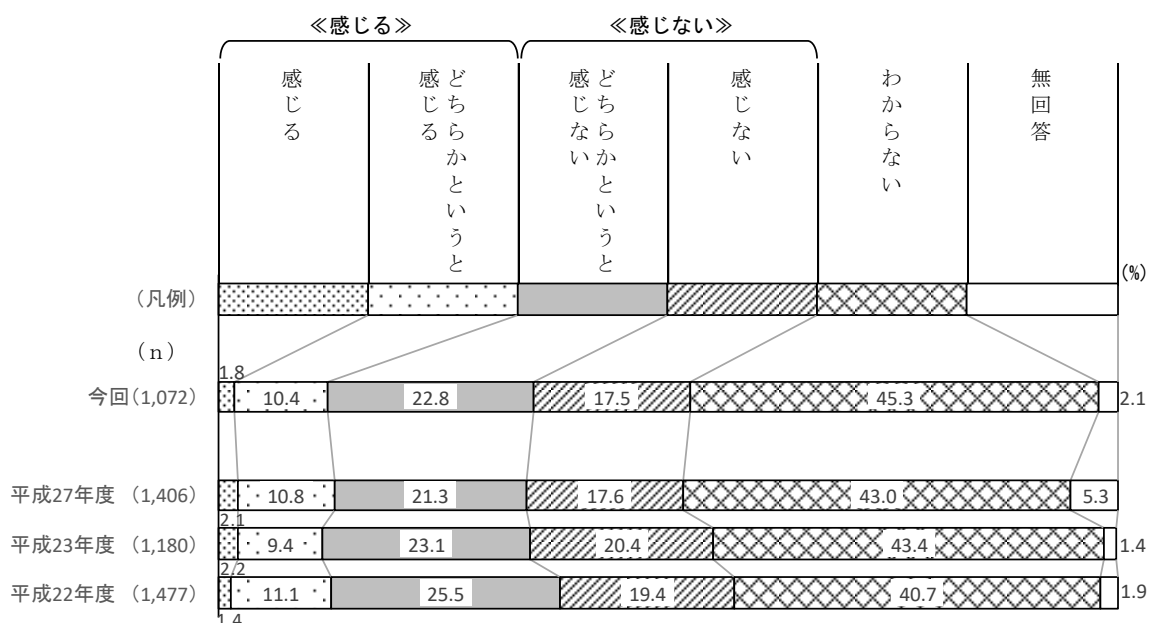
居住地別では、《感じる》の割合が、阿蘇地域、八千代台地域、大和田地域の順で高く、逆に陸地域が最も低い15.0%である。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆男女共同参画社会の進展

10) 男女共同参画社会が進んでいると感じますか。



男女共同参画社会の進展は、「わからない」が45.3%で最も高く、「どちらかというと感じない」が22.8%、「感じない」が17.5%、「どちらかというと感じる」が10.4%で続いている。前回（平成27年度）調査と大きな変化はみられない。

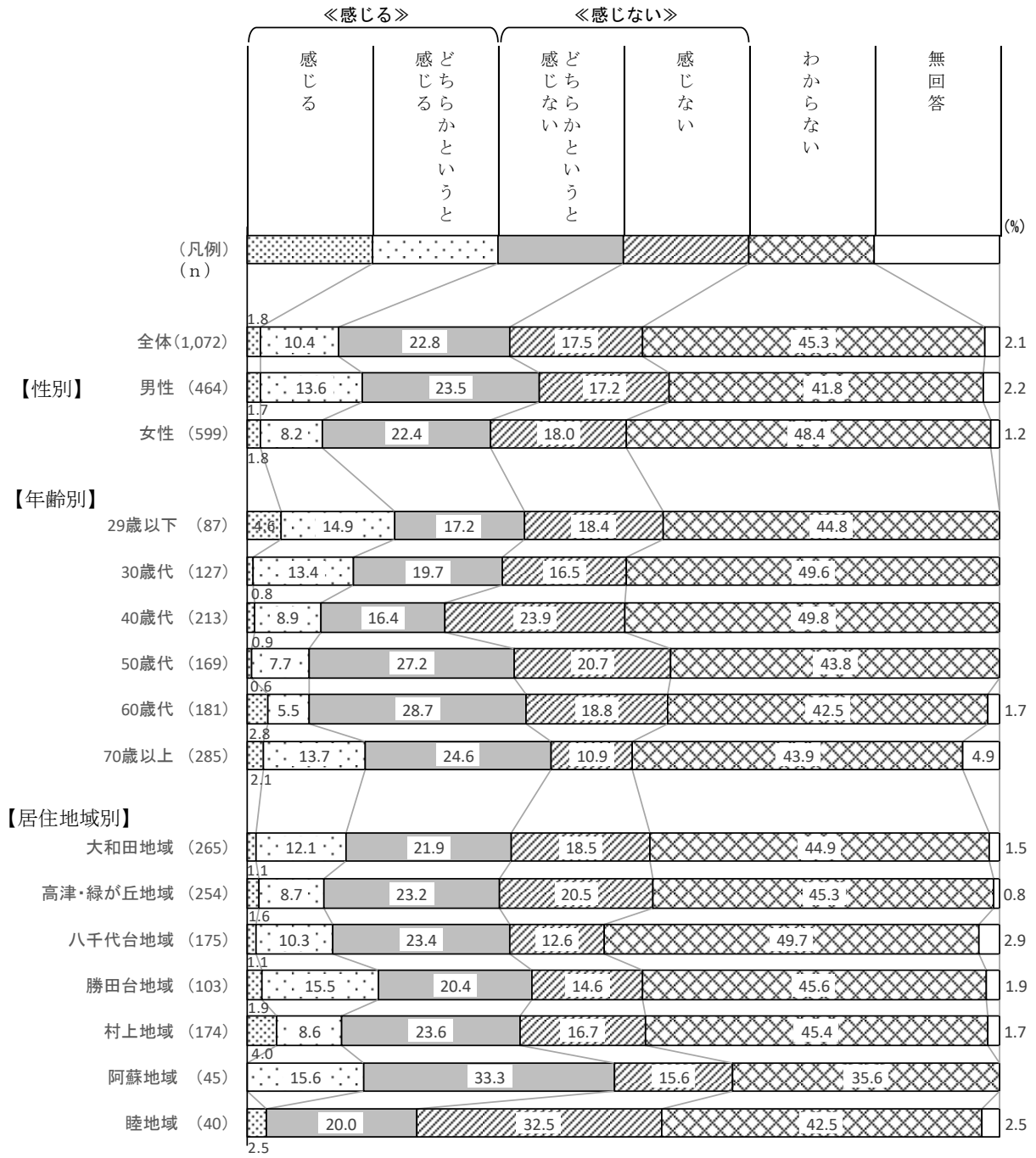
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、女性の方が「わからない」の割合が6.6ポイント高く、「どちらかという」とを含めた《感じない》の割合は男女ほぼ同等であるので、「どちらかというと感じる」を含めた《感じる》の割合が、その分女性の方が低くなっている。

年齢別では、《感じる》の割合が40～60歳代で特に低く、1割未満となっている。

居住地域別では、《感じる》の割合が、勝田台地域、阿蘇地域で比較的高く、睦地域では低くなっている。

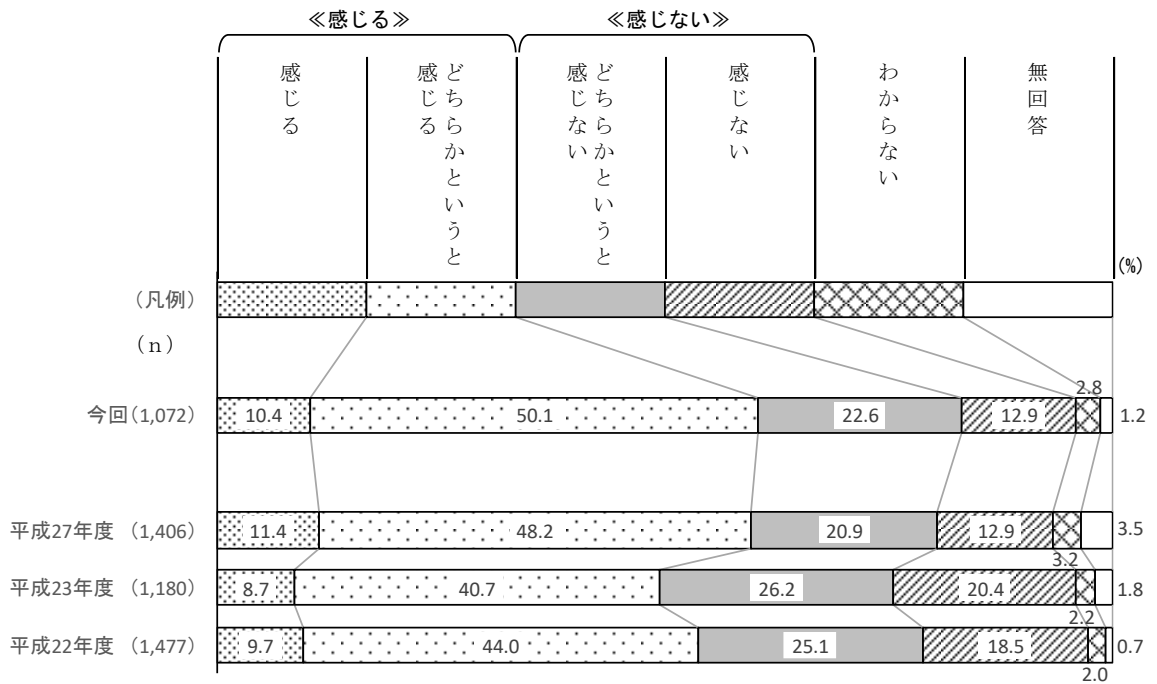
<性別・年齢別・居住地域別>



(3) 環境共生都市をめざして

◆まちのきれいさ

11) まちにごみがなくきれいだと感じますか。



まちのきれいさを「どちらかというと感じる」が50.1%で最も高く、「どちらかというと感じない」が22.6%、「感じない」が12.9%、「感じる」が10.4%で続く。「どちらかというと感じる」を含めた《感じる》の割合は60.5%で、前回（平成27年度）調査よりもわずかながら増加している。

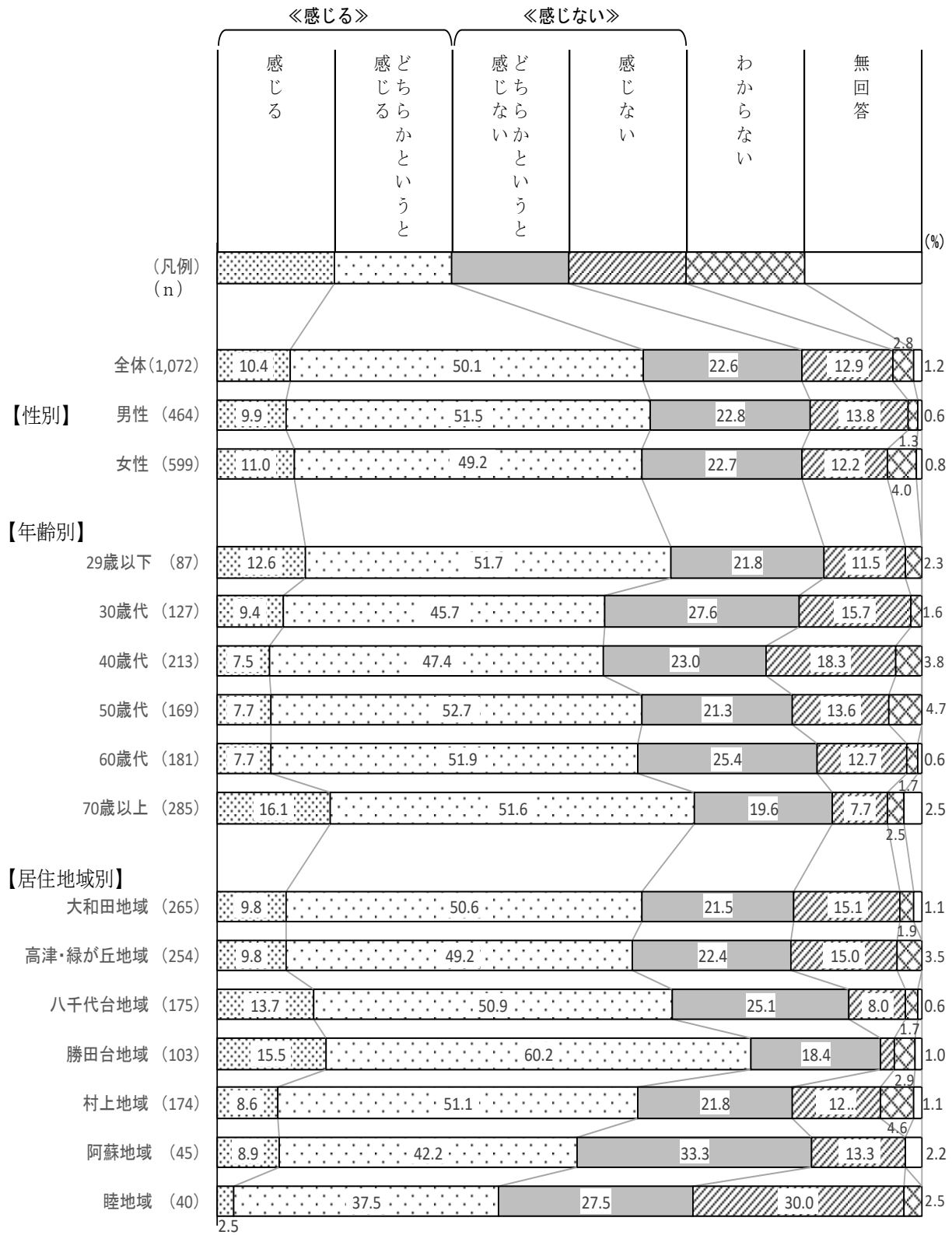
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女による大きな傾向の差はみられない。

年齢別では、「わからない」の割合が40～50歳代で比較的高いが、それを除けば大きな差はみられない。ただし、70歳以上では《感じる》の割合が67.7%と特に高くなっている。

居住地域別では、《感じる》の割合が特に勝田台地域で高く75.7%に達している反面、睦地域では「感じない」の割合が3割と高く、その分、《感じる》の割合が低くなっている。

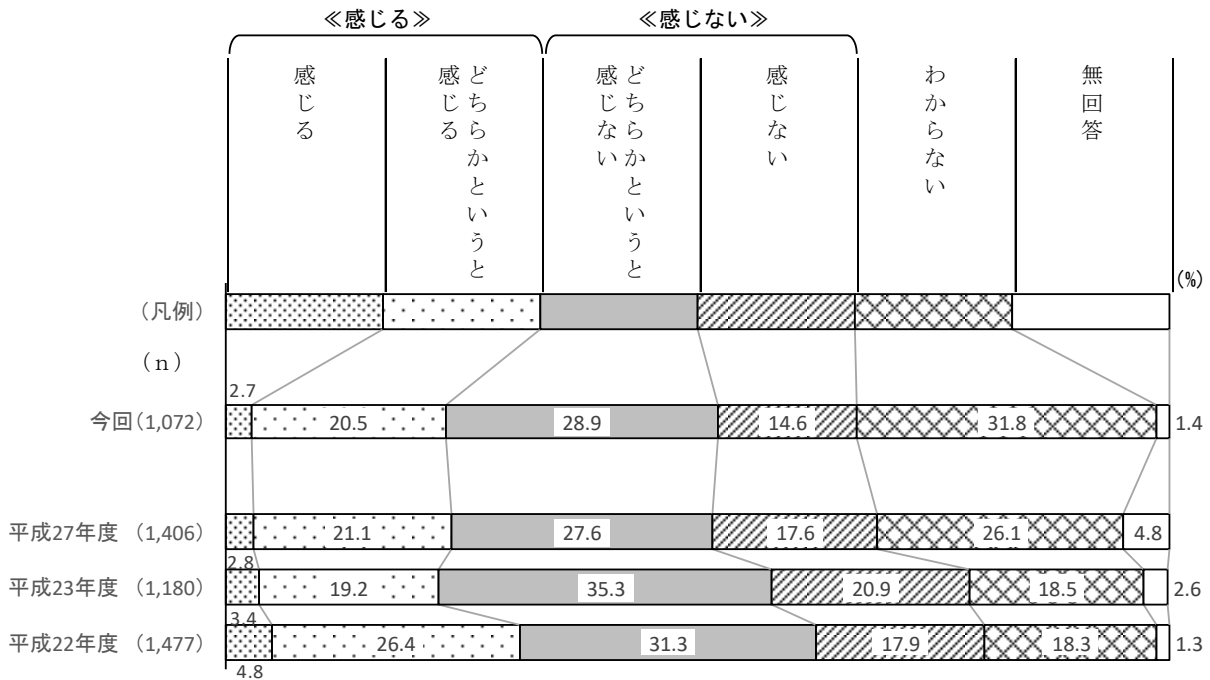
<性別・年齢別・居住地域別>



(4) 安心安全都市をめざして

◆消費生活情報の得やすさ

12) 消費生活情報の提供が適切に行われていると感じますか。



消費生活情報の提供に関しては、「わからない」が31.8%で最も高く、「どちらかというと感じない」が28.9%、「どちらかというと感じる」が20.5%、「感じない」が14.6%が続いている。前回（平成27年度）調査から傾向の大きな変化はみられない。

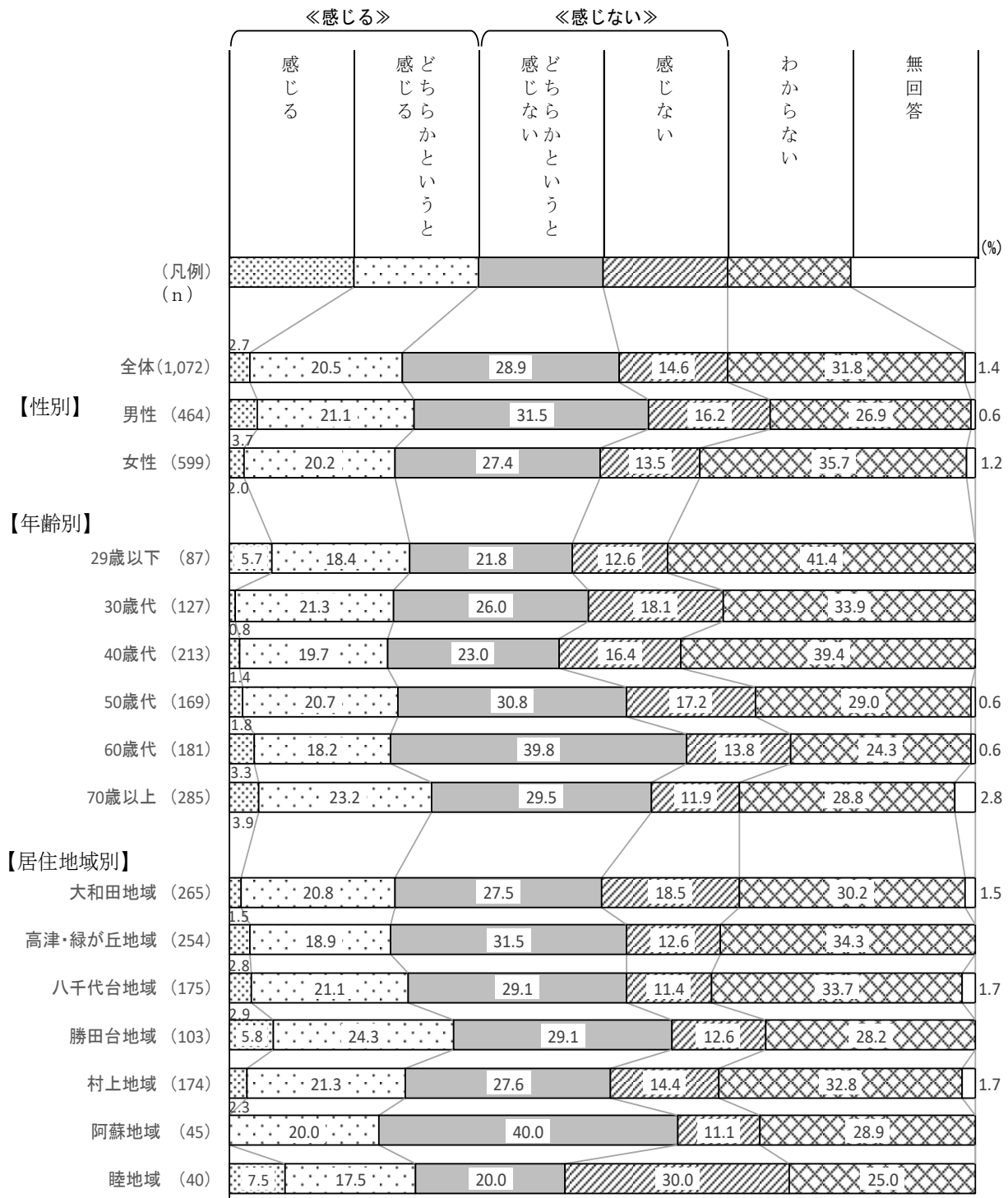
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「わからない」の割合が女性の方が男性より10ポイント近く高く、その分、「どちらかというと感じる」を含めた《感じる》の割合が低くなっている。

年齢別では、「どちらかというと感じる」を含めた《感じる》の割合の差異は少ないが、逆に《感じない》の割合は年齢層による差が目立ち、特に60歳代では53.6%を占めている。

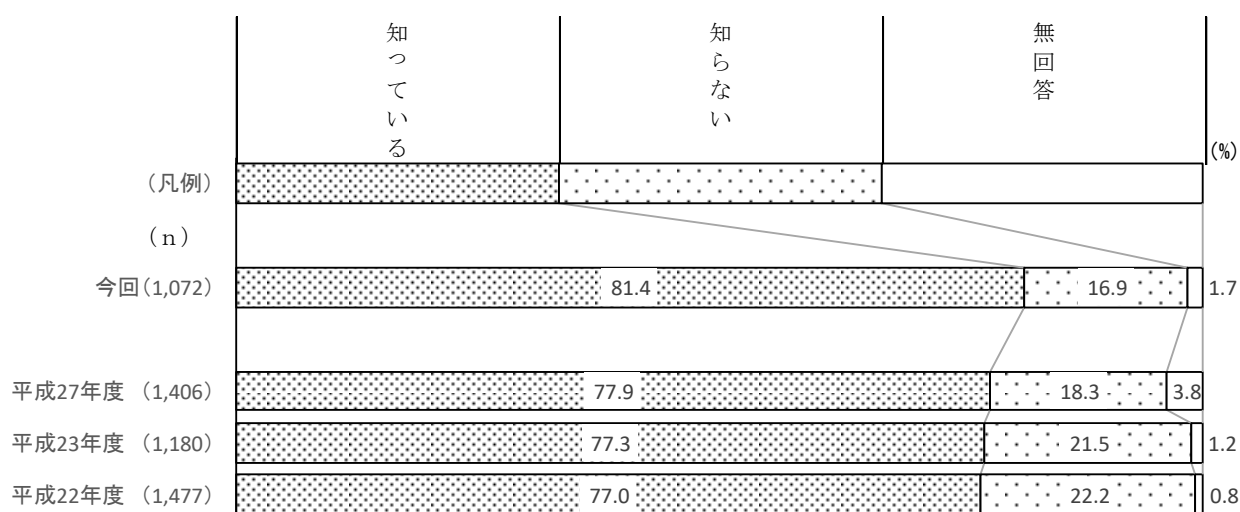
居住地域別では、特に、阿蘇地域、陸地域で、《感じない》の割合が5割以上と高くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆災害時の避難場所

13) 災害時の避難場所を知っていますか。



災害時の避難場所を「知っている」は81.4%、「知らない」は16.9%となっている。前回（平成27年度）調査から、「知っている」の割合がわずかに増加している。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、女性の方が「知っている」の割合がわずかに高い。

年齢別では、特に29歳以下の若い世代で、「知らない」の割合が27.6%と高くなっているのが目立つ。

居住地域別では、「知っている」の割合が勝田台地域では9割を超えて高いのに対し、睦地域では72.5%と最も低くなっている。

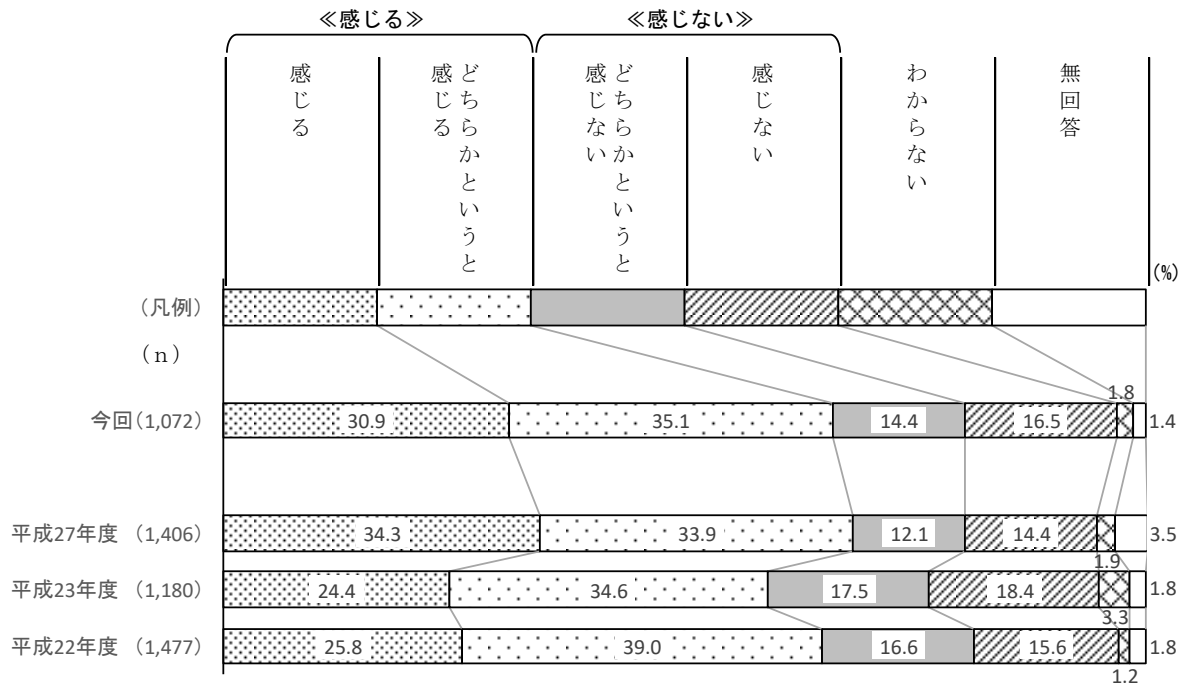
<性別・年齢別・居住地域別>

	知っている	知らない	無回答	(%)
(凡例) (n)				
【性別】 全体 (1,072)	81.4		16.9	1.7
男性 (464)	79.7		18.5	1.7
女性 (599)	83.5		15.7	0.8
【年齢別】				
29歳以下 (87)	72.4		27.6	
30歳代 (127)	79.5		20.5	
40歳代 (213)	82.6		16.4	0.9
50歳代 (169)	84.6		14.8	0.6
60歳代 (181)	84.5		14.4	1.1
70歳以上 (285)	81.8		15.4	2.8
【居住地域別】				
大和田地域 (265)	83.4		14.7	1.9
高津・緑が丘地域 (254)	79.9		19.7	0.4
八千代台地域 (175)	80.0		19.4	0.6
勝田台地域 (103)	93.2		6.8	
村上地域 (174)	79.9		18.4	1.7
阿蘇地域 (45)	80.0		15.6	4.4
睦地域 (40)	72.5		25.0	2.5

(5) 快適生活都市をめざして

◆鉄道の利用しやすさ

14) 鉄道が利用しやすいと感じますか。



鉄道の利用しやすさについて、「どちらかというと感じる」が35.1%で最も高く、「感じる」が30.9%、「感じない」が16.5%、「どちらかというと感じない」が14.4%が続いている。「どちらかという」とを含めた《感じる》の割合は66.0%と約3分の2であるが、前回（平成27年度）調査と比べてわずかながら減少している。

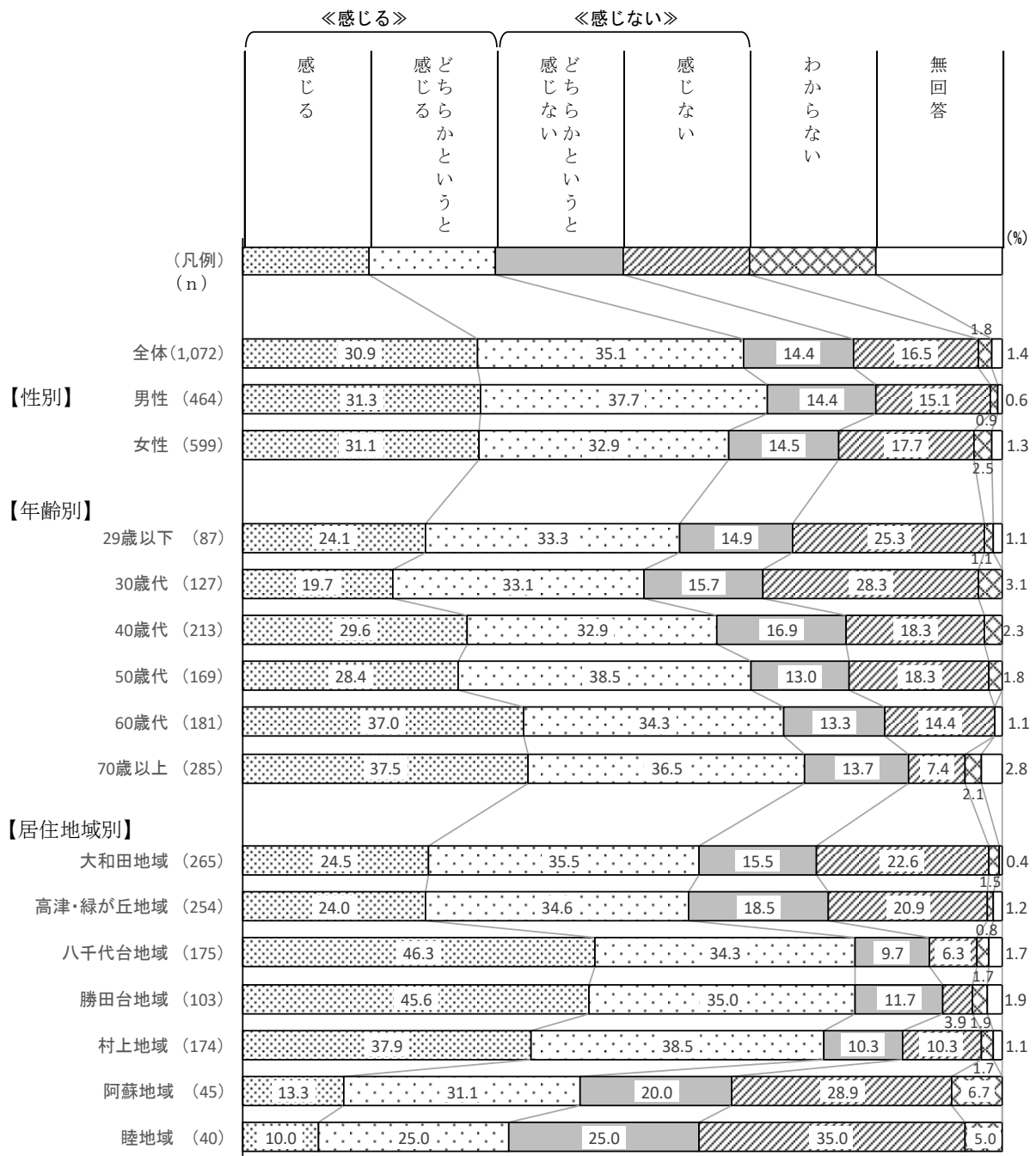
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「どちらかというと感じる」の割合が男性の方がやや高い。

年齢別では、《感じる》の割合が30歳代で最も低く、年齢層が上がるほど高まる傾向が顕著である。「どちらかという」とを含めた《感じない》の割合は30歳代で最も高く、44.0%に達している。

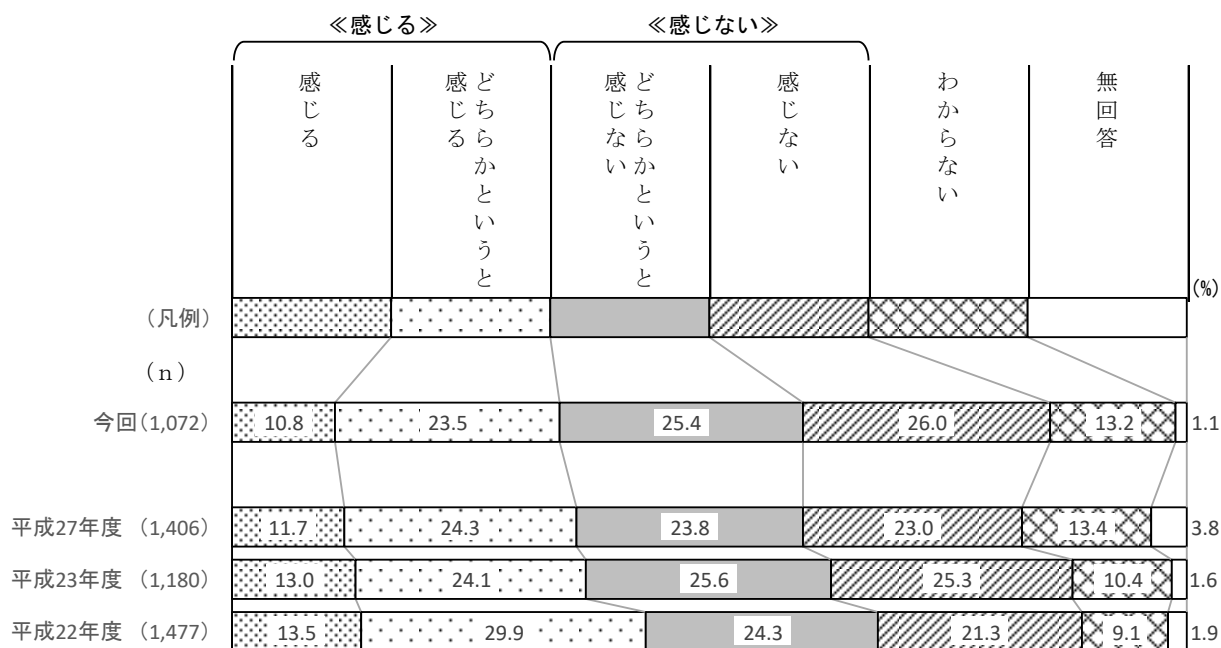
居住地域別では、八千代台地域、勝田台地域といった京成本線の利用が可能な地域で《感じる》の割合が高いのに対し、それ以外の地域では低く、特に鉄道駅がない阿蘇地域、睦地域ではその割合が3～4割台と低くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆バスの利用しやすさ

15) 市内のバスが利用しやすいと感じますか。



バスの利用しやすさについては、「感じない」が26.0%で最も高く、「どちらかというと感じない」が25.4%、「どちらかというと感じる」が23.5%、「わからない」が13.2%が続いている。「どちらかというと感じる」を含めた《感じる》の割合は、調査の年次を追うごとに少しずつ減少してきており、逆に、「どちらかというと感じない」を含めた《感じない》の割合が前回（平成27年度）調査から4.6ポイントも上昇した。

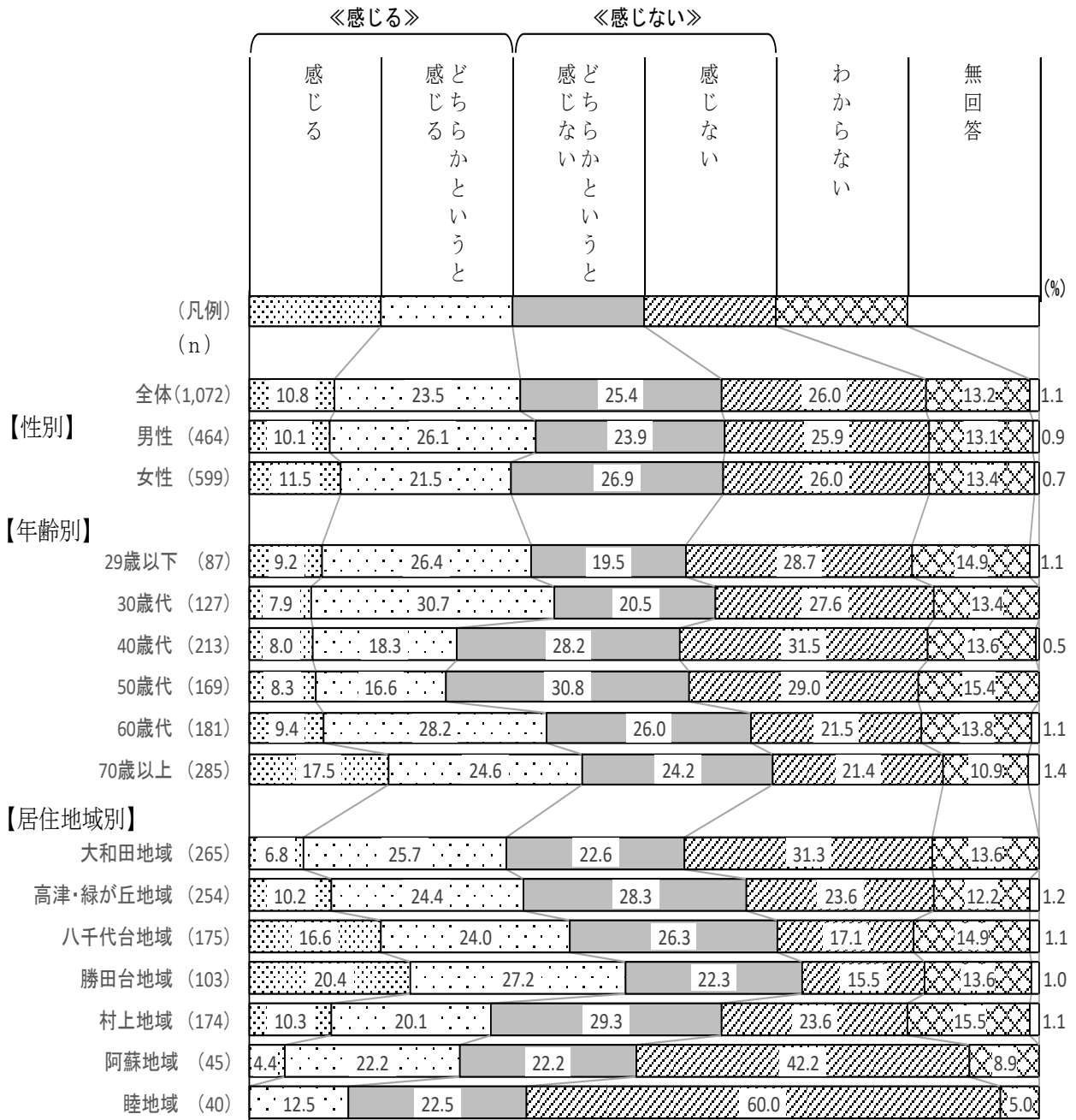
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じる》の割合が、男性の方がわずかに高い。

年齢別では、特に、40～50歳代において《感じる》の割合が2割台と顕著に低くなっているのが特徴的である。逆に70歳以上では同比率が42.1%と高くなっている。

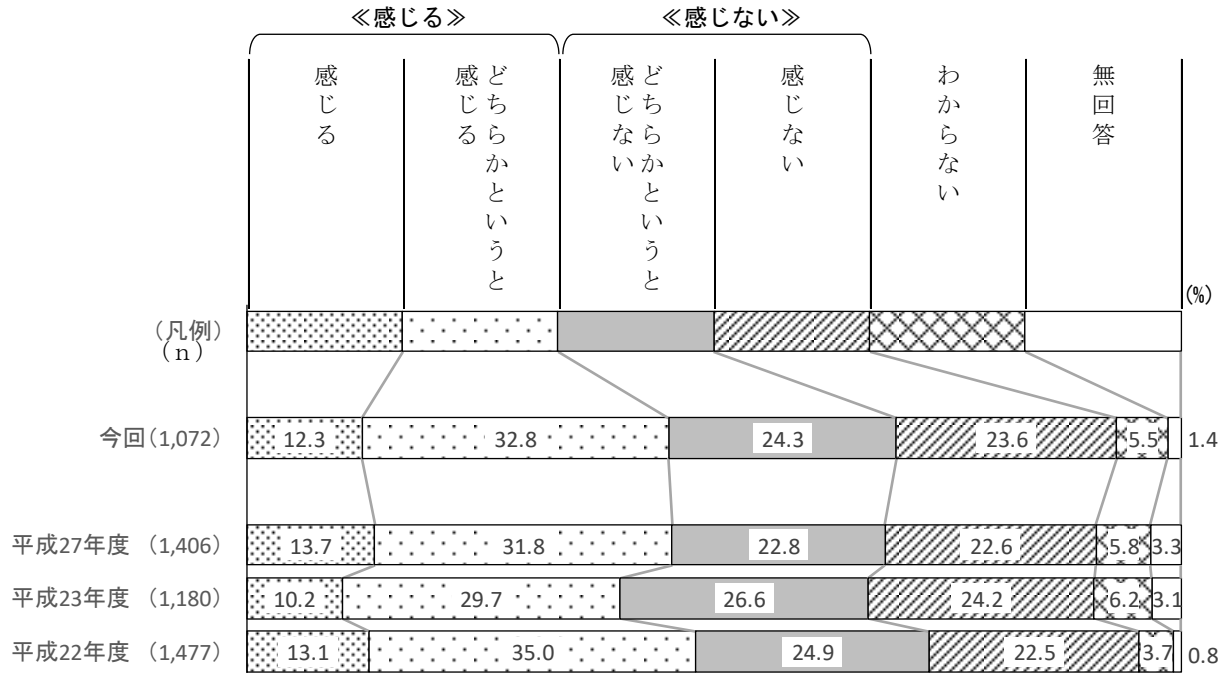
居住地域別では、《感じる》の割合が勝田台地域で最も高く47.6%に達しており、以下、八千代台地域、高津・緑が丘地域、大和田地域の順が続いている。最もこの値が低いのは睦地域で、12.5%にとどまっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆市内・市外間の移動のしやすさ

16) 市内・市外間の移動がしやすいと感じますか。



市内・市外間の移動のしやすさは、「どちらかというと感じる」が32.8%で最も高く、次いで「どちらかというと感じない」が24.3%、「感じない」が23.6%、「感じる」が12.3%の順となっている。前回（平成27年度）調査の結果と比べると、「どちらかというと感じない」を含めた《感じない》がわずかに増加している。

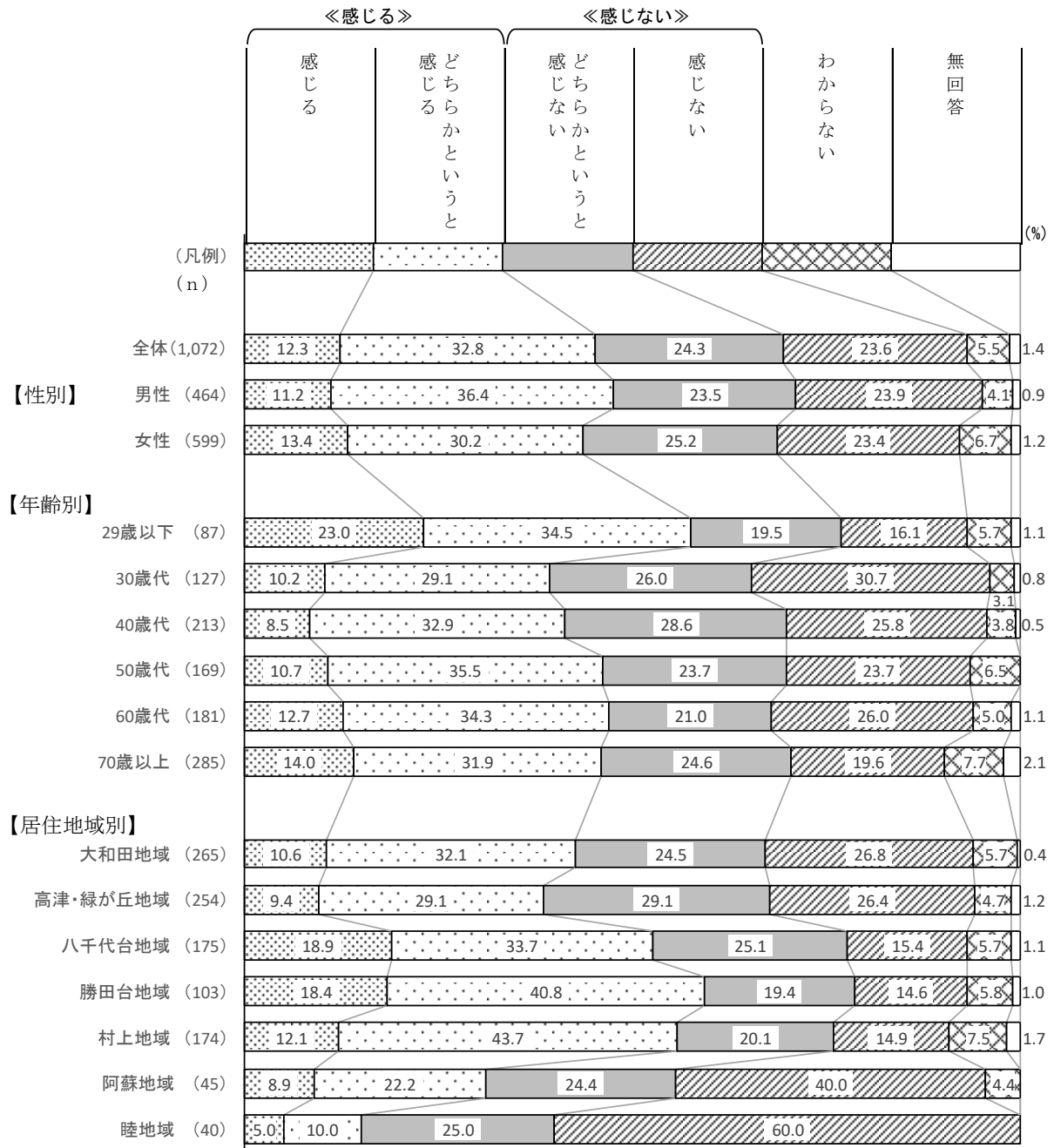
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「わからない」を除けば、男女で大きな差異はないとみられる。

年齢別では、29歳以下の若い層で「どちらかというと感じる」を含めた《感じる》の割合が57.5%と目立って高い。他の世代ではこの割合は4割台程度であり、大きな差はみられない。

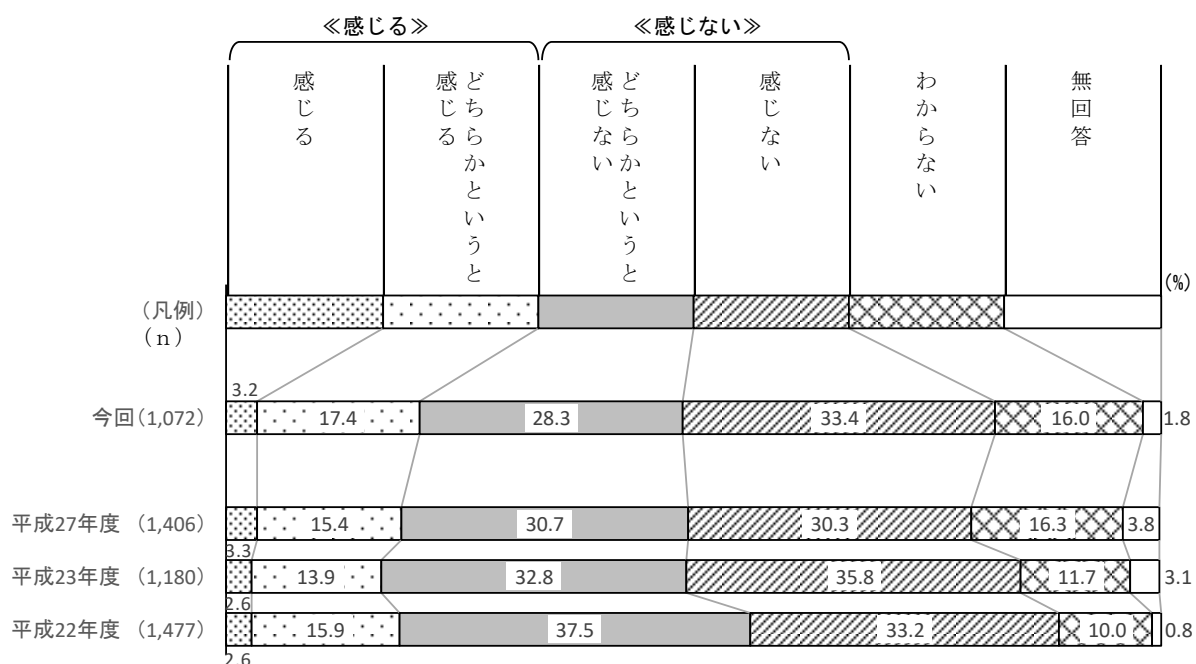
居住地域別では、《感じる》の割合が、勝田台地域、村上地域、八千代台地域で5割を超えて特に高く、逆に睦地域では15.0%と特に低い。鉄道利用の便が影響しているものとみられる。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆交通弱者にやさしい交通環境

17) 交通弱者にやさしい交通環境と感じますか。



交通弱者にやさしい交通環境は「感じない」が33.4%で最も高く、「どちらかというと感じない」が28.3%、「どちらかというと感じる」が17.4%、「わからない」が16.0%の順となっている。「どちらかというと感じる」を含めた《感じる》の割合は20.6%と前回（平成27年度）調査よりわずかに増加したが、全体の傾向としては大きな変動はない。

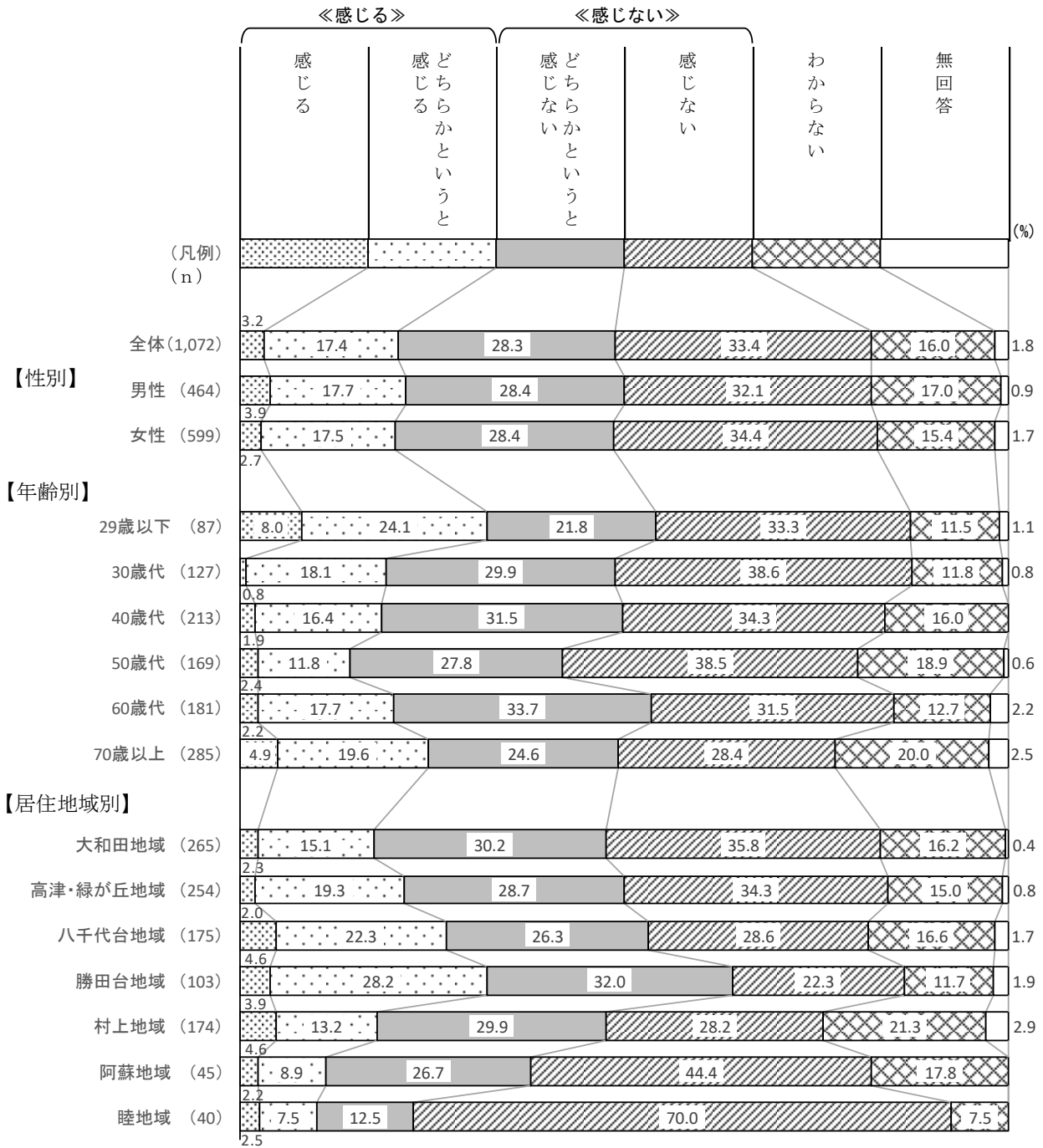
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女による大きな傾向の差はみられない。

年齢別では、特に29歳以下の若い層において、《感じる》の割合が32.1%と突出しているのが目立つ。

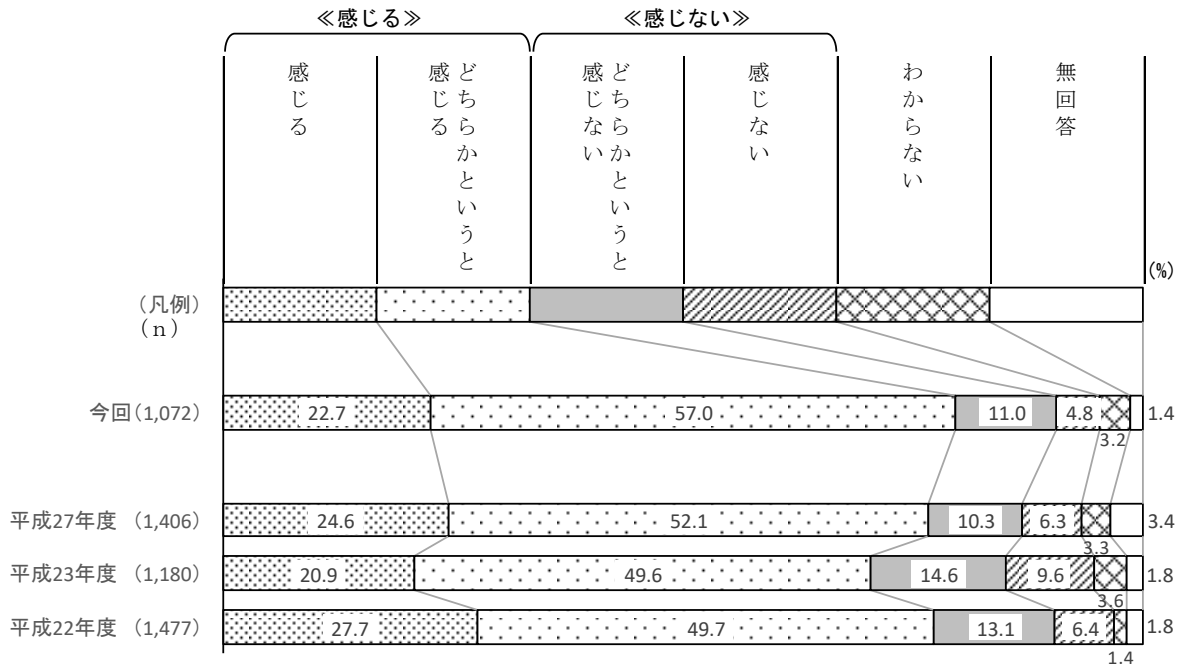
居住地域別では、《感じる》の割合が勝田台地域で32.1%と最も高く、これに、八千代台地域、高津・緑が丘地域、村上地域の順が続いている。睦地域と阿蘇地域の割合が1割程度で、上記の上位地域と大きな差がみられる。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆緑豊かなまち

18) 緑豊かなまちと感じますか。



緑豊かなまちと「どちらかというと感じる」が 57.0%と過半数を占め、これに「感じる」の 22.7%を加えると約 8 割が緑豊かなまちと感じていることになる。一方、「どちらかというと感じない」が 11.0%、「感じない」が 4.8%となっている。「どちらかという」とを含めた《感じる》の割合は、前回（平成 27 年度）調査よりもわずかに上昇している。

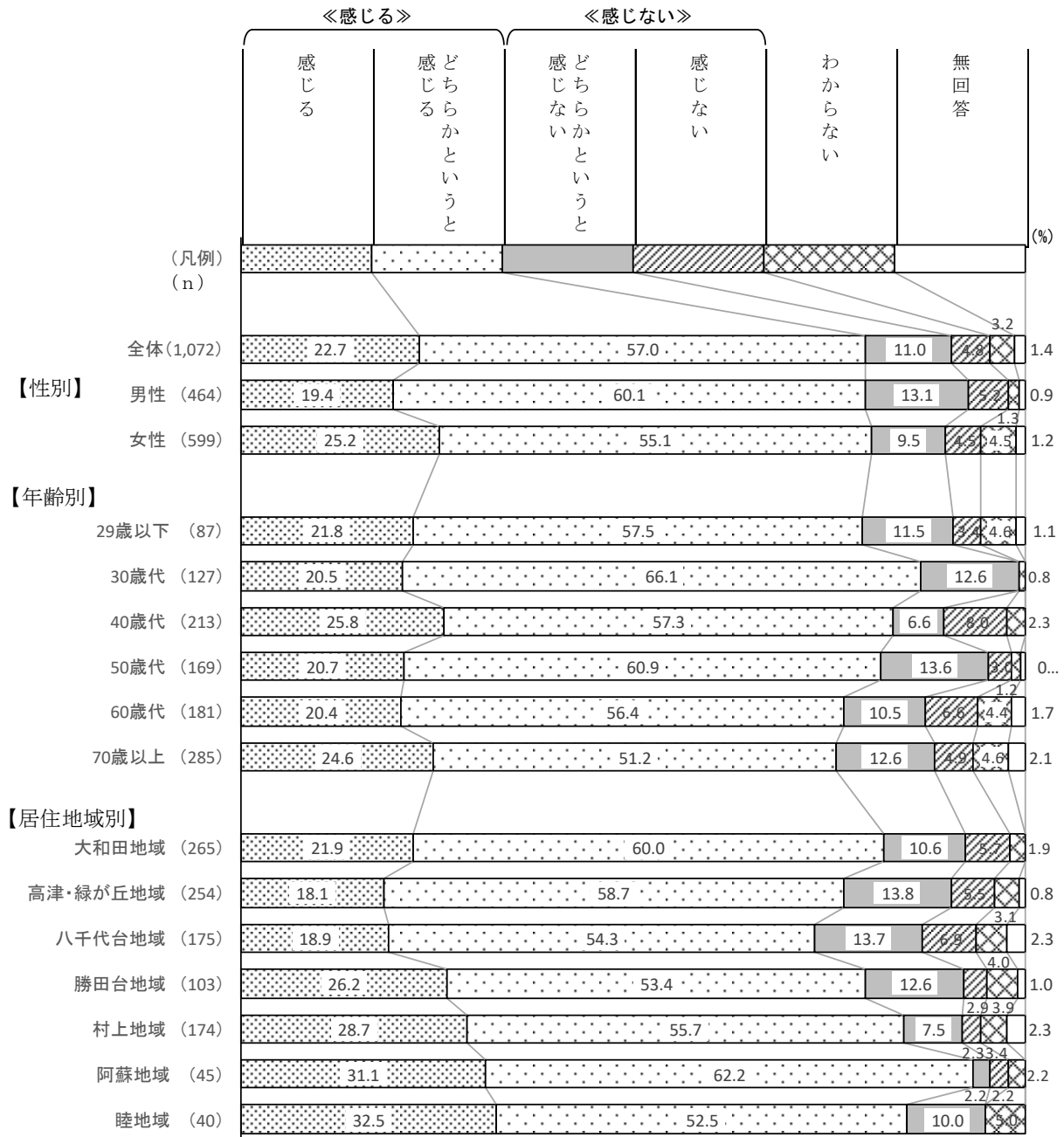
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「どちらかという」とを含めた《感じない》の割合が男性の方がやや高い。

年齢別では、《感じる》の割合が、30 歳代で最も高く、年齢層が上がるほどやや低下する傾向がみてとれる。70 歳以上ではその値は 75.8%となっている。

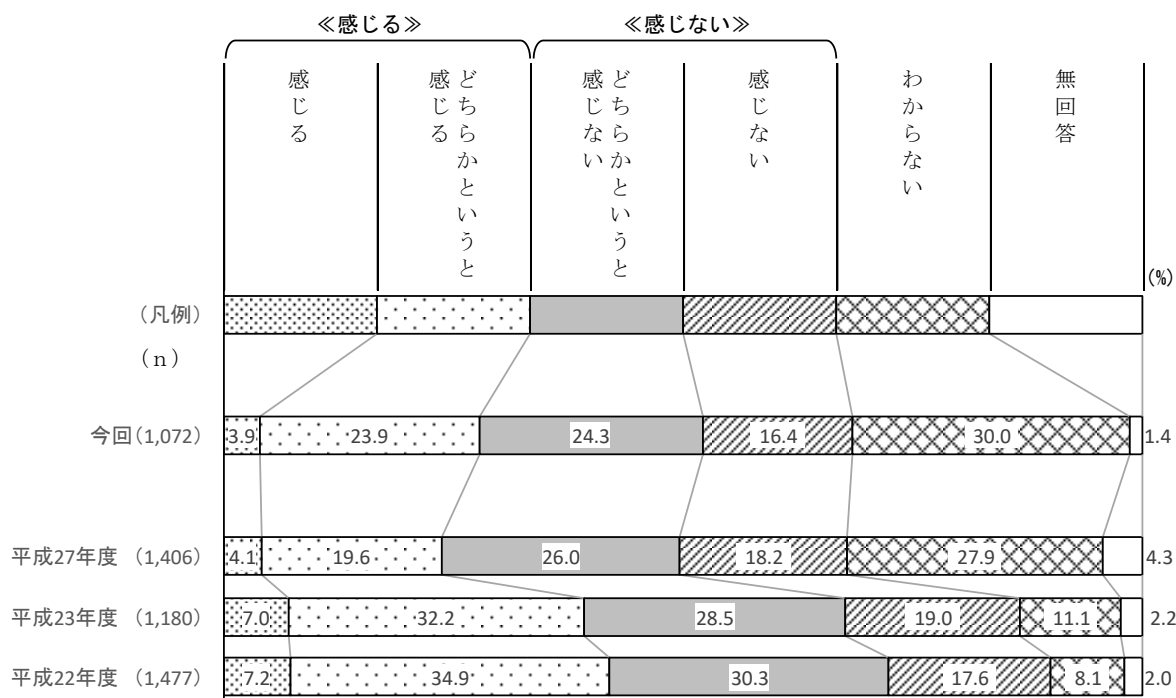
居住地域別では、積極的に「感じる」割合は陸地域が最も高く 32.5%で、これに、阿蘇地域、村上地域、勝田台地域の順で続いている。《感じる》の割合でみると、最大は阿蘇地域の 93.3%、最小は八千代台地域の 73.2%である。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆市街地整備

19) 市街地整備の誘導が適切に図られていると感じますか。



市街地整備の誘導の適切さについては、「わからない」が30.0%で最も高く、「どちらかというと感じない」が24.3%、「どちらかというと感じる」が23.9%、「感じない」が16.4%で続いている。「どちらかという」とを含めた《感じる》の割合は、前回（平成27年度）調査と比べ4.1ポイント上昇し、改善がみられる。

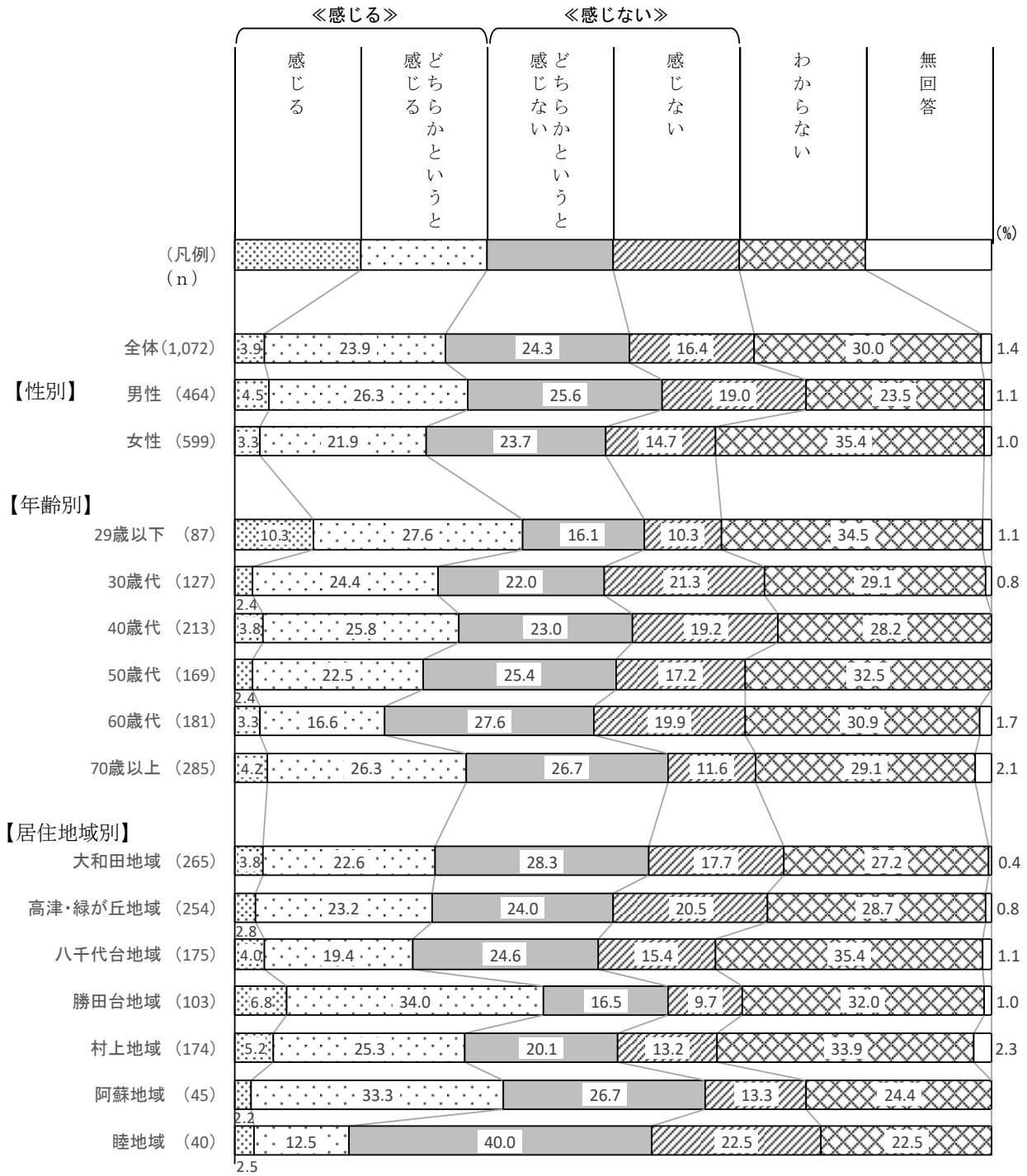
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じる》の割合が、男性の方が5.6ポイント高い。

年齢別では、40歳代から60歳代にかけて《感じる》割合が減少傾向にあり、29歳以下の若い年齢層においては、《感じる》の割合が37.9%と目立って高くなっている。

居住地域別では、《感じる》の割合でみると、勝田台地域が最も高い40.8%で、阿蘇地域がこれに次ぐ。最もこの値が低いのは睦地域で15.0%となっている。

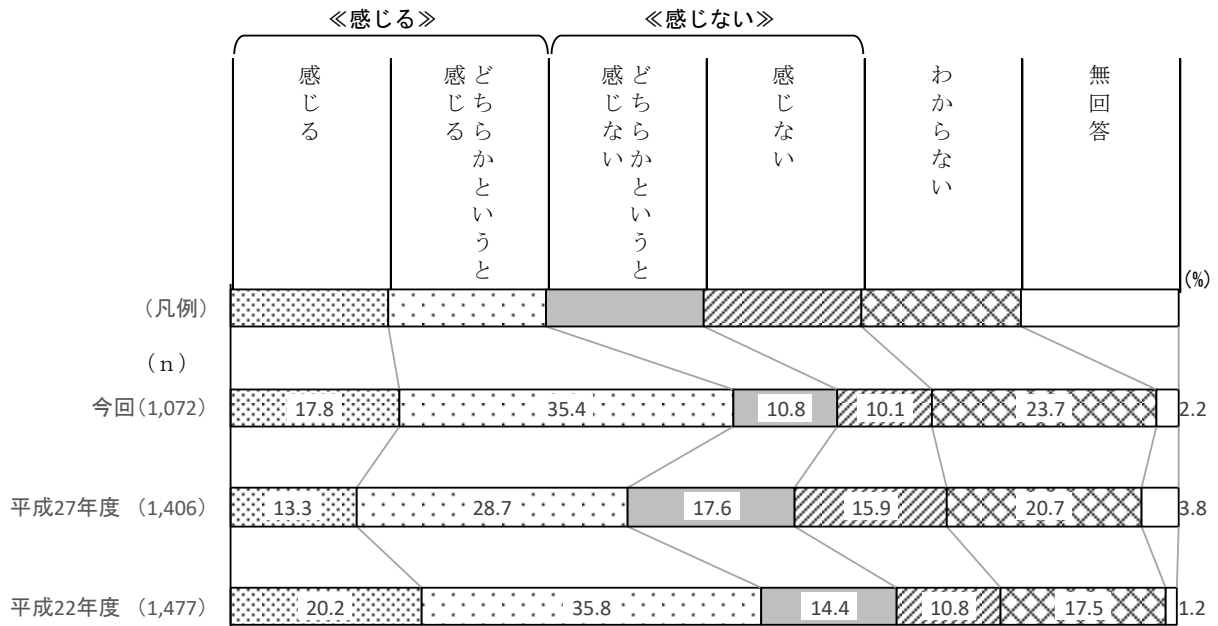
<性別・年齢別・居住地域別>



(6) 産業活力都市をめざして

◆ふるさと親子祭

20) ふるさと親子祭が、市民相互の親睦と地域の活性化に役立っていると感じますか。



ふるさと親子祭が市民相互の親睦と地域の活性化に役立っていると「どちらかというと感じる」が35.4%で最も高く、「わからない」が23.7%、「感じる」が17.8%、「どちらかというと感じない」が10.8%の順となっている。「どちらかというと感じる」を含めた《感じる》の割合は、前回（平成27年度）調査よりも15.2ポイント上昇しているが、平成27年度については打ち上げ花火を休止していたことが影響しているものと考えられる。

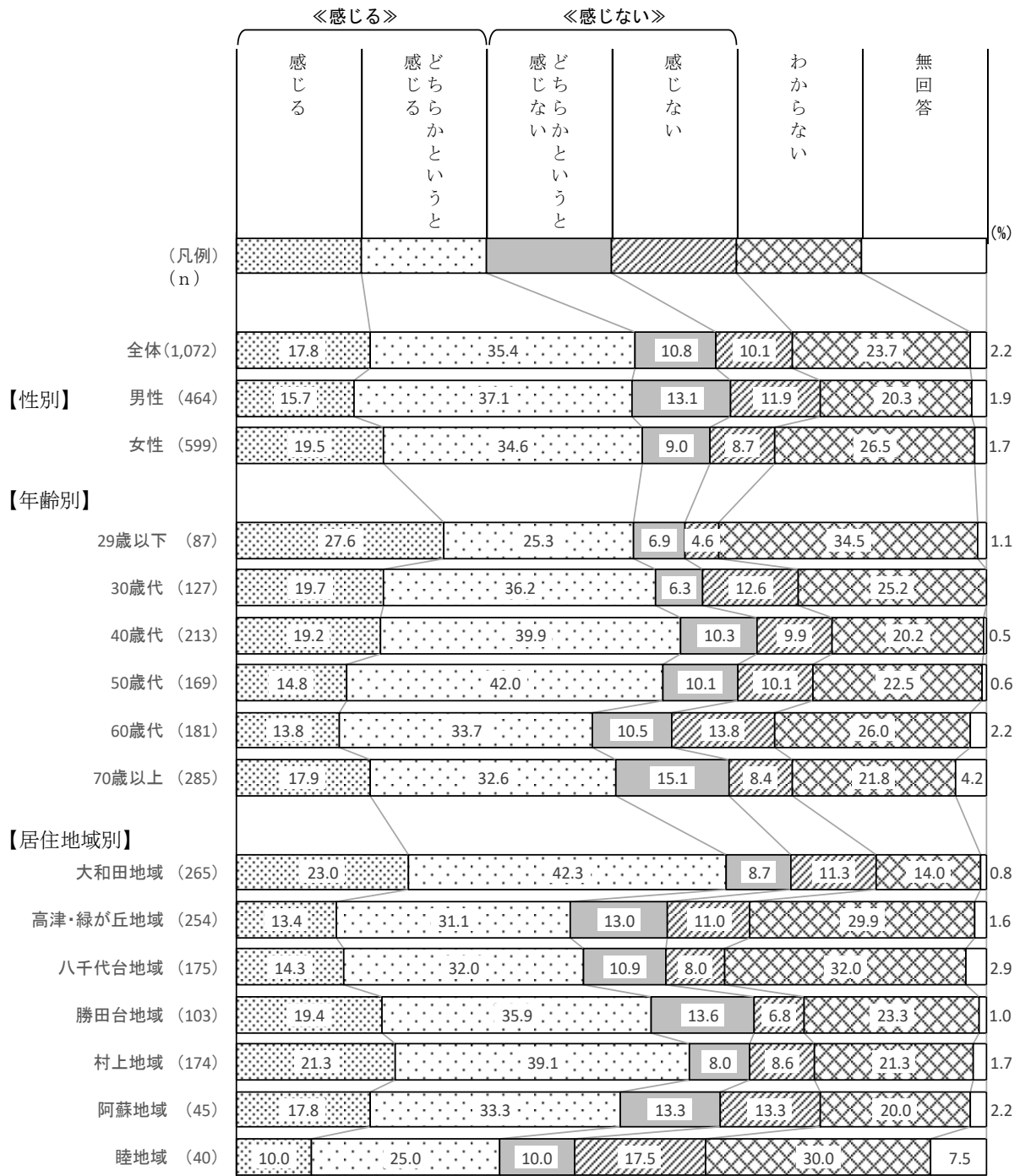
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男性の方が、「どちらかというと感じる」を含めた《感じる》の割合が高い。

年齢別では、特に29歳以下において「わからない」の割合が3割を超えているが、それ以外の選択肢中では積極的に「感じる」の割合は27.6%と最多である。30～50歳代では《感じる》の割合が比較的高く、40歳代では59.1%となっている。

居住地域別では、《感じる》の割合で比較すると、大和田地域が特に高く65.3%で、これに、村上地域、勝田台地域、阿蘇地域の順が続いている。最も低いのは睦地域の35.0%である。

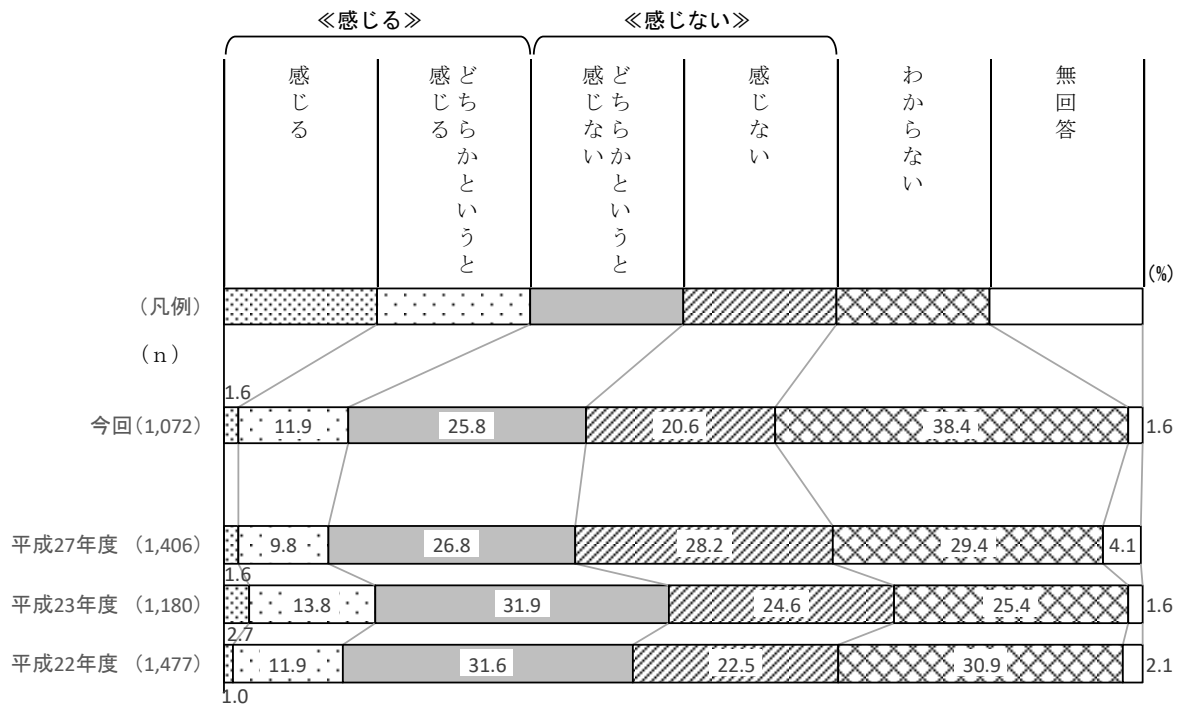
<性別・年齢別・居住地域別>



(7) 計画の推進のために

◆透明性の高い市政運営

21) 透明性の高い市政運営がなされていると感じますか。



透明性の高い市政運営については「わからない」が38.4%で最も高く、「どちらかというと感じない」が25.8%、「感じない」が20.6%、「どちらかというと感じる」が11.9%で続いている。前回（平成27年度）調査と比べて、「わからない」の割合が大きく増加している一方で、「どちらかというと感じる」を含めた《感じる》の割合もやや増加している。

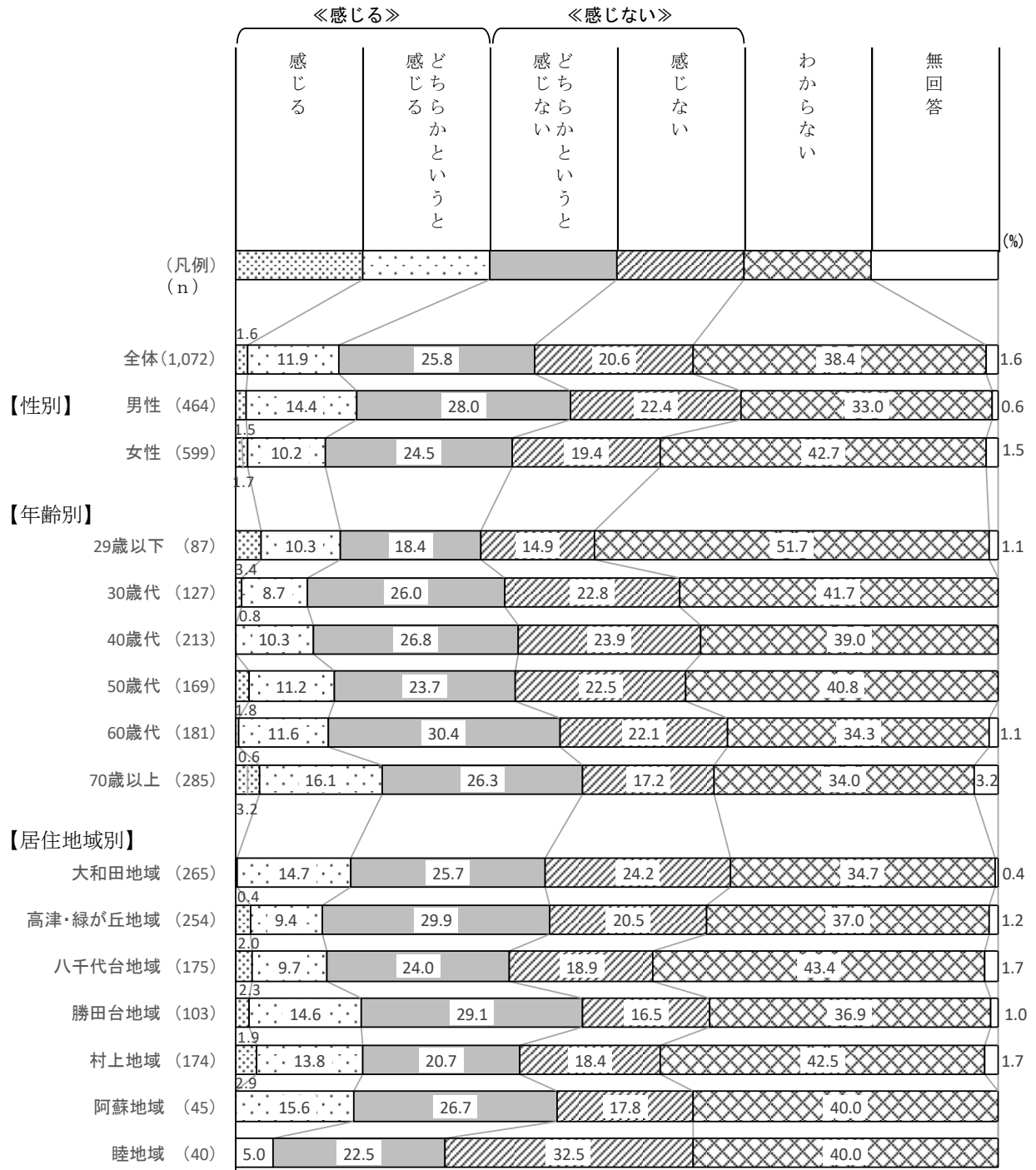
《性別・年齢別・居住地別》

性別では、「わからない」の割合が女性の方が10ポイント近く高い一方、《感じる》の割合は男性の方が4ポイントほど高い。

年齢別では、29歳以下の年代で「わからない」の割合が51.7%と特に高い。30歳代以上では、《感じる》の割合が、年齢層が上がるほど概ね増加する傾向がみられる。

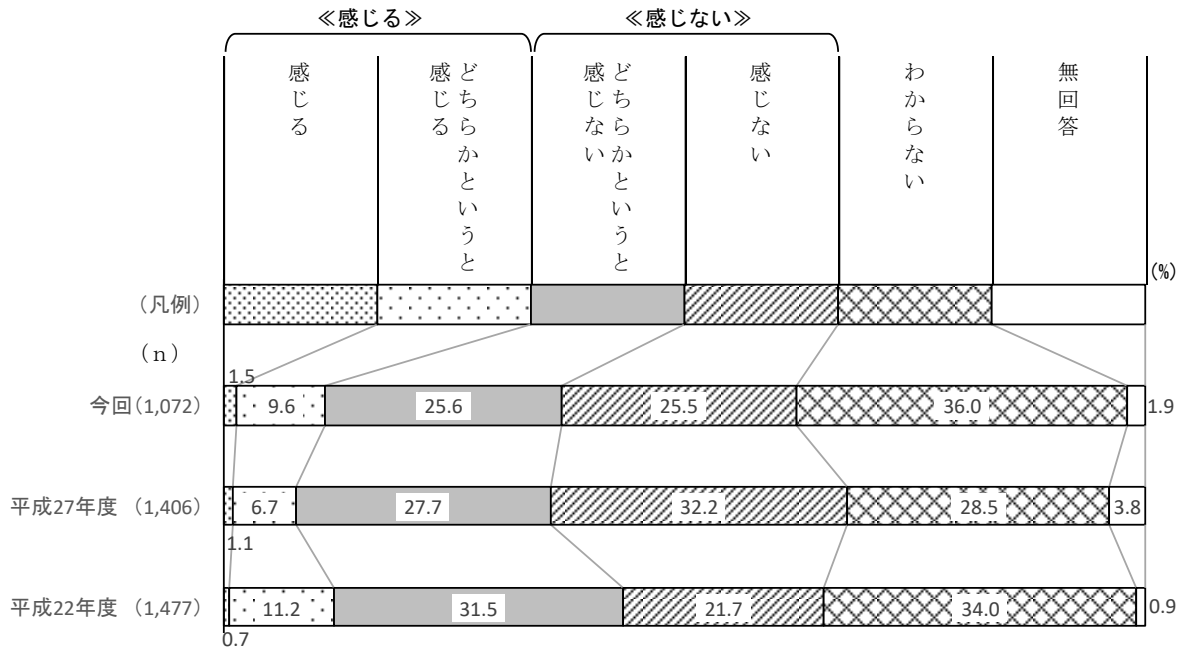
居住地別では、目立った特徴的傾向はみられないが、睦地域では「どちらかというと感じる」を含めた《感じる》の割合が55.0%と特に高くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆市民意見の反映

22) 市民の意見が市政に反映されていると感じますか。



市民の意見の市政への反映については「わからない」が36.0%で最も高い。「どちらかというと感じない」が25.6%、「感じない」が25.5%で、両者を合わせると5割を超える。一方、「どちらかというと感じる」が9.6%で、「感じる」は1.5%にとどまり、合わせても1割強である。前回(平成27年度)調査と比較すると、「どちらかという」を含めた《感じる》の割合はやや増加したが、「わからない」の割合も7.5ポイント増加している。

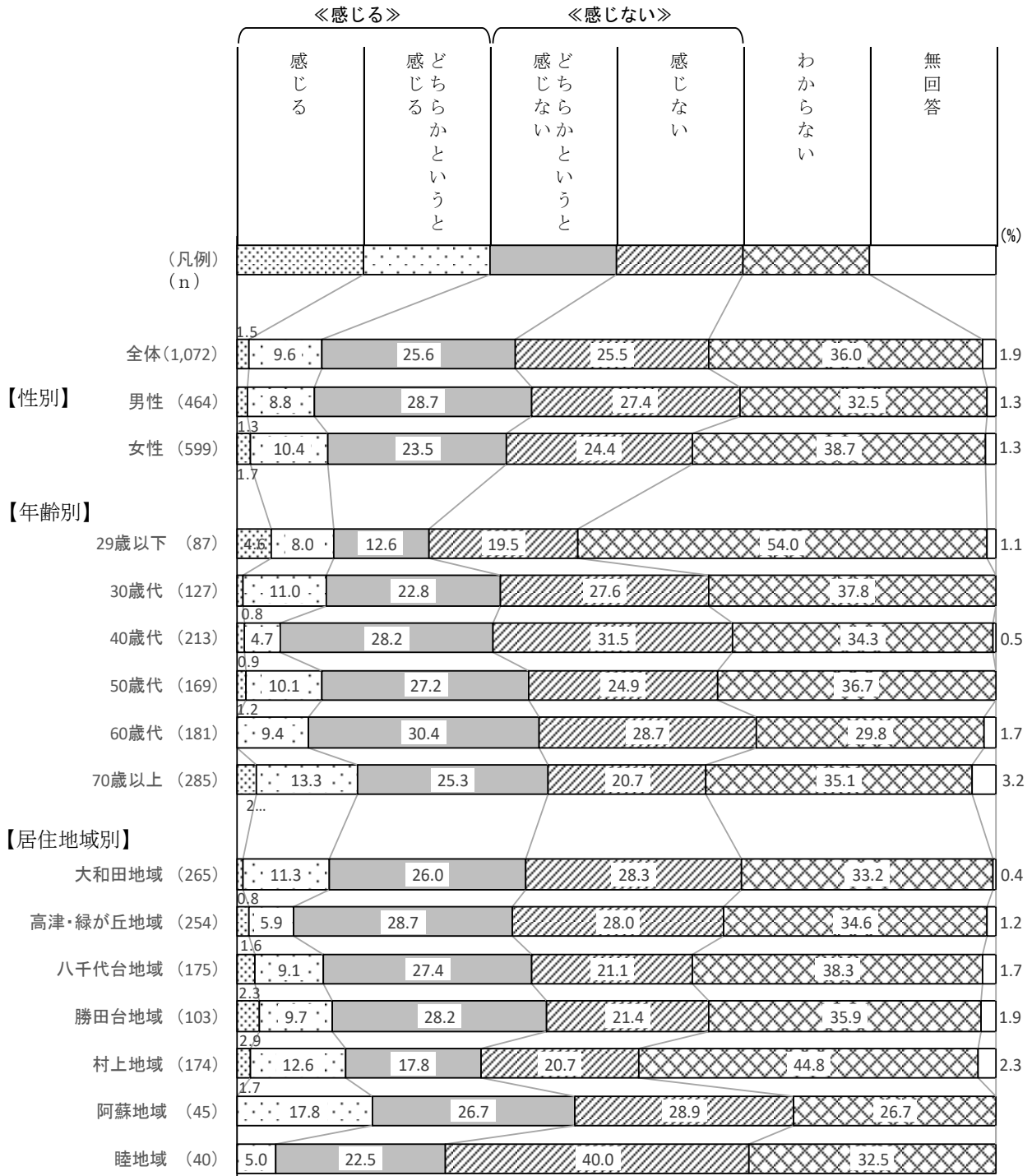
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「わからない」の割合が女性の方が男性よりも6.2ポイント高い。「どちらかという」を含めた《感じない》の割合は男性の方が女性より8.2ポイント高い。

年齢別では、29歳以下の年代で「わからない」の割合が54.0%と特に高い。30歳代以上で、《感じない》の割合が最も高いのは40歳代の59.7%で、60歳代の59.1%がこれに次いでいる。

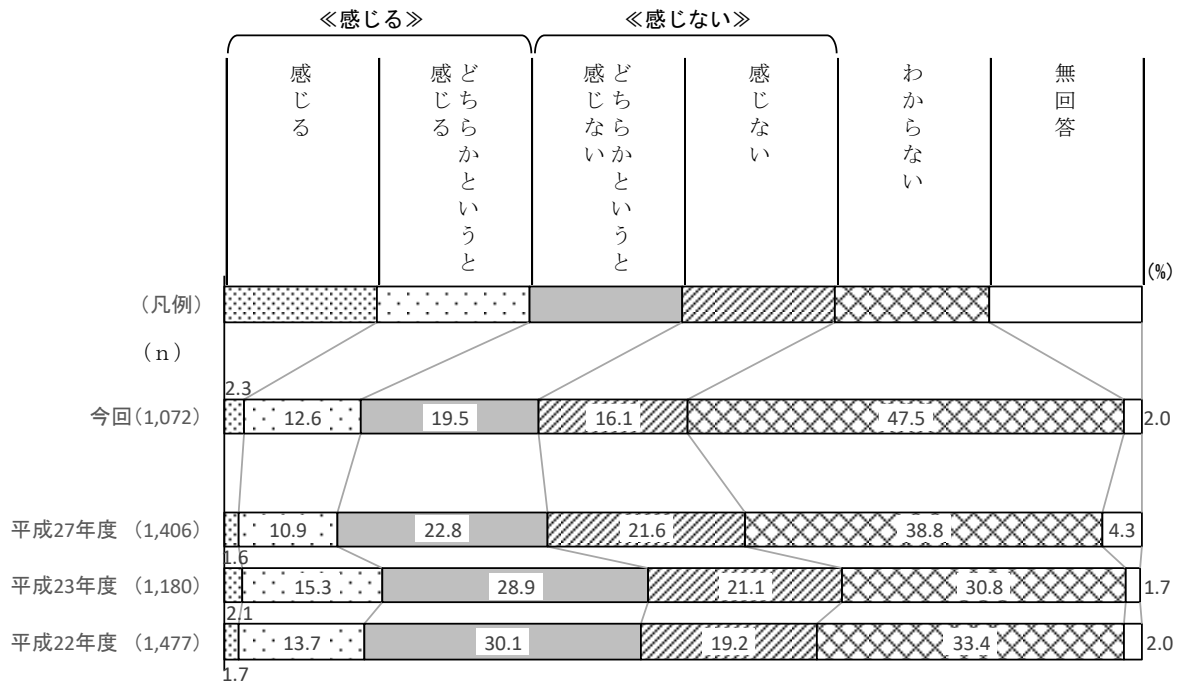
居住地域別では、同様に《感じない》の割合でみると、最もその値が高いのは陸地域の62.5%であり、高津・緑が丘地域の56.7%、阿蘇地域の55.6%も比較的高い値となっている。村上地域は「わからない」の割合が44.8%と特に高い。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆自立した市政運営

23) 自立した市政運営が行われていると感じますか。



自立した市政運営については「わからない」が47.5%で最も高く、そのほかでは「どちらかというと感じない」が19.5%、「感じない」が16.1%で、両者を合わせた《感じない》は35.6%となる。「どちらかというと感じる」が12.6%、「感じる」が2.3%で、両者を合わせた《感じる》は14.9%となる。前回（平成27年度）調査との対比では、「わからない」の割合が増加している一方で、《感じる》の割合もやや増加している。

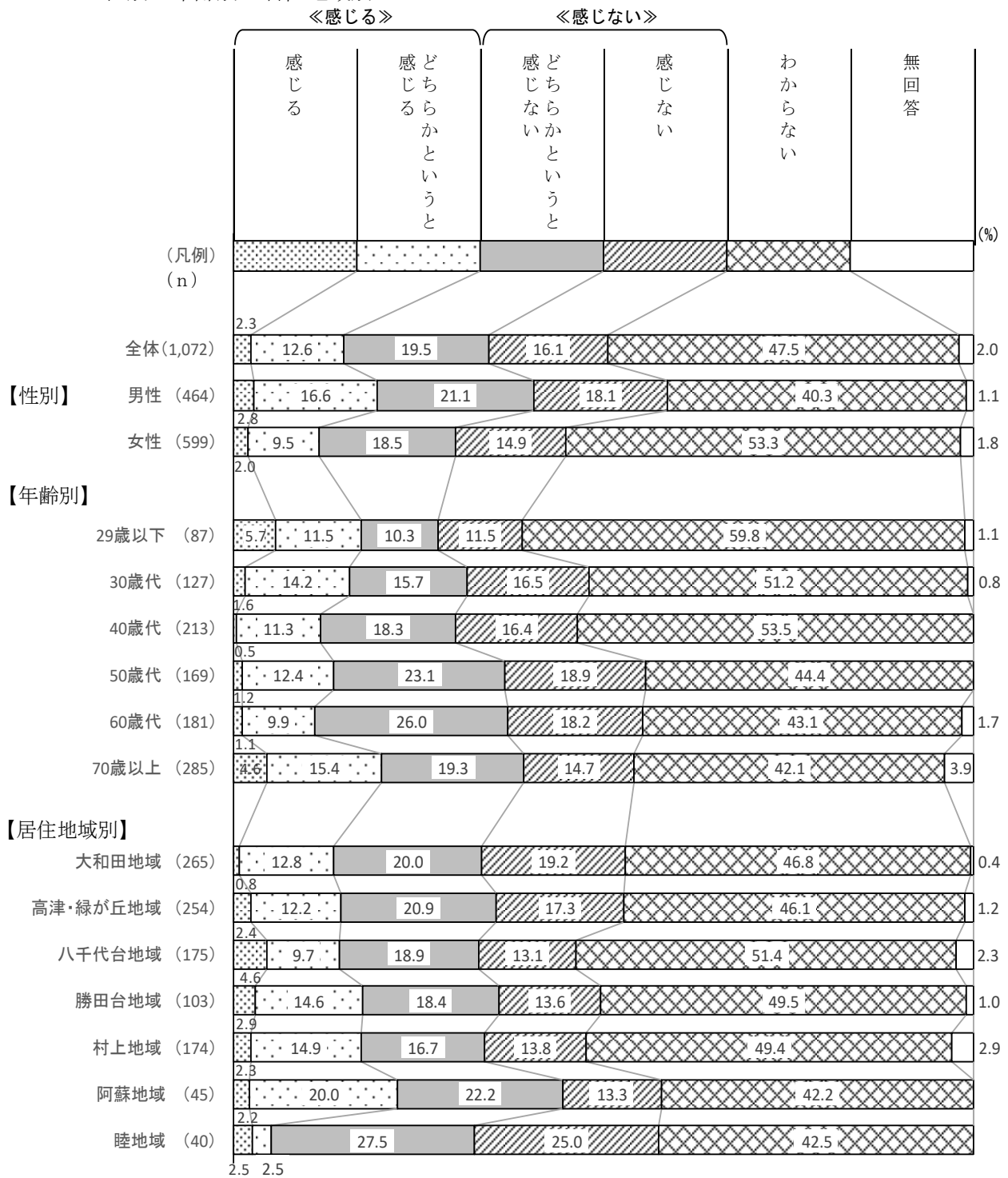
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「わからない」の割合が、女性の方が男性よりも13ポイントと大幅に高く、その分、《感じる》の割合が男性より低くなっている。

年齢別では、29歳以下で「わからない」が59.8%と特に高く、30～40歳代でもその値が5割を超えている。70歳以上では、《感じる》の割合が20.0%と比較的高くなっている。

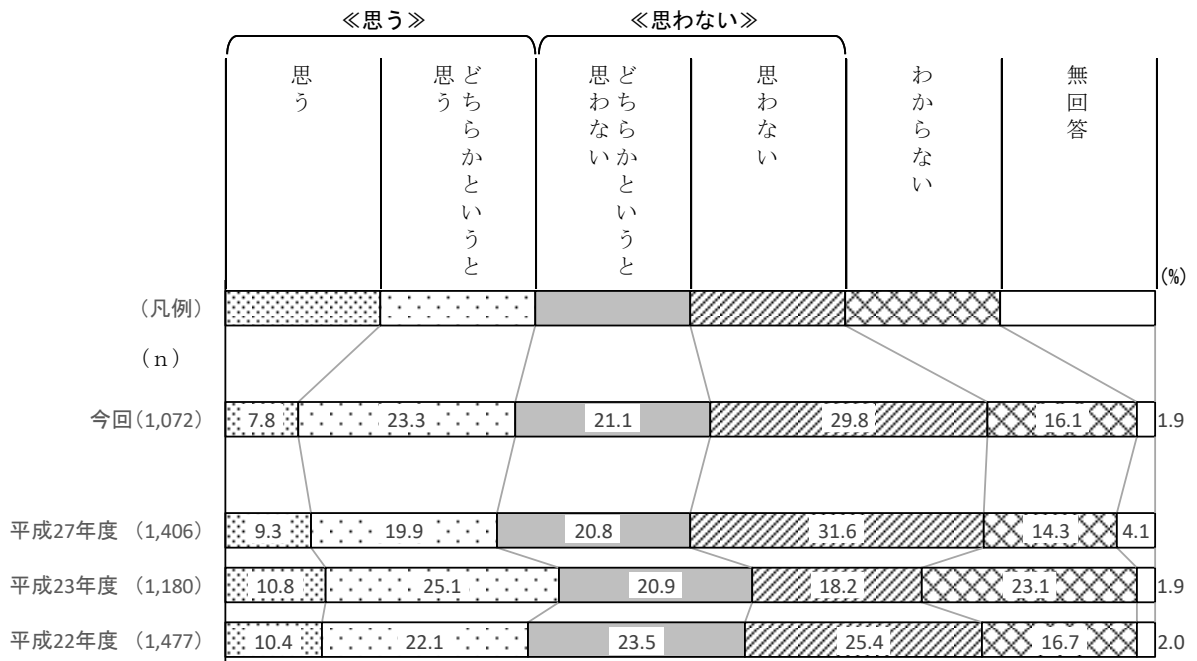
居住地域別では、《感じる》の割合が、阿蘇地域で22.2%と最も高く、逆に睦地域では5.0%と最も低くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆国際交流・協力

24) 国際交流・協力に関する活動を行ってみたい、参加してみたいと思いますか。



国際交流・協力に関する活動への参加等について、「思わない」が29.8%で最も高く、「どちらかというと思う」が23.3%、「どちらかというと思わない」が21.1%、「わからない」が16.1%で続いている。「どちらかという」とを含めた《思わない》の方が20ポイント近く高くなっている。前回（平成27年度）調査と比較すると、「どちらかという」とを含めた《思う》の割合は増加し、《思わない》は減少している。

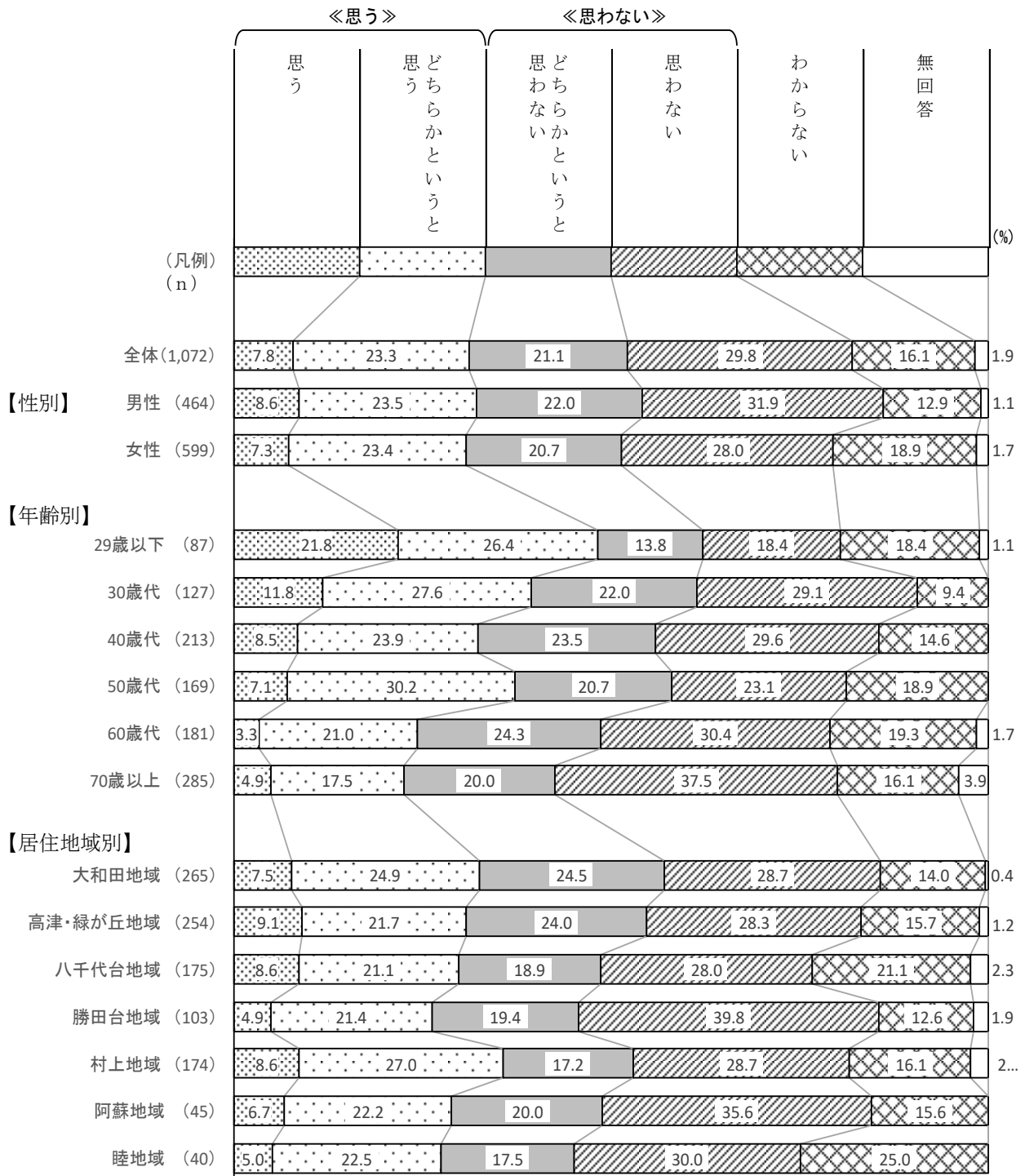
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「わからない」の割合が女性の方が高く、その分、《思わない》の割合が男性の方が高くなっている。

年齢別では、《思う》の割合が、年齢層が若いほど高い傾向となっている。

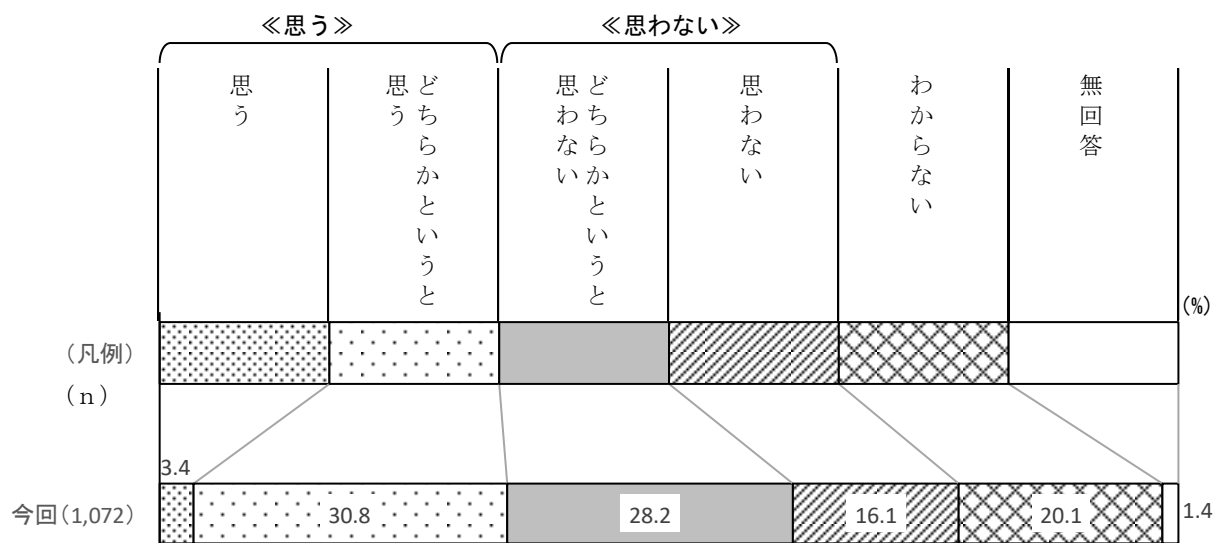
居住地域別では、《思う》の割合が最も高いのは村上地域の35.6%で、大和田地域、高津・緑が丘地域、八千代台地域、阿蘇地域の順で続いている。

<性別・年齢別・居住地域別>



◆公共施設のサービス、設備や管理・運営

25) 公共施設のサービス、設備や管理・運営を満足と感じていますか。



公共施設のサービス、設備や管理・運営等への満足について、「どちらかというと思う」が30.8%で最も高く、「どちらかというと思わない」が28.2%、「わからない」が20.1%の順となっている。「思わない」は16.1%で、「どちらかというと思わない」と合わせた、《思わない》は44.3%であり、「どちらかという」とを含めた《思う》の割合34.2%を約10ポイント上回っている。

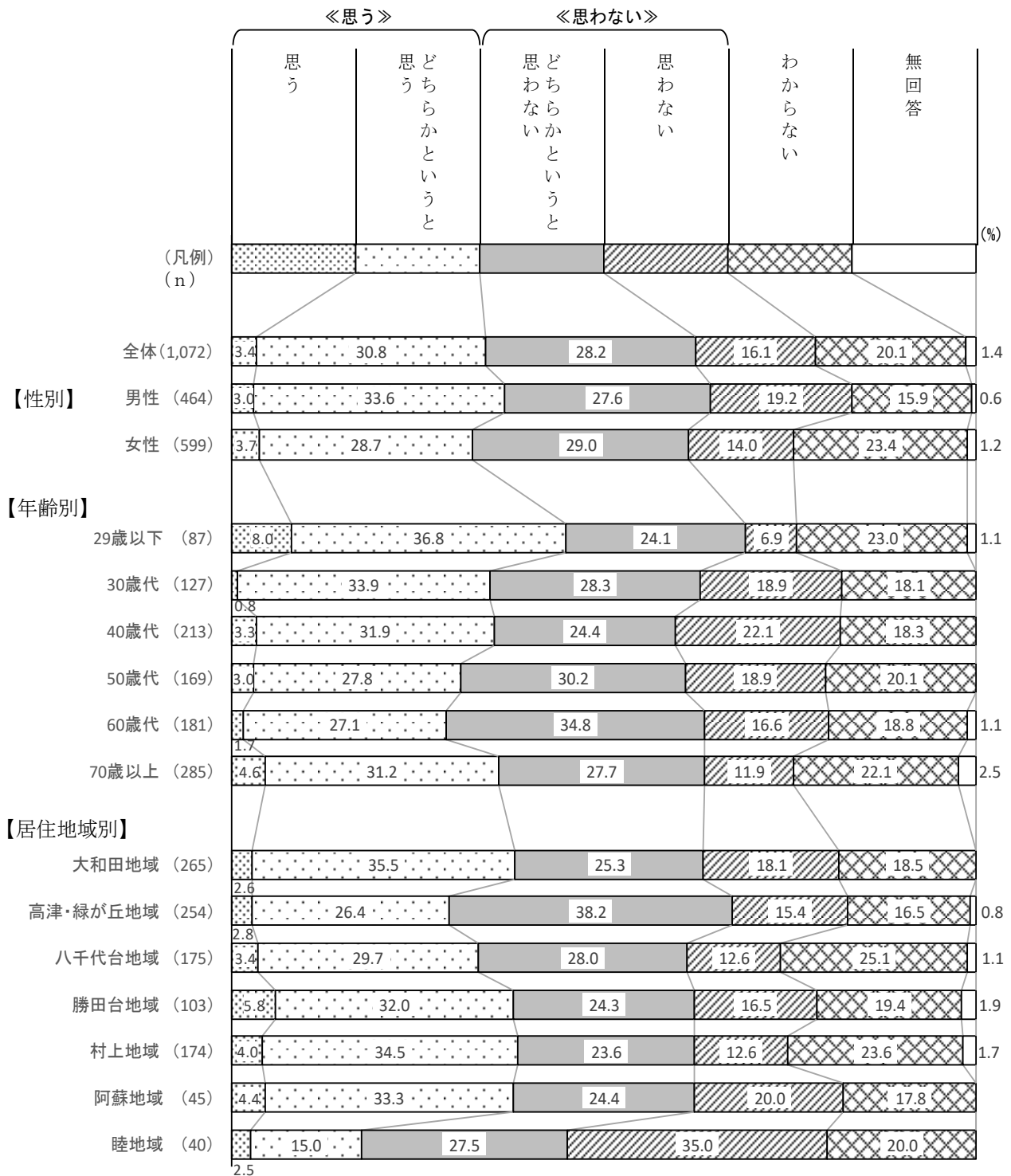
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「わからない」の割合が女性の方が高いが、その他の傾向は男女で大きな差はない。

年齢別では、29歳以下で《思う》の割合が44.8%と最多であるが、30歳代以上の年代では大きな差異はみられない。

居住地域別では、《思う》の割合が大和田地域で最大の38.1%であるが、睦地域以外の他の地域も概ね3割前後である。睦地域はこの値が特に低く、17.5%で、逆に《思わない》の割合が62.5%と高いのが目立つ。

<性別・年齢別・居住地域別>



17 地域の課題や将来像について

お住まいの地区における、地域の課題やあなたが考える地域の将来像についてご自由にご記入ください。

(1) 地域の課題

「地域の課題」に何らかの回答記述を寄せた回答者は559人であった。この記述内容を分野別に分類した件数を、回答者の居住地域（7地域）別に示すと以下のとおりである。

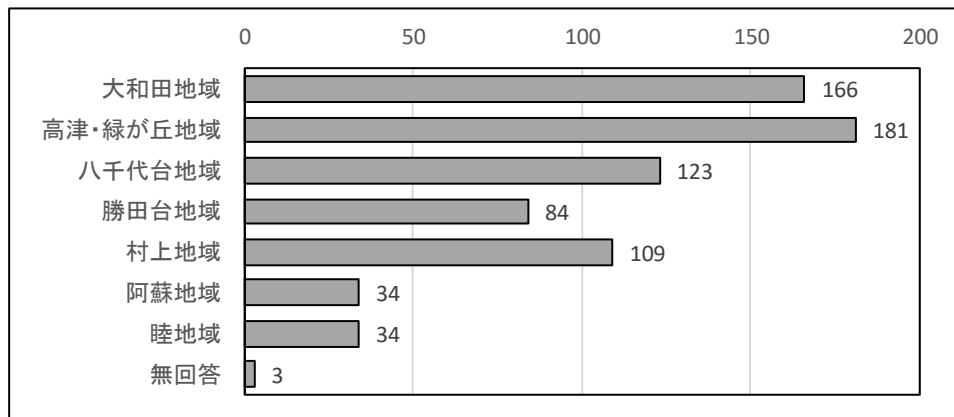
なお、一人の回答者が複数の分野の内容を記述している例が多数あり、可能な限り分割して扱った。これによる延べ総件数は734件となった。

<地域の「課題」>

	全体	大和田	高津・ 緑が丘	八千代台	勝田台	村上	阿蘇	睦	無回答
■ 行財政	18	5	3	6	1	2	1	0	0
市行政全般, 行政体制	9	2	3	3	0	1	0	0	0
広報・情報提供	4	2	0	0	0	1	1	0	0
公共施設管理	5	1	0	3	1	0	0	0	0
■ 福祉・医療	127	17	29	24	27	18	7	5	0
医療関係	11	2	3	4	0	0	1	1	0
子育て支援	22	3	9	2	6	2	0	0	0
少子化・高齢化への不安	47	9	7	9	9	8	3	2	0
高齢化したまちの活性化	26	2	5	8	6	3	1	1	0
高齢者福祉	16	0	3	1	6	4	2	0	0
障害者福祉	5	1	2	0	0	1	0	1	0
■ 教育・学習	26	6	10	2	2	4	2	0	0
教育環境・学校	22	5	9	1	2	3	2	0	0
生涯学習・文化施設	4	1	1	1	0	1	0	0	0
■ 生活環境	47	9	15	5	2	10	3	3	0
ごみ問題	9	2	2	2	0	2	1	0	0
自然環境・緑地保全	7	1	1	1	1	2	1	0	0
下水道・環境衛生	10	2	3	0	1	1	1	2	0
公害・環境阻害	16	3	6	2	0	5	0	0	0
墓地・市営霊園	2	0	2	0	0	0	0	0	0
動物愛護	3	1	1	0	0	0	0	1	0
■ 都市基盤・交通	336	87	92	58	26	44	11	15	3
土地利用関係	5	1	2	1	0	1	0	0	0
市街地整備	22	6	5	5	2	4	0	0	0
道路の整備・維持管理	67	24	15	16	2	2	1	7	0
道路施設(歩道等)	32	10	10	6	2	1	2	0	1
交通安全	39	11	8	7	6	6	1	0	0
交通渋滞	20	4	11	1	0	3	0	1	0
駐車場・駐輪場	6	1	2	2	0	1	0	0	0
公共交通機関	76	15	26	6	4	12	6	6	1
コミュニティバス	4	1	1	0	0	1	0	1	0
公園・緑地の整備・管理	15	2	5	4	1	3	0	0	0

	全体	大和田	高津・ 緑が丘	八千代台	勝田台	村上	阿蘇	睦	無回答
子どもの遊び場	8	5	0	2	1	0	0	0	0
街路樹の維持管理	6	1	2	0	3	0	0	0	0
都市景観	9	2	3	0	0	4	0	0	0
空き家・住宅老朽化・ごみ屋敷	27	4	2	8	5	6	1	0	1
■ 安全・安心	46	12	5	6	10	9	1	3	0
防犯関係	28	8	4	3	4	6	1	2	0
防災・防火対策	17	4	1	3	5	3	0	1	0
安心な暮らし	1	0	0	0	1	0	0	0	0
■ 産業	50	9	10	8	7	3	6	7	0
商業振興	19	6	3	5	3	1	0	1	0
近所での買い物等	24	3	6	3	3	2	4	3	0
農業振興・農地	6	0	1	0	0	0	2	3	0
労働環境・条件	1	0	0	0	1	0	0	0	0
■ 人・コミュニティ	80	20	16	13	8	19	3	1	0
市民・地域の交流	29	7	6	4	3	7	1	1	0
市民の自発的活動・協働	4	1	2	0	1	0	0	0	0
自治会活動・コミュニティ	23	7	4	3	3	6	0	0	0
外国人対応・多文化共生	9	0	1	3	0	4	1	0	0
人のマナー・意識	15	5	3	3	1	2	1	0	0
■ その他	4	1	1	1	1	0	0	0	0
その他(感想や感謝等)	4	1	1	1	1	0	0	0	0
総計(延べ数)	734	166	181	123	84	109	34	34	3

<居住地域別件数分布>



(2) 地域の将来像

「地域の将来像」に何らかの回答記述を寄せた回答者は 407 人であった。この記述内容をテーマ別に分類した件数を、回答者の居住地（7 地域）別に示すと以下のとおりである。

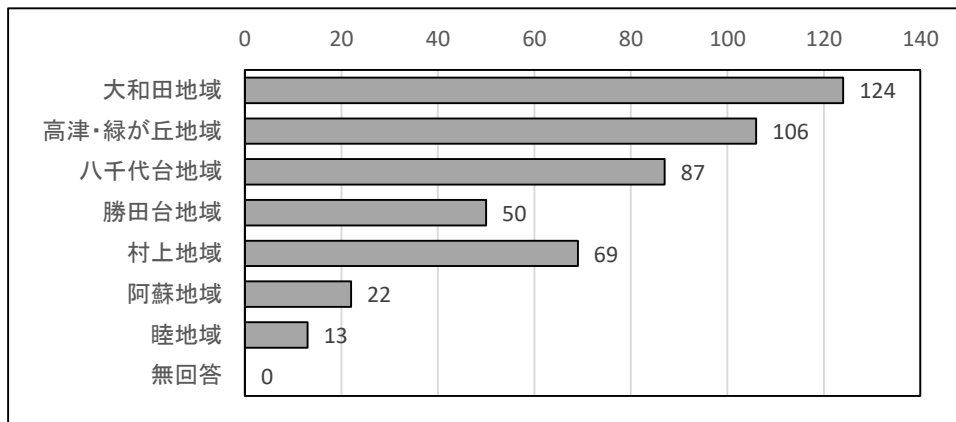
なお、一人の回答者が複数のテーマの内容を記述している例が多数あり、可能な限り分割して扱った。これによる延べ総件数は 471 件となった。

<地域の「将来像」>

	全体	大和田	高津・ 緑が丘	八千代台	勝田台	村上	阿蘇	睦	無回答
■ 行財政への意見	14	3	4	2	2	2	1	0	0
市行財政への意見	8	2	3	1	2	0	0	0	0
公共施設・サービスが充実した	6	1	1	1	0	2	1	0	0
高齢者・障害者が住みやすい	22	7	4	3	1	6	0	1	0
各世代が共生できる	29	12	6	5	3	3	0	0	0
若者が住みやすい	23	5	2	8	4	3	0	1	0
子どもが住みやすい	15	5	2	2	4	2	0	0	0
■ 福祉・医療	50	11	11	12	9	6	0	1	0
医療・福祉が充実した	8	3	1	2	1	1	0	0	0
子育てしやすい	22	6	5	7	2	2	0	0	0
子どもや高齢者に優しい	5	1	2	0	1	1	0	0	0
バリアフリーが進んだ	2	0	0	1	1	0	0	0	0
高齢化	13	1	3	2	4	2	0	1	0
■ 教育・文化	10	0	3	1	0	3	3	0	0
教育環境	8	0	3	0	0	2	3	0	0
文化的な	1	0	0	0	0	1	0	0	0
スポーツが盛んな	1	0	0	1	0	0	0	0	0
■ 環境	32	10	11	5	1	4	0	1	0
自然・緑が豊かな	19	7	6	3	1	2	0	0	0
環境保全	2	0	1	0	0	0	0	1	0
ごみの少ない、きれいな	8	3	3	1	0	1	0	0	0
下水道の整った	1	0	0	0	0	1	0	0	0
公害のない	2	0	1	1	0	0	0	0	0
■ 都市・生活基盤	100	33	16	19	9	11	9	3	0
土地利用	7	3	1	0	2	1	0	0	0
市街地整備	7	2	3	1	0	1	0	0	0
道路環境	31	10	4	10	1	2	2	2	0
交通機関	23	8	4	2	1	4	3	1	0
公園, 新川	8	4	2	0	0	1	1	0	0
景観	4	2	1	1	0	0	0	0	0
情報技術	1	0	0	0	1	0	0	0	0
空家	2	0	0	0	1	1	0	0	0
住環境の良い	17	4	1	5	3	1	3	0	0
■ 安全・安心	40	11	7	7	6	6	2	1	0
防犯体制が整った	9	1	1	2	2	2	1	0	0
防災対策がなされた	14	4	2	3	3	1	1	0	0
安心して暮らせる	17	6	4	2	1	3	0	1	0

■ 産業	29	9	9	3	1	4	1	2	0
商店街などの活気がある	10	3	0	3	1	2	0	1	0
商業施設が充実した	8	3	5	0	0	0	0	0	0
買い物などに便利な	5	1	2	0	0	1	0	1	0
地域の農産物を消費できる	1	1	0	0	0	0	0	0	0
農地を活用できる	2	0	1	0	0	0	1	0	0
雇用環境が良好な	3	1	1	0	0	1	0	0	0
■ 人・コミュニティ	56	10	17	7	8	12	1	1	0
市民・地域の交流がある	23	4	5	5	3	4	1	1	0
市民の活動・協働	7	1	4	0	0	2	0	0	0
コミュニティで助け合える	17	4	5	0	4	4	0	0	0
外国人が住みやすい	9	1	3	2	1	2	0	0	0
■ その他	51	8	14	13	2	7	5	2	0
明るい・平和な	9	2	3	2	1	0	1	0	0
静かな	2	0	0	1	0	1	0	0	0
住み続けたいくなる	6	0	4	2	0	0	0	0	0
わかりやすい	1	0	1	0	0	0	0	0	0
市外から人が訪れる	4	1	1	0	1	1	0	0	0
特にな	11	4	1	1	0	5	0	0	0
わからない	5	0	2	3	0	0	0	0	0
その他(感想など)	13	1	2	4	0	0	4	2	0
総計(延べ数)	471	124	106	87	50	69	22	13	0

<居住地域別件数分布>



18 自由回答

- ◆ 市へのご意見や要望，まちづくりについてのアイデア等があればご自由にご記入ください。

「市への意見や要望，まちづくりについてのアイデア等」に何らかの回答記述を寄せた回答者は341人であった。この記述内容を分野別に分類した件数を，回答者の居住地域（7地域）別に示すと以下のとおりである。

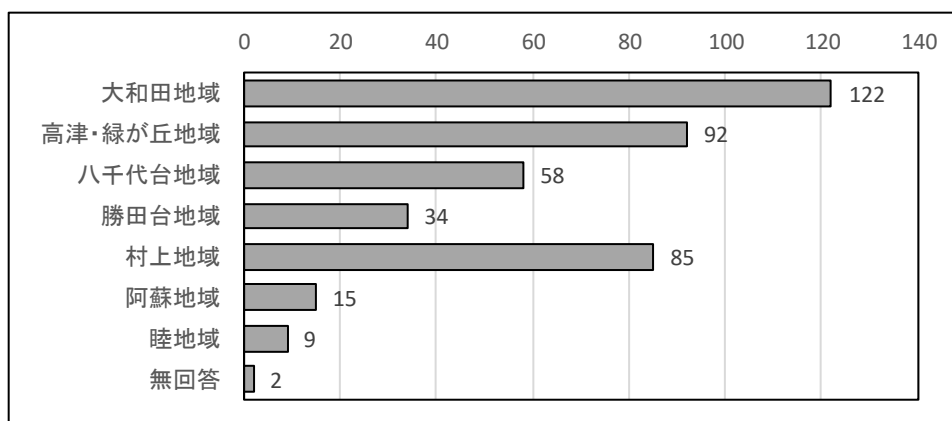
なお，一人の回答者が複数の分野の内容を記述している例が多数あり，可能な限り分割して扱った。これによる延べ総件数は417件となった。

<市への意見や要望，まちづくりについてのアイデア等>

	全体	大和田	高津・ 緑が丘	八千代台	勝田台	村上	阿蘇	睦	無回答
■ 行財政・まちづくり全般	94	29	18	14	9	19	4	1	0
市行政全般	21	4	4	5	3	5	0	0	0
財政	5	2	1	1	1	0	0	0	0
税金関連	6	2	3	0	1	0	0	0	0
職員・窓口対応・サービス	2	0	0	1	0	0	1	0	0
広報・情報公開	8	2	2	1	1	2	0	0	0
情報化	4	2	0	0	1	1	0	0	0
公共施設	26	9	4	3	1	6	3	0	0
魅力づくり・情報発信	20	7	3	3	1	5	0	1	0
市長への意見	2	1	1	0	0	0	0	0	0
■ 福祉・医療	46	14	10	3	3	16	0	0	0
医療関係	6	4	1	0	0	1	0	0	0
子育て支援	20	7	3	2	1	7	0	0	0
高齢者福祉	6	1	2	0	2	1	0	0	0
障害者福祉	5	0	1	1	0	3	0	0	0
低所得者福祉	2	0	2	0	0	0	0	0	0
バリアフリー	3	1	0	0	0	2	0	0	0
地域福祉全般	3	1	1	0	0	1	0	0	0
保険・年金	1	0	0	0	0	1	0	0	0
■ 教育・文化	35	7	8	6	5	8	0	1	0
教育環境・学校	22	3	5	4	5	5	0	0	0
青少年育成	1	1	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ関係施設	8	2	2	1	0	2	0	1	0
地域文化・スポーツ活動	2	0	0	1	0	1	0	0	0
生涯学習活動	2	1	1	0	0	0	0	0	0
■ 環境衛生	14	5	4	2	0	1	1	1	0
ごみ問題	7	2	1	1	0	1	1	1	0
自然環境保全	4	3	1	0	0	0	0	0	0
公害・環境阻害	3	0	2	1	0	0	0	0	0

■ 都市・生活基盤・交通	153	55	36	16	10	23	7	4	2
市街地整備	9	1	3	2	0	3	0	0	0
道路の整備・管理	4	1	3	0	0	0	0	0	0
道路施設(歩道等)	22	9	3	2	2	3	1	2	0
交通渋滞	3	1	1	1	0	0	0	0	0
交通安全	11	3	3	0	2	1	0	1	1
駐車場・駐輪場	4	2	1	0	1	0	0	0	0
公共交通機関	53	26	9	4	2	8	2	1	1
公園・緑地関係	8	1	2	1	0	4	0	0	0
上水道関係	2	0	0	0	0	2	0	0	0
空き家・空き店舗対策	4	0	1	2	1	0	0	0	0
町名整理	1	1	0	0	0	0	0	0	0
各種生活環境全般	32	10	10	4	2	2	4	0	0
■ 安全・安心	24	3	1	6	1	9	2	2	0
防犯関係	6	1	0	1	0	3	0	1	0
防災・防火対策	18	2	1	5	1	6	2	1	0
■ 産業振興	10	0	4	3	1	2	0	0	0
商業振興	6	0	1	3	0	2	0	0	0
農業振興・農地	4	0	3	0	1	0	0	0	0
■ 人・コミュニティ	25	7	6	5	3	4	0	0	0
市民の交流	3	0	1	1	0	1	0	0	0
地域活動・ボランティア	4	2	2	0	0	0	0	0	0
市民の自発的活動・協働	3	0	1	1	1	0	0	0	0
コミュニティ・自治会	5	1	2	1	0	1	0	0	0
国際化・多文化共生	4	1	0	1	1	1	0	0	0
人のマナー・意識	6	3	0	1	1	1	0	0	0
■ その他	16	2	5	3	2	3	1	0	0
アンケートについて	13	2	4	2	2	3	0	0	0
その他(感想や感謝等)	3	0	1	1	0	0	1	0	0
総計(延べ数)	417	122	92	58	34	85	15	9	2

<居住地域別件数分布>



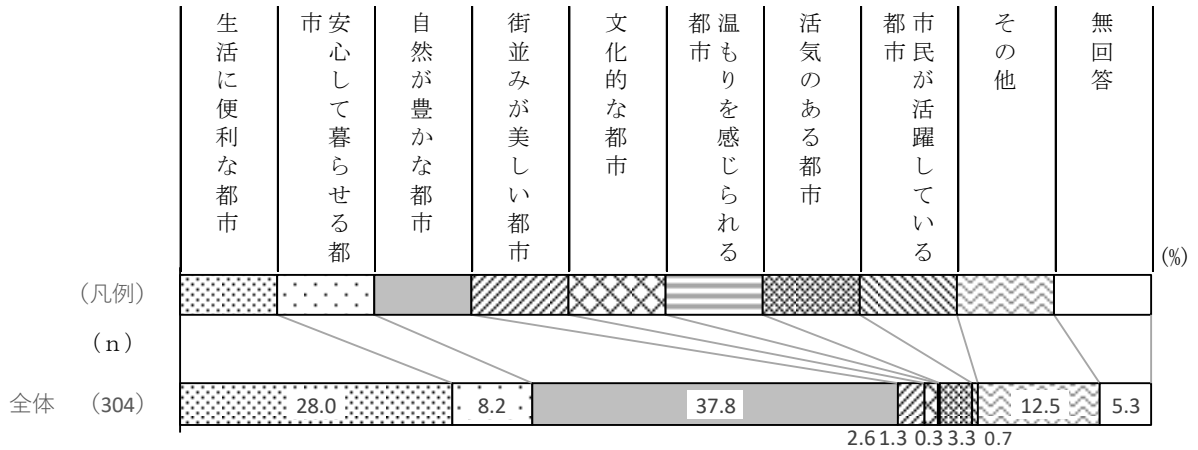
VI 調査結果の分析－外来者調査－

VI 調査結果の分析－外来者調査－

1 八千代市のイメージについて

(1) 市のイメージ

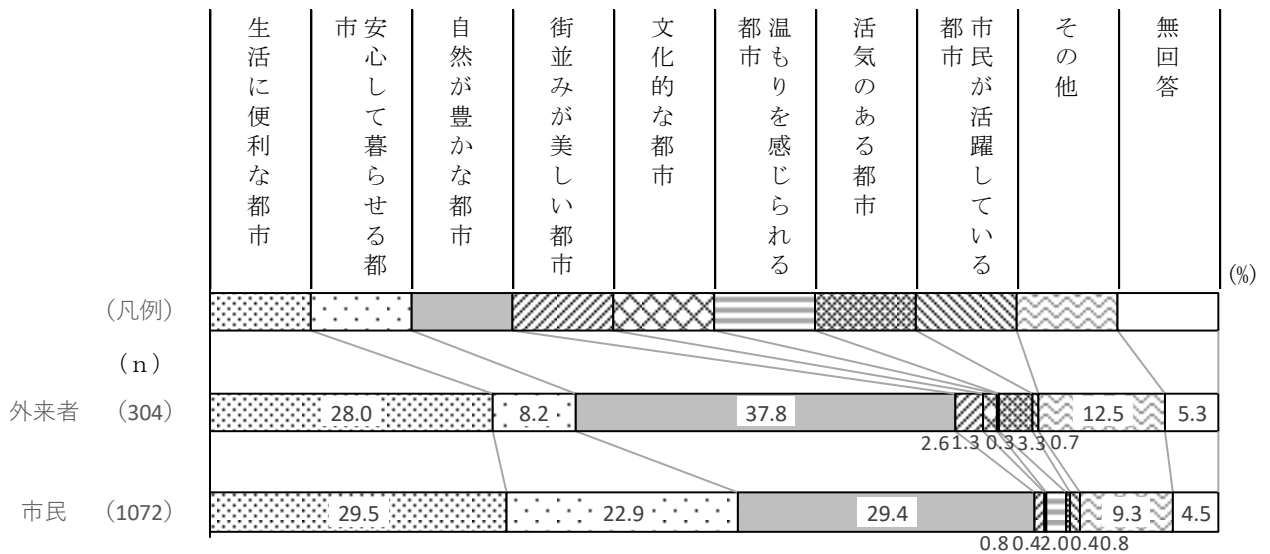
問1 八千代市にどのようなイメージをお持ちですか。(○は1つ)



市外からの通勤者が八千代市に抱くイメージは、「自然が豊かな都市」が 37.8%で最も高く、「生活に便利な都市」が 28.0%、「安心して暮らせる都市」が 8.2%となっており、この3つで 74.0%と約4分の3を占める。

この結果を、市民（市内在住者）の同設問の結果と比較すると、市民では上記3つの合計が8割を超えており、外からの通勤者では「その他」や「活気ある都市」など他の選択肢の割合が比較的高くなっている。

<市内在住者調査との比較>



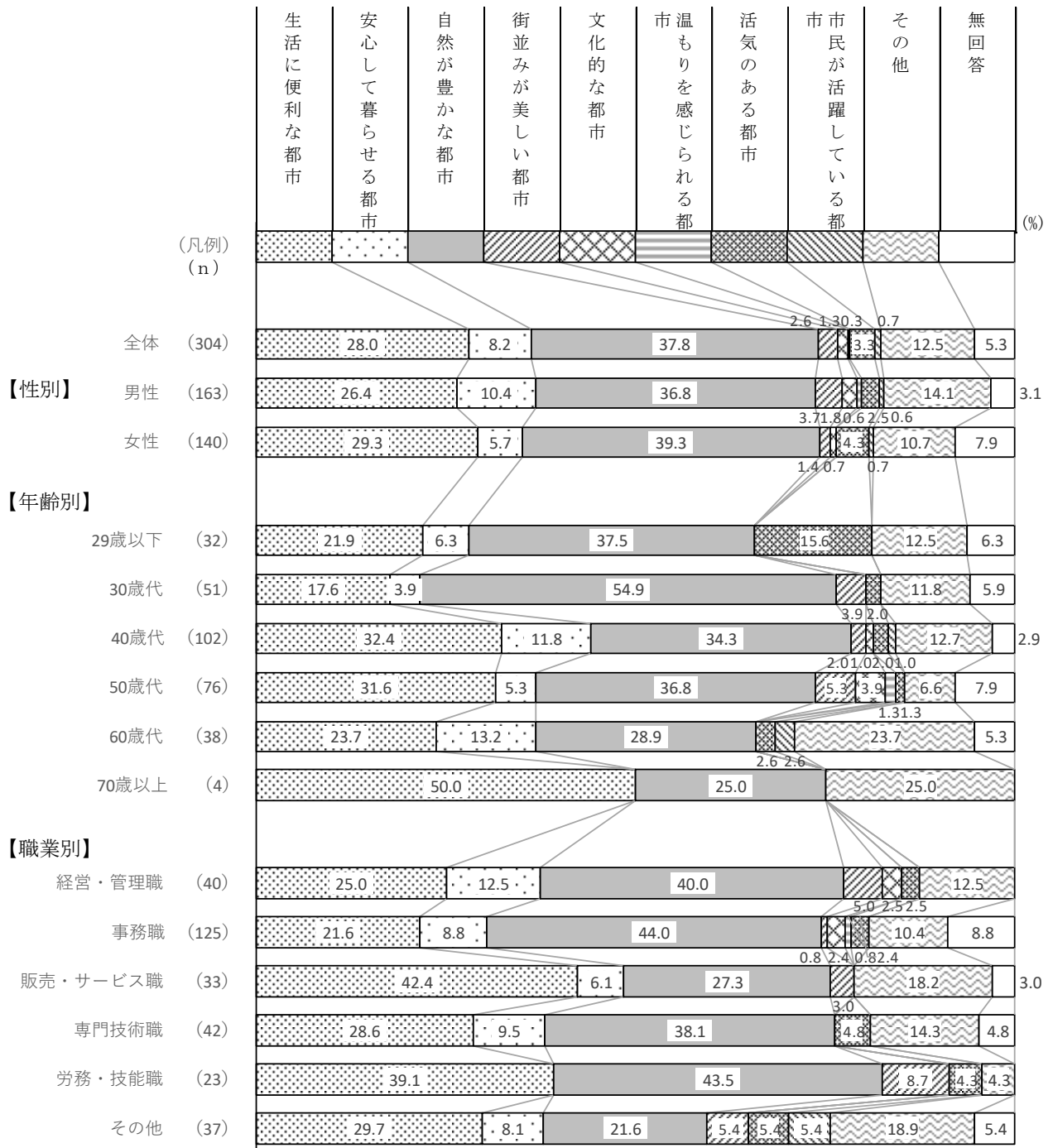
《性別・年齢別・職業別》

性別では、「安心して暮らせる都市」の割合は男性の方が高く、「生活に便利な都市」や「自然が豊かな都市」の割合は女性の方がわずかに高い。

年齢別では、「生活に便利な都市」は40～50歳代で特に割合が高く、「自然が豊かな都市」は30歳代で特に割合が高い。

職業別では、販売・サービス職や労務・技能職で「生活に便利な都市」の割合が特に高いなどの特徴がみられる。

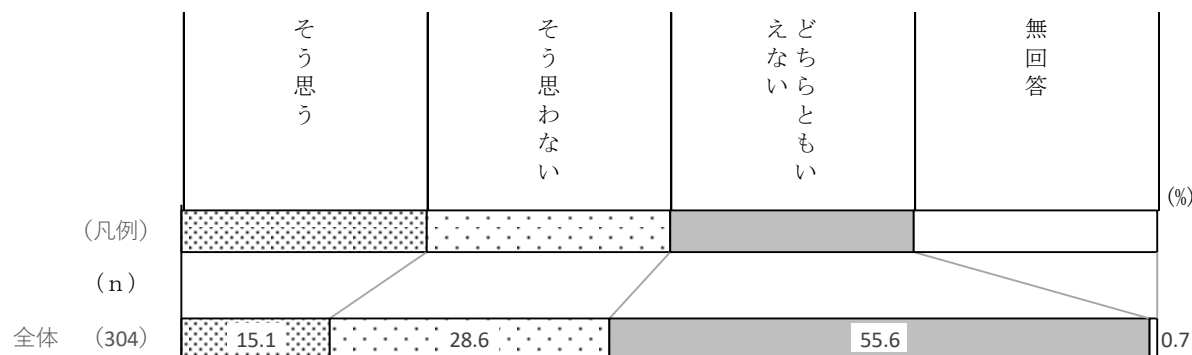
<性別・年齢別・職業別>



2 八千代市の魅力について

(1) 市の魅力

問2 八千代市は住んでみたくなる魅力的なまちだと思いますか。(〇は1つ)



八千代市が住んでみたくなる魅力的なまちと思うか、との問いに対しては、「どちらともいえない」が55.6%で最も高く、「そう思わない」が28.6%、「そう思う」が15.1%となっている。「どちらともいえない」を除くと、「そう思わない」の方が2倍近く高いことになる。

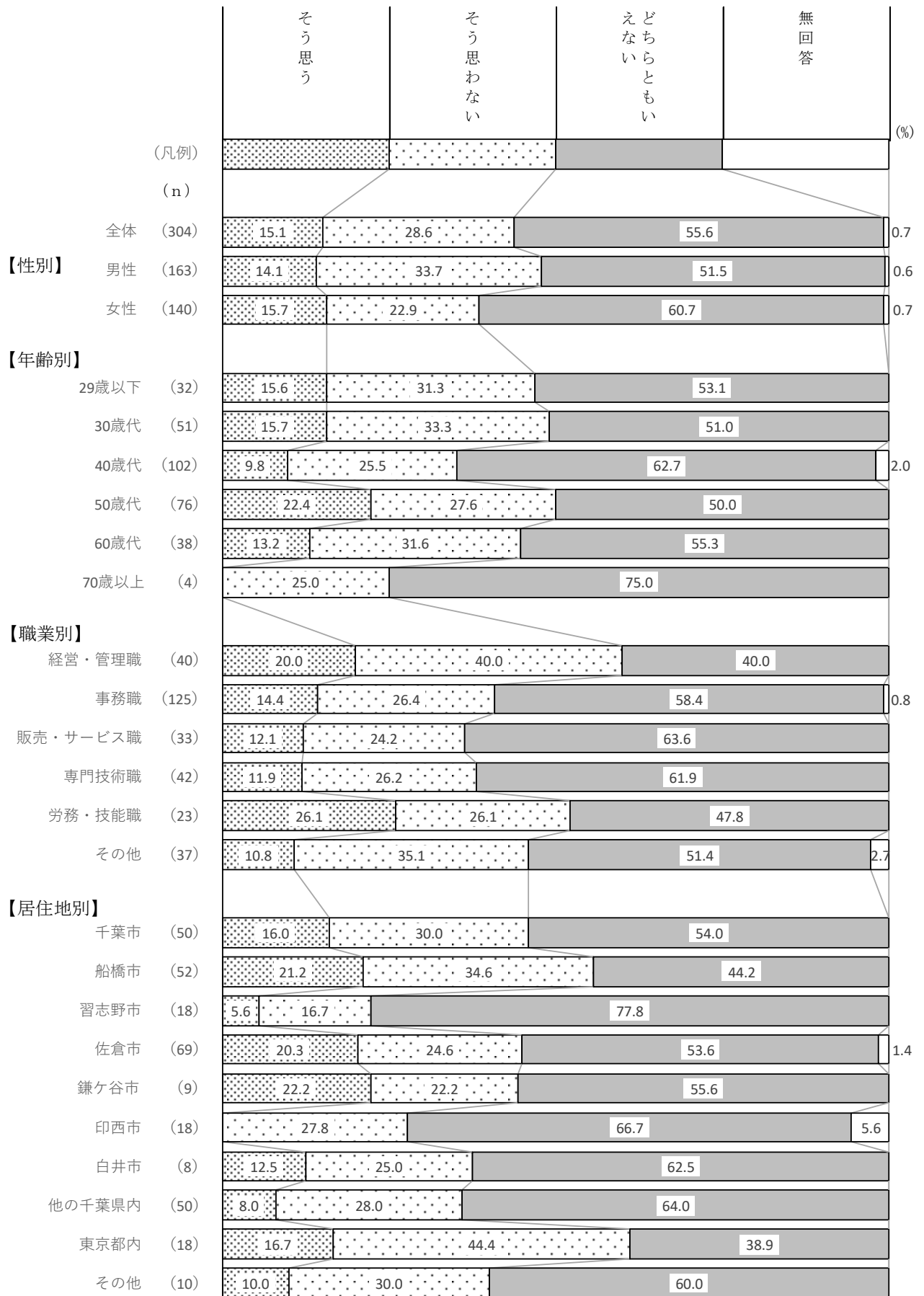
《性別・年齢別・職業別・居住地別》

性別では、「そう思わない」の割合が男性の方が女性の1.5倍ほど高い33.7%となっている。

年齢別では、最も回答者数が高い40歳代で「どちらともいえない」の割合が6割を超えて高いことが特徴である。「そう思う」の割合は50歳代で最も高く、「そう思わない」の割合は30歳代で最も高い。

職業別では、経営・管理職で「そう思わない」の割合が最も高く、労務・技能職で「そう思う」の割合が最も高い。

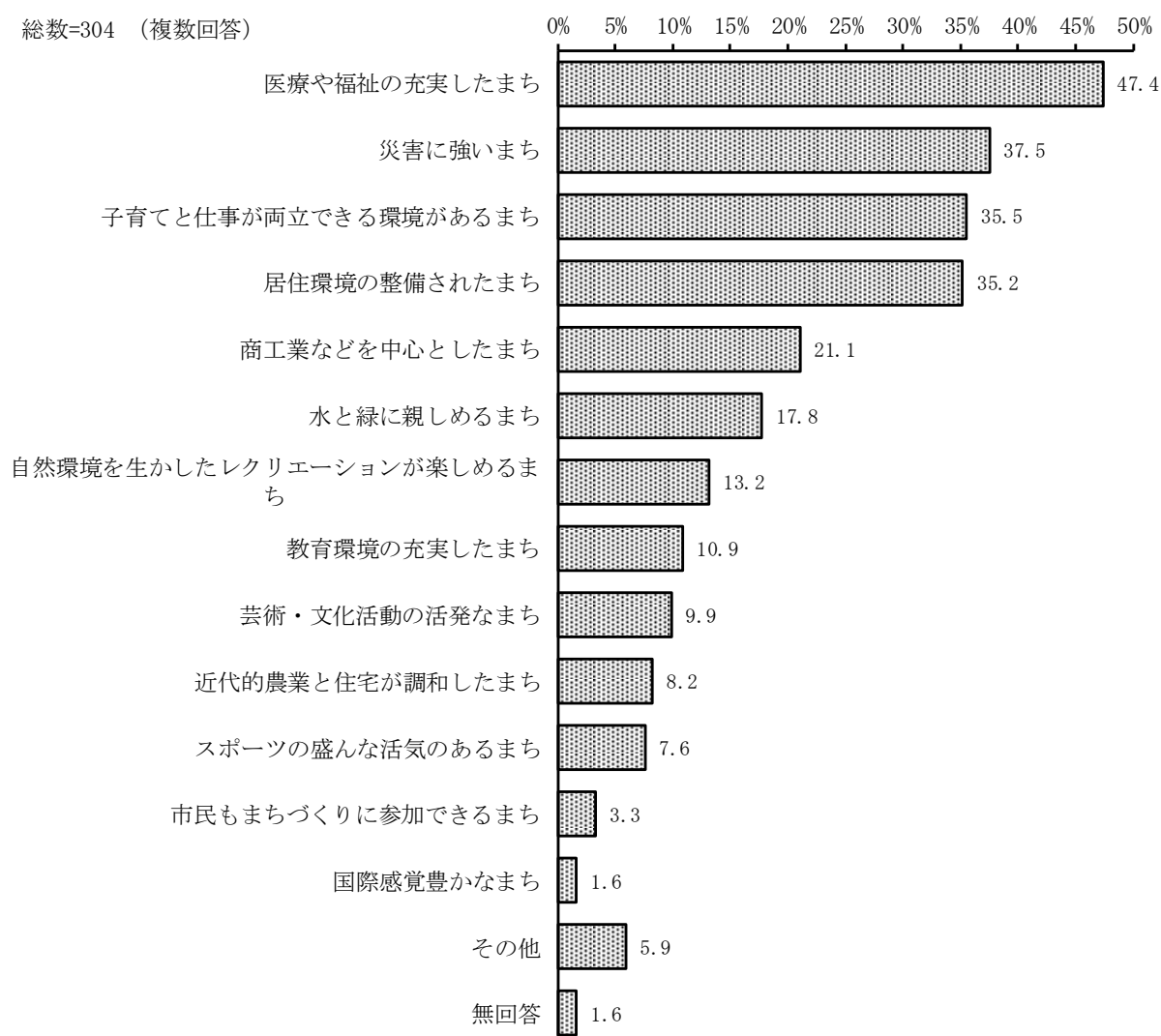
居住地別にみると、それぞれ回答数が少ないが、最も多い佐倉市では、「そう思う」と「そう思わない」がほぼ拮抗しており、次いで回答数が多い船橋市では、「そう思わない」が34.6%を占め、「そう思う」よりもかなり高い割合となっている。



(2) 魅力的なまちになるための方向性

問3 八千代市に住んでみたくなる魅力的なまちになるために、どのような方向へ発展したらよいと思いますか。(〇は3つ)

総数=304 (複数回答)



魅力的なまちになるための方向性としては、「医療や福祉の充実したまち」が47.4%で最も高く、「災害に強いまち」が37.5%、「子育てと仕事が両立できる環境があるまち」が35.5%、「居住環境の整備されたまち」が35.2%で続いており、この4つが3割以上の支持を集めている。

《性別・年齢別・職業別》

性別では、「医療や福祉の充実したまち」の割合が女性で56.4%と特に高く、また、「災害に強いまち」の割合も男性よりかなり高く44.3%である。男性では、「商工業などを中心としたまち」などの割合が女性より高い。

年齢別では、29歳以下や30歳代で「子育てと仕事が両立できる環境があるまち」の割合が相対的に高く、また、「商工業などを中心としたまち」の割合が29歳以下で特に高いなどの特徴がみられる。

職業別では、経営・管理職で「医療や福祉の充実したまち」の割合が特に高いことや、販売・サービス業で「災害に強いまち」の割合が目立って高い。

<性別・年齢別・職業別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

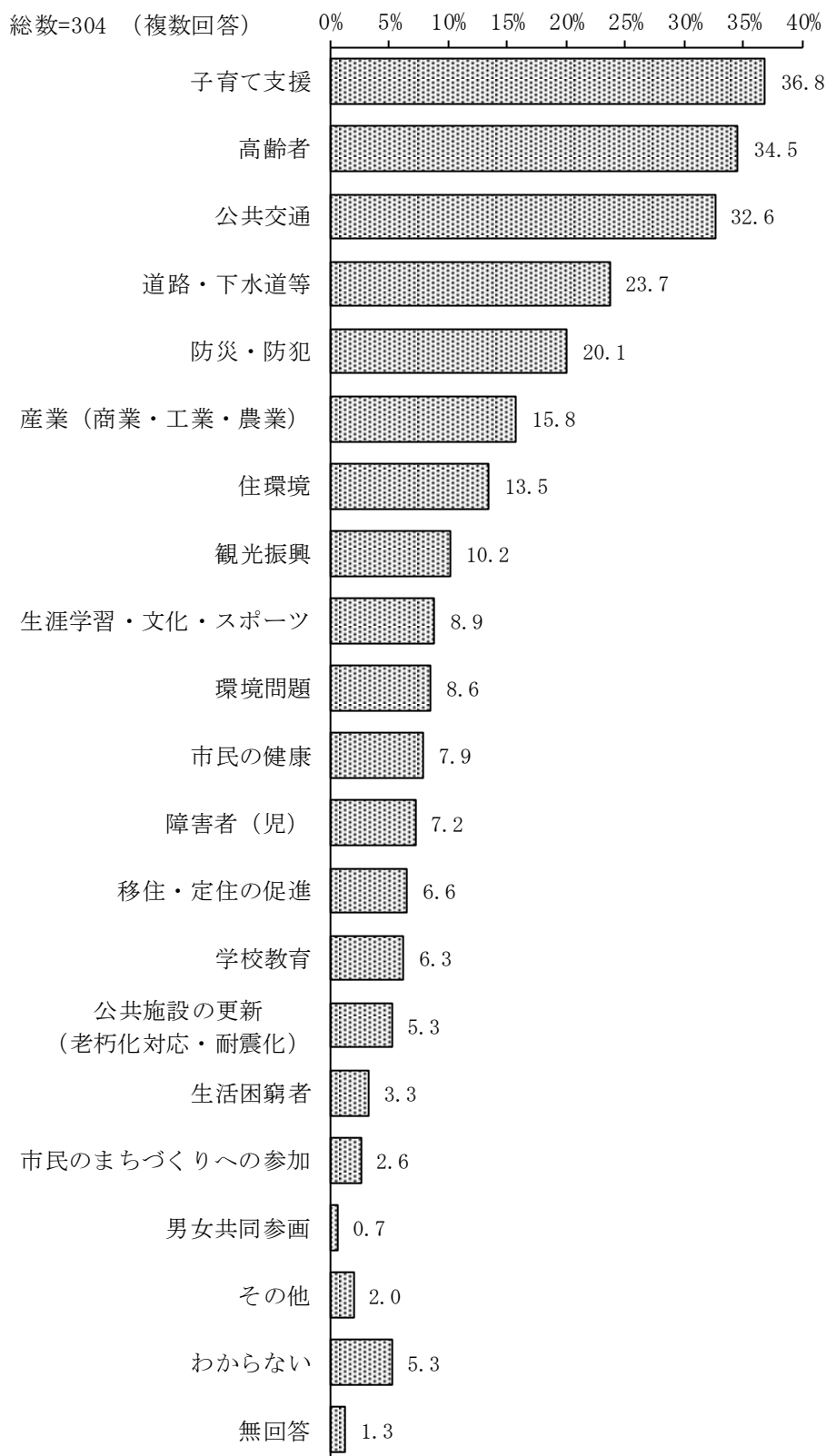
		全体	商工業などを中心としたまち	近代的農業と住宅が調和したまち	居住環境の整備されたまち	医療や福祉の充実したまち	自然環境を生かしたレクリエーションが楽しめるまち	芸術・文化活動の活発なまち	スポーツの盛んな活気のあるまち	水と緑に親しめるまち	災害に強いまち	国際感覚豊かなまち	教育環境の充実したまち	子育てと仕事両立できる環境があるまち	市民もまちづくりに参加できるまち
全体		304 100.0	64 21.1	25 8.2	107 35.2	144 47.4	40 13.2	30 9.9	23 7.6	54 17.8	114 37.5	5 1.6	33 10.9	108 35.5	10 3.3
性別	男性	163 100.0	38 23.3	15 9.2	55 33.7	65 39.9	24 14.7	19 11.7	17 10.4	31 19.0	52 31.9	2 1.2	19 11.7	49 30.1	5 3.1
	女性	140 100.0	26 18.6	9 6.4	52 37.1	79 56.4	15 10.7	11 7.9	6 4.3	23 16.4	62 44.3	3 2.1	14 10.0	58 41.4	5 3.6
	無回答	1 100.0	-	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-
年齢	29歳以下	32 100.0	13 40.6	2 6.3	9 28.1	15 46.9	3 9.4	5 15.6	2 6.3	4 12.5	7 21.9	1 3.1	3 9.4	14 43.8	1 3.1
	30歳代	51 100.0	8 15.7	5 9.8	19 37.3	26 51.0	6 11.8	4 7.8	7 13.7	9 17.6	22 43.1	-	9 17.6	22 43.1	1 2.0
	40歳代	102 100.0	20 19.6	6 5.9	41 40.2	49 48.0	16 15.7	7 6.9	6 5.9	19 18.6	42 41.2	1 1.0	16 15.7	35 34.3	3 2.9
	50歳代	76 100.0	14 18.4	7 9.2	25 32.9	38 50.0	8 10.5	11 14.5	5 6.6	13 17.1	31 40.8	1 1.3	2 2.6	24 31.6	2 2.6
	60歳代	38 100.0	9 23.7	4 10.5	12 31.6	15 39.5	6 15.8	3 7.9	3 7.9	8 21.1	12 31.6	1 2.6	2 5.3	9 23.7	2 5.3
	70歳以上	4 100.0	-	-	1 25.0	1 25.0	-	-	-	1 25.0	-	1 25.0	1 25.0	3 75.0	1 25.0
	無回答	1 100.0	-	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-
職種	経営・管理職	40 100.0	6 15.0	3 7.5	17 42.5	22 55.0	6 15.0	3 7.5	5 12.5	5 12.5	17 42.5	-	1 2.5	17 42.5	-
	事務職	125 100.0	29 23.2	10 8.0	39 31.2	61 48.8	17 13.6	15 12.0	8 6.4	24 19.2	48 38.4	1 0.8	13 10.4	43 34.4	2 1.6
	販売・サービス職	33 100.0	8 24.2	2 6.1	12 36.4	16 48.5	3 9.1	5 15.2	2 6.1	5 15.2	18 54.5	3 9.1	2 6.1	13 39.4	2 6.1
	専門技術職	42 100.0	10 23.8	4 9.5	17 40.5	19 45.2	3 7.1	-	1 2.4	4 9.5	13 31.0	1 2.4	10 23.8	18 42.9	3 7.1
	労務・技能職	23 100.0	4 17.4	3 13.0	6 26.1	9 39.1	5 21.7	3 13.0	3 13.0	6 26.1	5 21.7	-	3 13.0	5 21.7	2 8.7
	その他	37 100.0	7 18.9	1 2.7	15 40.5	15 40.5	4 10.8	4 10.8	4 10.8	9 24.3	12 32.4	-	4 10.8	9 24.3	1 2.7
	無回答	4 100.0	-	2 50.0	1 25.0	2 50.0	2 50.0	-	-	1 25.0	1 25.0	-	-	3 75.0	-

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 (属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)
 注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。
 (「その他」の割合が2番目に高い場合もある)

3 八千代市が力を入れて取り組むべき施策について

(1) 八千代市が力を入れて取り組むべき施策

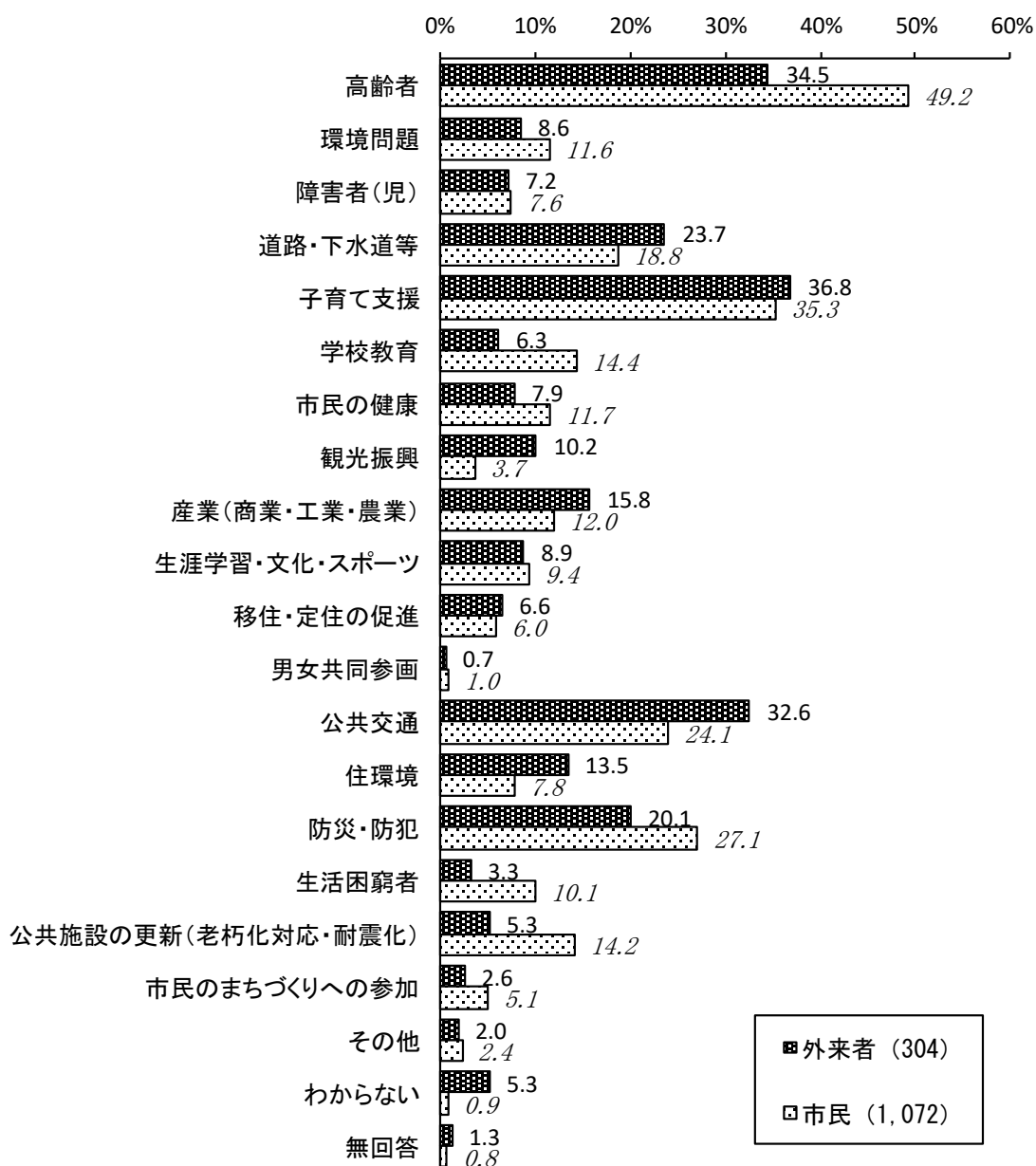
問4 今後、八千代市が力を入れて取り組むべき施策は何だと思えますか。(〇は3つまで)



今後、市が力を入れて取り組むべき施策としては、「子育て支援」が36.8%で最も高く、「高齢者」が34.5%、「公共交通」が32.6%、「道路・下水道等」が23.7%、「防災・防犯」が20.1%で続き、この5項目が20%以上である。

市民（市内在住者）意識調査での同設問の結果と比較すると、市民では「高齢者」の割合が突出していたのに対し、外来者ではその割合は「子育て支援」よりわずかに小さい値となり、また、「公共交通」や「道路・下水道等」、「産業（商業・工業・農業）」の割合が市民よりも高い。

<市内在住者調査との比較>



《性別・年齢別・職業別》

性別では、「子育て支援」のほか「高齢者」や「防災・防犯」などでは女性の方が割合が高く、「産業（商業・工業・農業）」や「住環境」などでは男性の方が割合が高いという相違がみられる。

年齢別では、「子育て支援」は特に30～40歳代で割合が高く、「高齢者」は年齢が高い層ほど割合が高まっている。また「公共交通」は29歳以下や30歳代で特に割合が高い。

職業別では、「高齢者」の割合が販売・サービス職で特に高く42.4%であるほか、「公共交通」が専門技術職で特に高い割合を示しているなどの特徴がみられる。

<性別・年齢別・職業別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		全体	高齢者	環境問題	障害者（児）	道路・下水道等	子育て支援	学校教育	市民の健康	観光振興	産業（商業・工業・農業）	生涯学習・文化・スポーツ	移住・定住の促進	男女共同参画	公共交通	住環境	防災・防犯	生活困窮者	公共施設の更新（老朽化対応・耐震化）	市民のまちづくりへの参加
全体		304	105	26	22	72	112	19	24	31	48	27	20	2	99	41	61	10	16	8
		100.0	34.5	8.6	7.2	23.7	36.8	6.3	7.9	10.2	15.8	8.9	6.6	0.7	32.6	13.5	20.1	3.3	5.3	2.6
性別	男性	163	54	14	10	40	58	8	17	17	30	19	9	1	57	29	30	1	7	5
		100.0	33.1	8.6	6.1	24.5	35.6	4.9	10.4	10.4	18.4	11.7	5.5	0.6	35.0	17.8	18.4	0.6	4.3	3.1
	女性	140	51	11	12	32	54	11	7	14	18	8	11	1	42	12	30	9	9	2
		100.0	36.4	7.9	8.6	22.9	38.6	7.9	5.0	10.0	12.9	5.7	7.9	0.7	30.0	8.6	21.4	6.4	6.4	1.4
	無回答	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
		100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0
年齢	29歳以下	32	7	2	4	7	8	2	2	8	4	4	3	1	13	5	1	2	2	1
		100.0	21.9	6.3	12.5	21.9	25.0	6.3	6.3	25.0	12.5	12.5	9.4	3.1	40.6	15.6	3.1	6.3	6.3	3.1
	30歳代	51	12	2	2	10	26	2	4	6	7	6	3	1	23	6	9	3	3	1
		100.0	23.5	3.9	3.9	19.6	51.0	3.9	7.8	11.8	13.7	11.8	5.9	2.0	45.1	11.8	17.6	5.9	5.9	2.0
	40歳代	102	39	4	10	25	44	9	10	10	20	8	7	-	29	11	30	2	4	2
		100.0	38.2	3.9	9.8	24.5	43.1	8.8	9.8	9.8	19.6	7.8	6.9	-	28.4	10.8	29.4	2.0	3.9	2.0
	50歳代	76	30	10	3	18	21	3	5	6	8	5	3	-	26	11	16	1	4	2
	100.0	39.5	13.2	3.9	23.7	27.6	3.9	6.6	7.9	10.5	6.6	3.9	-	34.2	14.5	21.1	1.3	5.3	2.6	
60歳代	38	15	7	3	10	12	3	3	1	8	4	4	-	7	7	4	2	3	1	
	100.0	39.5	18.4	7.9	26.3	31.6	7.9	7.9	2.6	21.1	10.5	10.5	-	18.4	18.4	10.5	5.3	7.9	2.6	
70歳以上	4	2	-	-	2	1	-	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	
	100.0	50.0	-	-	50.0	25.0	-	-	-	25.0	-	-	-	25.0	25.0	-	-	-	-	
	無回答	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
		100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	
職種	経営・管理職	40	14	4	3	12	17	2	6	7	8	2	1	-	12	8	8	-	1	1
		100.0	35.0	10.0	7.5	30.0	42.5	5.0	15.0	17.5	20.0	5.0	2.5	-	30.0	20.0	20.0	-	2.5	2.5
	事務職	125	46	9	11	30	45	9	9	14	15	14	7	1	39	11	20	8	9	4
		100.0	36.8	7.2	8.8	24.0	36.0	7.2	7.2	11.2	12.0	11.2	5.6	0.8	31.2	8.8	16.0	6.4	7.2	3.2
	販売・サービス職	33	14	3	2	6	11	1	2	4	6	5	2	1	10	5	9	-	2	-
		100.0	42.4	9.1	6.1	18.2	33.3	3.0	6.1	12.1	18.2	15.2	6.1	3.0	30.3	15.2	27.3	-	6.1	-
	専門技術職	42	10	4	2	8	17	3	2	2	10	3	5	-	23	9	9	-	2	-
	100.0	23.8	9.5	4.8	19.0	40.5	7.1	4.8	4.8	23.8	7.1	11.9	-	54.8	21.4	21.4	-	4.8	-	
労務・技能職	23	9	2	1	5	10	1	2	2	5	3	2	-	3	6	4	-	-	1	
	100.0	39.1	8.7	4.3	21.7	43.5	4.3	8.7	8.7	21.7	13.0	8.7	-	13.0	26.1	17.4	-	-	4.3	
その他	37	12	3	3	10	10	3	2	1	4	-	3	-	11	2	10	1	2	-	
	100.0	32.4	8.1	8.1	27.0	27.0	8.1	5.4	2.7	10.8	-	8.1	-	29.7	5.4	27.0	2.7	5.4	-	
無回答	4	-	1	-	1	2	-	1	1	-	-	-	-	1	-	1	1	-	2	
	100.0	-	25.0	-	25.0	50.0	-	25.0	25.0	-	-	-	-	25.0	-	25.0	25.0	-	50.0	

各属性の中で最も割合が高い選択肢

各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

(属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)

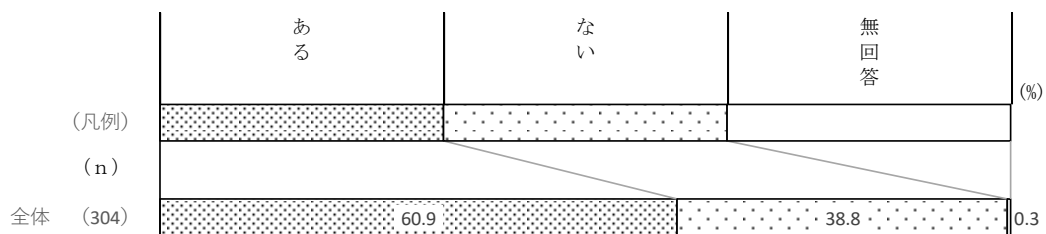
注) 「その他」, 「わからない」, 「無回答」は表記を省略している。

(「その他」の割合が2番目に高い場合もある)

4 市内の施設等の利用について

(1) 市内施設等の利用の有無

問5 帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設はありますか。(○は1つ)



市外からの通勤者が、帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設が「ある」という割合は60.9%である。残りの4割弱は「ない」と答えている。

《性別・年齢別・職業別・居住地別》

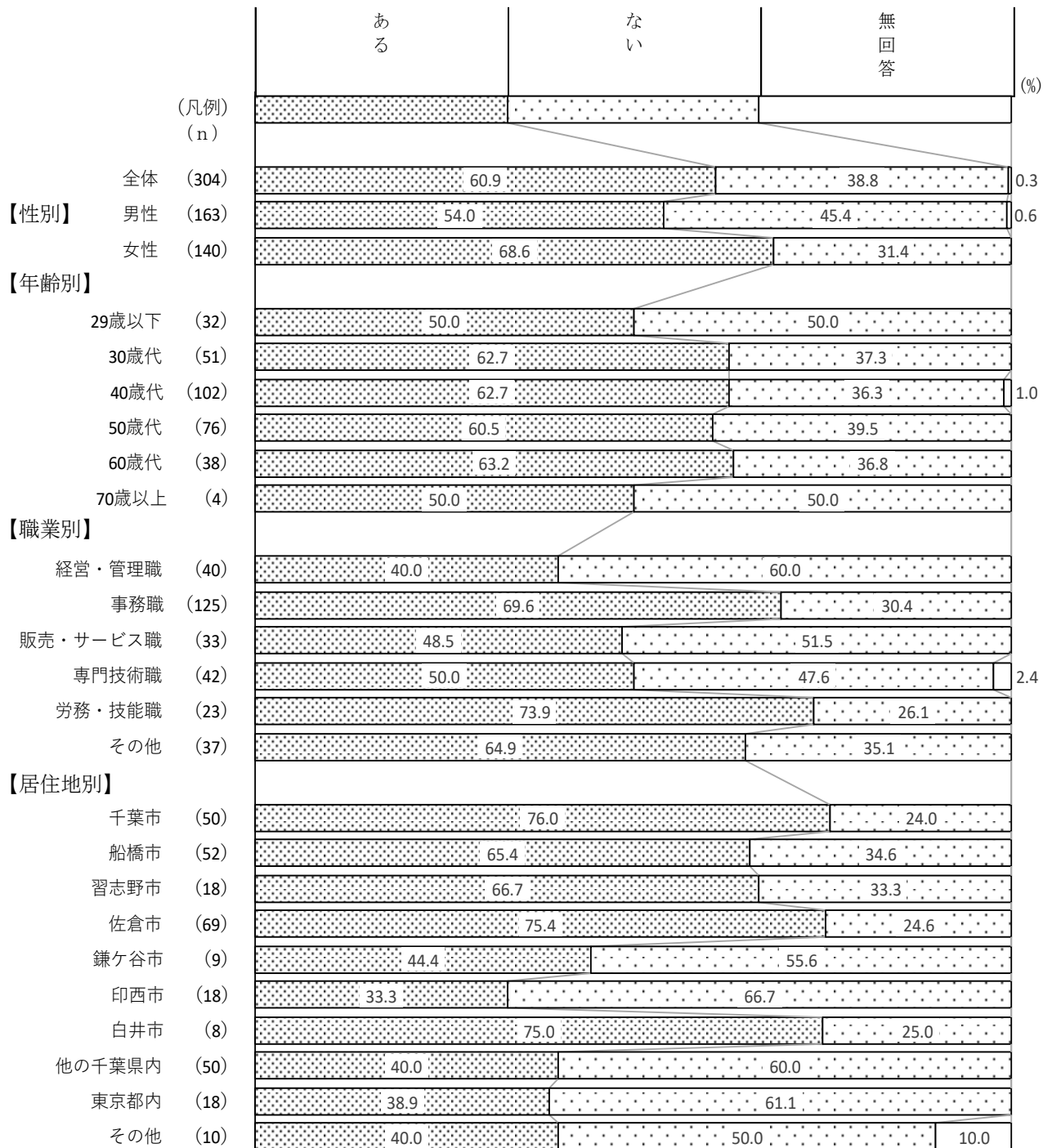
性別では、女性の方が「ある」の割合がかなり高く、68.6%を占めている。

年齢別では、30歳代から60歳代までの各年齢層で「ある」が6割台である。

職業別では、事務職、労務・技能職で「ある」の割合が7割前後と高い。

居住地別では、回答数が多い佐倉市が75.4%、船橋市が65.4%である。

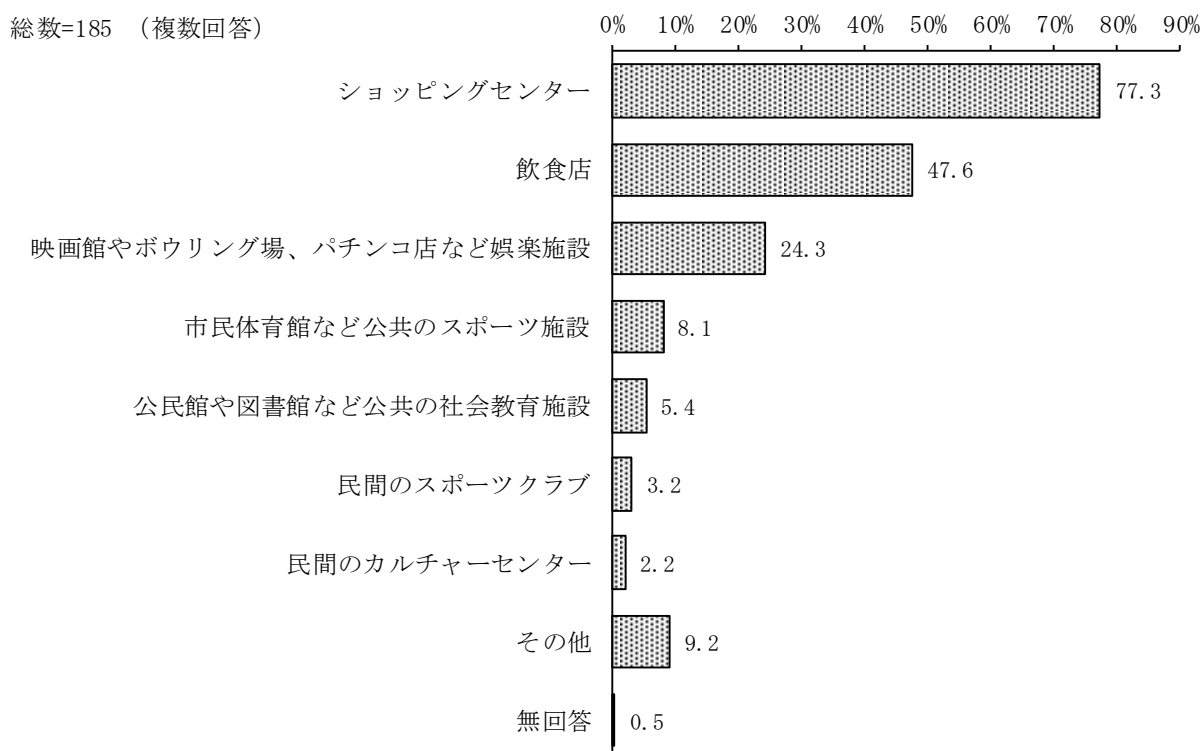
<性別・年齢別・職業別・居住地別>



(1-1) 市内で立ち寄る場所

(問5で「1 ある」とお答えの方にお尋ねします。)

問5-1 立ち寄られる場所はどんなところですか。(〇は3つまで)



帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設が「ある」と答えた人に、その立ち寄り先の施設を尋ねた結果、「ショッピングセンター」が77.3%で最も高く、「飲食店」が47.6%、さらに「映画館やボウリング場、パチンコ店など娯楽施設」が24.3%の順となっている。

《性別・年齢別・職業別・居住地別》

性別では、男女とも1位、2位の順位は同じであるが、女性では「ショッピングセンター」、男性では「飲食店」の割合が特に高い。

年齢別では、「ショッピングセンター」は特に30歳代、「飲食店」は特に40歳代で割合が比較的高くなっている。

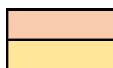
職業別では、「ショッピングセンター」の割合が専門技術職で特に高い。

居住地別では、回答者数の多い佐倉市、船橋市では「ショッピングセンター」が8割を超えているが、千葉市ではその値が63.2%と比較的小さく、逆に「飲食店」の割合が比較的高い。

<性別・年齢別・職業別・居住地別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		全体	の公民館や図書館など公共施設	市民体育館など公共のスポーツ施設	民間のスポーツクラブ	民間のカルチャーセンター	映画館やボウリング場、パチンコ店など娯楽施設	ショッピングセンター	飲食店
全体		185 100.0	10 5.4	15 8.1	6 3.2	4 2.2	45 24.3	143 77.3	88 47.6
性別	男性	88 100.0	7 8.0	8 9.1	1 1.1	1 1.1	17 19.3	64 72.7	51 58.0
	女性	96 100.0	3 3.1	7 7.3	5 5.2	3 3.1	27 28.1	79 82.3	37 38.5
	無回答	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-	-
年齢	29歳以下	16 100.0	-	-	1 6.3	-	7 43.8	12 75.0	4 25.0
	30歳代	32 100.0	3 9.4	1 3.1	-	2 6.3	9 28.1	28 87.5	15 46.9
	40歳代	64 100.0	3 4.7	6 9.4	-	-	12 18.8	51 79.7	36 56.3
	50歳代	46 100.0	2 4.3	4 8.7	3 6.5	2 4.3	13 28.3	33 71.7	21 45.7
	60歳代	24 100.0	2 8.3	4 16.7	2 8.3	-	3 12.5	17 70.8	12 50.0
	70歳以上	2 100.0	-	-	-	-	-	2 100.0	-
	無回答	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-	-
職種	経営・管理職	16 100.0	1 6.3	2 12.5	-	-	2 12.5	11 68.8	11 68.8
	事務職	87 100.0	5 5.7	7 8.0	5 5.7	3 3.4	21 24.1	69 79.3	37 42.5
	販売・サービス職	16 100.0	1 6.3	1 6.3	1 6.3	-	2 12.5	12 75.0	8 50.0
	専門技術職	21 100.0	1 4.8	2 9.5	-	-	5 23.8	19 90.5	7 33.3
	労務・技能職	17 100.0	2 11.8	1 5.9	-	1 5.9	6 35.3	10 58.8	10 58.8
	その他	24 100.0	-	2 8.3	-	-	8 33.3	19 79.2	14 58.3
	無回答	4 100.0	-	-	-	-	1 25.0	3 75.0	1 25.0
居住地	千葉市	38 100.0	2 5.3	2 5.3	1 2.6	2 5.3	10 26.3	24 63.2	22 57.9
	船橋市	34 100.0	3 8.8	1 2.9	1 2.9	-	11 32.4	30 88.2	18 52.9
	習志野市	12 100.0	-	1 8.3	1 8.3	-	3 25.0	10 83.3	7 58.3
	佐倉市	52 100.0	3 5.8	7 13.5	1 1.9	2 3.8	13 25.0	42 80.8	20 38.5
	鎌ヶ谷市	4 100.0	-	1 25.0	1 25.0	-	1 25.0	3 75.0	2 50.0
	印西市	6 100.0	-	-	-	-	-	4 66.7	2 33.3
	白井市	6 100.0	-	2 33.3	-	-	-	4 66.7	4 66.7
	他の千葉県内	20 100.0	2 10.0	1 5.0	1 5.0	-	3 15.0	16 80.0	8 40.0
	東京都内	7 100.0	-	-	-	-	2 28.6	6 85.7	3 42.9
	その他	4 100.0	-	-	-	-	1 25.0	3 75.0	2 50.0
	無回答	2 100.0	-	-	-	-	1 50.0	1 50.0	-



各属性の中で最も割合が高い選択肢

各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

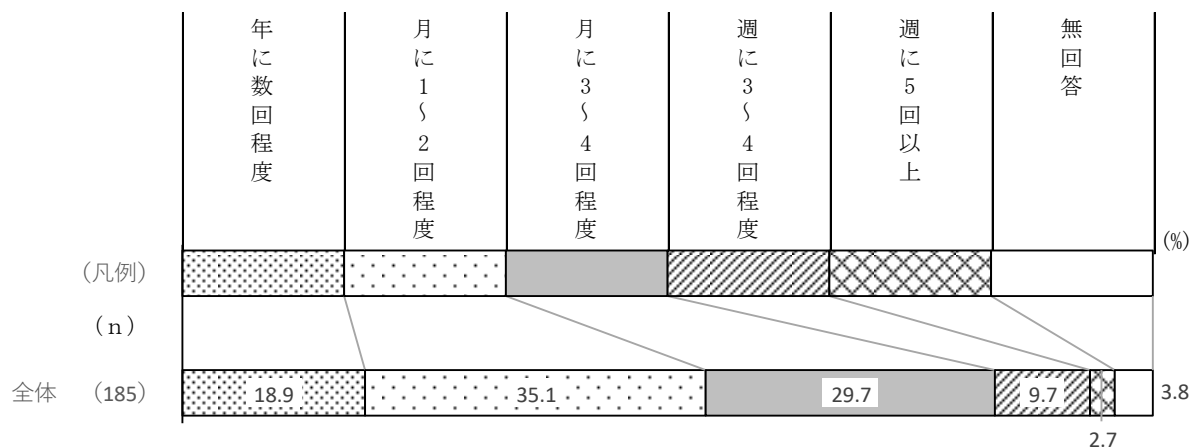
(属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)

注) 「その他」, 「わからない」, 「無回答」は表記を省略している。

(1-2) 市内での立ち寄り頻度

(問5で「1 ある」とお答えの方にお尋ねします。)

問5-2 立ち寄る回数ほどのくらいですか。(問5-1のうち、頻度が一番多いものに○を1つ)



市内で帰宅途中や休日に立ち寄る施設が「ある」人の立ち寄りの頻度は、「月に1~2回程度」が35.1%で最も高く、「月に3~4回程度」が29.7%、「年に数回程度」が18.9%、「週に3~4回程度」が9.7%となっている。

《性別・年齢別・職業別・居住地別》

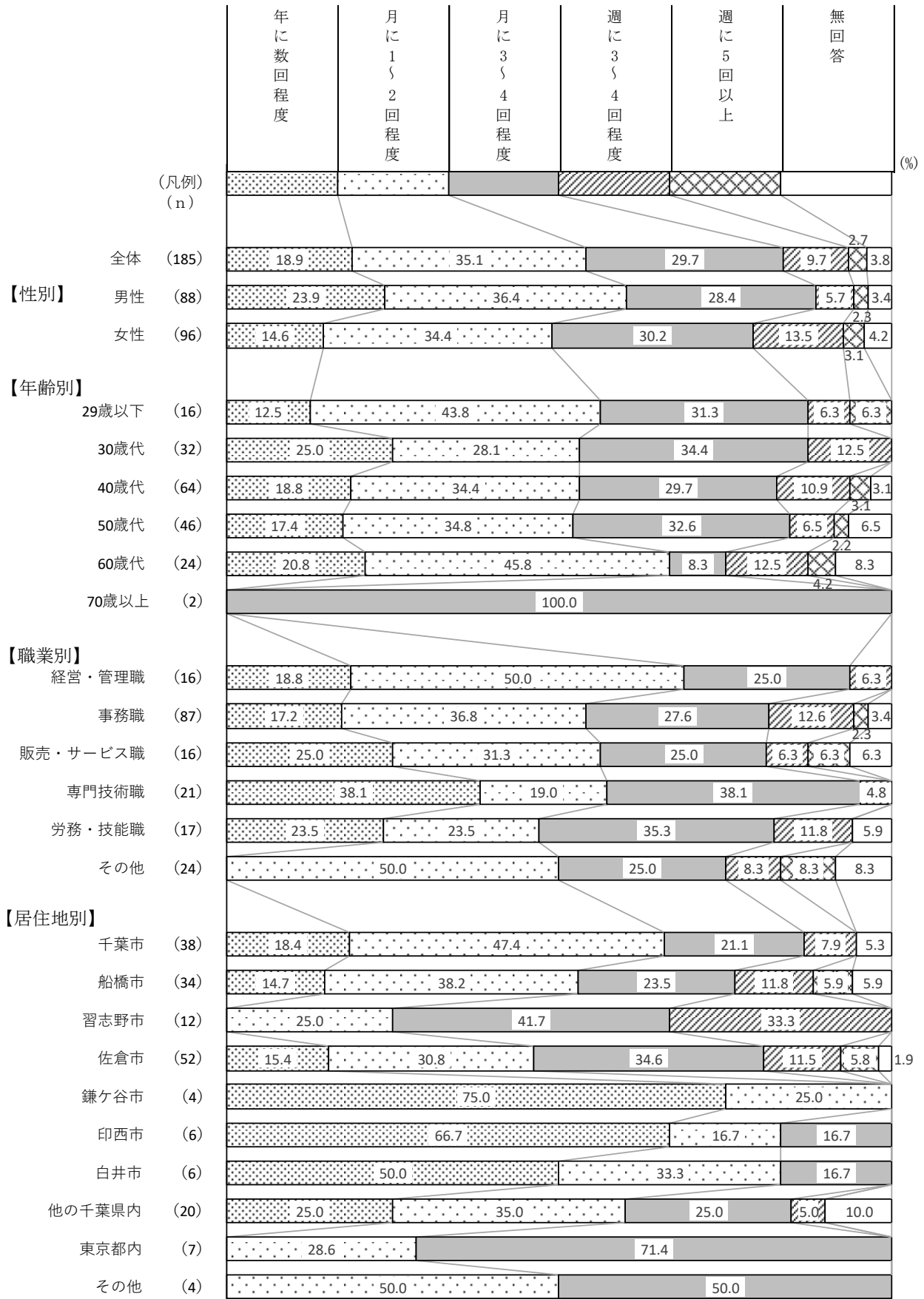
性別では、男性よりも女性の方が頻度が多い割合は高い傾向にある。

年齢別では、50歳代までの年齢層で、ほぼ同様の傾向である。

職業別では、専門技術職や経営・管理職などで、頻度の少ない回答割合が比較的高くなっている。

居住地別では、回答数が多い佐倉市、船橋市で、約半数が「週に3~4回」かそれ以上という高い割合である。千葉市ではその割合がやや少ない。

<性別・年齢別・職業別・居住地別>



(1-3) どういう施設なら立ち寄りたいか

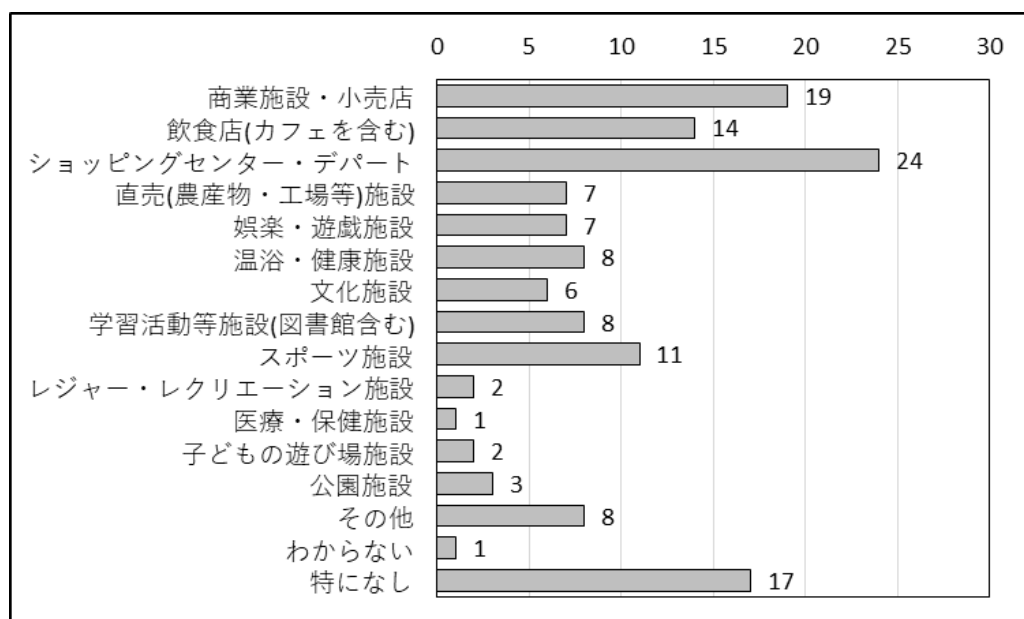
問5-3 どういった施設があれば、立ち寄りたと思いますか。(ご自由にご記入ください)

「あれば立ち寄りた施設」に何らかの回答記述を寄せた回答者は122人であった。この記述内容を種類別に分類した件数を、回答者の年齢別に示すと以下のとおりである。

なお、一人の回答者が複数の種類の施設内容を記述している例が多数あり、可能な限り分割して扱った。これによる延べ総件数は138件となった。

<あれば立ち寄りた施設>

	全体	千葉市	船橋市	習志野市	佐倉市	鎌ヶ谷市	印西市	白井市	他の千葉県内	東京都内	その他
商業施設・小売店	19	3	6	0	1	2	2	0	2	3	0
飲食店(カフェを含む)	14	3	2	1	2	0	1	0	3	2	0
ショッピングセンター・デパート	24	3	4	0	5	1	1	0	7	2	1
直売(農産物・工場等)施設	7	2	0	1	0	0	0	0	2	2	0
娯楽・遊戯施設	7	1	1	0	3	0	0	0	0	0	2
温浴・健康施設	8	0	2	0	3	1	0	1	1	0	0
文化施設	6	0	1	0	4	0	0	0	1	0	0
学習活動等施設(図書館含む)	8	1	2	0	3	0	0	0	2	0	0
スポーツ施設	11	1	0	1	5	0	0	0	4	0	0
レジャー・レクリエーション施設	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
医療・保健施設	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
子どもの遊び場施設	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
公園施設	3	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0
その他	8	1	3	1	2	0	0	0	0	1	0
わからない	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特になし	17	0	1	0	1	0	4	1	7	3	0
総計(延べ数)	138	20	22	5	31	4	8	2	30	13	3



5 自由回答

問6 八千代市とご自身が住んでいる市区町村を比べてどう思いますか。（ご自由にご記入ください）

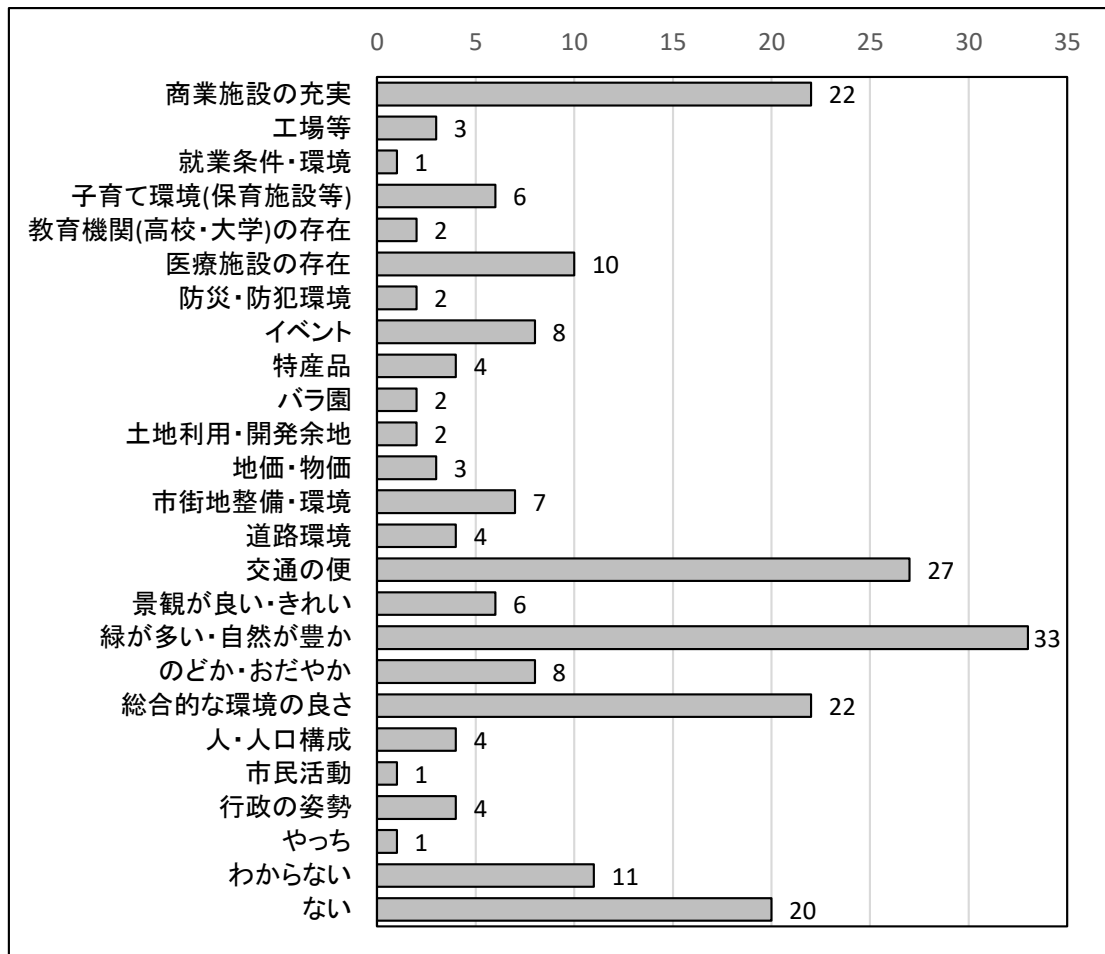
(1) 八千代市の良い、充実していると感じるところ

「八千代市の良い、充実していると感じるところ」に何らかの回答記述を寄せた回答者は 196 人であった。この記述内容を分野別に分類した件数を、回答者の年齢別に示すと以下のとおりである。

なお、一人の回答者が複数の分野の内容を記述している例が多数あり、可能な限り分割して扱った。これによる延べ総件数は 213 件となった。

<八千代市の良い、充実していると感じるところ>

	全体	千葉市	船橋市	習志野市	佐倉市	鎌ヶ谷市	印西市	白井市	他の千葉県内	東京都内	その他
商業施設の充実	22	2	2	1	9	2	2	1	2	0	1
工場等	3	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0
就業条件・環境	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
子育て環境(保育施設等)	6	1	2	1	0	0	1	0	1	0	0
教育機関(高校・大学)の存在	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
医療施設の存在	10	2	1	1	3	0	1	0	2	0	0
防災・防犯環境	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
イベント	8	2	1	0	3	1	0	0	1	0	0
特産品	4	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0
バラ園	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
土地利用・開発余地	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
地価・物価	3	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0
市街地整備・環境	7	2	1	0	0	2	0	0	2	0	0
道路環境	4	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0
交通の便	27	5	1	2	8	0	1	1	8	0	1
景観が良い・きれい	6	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0
緑が多い・自然が豊か	33	8	5	4	3	0	0	0	5	6	2
のどか・おだやか	8	1	5	0	0	0	0	0	1	1	0
総合的な環境の良さ	22	1	5	1	5	1	1	1	5	0	1
人・人口構成	4	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1
市民活動	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
行政の姿勢	4	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0
やっち	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
わからない	11	2	2	0	1	0	2	0	4	0	0
ない	20	1	2	0	4	1	2	1	4	4	1
総計(延べ数)	213	35	31	11	47	10	10	5	42	14	7



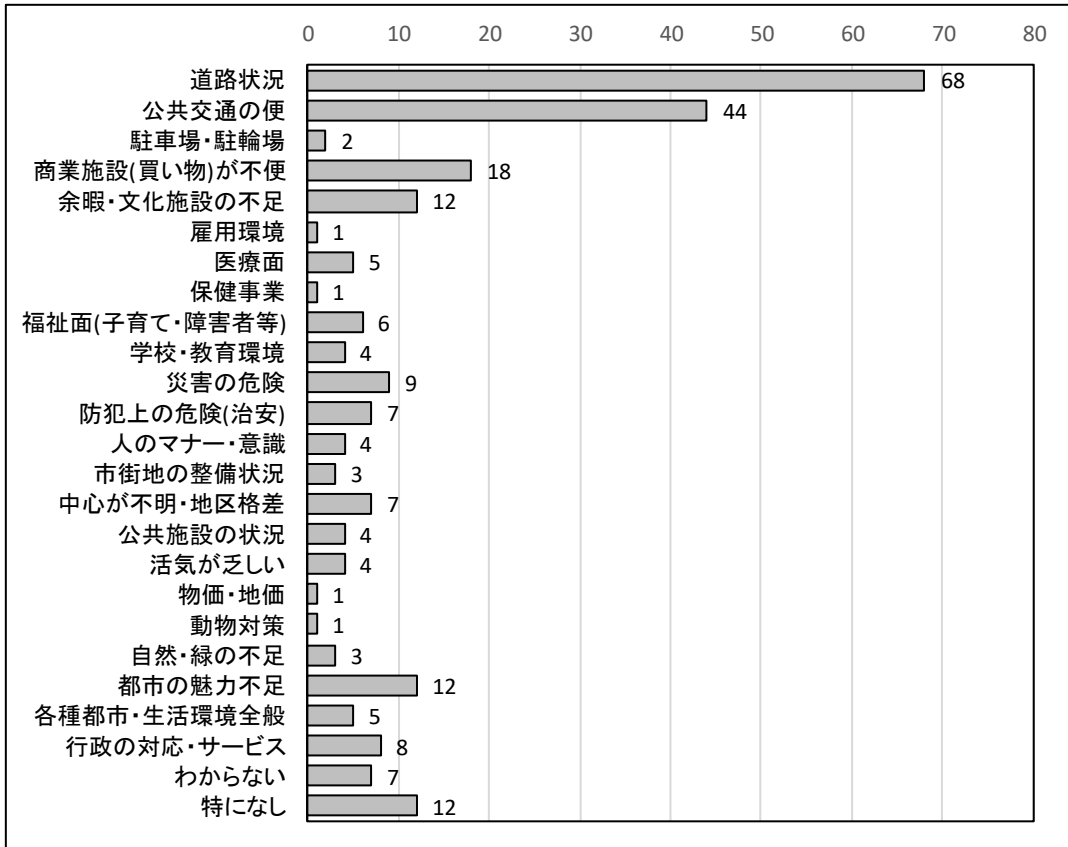
(2) 八千代市の良くない、足りないと感じるところ

「八千代市の良くない、足りないと感じるところ」に何らかの回答記述を寄せた回答者は 202 人であった。この記述内容を分野別に分類した件数を、回答者の年齢別に示すと以下のとおりである。

なお、一人の回答者が複数の分野の内容を記述している例が多数あり、可能な限り分割して扱った。これによる延べ総件数は 248 件となった。

<八千代市の良くない、足りないと感じるところ>

	全体	千葉市	船橋市	習志野市	佐倉市	鎌ヶ谷市	印西市	白井市	他の千葉県内	東京都内	その他
道路状況	68	14	6	5	16	3	1	1	14	6	2
公共交通の便	44	9	12	3	5	2	0	1	5	7	0
駐車場・駐輪場	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
商業施設(買い物)が不便	18	2	5	0	1	2	2	1	3	2	0
余暇・文化施設の不足	12	2	3	0	2	1	0	0	3	0	1
雇用環境	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
医療面	5	2	1	0	0	0	0	0	2	0	0
保健事業	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
福祉面(子育て・障害者等)	6	1	1	0	3	0	0	0	1	0	0
学校・教育環境	4	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0
災害の危険	9	1	0	2	3	0	0	0	2	0	1
防犯上の危険(治安)	7	1	3	0	1	0	0	0	1	0	1
人のマナー・意識	4	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0
市街地の整備状況	3	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0
中心が不明・地区格差	7	2	0	1	1	0	2	0	1	0	0
公共施設の状況	4	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0
活気が乏しい	4	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0
物価・地価	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
動物対策	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
自然・緑の不足	3	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0
都市の魅力不足	12	0	4	1	3	0	1	0	3	0	0
各種都市・生活環境全般	5	1	1	0	2	0	0	0	1	0	0
行政の対応・サービス	8	1	1	0	4	0	0	0	2	0	0
わからない	7	0	1	0	2	0	1	1	2	0	0
特になし	12	0	1	0	2	1	1	0	5	1	1
総計(延べ数)	248	38	43	14	55	10	9	6	49	18	6



第11回八千代市市民意識調査

報 告 書

令和2年3月

発行 八千代市企画部企画経営課
〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5
電話 047(483)1151(代表)